

佛蘭西法律書
民法

全

CF2
3
02

五
一
本

031104-001-8

CF2-3-02

佛蘭西法律書

翻譯局/訳

M8

BBC-0797



文部少博士其作譯口譯 辻士華筆受

佛蘭西法律書 民法

文部省

CF 302

法律書民法

例言

明治九年圖書寮交付

一冊一列直

特39
789

一 凡泰西各國政府ト人民トノ間ニ管スル條規ハ之ヲ國法ト名ケ人民ト人民トノ間ニ管スル條規ハ之ヲ民法ト云フ
 此書ハ佛國第一世那破翁帝ノ制定セシ法律書中ノ民法ニシテ荷蘭白耳義瑞西日耳曼ノ一節伊太利等ノ法律ニ
 相折衷シテ其國內ニ行ヒ歐土ニ於テ特ニ之ヲ貴重ス即チ其部ヲ分ツテ三篇ト爲シ第一篇ハ人事ニシテ民法ニ
 稱民生ノ證書婚姻離婚ヨリ親子ノ權及ヒ養子後見等ニ至ル迄ノ諸件ヲ記シ第二篇ハ財產及ヒ財產所有ノ權利ニ
 シテ不動産動産ノ種類ヨリ財產所有ノ權及ヒ土地ノ定分等ニ至ル迄ノ諸事ヲ記シ第三篇ハ財產ヲ得ルノ方法ニ
 シテ遺物相續贈遺契約及ヒ婚姻ノ契約ヨリ賣買會社借貸保證等ニ至ル迄ノ諸件ヲ記シタル所ノモノナリ
 一 此書譯了ノ後歐數繁重幾ノト二十冊ニ充ントス故ニ全部刻成ノ日ヲ期スル時ハ時月遷延ノ恐レアリ因テ今逐次
 刊行シ以テ世ニ公布スト雖凡譯誤遺漏等ハ少シト謂可カラス者宜ク是正スヘシ
 一 首冊ニ全部ノ總目ヲ揭示セサルモ逐次刊行シ預ノ區分ヲ定メ難キニ因レリ自餘ノ例言ハ既刻ノ刑法書
 中ニ記スルニ因リ今復タ此ニ贅セス

其作譯詳誌



第一章 民権ヲ受ル事

第七條 民権ヲ行フハ國民ノ權ニ入リテ民権及ヒ政タルノ分限ト相管スルヲ無シ但シ國民タルノ分限ハ建國ノ法ニ因テ之ヲ得且之ヲ有ス可キモノナリ

第八條 各佛蘭西人ハ民権ヲ受ク可シ

第九條 佛蘭西ニ於テ生レシ外國人ノ子ハ丁年ニ至リシ其翌年佛蘭西人タルノ分限ヲ得ント求ムルヲ得可シ但シ其求ムル所ヲ得ント欲スルニハ其者ノ佛蘭西ニ居住スル時ハ佛蘭西ニ其住所ヲ定ム可キノ意タルヲ陳述シ又外國ニ居住スル時ハ佛蘭西ニ其住所ヲ定ム可キノ證書ヲ出シテ其時ヨリ一年內ニ佛蘭西ニ住所ヲ定ムルヲ必要ナリトス

第十條 外國ニ於テ生レタル佛蘭西人ノ子ハ佛蘭西人ナリ

佛蘭西人タルノ分限ヲ失ヒシ佛蘭西人ノ外國ニ於テ生ミタル子ト雖モ前條ニ記載シタル式ヲ行フニ依テハ何レノ時ヲ論セズ佛蘭西人タルノ分限ヲ復スルヲ得可シ

第十一條 外國人ハ其本國ト佛蘭西ト結ヒタル條約ニ因リ其國ニ於テ佛蘭西人ノ受ケ又ハ受ク可キ所ニ等シキ民権ヲ佛蘭西ニ授テ受ク可シ

第十二條 佛蘭西人ニ嫁シタル外國ノ女ハ其夫ノ分限ニ從フ可シ

第十三條 皇帝ノ允許受ケ佛蘭西ニ其住所ヲ定ムルヲ得タル外國人ハ佛蘭西ニ居住スル時間諸般ノ民権受可シ

第十四條 外國人ノ佛蘭西ニ居住セザル者ト雖モ佛蘭西ニ於テ佛蘭西人ト結ヒタル契約ヲ行ハシム可キ為メ之ヲ佛蘭西ノ裁判所ニ呼出スルヲ得可ク且其外國人ノ外國ニ於テ佛蘭西人ト結ヒタル契約ヲ行ハシム可キ為メ亦之ヲ佛蘭西ノ裁判所ニ呼出スルヲ得可シ

第十五條 佛蘭西人ノ外國ニ於テ外國人ト結ヒタル契約ナリト雖モ其契約ノ事ニ付キ其佛蘭西ハ佛蘭西ノ裁判所ニ呼出スルヲ得可シ

民権ニ

第十六條 商業ニ管シタル事ノ外何事ヲ論ヒス佛蘭西ノ裁判所ニ訴テ爲ス外國人ハ其訴訟ノ費用ヲ出シ及ビ償額ヲ納ム可キ保證ヲ爲ソ可シ但シ其外國人ノ若シ佛蘭西ニ於テ其納メ方ヲ證スルニ足ル可キ不動産ヲ所有ト爲ス時ハ格別ナリトス

第二章 民権ヲ奪フ事

第一款 佛蘭西人タルノ分限ヲ失フニ因リ民権ヲ奪フ事

第十七條 佛蘭西人タルノ分限ハ左ニ記列スル諸件ニ因テ之ヲ失フ

第一 外國ノ戸籍ニ入ル事

第二 皇帝ノ允許ナク外國政府ヨリ官職ヲ受ル事

第三 歸國スルノ意ナク外國ニ居住ヲ定ムル事

但商業ノ爲外國ニ居住スル者ハ歸國スル意ナクシテ外國ニ居住セシ者ト看做可カラス

第十八條 佛蘭西人タルノ分限ヲ失ヒシ佛蘭西人皇帝ノ允許ヲ得テ佛蘭西ニ歸リ且佛蘭西ニ居住スルノ意ト佛蘭西法ニ背キタル官位封爵ヲ放棄スルノ意トヲ陳述スルニ於テハ何ノ時ト雖モ佛蘭西人タルノ分限ヲ復スルヲ得可シ

第十九條 外國人ニ嫁シタル佛蘭西ノ女ハ其夫ノ分限ニ從フ可シ

若シ其女ノ寡婦トナリタル時既ニ佛蘭西ニ居住シ或ハ佛蘭西ニ居住ヲ定ム可キヲ陳述シテ皇帝ノ允許ヲ受ケ佛蘭西ニ歸リシ時ハ佛蘭西人タルノ分限ヲ復ス可シ

第二十條 第十條第十八條第十九條ニ記載シタル場合ニ於テ佛蘭西人タルノ分限ヲ復ス可キ者ハ其數條ニ於テ必要ト爲丁ヲ定タル規則ヲ行フニ非レハ佛蘭西人タルノ分限ノ利益ヲ得丁能ハズ且其規則ヲ行ヒシ時ノ後ニ於テ其受タル所ノ權ノミヲ行フヲ得可シ

第二十一條 皇帝ノ允許ヲ得ズシテ外國政府ノ兵籍ニ入り又ハ外國ノ兵社ニ加リシ佛蘭西人ハ佛蘭西人タルノ分限ヲ失フ可シ

此佛蘭西人ハ皇帝ノ允許ヲ得ルノ外佛蘭西ニ歸ルヲ得可カラズ且外國人ノ佛蘭西人トナルニ付キ必要ト爲シタル規則ヲ行フニ非ザレハ佛蘭西人タルノ分限ヲ復スルヲ能ハズ但シ此條ニ記スル所ト國ニ叛キ兵器ヲ弄シ又ハ尋セントヒシ佛蘭西人ヲ刑法ニ於テ罰ス可キ規則ト相抵触スルヲナカル可シ

第二款 裁判所ニ於テ刑ヲ言渡シタルニ因リ民權ヲ奪フ事

第二十二條 裁判所ニ於テ第二十五條ニ記載スル所ノ民權ニ參加ス可カラザルニ至ル可キ刑ノ言渡ヲ受シ時推死佛語ニモールンビールト云ヒ其人未タ死ヒスト雖ト爲ス可シ 准死ハ千八百五十四年第五月三十一日ノ法ヲ以テ廢ス

第二十三條 死刑ノ言渡ヲ受ケシヨリ推死ヲ生ス可シ

第二十四條 其他無期ノ施體刑法ニ刑ハ法律ヲ以テ別段ニ定メタル時ノ外推死ヲ生ス可カラズ

第二十五條 推死ノ言渡ヲ受ケシ者ハ其言渡シニ因リ已ニ屬スル物ヲ所有スルノ權ヲ失ヒ且遺囑ナク死タル者ト同一ノ方法ヲ用ヒ其者ノ所有物ヲ變有ス可キ者ハ其遺物相續ヲ爲ス可シ○其者ハ人ノ遺物相續ヲ爲スルヲ得可カラズ又推死ノ言渡ノ後ニ已ノ所得ト爲シタル財産ヲ遺物相續ヲ爲サシム可キノ名義ヲ以テ人ニ傳ヘ與フルヲ得ス○其者ハ自己ノ所有スル財産ノ全部又ハ一部ヲ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺トシテ人ニ與フルヲ得ス又養料ノ爲メノ外ハ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ノ名義ヲ以テ人ヨリ財産ヲ受クルヲ得ス○其者ハ幼者ノ後見人ノ任ヲ受ケ又ハ後見ノ職務ニ管シタル所爲ニ參加スルヲ得ス○其者ハ照法ノ證又ハ公正ノ證ニ付キ其證人トナリ又ハ裁判所ニ證ヲ告ルヲ得ス○其者ハ訴訟ヲ上告ス可キ裁判所ニ於テ此者ノ爲メ別段ニ任シタル所ラトシテ自己ノ財産ヲ支配スルヲ能ハサル者ノ紹介ニ因リ且其姓名ヲ用フルニ非ザレハ原告又ハ被告トナリテ裁判所ニ出ルヲ得ス○其者ハ民法ニ管シタル事ノ生ス可キ婚姻ノ契約ヲ爲ス可カラズ○其者ノ以前ニ結ビタル婚姻ハ總テ民法ニ管シタル事ニ付キ其婚姻ヲ解キタルト看做ス可シ○其者ノ配偶者及ヒ遺物相續人ハ其者ノ死去シタル時ニ於テ得可キ所ノ權ト訴ヲ爲スノ權トヲ行フヲ得可シ

第二十六條 原告人ト被告人トノ面前ニ於テ刑ヲ言渡シタル時ハ其言渡ヲ受ケタル者ヲ其刑ニ行ヒシ日又ハ其罪

案ノ摘撮書ヲ街衢ニ榜示シタル日ヨリ後ニ非ザレバ推死ヲ生ス可カラズ

第二十七條 裁判所ニ出席ス可キノ命ヲ受ケ出席ヲ爲サズ又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アル時ハ其者ノ罪案ノ摘撮書ヲ街衢ニ榜示シタル日ヨリ五年ノ後ニ非ザレバ推死ヲ生ス可カラズ但シ其五年ノ時間ハ其刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判所ニ出席スルヲ得可シ

第二十八條 裁判所ニ出席ス可キノ命ヲ受ケ出席ヲ爲サズ又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其罪案ノ摘撮書ヲ街衢ニ榜示シタル日ヨリ五年ノ時間又ハ自カラ裁判所ニ出ル迄ノ時間又ハ其五年内ニ於テ捕獲ヲ受ル迄ノ時間民權ヲ行フ可キノ權ヲ奪ハル可ク且他人ニテ其者ノ財産ヲ支配シ及ヒ其者ノ權ヲ行フ事ハ失踪者第四卷ニト同一タル可シ

第二十九條 裁判所出席ス可キノ命ヲ受ケ出席ヲ爲サズ又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其罪案ノ摘撮書ヲ街衢ニ榜示シタル日ヨリ五年内ニ自己ノ意ヲ以テ裁判所ニ出テタル時又ハ其五年内ニ捕獲ヲ受ケテ禁錮セラレタル時ハ前ニ言渡シタル刑ヲ全ク廢棄シ其刑ヲ受ケシ者已ニ屬スル財産ヲ所有スルノ權ヲ復シ新タニ復タ裁判ヲ受ク可シ若シ其裁判ニ因リ捕以前ニ等シキ推死ヲ生ス可キノ刑ノ言渡ヲ受ケ又ハ其他ノ推死ヲ生ス可キノ刑ノ言渡ヲ受ケシ時ハ其新ナル裁判ヲ行ヒシ日ヨリ推死ヲ生ス可シ

第三十條 若シ裁判ニ出席ス可キノ命ヲ受ケ出席ヲ爲サズ又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者五年ノ後ニ至リ裁判所ニ出テ又ハ捕獲ヲ受ケ新タナル裁判ニ因リ其罪ノ赦宥ヲ得又ハ推死ヲ生スルニ至ラザル刑ノ言渡ヲ受ケシ時ハ其裁判所ニ出タル日ヨリ以來全ク其民權ヲ復ス可シ然レ其五年ノ期限ノ終リシ時ヨリ裁判所ニ出タル日ニ至ル迄ノ時間ニ推死ヨリ生シタル諸件ハ前ニ言渡シタル裁判ニ備ヒ之ヲ保ツ可シ

第三十一條 若シ裁判所ニ出席ス可キノ命ヲ受ケ出席ヲ爲サズ又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケシ者五年ノ有免ノ期限内ニ裁判所ニ出ルヲナク又ハ捕獲ヲ受ルヲナク死シタル時ハ全ク其權ヲ有シタル儘ヲ以テ死シタル者ト爲シ其裁判所ニ出席セザルニ付キ言渡ヲ受ケシ刑ハ全ク之ヲ廢棄ス可シ但シ此規則ト其刑ノ言渡ヲ受ケシ

者ニ償取ル可キ者ヨリ其死者ノ遺物相續人ニ對シ訴訟法ニ定メタル法式ニ循ヒ訴訟ヲ爲ス可キ事ト相抵觸スル
ヲナカル可シ

第三十二條 何レノ場合ニ於テモ裁判所ヨリ刑ノ言渡ヲ受ケタル後定期ノ時間ニ其刑ニ處セラル、コナキ時ハ其
刑ヲ免ル、ニ至ルト雖モ其者ハ唯其刑ヲ免ル、コトヲ得ルノミニヨリ民權ヲ復スルコトヲ得可カラズ

第三十三條 裁判所ヨリ刑ノ言渡ヲ受ケン者ノ准死ヲ受ケタル後ニ所得ト爲シタル物ヲ其者ノ死シタル日ニ尚、所
有シタル時ハ其者ハ人ニ遺物相續ヲ爲ケン可キノ權ナキヲ以テ其物ヲ官ニ没收ス可シ
然レ皇帝ハ刑ヲ受ケタル者ノ寡婦又ハ其兒又ハ其血屬等ノ爲メ仁恤ノ處置ヲ爲スコトヲ得可シ

第二章 民生ノ證書 比證書ハ其卷ノ第二章第三章第四章ノ出生婚姻死去等ノ身上ニ管スル諸件ヲ第四十
條記載スル所ノ簿冊ニ記シタルモノヲ云ヒ其簿冊ノ外別ニ證書アルニ非ケルナリ

八百三年三月十一日決定同月廿一日布告

第一章 總規則

第三十四條 民生ノ證書ハ官吏ノ其證ノ陳述ヲ受ケタル年月日時ト其書ニ記ス可人ノ姓名職業住所トヲ記ス可シ

第三十五條 民生ノ官吏ハ其證書中ニ出席ヲ爲シタル者ノ陳述シタル所ノ外何事ヲ論セス註解又ハ説明ノ爲メ記
載スルコトヲ得可カラズ

第三十六條 本人ノ自カラ出席スルニ及ハサル場合ニ於テハ別段ノ公正ノ證書以テシタル名代人ヲ出スコトヲ得可シ

第三十七條 民生ノ證書ノ證人ハ本人ノ血屬又ハ其他ノ者タルヲ問ハス二十一歳以上ノ男ノミヲ用フ可シ但シ其
證人ハ本人ノ擇ム所ニ從フ可シ

第三十八條 民生ノ官吏ハ其證書ヲ出席ヲ爲シタル者及ヒ證人ニ讀ミ聞カス可シ
又其證書ニ其書ヲ讀ミ聞セタル式ヲ行ヒシコトヲ記載ス可シ

第三十九條 此證書ニハ民生ノ官吏ト出席ヲ爲シタル者及ヒ證人トニテ其姓名ヲ記ス可シ又ハ出席ヲ爲シタル
者及ヒ證人其姓名ヲ手署スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ記載ス可シ

第四十條 民生ノ證書ハ各ヨムニユ一簿冊ニ於テ副本ヲ添ケル一冊ハ政府ノ簿冊ニ記ス可シ

第四十一條 其簿冊ハ下等裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判役其初葉ト末尾トニ記号ヲ附シ且各葉ニ
其姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫ス可シ

第四十二條 民生ノ證書ハ其簿冊ニ空行ヲ相連接シテ之ヲ記ルシ且塗抹及ヒ端書ノ行号モ本文ト同シク之ヲ承諾
シテ其姓名ヲ手署ス可シ又其書中ニ略語ヲ用フ可ラス且其年月日時ハ數字ヲ用ヒ記ス可ラス

第四十三條 民生ノ官吏ハ歲終ニ至ル毎ニ其簿冊ヲ修整シテ一月内ニ其一冊ヲヨムニユ一簿冊ニ書局中ニ帶シ又ハ一
冊ヲ下等裁判所ノ書記局ニ帶シ可シ

第四十四條 名代人ヲ任スル證書及ヒ其他民生ノ證書ニ添ヘ置ク可キ書類ハ之ヲ出シタル人ト民生ノ官吏トニテ
其姓名ヲ手署スルニ代用スル横線ヲ畫シタル後民生ノ證書ノ簿冊ノ一冊ト共ニ之ヲ下等裁判所ノ書記局ニ帶シ可シ

第四十五條 何人ヲ論セス民生ノ證書ヲ記シタル簿冊ヲ管守スル者ヨリ其簿冊ノ抄出書ヲ得ルコト能フ可シ但シ此
抄出書ノ其簿冊ト異ナリタルコトヲ且ツ下等裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判役ノ確的ナリト爲シ
タルモノハ賈造タルコトヲ訴フルノ書ヲ出ス迄之ヲ真正ナリト爲ス可シ

第四十六條 其簿冊ノ未タアラサル時又ハ七失セシ時ハ其本人ヨリ證書又ハ證人ヲ以テ其由ヲ證スルコトヲ得可シ
但シ此場合ニ於テハ死シタル父母ノ記シタル簿冊及ヒ書面又ハ證人ヲ以テ婚姻出生死去ヲ證スルコトヲ得可シ

第四十七條 佛蘭西人又ハ外國人ノ外國ニ於テ記シタル民生ノ證書ヲ其國ニ於テ用フル所ノ體裁ニ循ヒ記シタル
時ハ之ヲ真正ノモノト爲ス可シ

第四十八條 外國ニ在ル佛蘭西人ノ民生ノ證書ハ佛蘭西ノ辨理公使又ハ同士ノ佛蘭西ノ法ニ循ヒ其陳述ヲ受ケ之ヲ
記シタル時法ニ適シタルモノト爲ス可シ

第四十九條 民生ノ證ヲ其以前ニ記シタル他ノ民生ノ證書ノ端ニ登記ス可キ時ハ其本八等ノ額ヲ以テ民生ノ官吏

ハ其現今用アル所ノ簿冊又ハ既ニ「コムニユーン」ノ書房中ニ蔵メシ簿冊ニ之ヲ登記シ又下等裁判所ノ書記官ハ既

ニ其書記局ニ蔵メシ簿冊ニ之ヲ登記ス可シ但シ下等裁判所ノ書記局ニ蔵メシ簿冊ニ其登記ヲ為セシム可キカハ

民生ノ官吏ヨリ其裁判所ニ出ツ可キ「ロキソウル、アンベリア」ル法ノ施行國ノ安插子ノ事ヲ監察スル為メニ三

日内ニ其報告ヲ為シ其「ロキソウル、アンベリア」ル法ニ箇々簿冊ニ互ニ同一ノ方法ヲ以テ登記ス可キ「ロキソウル、アンベリア」ル法

第五十條 前數條ニ記載スル所ノ官吏等ノ其規則ニ背ク事アル時ハ下等裁判所（ノ訴訟ヲ受ケ百「ラン」ニ「タ」ラ

大凡數十二ニ過サル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

第五十一條 簿冊ヲ管守スル官吏ハ其簿冊中ニ更改シタル「アル」時訴訟法ニ循ヒ其責ニ任ス可シ但シ池 其更改

ヲ為ス者アリテ其官吏ヨリ其者ニ對シ償ヲ求ムル「アル」時ハ其償ヲ求ムル「アル」得可シ

第五十二條 民生ノ證書ヲ更改スル事及ヒ其證書ヲ價造スル事又ハ其證書ヲ零滅ニ記シ及ヒ其證書ヲ記ス可キ簿

冊ニ非ケルモノニ記シタル事アル時ハ其官吏ヨリ本人ニ對シ其償ヲ出ス可シ但シ此規則ト刑法ニ記載スル所ノ

罰ト相抵觸スル「アル」可シ

第五十三條 下等裁判所ニ出ツ可キ「ロキソウル、アンベリア」ル簿冊ヲ其裁判所ノ書記局ニ蔵ハル時其簿冊ヲ檢査

其檢査ノ事ヲ簡易ニ調書ニ記シ且民生ノ官吏ノ規則ニ背ケタル事又ハ罪犯ノ「アル」時ハ其旨ヲ陳述シテ其官吏ニ

罰金ヲ言渡ス可キ事ヲ求ム可シ

第五十四條 何レノ場合ニ於テモ下等裁判所ニ於テ民生ノ證書ノ事ヲ審判シタル時其本人等ノ其言渡ニ服セシ

ニ於テハ其裁判所ノ審判ヲ更ニ上等級裁判所ニ訴出ル「アル」得可シ

○第二章 出產ノ證書

第五十五條 出產ノ陳述ハ出產ノ時ヨリ三日内ニ之ヲ其地ノ民生ノ官吏ニ為シ且其官吏ニ其生レタル子ヲ示シ

第五十六條 出產ハ父ヨリ其陳述ヲ為ス可シ若シ父「アル」時ハ外科科ノ醫師、產婆、下等醫師、産婆、助産婦又ハ

其他出產ノ時立會ヲ為シタル者ヨリ之ヲ陳述ス可シ若シ母ノ其住所外ニ於テ出產シタル時ハ其出產ヲ為シタル所ノ者ヨリ陳述ス可シ

出產ノ證書ハ二人ノ證人ノ面前ニ於テ直チニ之ヲ記ス可シ

第五十七條 出產ノ證書ニハ出產ノ日、場所、其子ノ男女、其子ニ命ス可キ名及ヒ其父母ト證人トノ姓名、職業、住所ヲ記ス可シ

第五十八條 棄兒ヲ見出しタル者ハ其兒并ニ其兒ト同シク見出しタル衣服及ヒ其他ノ品物等ヲ民生ノ官吏ニ引渡

シ且其兒ヲ見出しタル時ノ景況ト其場所ノ景況トヲ陳述ス可シ

此等ノ事ヲ詳カニ調書ニ記ルシ且其調書ニハ思渡シタル其兒ノ年次、其兒ノ男女、其兒ニ命フ可キ姓名、其兒ヲ引渡シタル民生ノ官吏等ヲ記ルシ之ヲ簿冊ニ登記ス可シ

第五十九條 航海中ニ出產シタル時ハ父ノ在ルニ於テハ其父ト其船ノ士官中ヨリ撰ミクル二人ノ證人、若シ士官ノ

「アル」ザル時ハ乗組人ノ中ヨリ撰ミタル二人ノ證人トノ面前ニ於テ三十四時間ニ出產ノ證書ヲ記ス可シ此證書ハ皇

帝ニ屬スル船ニ於テハ海軍ノ俗務ヲ掌ル士官之ヲ記シ又「アル」ニハ受府ノ許ヲ受テ又ハ商賣ニ屬スル船ニ於

テハ其船長又ハ指揮者之ヲ記ス可シ○其證書ハ乗組人ノ姓名簿ノ冊尾ニ之ヲ記ス可シ

第六十條 此事ヲ為スノ後、歌船、泊船等ノ為メ始テ卸破シタル港又ハ船具ヲ取以テ非ザル理由ニ因リ始テ卸破

シタル港ニ於テ海軍ノ俗務ヲ掌ル士官又ハ船長指揮者ハ乗組人ノ姓名簿ニ已レノ記シタル出產ノ證書ノ公正ノ

副本ニ通フ佛蘭西ノ港ニ於テハ海軍兵士召募ノ官署又ハ船長指揮者ハ乗組人ノ姓名簿ニ已レノ記シタル出產ノ證書ノ公正ノ

副本ニ通フ佛蘭西ノ港ニ於テハ海軍兵士召募ノ官署又ハ船長指揮者ハ乗組人ノ姓名簿ニ已レノ記シタル出產ノ證書ノ公正ノ

副本ニ通フ佛蘭西ノ港ニ於テハ海軍兵士召募ノ官署又ハ船長指揮者ハ乗組人ノ姓名簿ニ已レノ記シタル出產ノ證書ノ公正ノ

副本ニ通フ佛蘭西ノ港ニ於テハ海軍兵士召募ノ官署又ハ船長指揮者ハ乗組人ノ姓名簿ニ已レノ記シタル出產ノ證書ノ公正ノ

副本ニ通フ佛蘭西ノ港ニ於テハ海軍兵士召募ノ官署又ハ船長指揮者ハ乗組人ノ姓名簿ニ已レノ記シタル出產ノ證書ノ公正ノ

父ノ住所ノ分明ナラサル時ハ其母ノ住所ノ民生ノ官吏ニ送達ス可シ但シ其官吏ハ其證書ヲ直チニ民生ノ證書ノ簿冊ニ登記ス可シ

第六十一條 又船具ヲ取收ム可キ港ニ着セシ時ハ其乗組人ノ姓名簿ヲ海軍兵士召募ノ官署ニ納メ其官署ノ官吏ハ

其出產ノ證書ノ副本ヲ通テ其姓名ヲ手署シテ之ヲ其子ノ父ノ住所ノ民生ノ官吏ニ送達シ若シ其父ノ住所ノ分明ナラサル時ハ其母ノ住所ノ民生ノ官吏ニ送達ス可シ但シ其官吏ハ其副本ヲ直ニ民生ノ證書ノ簿冊ニ登記スヘシ

第六十二條 子ヲ認メ證書ハ之ヲ其日ニ民生ノ證書ノ簿冊ニ記シ又其子ノ出產ノ證書アル時ハ其證書ノ端ニ其旨ヲ記ス可シ

第三章 婚姻ノ證書

第六十三條 民生ノ官吏ハ婚姻ヲ行ハシムル前其ヨムニユーンノ官廳門前ニ二次公告書ヲ出シ示ス可シ但シ其公告ハ初ノ公告ヨリ後ノ公告ニ至ルマテ其時間八日ヲ隔テ其一ハ必ス日曜日ニ之ヲ爲ス可シ又此公告書及ヒ其公告ヲ爲シタルニ付キ記シタル證書ニハ夫婦トナル可キ者ノ姓名、職業、住所及ヒ丁年、幼年、タル事、其父母ノ姓名、職業、住所トヲ記ス可ク且其證書其公告ヲ爲シタル日時及ヒ場所ニ至ル迄ヲ記シテ別ニ設ケタル簿冊ニ記ス可シ但シ其簿冊ハ第四十一條ニ記載スル所ニ均シク記號ヲ附シ縦線ヲ畫シテ歲終ニ至ル迄ニアルロシスマシ佛蘭西ノ地方區分シタル一部ノ名ニシテノ裁判所此裁判所ハ第四十三條ニ記スルニ依リテ設ケタル可シヨムニユーンニ依リテ設ケタルモノヲ云フノ裁判所トシテ之ニ依リテ設ケタル可シ

第六十四條 初ノニ公告ヲ爲シタル日ヨリ復ヒ公告ヲ爲スニ至ル迄ノ其八日ノ時間ハ其公告ノ證書ノ摘撮書ヲヨムニユーンノ官廳ノ門ニ貼附シ置ク可シ○婚姻ハ後ニ公告ヲ爲シタル日ヨリ三日ヲ過サル期ニ之ヲ行フ可カラス

第六十五條 若シ後ノ公告ヲ爲シタル日ヨリ三日ノ期限ノ終リシ後一年內ニ婚姻ヲ行ハサル時ハ前條ニ記載シタル法式ヲ以テ更ニ公告ヲ爲サ、ル期ニ婚姻ヲ行フ可カラス

第六十六條 婚姻ノ故障ヲ述フル證書ノ正本及ヒ副本ハ其故障ヲ述フル者又ハ別段ノ公正ノ書ヲ以テ任テ受ケタル名代人其姓名ヲ手署シ其正本及ヒ副本ヲ若シ名代人ト任シタル時ハ名代人ヲ任スル書ノ副本ト共ニ婚姻ヲ結バンニ爲ス者又ハ其住所ノ民生ノ官吏トニ送リ届ケ其官吏ハ其正本ニ捺印ヲ爲ス可シ

第六十七條 民生ノ官吏ハ遲延テク公告書ノ簿冊ニ婚姻ノ故障ヲ述ヘタルトテ簡易ニ登記ス可シ又其官吏ハ婚姻ノ故障ヲ述ヘタルトテ裁判所ニ於テ止メレンタル旨渡書ノ副本又ハ其故障ヲ述ヘタル者ノ自カラ之ヲ止メタル證書ノ副本ヲ受取リ此副本ヲ婚姻ノ故障ヲ述ヘタルトテ記シ證書ノ端ニ登記ス可シ

第六十八條 婚姻ノ故障ヲ述ヘタルトアル時民生ノ官吏ハ其故障ヲ述ヘタル者ノ其事ヲ自カラ止メタル證書又ハ裁判所ヨリ之ヲ止メレンタル旨渡書ヲ受取ラサル前ニ其者ヲテテ婚姻ヲ行ハレム可カラス若シ其官吏ノ此規則ニ背テ時ハ三百フランノ罰金及ヒ總テ婚姻ノ故障ヲ述ヘタル者ノ爲メ生レタル損失ノ償ヲ出ス可キ旨渡書ヲ受ク可シ

第六十九條 婚姻ノ故障ヲ述ヘタルトナキ時ハ其由ヲ婚姻ノ證書ニ記ス可シ若シ又數箇ノヨムニユーンニ於テ婚姻ノ公告ヲ爲シタル時ハ各ヨムニユーンノ民生ノ官吏ヨリ婚姻ノ故障ヲ述ヘタルトナキトテ證書ヲ出シ得ル可キ旨渡書ヲ行フ可シ

第七十條 民生ノ官吏ハ婚姻ヲ爲ス可キ者ヲテテ其出產ノ證書ヲ出サシム可シ若シ婚姻ヲ爲ス可キ者其出產ノ證書ヲ得ルト能ハサル時ハ其出產ノ地又ハ其住所ノ最下等裁判所ノ裁判役ヨリ渡シタル「ノトリエテ」證書無キ時陳述セシ證書ヲ出シ其出產ノ證書ニ代フルトテ得可シ

第七十一條 「ノトリエテ」ノ證書ニハ男又ハ女タル事及ヒ血屬又ハ血屬ナラザル事ヲ問ハス證人七人ヲ用ヒ其證人ノ陳述スル所ト婚姻ヲ行フ可キ者ノ姓名、職業、住所及ヒ知ルトテ得可キ時ハ其父母ノ姓名、職業、住所且婚姻ヲ行フ可キ者ノ出產ノ地及ヒ知ルヲ得可キニ於テハ其出產ノ時ト出產ノ證書ヲ出スト能ハザルノ原由トニ至ル迄ヲ記載ス可シ○其證人ハ最下等裁判所ノ裁判役ト共ニ其「ノトリエテ」ノ證書ニ其姓名ヲ手署ス可シ若シ其證人ニ姓名ヲ手署スルト能ハス或ハ姓名ヲ手署スルトテ知ラザル者アル時ハ其事由ヲ記載ス可シ

七十二條 「ノトリエテ」ノ證書ハ婚姻ヲ行フ可キ地ノ下等裁判所ニ之ヲ出ス可シ○其裁判所ニ於テ「ノトリエテ」ノ證書ヲ出スト能ハザルノ原由トテ之ヲ陳述スル所ヲ聽問セシ後其證人ノ陳述スル所ト出產ノ證書ヲ出スト能ハザルノ原由トテ之ヲ

ナリト為ス時ハ其「トリエテ」ノ證書ヲ確的ノ書ト為シ又不的當ナリト為ス時ハ之ヲ確的ノ書ト為ス可キ者ニ
ナル可シ

第七十三條 父母又ハ祖父母ノ婚姻ノ許諾ヲ為ス公正ノ證書又父母及ヒ祖父母ノ在ザル時ハ親族ニテ其許諾ヲ為
ス公正ノ證書ニハ婚姻ヲ為ス可キ者ノ姓名職兼住所及ヒ其證書ニ管スル者ノ姓名職兼住所ト其倫序トニ至ル迄
ヲ記載ス可シ

第七十四條 婚姻ハ之ヲ為ス可キ者ノ中其一人ノ住居スル「ムニエー」ニ於テ為ス可シ○婚姻ノ事ニ付テハ其住
所ハ一箇ノ「ムニエー」ニ六月間以上絶ヘズ住居ヲ為スヲ以テ之ヲ定ム可シ

第七十五條 「千八百五十年第七月十日如左打ス」公告ヲ為シタル時ヨリ三日ノ期限ノ終リレ後婚姻ヲ為ス可キ者ノ
互ニ定メタル日ヨリ至リ民生ノ官吏ハ其「ムニエー」ノ官廳ニ於テ婚姻ヲ為ス可キ者ノ血屬ト血屬ナラサルトテ問
ハス四人ノ證人ノ面前ニ於テ婚姻ヲ為ス可キ者ノ分限及ヒ婚姻ノ格式等ニ管スル前文ニ記載スル所ノ證書類ト
此篇第五卷ノ第三章トテ婚姻ヲ為ス可キ雙方ノ者ニ讀ミ聞ス可シ○又民生ノ官吏ハ婚姻ヲ為ス可キ者
ニ既ニ婚姻ノ契約書ヲ記シタルヤ否ヤヲ問ヒ且又婚姻ノ許諾ヲ為シタル者ノ出願シタル時ハ其者ニモ亦其事
ヲ問ヒ且答シ此等ノ者其契約書ヲ記シタルト答フル時ハ其官吏其契約書ノ日附及ヒ其契約書又受取リタル「
ライ」證書ノ類ニノ姓名住所ヲ問ヒ且答フル可シ○又民生ノ官吏ハ婚姻ヲ為ス可キ雙方ノ者ノ互ニ夫婦トナル可キ
「ヲ」欲スルノ陳述ヲ相次テ之ヲ受ケ且法律ニ循ヒ婚姻ヲ行フタル「ヲ」言渡ヲ為シ且直ニ其事ヲ婚姻ノ證書ニ
記ス可シ

第七十六條 「千八百五十年第七月十日如左打ス」婚姻ノ證書ニハ左ノ諸件ヲ記ス可シ

- 第一 夫婦ノ姓名職兼住所
- 第二 夫婦ノ丁年ナル事又ハ幼年ナル事
- 第三 父母ノ姓名職兼住所

第四 父母祖父母ノ許諾及ヒ親族ノ許諾ノ必要ナル時ハ其許諾

第五 父母ノ婚姻ヲ許諾スル「ヲ」氣フノ證書アル時ハ其證書

第六 各地ノ住所ニ於テ為シタル公告

第七 婚姻ノ故障ヲ述ヘタル「ヲ」アル時ハ其事由及ヒ婚姻ノ故障ヲ止メタル事又ハ婚姻ノ故障ヲ述タル「ヲ」無キ事

第八 婚姻ヲ為ス可キ者ノ互ニ夫婦トナル可キ「ヲ」欲シタル「ヲ」陳述及ヒ官吏ヨリ婚姻ヲ行フ可キ「ヲ」言
渡シタル事

第九 證人ノ姓名年齢職業住所並其證人ハ婚姻ヲ為ス可キ者ノ血屬又ハ姻屬ニテ且本宗又ハ外族タル「ヲ」及
ヒ何ノ倫序ナルヤノ陳述

第十 前條ニ記載セシ「問」ハ既ニ婚姻ノ契約書ヲ記シタル「ヲ」又ハ未タ記ササルヤヲ陳述セシ事及
ヒ其契約書ノアル時ハ其契約書ノ日附並ニ其契約書ヲ受取リシ「ヲ」ライ「ヲ」ノ姓名住所
此等ノ諸件ヲ記ナル民生ノ官吏ハ第五十條ニ記載シタル罰金ノ言渡ヲ受テ可シ

前文ニ記スル所ノ陳述ノ完全セス又ハ陳述ニ錯誤アル時其事ニ付テ婚姻ノ證書ヲ改ム可キ「ヲ」ハ第九十九條ニ記
載スル所ニ循ヒ婚姻ニ管シタル者ノ權ニ阻害ナク「ヲ」ロキ「ヲ」アル「ヲ」ベリ「ヲ」ヨリ之ヲ求ムル「ヲ」得可シ

○第四章 死去ノ證書

第七十七條 埋葬ハ費用ナク民生ノ官吏ヨリ渡シタル免狀ヲ得ルノ外之ヲ為ス「ヲ」能ハス又其官吏ハ死去ヲ檢ス可
キ為メ死者ノ所ニ至ル可ク且死去ノ後二十四時ヲ經ルニ非ザレバ其免狀ヲ渡ス可カラズ但シ取締ノ規則ニ於テ
定メタル場合ハ格別ナリトス

第七十八條 死去ノ證書ハ證人二人ノ陳述スル所ニ從ヒ民生ノ官吏之ヲ記ス可シ○其二員ノ證人ハ最近ノ血屬又
ハ近隣ノ者ヲ得ルニ於テハ之ヲ用ヒ若シ又住所外ニ於テ死去シタル時ハ其一人ハ死去シタル家ノ者又一人ハ死
者ノ血屬或ハ其他ノ人ヲ用フ可シ

第七十九條 死去ノ證書ニハ死者姓名、年齢、職業、住所及ヒ死者ノ現ニ婚姻ヲ結ビタル者又ハ既ニ嫁娶トナリテ居ル者其妻ハ獨ニ陳述者、姓名、年齢、職業、住所及ヒ其陳述者ノ死者ノ血屬ナル時ハ其順序トヲ記ス可ク且此證書ニ死者ノ父母ノ姓名、職業、住所ト其死者ノ出生ノ地トヲ知ルルヲ得ルニ於テハ亦之ヲ記ス可シ

第八十條 兵病院及ヒ尋常病院又ハ其他公ケノ建造物等ニ於テ死去シタル者アル時ハ其家屋ノ主者、支配人、所有者ヨリ二十四時間ニ其事ヲ民生ノ官吏ニ報告シ其官吏ハ死去ヲ檢ス可キ為メ其家屋ニ至リ已レノ稟得タル其陳述ノ詞ト已レノ檢査シタル所ノ條件トニ從ヒ前條ニ記載シタル所ノ如ク死去ノ證書ヲ記ス可シ

其病院及ヒ公ケノ建造物ニ於テハ其陳述及ヒ檢査ノ條件ヲ登記ス可キ簿冊ヲ設ケ置ク可シ
其民生ノ官吏ハ死者ノ最終ノ住所ノ民生ノ官吏ニ其死去ノ證書ヲ送達シ其官吏ハ此證書ヲ民生ノ證書ノ簿冊ニ登記ス可シ

第八十一條 非命死ノ徵アル時又ハ非命死タルコトヲ思察ス可キ模様アル時ハ取締ノ官吏内科外科ノ醫師ノ助ケヲ受ケ死骸ノ形状及ヒ之レニ管シタル模様ト死者ノ姓名、年齢、職業、出生ノ地、住所等ヲ務メテ檢査シタル諸事トヲ網書ニ記シタル後ニ非レバ埋葬ヲ爲ス可カラズ

第八十二條 其取締ノ官吏ハ其人ノ死シタル地ノ民生ノ官吏ニ直チニ其調書ニ記シタル諸件ヲ報告シ民生ノ官吏ハ此調書ニ從テ死去ノ證書ヲ記ス可シ

其民生ノ官吏死者ノ住所ヲ知得ル時ハ其住所ノ民生ノ官吏ニ死去ノ證書ノ副本一通ヲ送達ス可シ其民生ノ官吏ハ其證書ヲ登記ス可シ

第八十三條 罪人ヲ死刑ニ變セシ時ハ其時ヨリ二十四時間ニ刑法裁判所ノ書記官ヨリ死刑ヲ行ヒシ地ノ民生ノ官吏ニ第七十九條ニ記載セシ所ノ諸件ヲ檢査シタル書ヲ送達シ其地ノ民生ノ官吏ハ其書ニ從テ死去ノ證書ヲ記ス可シ

第八十四條 獄舎、徒刑場等ノ内ニ於テ死シタル時ハ其門監又ハ獄監ヨリ直チニ民生ノ官吏ニ死去ノ事ヲ報告ス可シ其民生ノ官吏ハ第八十條ニ記載セシ所ノ如ク其死去ノ所ニ至リテ死去ノ證書ヲ記ス可シ

第八十五條 非命死ヲ爲シ又ハ獄舎、徒刑場等ノ内ニ於テ死去シ及ヒ死刑ニ變セラレシ者アル時ハ此等ノ事ヲ簿冊ニ記ス可シ

ニ記ス可シ唯第七十九條ニ記載シタル法式ヲ以テ死去ノ證書ヲ記ス可シ

第八十六條 航海中ニ死去シタル時ハ其船ノ士官ノ中ニテ證人二員ヲ撰ヒ若シ士官ノアラアル時ハ乗組人ノ中ニテ證人二員ヲ撰ヒ其證人ノ面前ニ於テ二十四時間ニ死去ノ證書ヲ記ス可シ但シ此證書ハ皇帝ニ屬スル船ニ於テハ海軍ノ俗務ヲ掌ル士官之ヲ記シ商賈又ハアルマチトニ屬スル船ニ於テハ其船長又ハ指揮者之ヲ記ス可シ

○其證書ハ乗組人ノ姓名簿ノ冊尾ニ之ヲ記ス可シ

第八十七條 此事ヲ爲セシ後船泊船等ノ兵ニ始メテ卸碇セン港又ハ船具ヲ取収ム可キニ非サル理由ニ因リ始メテ卸碇シタル港ニ於テ其海軍ノ俗務ヲ掌ル士官又ハ船長、指揮者ハ第六十條ニ記載スル所ニ從ヒ其證書ノ副本ニ通テ納ム可シ

船具ヲ取収ム可キ港ニ着セシ時ハ其乗組人ノ姓名簿ヲ海軍兵士召募ノ官署ニ納メ其官署ノ官吏ハ死去ノ證書ノ副本一通ヲ記ルシ其姓名ヲ手署シテ死者ノ住所ノ民生ノ官吏ニ送達ス可シ但シ其官吏ハ其副本ヲ直チニ民生ノ證書ノ簿冊ニ登記ス可シ

第五節 佛蘭西國外ニ在ル兵士ノ民生ノ證書

第八十八條 兵士又ハ軍中ニテ使用スル者ニ付キ佛蘭西國外ニ於テ記ス可キ民生ノ證書ハ前條ニ記載セシ法式ヲ以テ之ヲ記ス可シト雖モ亦後ノ數條ニ記載スル所ノ規則ニ循フ可シ

第八十九條 一箇又ハ數箇ノ部隊ノ兵士又ハ大ニカドロン隊ノ兵士又ハ兵隊ノガルトエーメイトル兵隊中ノ兵士及ヒ其他ノ兵隊ノ指揮官ハ民生ノ官吏ノ職務ヲ行フ可シ但シ兵隊ヲ指揮セサル士官及ヒ軍中ニテ使用スル者ノ民生ノ證書ニ付テハ一軍又ハ其一部ニ屬スル兵ノ監察官ニテ民生ノ官吏ノ職務ヲ行フ可シ

第九十條 各兵隊ニ於テハ其隊中ノ者ノ民生ノ證書ヲ記ス可キ簿冊一冊ヲ設ケ置キ又一軍及其一部ノコマダジョル簿冊一冊ヲ設ケ置ク可シ但シ此簿冊ハ兵隊及ヒコマダジョル他ノ簿冊ト同一ノ法ヲ以テ之ヲ設ク置キ軍兵ノ歸

國シタル時之ヲ兵局ノ書房ニ納ム可シ

第九十一條 其簿冊ハ各兵隊ニ於テハ其指揮ヲ爲ス士官記號ヲ附シ及ヒ姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫シヨクマ
シニ於テハ其伍長記號ヲ附シ及ヒ横線ヲ畫ス可シ

第九十二條 軍中ニ於テノ出産ノ陳述ハ出産ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲ス可シ

第九十三條 民生ノ證書ノ簿冊ヲ管守スル任ヲ受ケタル士官ハ其簿冊ニ出産ノ證ヲ記セル時ヨリ十日内ニ其摘要
書ヲ出産シタル子ノ父ノ最終ノ住所ノ民生ノ官吏ニ送達ス可ク若シ其父ノ分明ナラザル時ハ其母ノ最終ノ住所
ノ民生ノ官吏ニ送達ス可シ

第九十四條 兵士及ヒ軍中ニテ使用スル者ノ婚姻ハ其最終ノ住所ニ於テ公告ス可ク且其公告ハ婚姻ヲ行フ可キ時
ヨリ廿五日前ニ兵隊中ノ者ニ付テハ其隊ノ毎日ノ命令書中ニ登記シ兵隊ヲ指揮セサル士官及ヒ軍中ニテ使用ス
ル者ニ付テハ一軍又ハ其一部ノ毎日ノ命令書中ニ登記ス可シ

第九十五條 民生ノ證書ノ簿冊ヲ管守スル士官ハ婚姻ノ證書ヲ簿冊ニ記シタル後直チニ其副本一通ヲ夫婦ノ最終
ノ住所ノ民生ノ官吏ニ送達ス可シ

第九十六條 死去ノ證書ハ各兵隊ニ付テハガルチエーメイト此證人三員ノ證ヲ得テ之ヲ記ス可ク又兵隊ヲ指揮セ
ザル士官及ヒ軍中ニテ使用スル者ニ付テハ一軍ノ閱兵ノ監察官證人三員ノ證ヲ得テ之ヲ記ス可シ但シ其證書ノ
摘要書ハ十日内ニ死者ノ最終ノ住所ノ民生ノ官吏ニ送達ス可シ

第九十七條 搬運ス可キ兵病院又ハ搬運ス可カラザル兵病院ニ於テ死去シタル時ハ其病院ノ支配人死去ノ證書ヲ
記シ之ヲ死者ノ兵隊ノガルチエーメイト此又一軍或ハ其一部ノ閱兵ノ監察官ニ送リ此等ノ士官ヨリ其證書ノ
副本一通ヲ死者ノ最終ノ住所ノ民生ノ官吏ニ送達ス可シ

第九十八條 前ノ數條ニ記載シタル死者ノ住所ノ民生ノ官吏ハ兵隊ヨリ民生ノ證書ノ副本ヲ受取リシ時直チニ之
ヲ民生ノ證書ノ簿冊ニ登記ス可シ

第六章 民生ノ證書ヲ改ム事

第九十九條 民生ノ證書ヲ改ム可キノ願ヲ爲ス者アル時ハ其所轄ノ裁判所ニ於テアロキウルクアンニシテ
述スル所ヲ曉問シ其更改ノ言渡ヲ爲ス可シ但シ此裁判所ノ言渡ニ服セザル者ハ更ニ上等裁判所ニ訴出ス可シ得
可シ○其民生ノ證書ニ管シタル數人ノ者ヲ呼出ス可キノ理アル時ハ之ヲ呼出ス可シ

第一百條 何レノ時ト雖モ民生ノ證書ニ管シル者ノ中ニ之ヲ改ムルヲ願ハス又ハ之ヲ改ムルニ付ニ於テ受ケタル
者アル時ハ其書ヲ改ムルノ言渡ヲ強テ其者ニ對シ行フ可キ得可ラス

第一百一條 民生ノ證書ヲ改ム可キ言渡書ハ民生ノ官吏之ヲ受取リタル後直チニ民生ノ證書ノ簿冊ニ登記シ且之ヲ
登記シタルトテ其改メタル民生ノ證書ノ端ニ記ス可シ

第三卷 往所千八百三年第三月十四日決定同月廿五日布告

第一百二條 民權ヲ行フ事ニ付テノ各佛蘭西人ノ住所トハ其首タル住居ノ地ヲ云フ

第一百三條 是迄ノ住所外ノ地ニ現ニ居住ヲ爲シ且其地ニ首タル住居ヲ定メントスルノ意アル時ハ移住シタルト爲
ス可シ

第一百四條 此意アルトテ證書スルニハ其去ラントスルヨムニエーレン官吏ト其移ラントスルヨムニエーレン官吏ト
ニ特ニ其陳述ヲ爲ス可シ

第一百五條 其陳述ニ付時ハ其時ノ模様ヲ以テ此意アルノ證アリト爲ス可シ

第一百六條 定期ノ時間其職ニ在ル公務ノ任又ハ事罷ムノ後其職ヲ廢ス可キ公務ノ任ヲ受クシ老ハ別段其住所ヲ移
ス可キノ意ヲ陳述スルトナキ時其元來ノ住所ヲ有ス可シ

第一百七條 終身ノ公務ノ任ヲ受ケシ者ハ其住所ヲ其職務ヲ行フ可キ場所ニ直チニ移シタルト爲ス可シ

第八條 婚姻シタル婦ハ其夫ノ住所ヲ以テ已レノ住所ト爲ス可シ○未タ後見ヲ免レサル幼者ハ其父母又ハ後見人ノ住所ヲ以テ已レノ住所ト爲ス可シ○治産ノ禁ヲ受ケシ丁年ノ者ハ其後見人ノ住所ヲ以テ已レノ住所ト爲ス可シ
第九條 平常他人ノ家ニ於テ使用ヲ受ケ又ハ工作ヲナス丁年ノ者ハ其使用ヲ爲ス者又ハ工作ヲ爲サシムル者ト居所ヲ同フスル時其使用スル者又ハ工作ヲ爲サシムル者ノ住所ヲ以テ已レノ住所ト爲ス可シ

第十條 遺物相續ヲ爲ス可キ場所ハ住所ニ因テ定ム可シ
第十一條 一個ノ證書ニ記載セシ約定ヲ行フニ付キ其契約ヲ結ビタル雙方ノ者又ハ一方ノ者ノ其證書上ニ現キ所在ノ住所外ニ於テ更ニ他ノ住所ヲ擇ム可キヲ記シタル時ハ其證書ニ付テノ呼出状ハ其特ニ擇ミタル住所ニ違シ且其證書ニ付テノ訴訟モ亦其住所ノ地ノ裁判所ニ於テ爲スヲ得可シ

第四章 失踪
第一節 失踪ヲ認渡スル事

第十二條 失踪ノ思度ヲ受ケタル者名代人ヲ任セサル時其遺留シタル財産ノ全部又ハ一部ヲ支配ス可キ用意ヲ爲スノ必要ナルニ於テハ其失踪ノ思度ヲ受ケシ者ニ管シタル者ノ願ヲ以テ下等裁判所ヨリ其用意ヲ爲ス可キヲ言渡ス可シ

第十三條 其裁判所ニ於テハ失踪ノ思度ヲ受ケシ者ニ管シタル者ノ中最初ニ訴出シタル者ノ願ニ應シ其思度ヲ受ケシ者ニ管シタル財産ノ目錄諸件ノ算計遺物ノ分配會計ノ完済ノ諸事ニ付キ其思度ヲ受ケタル者ニ代ハル可キヲテイルヲ任ス可シ

第十四條 司法官ニステイルビテリテハ其失踪ノ思度ヲ受ケタル者ノ願ニ應シ其思度ヲ受ケタル者ノ權利ヲ別段ニ監守ス可ク且其思度ヲ受ケシ者ニ管シタル訴訟アル時ハ裁判役必ス此官吏ノ説ヲ聽問ス可シ

第二章 失踪ヲ公告スル事

第十五條 人其住所又ハ寄居スル場所ニ現出スルナク且四年以來其消息ヲ得ケル時ハ其失踪者ニ管シタル者

ヨリ下等裁判所ニ其失踪ノ公告ヲ爲可キヲ訴出テ得可シ

第十六條 裁判所ニ於テハ其受取リタル證書及ヒ書付類ヲ取調ヘタル後失踪ヲ證ス可キ爲ノ失踪者ノ住所ノアルロシガスマンニ於テテロキリウルヲムベリアル立會ノ上其吟味ヲ爲ス可キヲ言渡ス可シ若シ其住所外ニ寄居スル場所アル時ハ其場所ノアルロシガスマンニ於テモ亦テロキリウルヲムベリアル立會ノ上其吟味ヲ爲ス可キヲ言渡ス可シ

第十七條 又裁判所ニテ失踪公告ノ訴出アルニ付キ其公告ノ言渡ヲ爲スニハ其失踪ノ理由及ヒ失踪ノ思度ヲ受ケタル者ノ消息ヲ得ルノ妨トナル可キ理由ニモ亦注意ヲ爲ス可シ

第十八條 司法官ニテロキリウルヲムベリアルハ吟味ノ言渡書及ヒ公告ノ言渡書ヲ受取リタル毎ニ直チニ之ヲ裁判執政ニ送呈シ其執政ハ此言渡書ヲ公告ス可シ

第十九條 失踪公告ノ言渡書ハ失踪吟味ノ言渡書ヲ渡シタル時ヨリ一年ノ後ニ非サレハ之ヲ渡ス可キヲテス

第三章 失踪ヨリ生スル諸件

第一款 失踪者ノ其失踪セシ時所有シタル財産ニ付キ失踪ヨリ生スル諸件

第二十條 失踪者其財産支配セシム可キ爲ノ名代人ヲ任シタルコトナキニ於テハ其失踪ノ時又ハ其最終ノ消息ヲ得タル時ノ其最終ノ遺物相續人等失踪者ノ失踪セシ時又ハ最終ノ消息ヲ得タル時所有シタル財産ヲ失踪公告ノ言渡書ニ依リ假リニ已レノ所有ト爲スノ訴ヲ受クルコトヲ得可シ但シ其相續人ハ其財産ノ正實ニ支配ス可キ保証ヲ立ツルコトヲ必要ナリトス

第二十一條 失踪者名代人ヲ任シタル時ハ其失踪ノ時又ハ其最終ノ消息ヲ得タル時ヨリ全周十年ノ後ニ非レハ其最終ノ遺物相續人等其失踪ノ公告ヲ得ルコト及ヒ其失踪者ノ財産ヲ假ニ已レノ所有ト爲スコトヲ訴出ス可キヲテス

第二十二條 其十年ノ時間ニ名代人ヲ任シタル期限ノ終リシ時モ亦前條ニ記載スル所ト同一ナリ但シ此場合ニ於テハ失踪者ノ財産ヲ支配セシム可キ爲ノ此卷ノ第一章ニ記載シタル如ク其廢置ヲ爲ス可シ

第二百二十三條 失踪者ノ最親ノ遺物相續人其財産ヲ假ニ所有ト爲スコトヲ得タル時其失踪者ノ遺囑書アルニ於テハ
失踪者ニ管シタル者又ハ其地ノ裁判所ノプロキリウルフアンペリアルノ求メニ因リ其遺囑書ヲ開封シ失踪者ノ生
存中ノ贈遺遺囑ノ贈遺ヲ受シ可キ者及ヒ其他失踪者ノ死後ニ其財産ヲ得可キノ權アル者假ニ其權ヲ行フコトヲ得
可レ但シ此事ニ付テハ保證ヲ立ツ可シ

第二百二十四條 財産ヲ共通シタル失踪者ノ配偶者失踪公告ノ言渡ノ後其財産ノ共通ヲ繼續セント欲スル時ハ其
失踪者ノ財産ヲ遺物相續人ノ假ニ所有トナス事及ヒ其失踪者ノ死シタル後ニ其財産ヲ得可キ權アル者ノ假ニ其
權ヲ行フ事ヲ拒ニ配偶者自カテ其失踪者ノ財産ヲ支配スル特權ヲ得又ハ保ツコトヲ得可シ○又其配偶者其財産ノ
共通ヲ假ニ解除セント求ムル時其財産ヲ取戻スル權其法律上ニ於テ得ル所ノ權其契約シテ得タル所ノ權ハ第三
條ニ詳ナリ行フコトヲ得可シ但シ失踪者ノ現出シタル時還與ス可キ財産ニ付テハ保證ヲ立ツ可シ

第二百二十五條 失踪者ノ財産ヲ假ニ所有ト爲スコトヲ得タル者ハ唯其財産ノ附托第三條第十一條受クルノニシテ
其者ハ失踪者ノ財産ヲ支配スルノ權ヲ有シ失踪者ノ現出スル時又ハ其消息ヲ得ルコトアル時失踪者ニ其失踪中ノ
財産ヲ支配シタル其計ヲ爲ス可シ

第二百二十六條 失踪者ノ財産ヲ假ニ所有ト爲スコトヲ得タル者又ハ失踪者ト財産ノ共通ヲ繼續セント求ムル其配
偶者ハ下等裁判所ノプロキリウルフアンペリアルノ面前又ハ其官吏ノ擇ミタル最下等裁判所ノ裁判役ノ面前ニ於テ
其失踪者ノ動産金銀衣服家什等ノ及ヒ證書類ノ目錄ヲ記サシム可シ

其動産ノ全部又ハ一部ヲ賣拂フ可キノ道理アル時ハ裁判所ニ於テ其賣拂ヲ言渡ス可シ
其賣拂ヲ爲スル時ハ其賣拂ニ付キ得タル所ノ金額ヲ失踪者ノ利益トナル可キ法ニ用フ可シ又失踪者ノ爲メニ得
タル入額モ亦同一ノ方法ニ取置ス可シ
失踪者ノ財産ヲ假ニ所有ト爲スコトヲ得タル者ハ裁判所ヨリ任シタル評價人ヲシテ其失踪者ノ不動産ヲ檢視セシ

メ其模様ヲ證シタル書ヲ記サシムルコトヲ自己ノ安堵ノ爲メ求ムルコトヲ得可シ○此評價人ノ記シタル書面ハ凡口
キリウルフアンペリアルノ面前ニ於テ之ヲ確約ノモノト定ム可シ但シ其評價ノ費用ハ失踪者ノ財産中ヨリ取リ用フ可シ
第二百二十七條 失踪者ノ財産ヲ假ニ所有ト爲スコトヲ得タル者又ハ法律上ニ於テ支配スルコトヲ得タル者其失踪者失踪
ノ時ヨリ全周十五年內ニ再ヒ現出スルニ於テハ其所得ト爲シタル入額ノ五分ノ一ヲ失踪者ニ還シ十五年後ニ現
出スルニ於テハ十分ノ一ヲ還ス可シ
三十年間失踪ノ後ハ其失踪者ノ財産ノ入額ノ全數ヲ其財産ヲ假ニ所有トナス者又ハ法律上ニ於テ支配スルコトヲ
得タル者ノ所得ト爲ス可シ

第二百二十八條 失踪者ノ財産ヲ假ニ所有ト爲ス者ハ其失踪者ノ不動産ヲ人ニ給與シ又ハ賣拂ヒ又ハ引ポテシキ
求屋等ノ當入賃ヲ云フ但シト爲スコトヲ得可キラス
第二百二十九條 失踪者ノ財産ヲ其遺物相續人ノ假ニ所有ト爲スコトヲ得タル時ヨリ三十年間其失踪者ノ現出セサル
時又ハ財産ヲ共通シタル失踪者ノ配偶者其財産ヲ支配シタル時ヨリ三十年間其失踪者ノ現出セサル時又ハ其失
踪者ノ生レシ時ヨリ全周百年ヲ經タル後其失踪者ノ現出セサル時ハ裁判所ヨリ其保證ノ免除ヲ言渡シ其失踪者
ノ財産ヲ得可キ權アル者ハ下等裁判所ニ其財産分派ノ事ヲ訴出シ其財産ヲ真ノ所有ト爲スノ言渡ヲ受クルコトヲ
得可シ

第二百三十條 失踪者ノ死去セシ證アル時ハ其時ノ最親ノ遺物相續人ノ爲メ其時ヨリ遺物相續ノコトヲ行ヒ始ム可シ
但シ其失踪者ノ財産ヲ假ニ所有ト爲シタル者ハ第二百二十七條ニ記載スル所ニ依ヒ其者ノ所得ト爲ス可キ利益ヲ
除クノ外其財産ヲ其最親ノ遺物相續人ニ引渡ス可シ

第二百三十一條 失踪者ノ再ヒ現出シタル時又ハ其財産ヲ假ニ所有ト爲ス時間ニ其失踪者生存ノ證アル時ハ管テ爲
タル失踪公告ノ言渡ヨリ生シタル諸件ヲ取消ス可シ但シ此規則ト失踪者ノ財産ヲ支配ス可キ爲此卷第一章ニ記載
セシ如ク財産ヲ保全スルノ爲置テ爲タル時ハ其爲置ト相抵触スルコトナカル可シ

第三百三十二條 若シ失踪者ノ再ヒ現出シタル時又ハ其生存ノ證ヲ此時ハ縱令其財産ヲ真ノ所有ト爲タル者アリ
レ後ト雖モ其失踪者已レノ財産ヲ其時ノ儘ヲ以テ取戻ス可ク且既ニ賣却シタル財産ノ金額又ハ其金額ヲ用
ヒテ得タル財産モ亦取戻ス可ク得可シ

第三百三十三條 又失踪者ノ子及ヒ宗系高曾祖父母ヨリ元曾孫ニ至ル迄ノ類ヲ云フノ親子孫元孫曾孫ノ類ヲ云フノ現出スル時ハ其失踪者ノ財
産ヲ真ノ所有ト爲シタル者アル時ヨリ三十年間ニ前條ニ記載セシ所ノ如ク其車馬ノ親ヨリ其財産取戻シテ訟ヲ
爲シ得可シ

第三百三十四條 失踪公告ノ旨渡ラ爲シタル後ハ其失踪者ニ對シ訴ヲ爲ス可キ權アル者ヨリ其失踪者ノ財産ヲ假ニ
所有ト爲ス可ク得タル者又ハ法律上ニ於テ其財産ヲ支配スルコトヲ得タル者ニ對シ其訴ヲ爲ス可シ

第三百三十五條 失踪者ニ屬スル事アル可キ權ニ付キ失踪ヨリ生スル諸件
第三百三十六條 生存ノ分明ナラサル者ニ屬ス可キ權アル者ハ生存ノ分明ナラサル者當テ其權ノ
生シタル時ニ現ニ生存シテノ證ヲ立ツ可シ但シ之ヲ證セサル間ハ其訴アル所ヲ允許セサルノ旨渡ラ受ク可シ

第三百三十七條 生存ノ分明ナラサル者ノ得可キ遺物相續ノコトアル時ハ其者ト相與ニ遺物相續ヲ爲ス可キ權アル者
又ハ其生存ノ知レサル者ニ代リテ遺物相續ヲ爲ス可キ者ニ全ク其遺物相續ヲ爲サレム可シ

第三百三十八條 前ニ條ノ規則ト失踪者又ハ其名代人又ハ代任者ハ已レニ屬ス可キ遺物相續ノ權及ヒ其他ノ權ノ
レズタリトシヨシトスルハ他人ノ物ヲ已レノ所有ト爲レズハ已レノ期限ニ至ラザル時間此等ノ權ヲ得シト
訴出ス可ク得可規則ト相接觸スルコトナカル可シ

第三百三十九條 失踪者ノ配偶者再婚ノ契約ヲ結ビタル時ハ其失踪者自カラ其再婚ノ取消ヲ訴ヘ又ハ自己ノ生存ノ
第三款 婚姻ノ事ニ付キ失踪ヨリ生スル事

證書ヲ與ヘタル名代人ヲシテ之ヲ訴ヘシムルコトヲ得可シ
第三百四十條 若シ失踪者ノ遺物相續ヲ爲ス可ク得可キ血屬ナキ時ハ其配偶者ヨリ其財産ヲ假ニ所有ト爲ス可ク得
シト得ルコトヲ得可シ

○第四章 父ノ失踪ノ時其幼年ノ子ヲ管督スル事
第三百四十一條 若シ夫婦ノ間ニ舉ケタル幼年ノ子ヲ遺留シテ其父失踪シタル時ハ其母其子ノ管督ヲ爲シ其子ノ故
育及ヒ其財産ヲ支配スルコトニ付キ父ノ權ヲ行フ可シ

第三百四十二條 父ノ失踪ノ時母ノ既ニ死去シ又ハ父ノ失踪ヲ公告スル前ニ母ノ死去セシ時ハ父ノ失踪ノ時ヨリ六
月ノ後ニ至リ親族ノ會議ニ因リ其子ノ管督ヲ其最親ノ尊屬ノ親ノアラザル時ハ之ヲ假ノ後見人ニ任ス可シ
第三百四十三條 失踪ノ夫又ハ婦ノ前婚ニテ舉ケタル幼年ノ子ヲ遺留シタル時モ亦前條ト同一ナリ

○第五卷 婚姻ノ事千八百三年三月十七日決定同月廿七日公布

◎第一章 婚姻ノ契約ヲ為スニ必要ナル條件

第四百四十四條 滿十八歳ニ至ラナル男及ヒ滿十五歳ニ至ラナル女ハ婚姻ノ契約ヲ為スコカラス

第四百四十五條 然レ至重ノ道理アル時ハ皇帝ヨリ未タ其齡ニ至ラサル者ヲシテ婚姻ノ契約ヲ為サシムルノ許ヲ為ス

ス

第四百四十六條 夫婦トナル可キ雙方ノ者ノ承諾アラサル時ハ婚姻シタルト為スコカラス

第四百四十七條 前婚ヲ解カサル以前ニ再婚ノ契約ヲ為スコカラス

第四百四十八條 滿二十五歳ニ至ラサル男及ヒ滿二十一歳ニ至ラサル女ハ其父母ノ許諾ヲ得スシテ婚姻ノ契約ヲ為スコカラス

若シ其父母互ニ異議アル時ハ父ノ許諾ノミヲ以テ足レリトス

第四百四十九條 父母ノ中既ニ死去スル者アル時或ハ生存スト雖モ其意ヲ表スルコト能ハサル者アル時ハ他ノ一方ノ者ノ許諾ヲ以テ足レリトス

第四百五十條 若シ父母共ニ既ニ死去シタル時又ハ其意ヲ表スルコト能ハサル時ハ祖父父母之ニ代ル可シ又本宗外族ヲ

問ハス其祖父祖母ト互ニ異議アル時ハ各其祖父ノ許諾ヲ以テ足レリトス

若シ本宗ノ祖父祖母ト外族ノ祖父祖母ト互ニ異議アル時ハ其異議アル事ノミヲ以テ即チ許諾シタルト看做スコシ

第四百五十一條 子ハ第四百四十八條ニ記載セシ所ノ齡ニ至ルト雖モ婚姻ノ契約ヲ為ス以前ニ父母ノ許諾ヲ請フ可シ

書ヲ以テ其許シテ請フ可シ若シ父母ノ既ニ死去シタル時又ハ其意ヲ表スルコト能ハサル時ハ其祖父父母ノ許シテ請フ可シ

第四百五十二條 第四百五十三條 第四百五十四條 第四百五十五條 第四百五十六條 第四百五十七條 第四百五十八條 第四百五十九條 第四百六十條 第四百六十一條 第四百六十二條 第四百六十三條 第四百六十四條 第四百六十五條 第四百六十六條 第四百六十七條 第四百六十八條 第四百六十九條 第四百七十條 第四百七十一條 第四百七十二條 第四百七十三條 第四百七十四條 第四百七十五條 第四百七十六條 第四百七十七條 第四百七十八條 第四百七十九條 第四百八十條 第四百八十一條 第四百八十二條 第四百八十三條 第四百八十四條 第四百八十五條 第四百八十六條 第四百八十七條 第四百八十八條 第四百八十九條 第四百九十條 第四百九十一條 第四百九十二條 第四百九十三條 第四百九十四條 第四百九十五條 第四百九十六條 第四百九十七條 第四百九十八條 第四百九十九條 第五百條

第四百五十二條 第四百五十三條 第四百五十四條 第四百五十五條 第四百五十六條 第四百五十七條 第四百五十八條 第四百五十九條 第四百六十條 第四百六十一條 第四百六十二條 第四百六十三條 第四百六十四條 第四百六十五條 第四百六十六條 第四百六十七條 第四百六十八條 第四百六十九條 第四百七十條 第四百七十一條 第四百七十二條 第四百七十三條 第四百七十四條 第四百七十五條 第四百七十六條 第四百七十七條 第四百七十八條 第四百七十九條 第四百八十條 第四百八十一條 第四百八十二條 第四百八十三條 第四百八十四條 第四百八十五條 第四百八十六條 第四百八十七條 第四百八十八條 第四百八十九條 第四百九十條 第四百九十一條 第四百九十二條 第四百九十三條 第四百九十四條 第四百九十五條 第四百九十六條 第四百九十七條 第四百九十八條 第四百九十九條 第五百條

同月二十二日布告ス

第五百五十二條 第四百四十八條ニ定メタル齡ニ至リシ後男ハ三十歳ニ至ル迄女ハ二十五歳ニ至ル迄ノ時間前條ニ記載スル所ノ父母ノ許諾ヲ請フノ證書ヲ出シ其許シテ得サル時ハ其後月ヲ逐テ更ニ二次其證書ヲ出シ後ノ證書ヲ出セシ時ヨリ一月後ニ至リ婚姻ヲ行フヲ得可シ

第五百五十三條 三十三歳ノ齡ニ至リシ後ハ一次父母ノ許諾ヲ請フノ證書ヲ出シ其許シテ得スト雖モ一月後ニ至リ婚姻ヲ行フヲ得可シ

第五百五十四條 父母ノ許諾ヲ請フノ證書ハ「ハ」テイルニ負ヨリ又「ハ」テイル一負ト證人ニ負トヨリ第五百五十一條ニ記載シタル尊屬高祖、曾祖、父母、祖、親一人又ハ教人ニ送達ス可シ但シ此事ニ付キ記ス可キ證書ニハ其尊屬ノ親ノ答ヲモ亦記入ス可シ

第五百五十五條 若シ婚姻ノ許諾ヲ請フノ證書ヲ出ス可キ尊屬ノ親ノ失踪ノ時ハ其失踪公告ノ言渡書ヲ出シ又其言渡書ノアラサル時ハ失踪吟味ノ言渡書ヲ出シテ婚姻ヲ行フヲ得可シ若シ又其吟味ノ言渡書ノアラサル時ハ尊屬ノ親ノ最終ノ住所ノ地ノ最下等裁判所ノ裁判役ヨリ渡シタル「ハ」トリエテ「ハ」ノ證書ヲ出シ婚姻ヲ行フ事ヲ得可シ○其「ハ」トリエテ「ハ」ノ證書ニハ其裁判役職務ヲ以テ呼出シタル證人四負ノ述フル所ヲ記ス可シ

第五百五十六條 滿二十五歳ニ至ラサル男又ハ滿二十一歳ニ至ラサル女ノ契約シタル婚姻ニ付キ其父母又ハ祖父母ノ許諾又ハ親族ノ許諾ヲ得ルノ必要ナル時其許諾セシ「ハ」テイル婚姻ノ證書ニ記サスシテ其婚姻ヲ行ハシメタル民生官吏ハ此婚姻ニ管セシ者ノ許シ田リ又ハ其婚姻ヲ行フタル地ノ下等裁判所ノ「ハ」ロキリウル「ハ」ニリアル「ハ」ノ求ニ因リ第九十二條ニ記載シタル罰金ノ言渡書受ケ且六日ヨリ少ナカラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第五百五十七條 益ノ許諾ヲ請フノ證書ノ必要ナル時其書ナクシテ婚姻ヲ行ハシメタル民生官吏ハ同上ノ罰金ノ言渡書受ケ且一月ヨリ少ナカラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第五百五十八條 第四百四十八條第四百四十九條ニ記載シタル規則及ヒ父母ノ許諾ヲ請フノ證書ノ「ハ」ニ付キ第五百五十一

條第五百五十二條第五百五十三條第五百五十四條第五百五十五條ニ記載シタル規則ハ私生ノ子未ダ結婚セズレテ生ミタルル子ヲ法ニ循ヒ我子ナリト認メタル者ニモ本違當レテ用フ可シ

第五百五十九條 私生ノ子ノ未ダナリト認メラサル者又ハ既ニ認メラタル後父母ヲ亡ヒレ者又ハ其父母ノ其意ヲ表スル「ハ」能ハケル者ハ滿二十一歳ニ至ラサル以前其者ノ為メ任シタル別段ノ後見人ノ許諾ヲ得シテ婚姻ヲ契約ス可カラズ

第六十條 滿二十一歳ニ至ラサル男女其父母及ヒ祖父父母ノ共ニアラサル時又ハ共ニ其意ヲ表スル「ハ」能ハケル時ハ其親族會議ノ許諾ヲ得シテ婚姻ヲ契約ス可カラズ

第六十一條 宗系ノ親ニ於テハ法ニ違レタル尊屬及ヒ尊屬ノ親又ハ法ニ違セサル尊屬及ヒ尊屬ノ親ヲ論セス其間ニ互ニ婚姻ヲ為シ又ハ宗系ノ姻屬ノ親ノ間ニ互ニ婚姻ヲ為ス「ハ」テイル禁ス

第六十二條 傍系伯叔父母及ヒ兄弟姉妹ノ親ノ親ニ於テハ法ニ違レタル兄弟姉妹ト法ニ違セサル兄弟姉妹トヲ論セス其間ニ互ニ婚姻ヲ為シ又ハ同級兄弟姉妹ト同級ト類ヲ云フノ姻屬ノ親ノ間ニ互ニ婚姻ヲ為ス「ハ」テイル禁ス

第六十三條 又伯叔父ト姪女ト伯叔母ト姪男ト互ニ婚姻ヲ為ス「ハ」テイル禁ス

第六十四條 「ハ」八百三十二年四月十六日如此換乙然片至重ノ道理アル時ハ第六十二條ニ記載シタル同級ノ姻屬ノ親互ニ婚姻ヲ為スノ禁及ヒ第六十三條ニ記載シタル伯叔父ト姪女ト伯叔母ト姪男ト互ニ婚姻ヲ為スノ禁ヲ皇帝ヨリ除去スル「ハ」テイル得可シ

第二章 婚姻ヲ行フニ付テノ法式

第六十五條 婚姻ハ夫婦トナル可キ者ノ中其一人ノ居住スル地ノ民生ノ官吏ノ面前ニ於テ公ケニ之ヲ行フ可シ

第六十六條 第六十三條民生ノ證ニ記載シタル二次ノ公告ハ夫婦トナル可キ者ノ住所ノ「ハ」ニ「ハ」ノ官廳ニ於テ之ヲ為ス可シ

第六十七條 若レ又現今所在ノ住所ニ居ル「ハ」六月ニ滿タサル時ハ其地ニ移住セシ前最終ノ住所ノ「ハ」ニ

ノ官廳ニ於テモ亦其公告ヲ為スコシ

第百六十八條 婚姻ヲ為スコキ雙方ノ者又ハ一方ノ者婚姻ノ事得キ今指令ヲ受ク可キ時ハ其指令ヲ為ス者ノ住所ノ地ノ司法官廳ニ於テモ亦其公告ヲ為スコシ

第百六十九條 至重ノ道理アル時ハ皇帝又ハ皇帝ノ特ニ任シタル官吏ヨリ後ノ公告ヲ廢スルヲ得可シ

第百七十條 外國ニ於テ佛蘭西人等ノ互ニ契約シタル婚姻又ハ佛蘭西人ト外國人ト互ニ契約シタル婚姻ハ其國ニ於テ用フル所ノ法式ヲ以テ之ヲ行ヒ且預メ第六十三條ニ記シタル公告ヲ為シ其佛蘭西人前章ニ記シタル規則ニ違背スルヲナキ時ハ其婚姻ヲ法ニ適シタルモノト為スコシ

第百七十一條 佛蘭西人ハ佛蘭西領地内ニ歸リ來リし時ヨリ三月内ニ外國ニ於テ為シタル婚姻ノ證書ヲ其居住スル地ノ婚姻ノ證書ノ簿冊ニ登記セシム可シ

第三章 婚姻ノ故障ヲ述フル事

第百七十二條 婚姻ノ故障ヲ述フルノ權ハ婚姻ヲ為スコキ者ノ中一方ノ配偶者ニ屬スコシ

第百七十三條 又父若シ父ナキ時ハ母又父母共ニナキ時ハ祖父父母ヨリ其子及ビ卑屬ノ親ノ齡二十五歳以上ナル時ト雖モ其婚姻ノ故障ヲ述フルヲ得可シ

第百七十四條 尊屬ノ親ナキ時ハ丁年ノ兄弟姉妹伯叔父母從兄弟從姉妹左ノ二箇ノ場合ハ外婚姻ノ故障ヲ述フル可カラズ

第一 第百六十條ニ於テ必要ナリト定メタル親族會議ノ許諾ヲ得ザル時

第二 婚姻ヲ結バントスル者ノ狂癡ナルヲ以テ其婚姻ノ故障ヲ述フル時但シ其故障ヲ述フル者ハ婚姻ヲ結ハントスル者ヲシテ治産ノ禁ヲ受ケレムル前ヲ為シ裁判所ニテ定メタル期限内ニ其言渡ヲ得ルノ手續ヲ為スコキ非レハ裁判所ニ於テ其故障ヲ述ヘタルヲ聽ルスコキラス又其故障ヲ述フルト雖モ裁判所ニ於テハ全ク之ヲ止メレムルノ言渡ヲ為スヲ得可シ

第百七十五條 前條ニ記載シタル二箇ノ場合ニ於テキユラトール又ハ後見人ノ其職務ヲ行フ間ハ其集會ヲ為サレ

ノタル親族會議ノ許諾ヲ得タルニ非レハ婚姻ノ故障ヲ述フルヲ得ス

第百七十六條 婚姻ノ故障ヲ述フルノ證書ニハ之ヲ述フルノ權ヲ生スコキ倫序身位ト婚姻ヲ行フ可キ地ニ住リテ擇ミタルトトヲ記スコシ又卑屬ノ親ヨリ故障ヲ述ヘタル時ノ外ハ亦其趣意ヲ記スコシ若シ此規則ニ背ク時ハ其故障ヲ述フル證書ヲ取消シ且ツ其證書ニ姓名ヲ手署シタル官吏ハ暫時其職ヲ罷アル可シ

第百七十七條 下等裁判所ニ於テハ婚姻ノ故障ヲ止ムルノ訴アル時之ヲ十日内ニ審判スコシ

第百七十八條 若シ下等裁判所ノ審判ニ服セスレテ更ニ上等裁判所ニ訴出シタル時ハ上等裁判所ニ於テ其時ヨリ十日内ニ其故障ヲ止ムルニ付テノ審判ヲ為スコシ

第百七十九條 若シ裁判所ニ於テ婚姻ノ故障ヲ述ヘタルヲ聽サハル時ハ之ヲ述ヘタル者尊屬ノ親ヲ除クノ外損失ヲ償フ可キ言渡ヲ受ク可シ

第四章 婚姻取消ノ訴

第百八十條 夫婦雙方又ハ其一方ノ適意ノ承諾ナクシテ契約シタル婚姻ハ其雙方又ハ適意ノ承諾ヲ為サル其一方ニ非レハ婚姻取消ノ訴ヲ可カラズ

若シ人ヲ錯誤シテ婚姻シタル時ハ夫婦中其錯誤ヲ受ケ婚姻シタル者ニ非サレハ婚姻取消ノ訴ヲ可カラズ

第百八十一條 前條ニ記載スル所ノ場合ト雖モ夫婦全ク其自由ヲ得又ハ其錯誤ヲ知リタル時ヨリ六月間絶エス同居シタル時ハ婚姻取消ノ訴ヲ可カラズ

第百八十二條 父母及ヒ其他尊屬ノ親ノ許諾又ハ親族會議ノ許諾ノ必要ナル時其許諾ヲ得スレテ契約シタル婚姻ハ其許諾ヲ為スコキ者又ハ夫婦中ニテ其許諾ヲ要スル者ニ非レハ其婚姻ノ取消ヲ訴フ可カラズ

第百八十三條 婚姻ノ許諾ヲ為スコキ者若シ明許又ハ黙許ヲ以テ其許諾ヲ為シタル時又ハ其婚姻ヲ為スヲ知リタル後其取消ノ訴ヲ為スヲ一年ノ時間ヲ經過シタル時ハ夫婦又ハ婚姻ノ許諾ヲ為シタル者ヨリ其婚姻取消ノ訴ヲ為スコキラス又夫婦中一方ノ者自カラ婚姻ノ承諾ヲ為スヲ得可キ齡ニ至リし時ヨリ一年ノ時間其婚姻

取消ノ訴ヲ為スヲナキ時ハ亦其訴ヲ為ス可カラス

第百八十四條 第百四十四條第百四十七條第百六十一條第百六十二條第百六十三條ニ記載シタル規則ニ背キテ效

約シタル婚姻ハ夫婦又ハ婚姻ノニ管スル者或ハ「ニステール」ビデリ「ヨリ」其取消ノ訴ヲ為スヲ得可レ

第百八十五條 然レ婚姻ヲ行フニ必要ト為ス可キ齡ニ未タ至ラサル夫婦又ハ其一方ノ契約シタル婚姻ハ其雙方又

ハ一方ノ其齡ニ至リシヨリ後六月ヲ經タル時又ハ婦ノ未タ其齡ニ至ラズト雖モ婚姻ヲ行ヒレヨリ六月ヲ經タ

ル前ニ既ニ懐胎シタル時ハ其取消ノ訴ヲ可カラス

第百八十六條 前條ニ記載シタル場合ニ於テ結ビタル婚姻ヲ許諾シタル父母又ハ其他尊屬ノ親及ヒ親族ハ其取消

ヲ訴フ可カラス

第百八十七條 第百八十四條ニ記載スル所ニ循ヒ婚姻ニ管スル者ヨリ其婚姻取消ノ訴ヲ為スヲ得可キ場合ト雖

モ傍系ノ親又ハ前婚ノ子ハ其婚姻取消ニ付キ現ニ管係アル時ニ非レハ夫婦ノ共ニ生存スル時間其婚姻取消ヲ訴

フ可カラス

第百八十八條 夫又ハ婦其配偶者ノ別ニ婚姻ヲ結ビタルニ因リ害ヲ蒙リシ時ハ其配偶者ノ生存中ニ於テモ其婚姻

ノ取消ヲ訴フルヲ得可シ

第百八十九條 又再婚シタル夫又ハ婦前婚ノ既ニ取消トナリタルヲ述ル時ハ裁判所ニ於テ其前婚ノ既ニ取消ト

ナリタルヤ否ヤヲ先ニ審判ス可シ

第百九十條 「アロキ」ウルクアンペリアルハ第百八十四條ニ記載シタル場合ニ於テ夫婦ノ共ニ生存スル間ニ其婚姻

ヲ取消シ其夫婦ヲ別ニ離別セシム可キノ言渡ヲ得ント訴フ可レ但シ第百八十五條ニ記載スル所ハ格別ナリトシ

第百九十一條 公クニ契約シタルトナキ婚姻又ハ相當ノ官吏ノ面前ニ於テ行ハサル婚姻ハ夫婦自身又ハ父母及ヒ

其他尊屬ノ親又ハ婚姻取消ニ付キ現ニ管係アル者又ハ「ニステール」ビデリ「ヨリ」其婚姻取消ノ訴ヲ為スヲ得可シ

第百九十二條 若レ婚姻ヲ為スニ預ルニ次ノ公告ヲ為ササル時又ハ法ニ於テ許シタル免除ヲ得サル時又ハ公告ト

婚姻ヲ行フトノ間ノ定期ニ背キタル時ハ「アロキ」ウルクアンペリアルヨリ其婚姻ヲ許可セシ官吏ニ三百フランク

ノ過キサル罰金ノ言渡ヲ受ケンノ且婚姻ヲ行ヒシ者又ハ其者ヲ指令スル者ニ其家産ニ准シタル罰金ノ言渡ヲ受

ケシム可シ

第百九十三條 第百六十五條ニ記載シタル規則ニ背キタルヲアル時裁判所ニ於テ婚姻取消ノ言渡ヲ為スニ及ハサ

ルノ審判アリト雖モ前條ニ記シタル者ハ其記スル所ノ罰ヲ受ク可シ

第百九十四條 何レノ人ヲ論セス民生ノ證書ノ簿冊ニ記ルシタル婚姻ノ證書ノ抄出書ヲ出サレ時ハ夫婦ノ名義ト

婚姻ニ因リ生ヌ可キ民法ニ管シタル諸件トヲ求ム可カラズ但シ第百九十六條ニ記載シタル場合ハ格別ナリトシ

第百九十五條 現ニ夫婦タルノ景状アリト雖モ夫婦ナリト述フル者ハ民生ノ官吏ノ面前ニ於テ婚姻ヲ行フタル證

書ノ抄出書ヲ出サレヲ得ス

第百九十六條 現ニ夫婦タルノ景状アリテ民生ノ官吏ノ面前ニ於テ婚姻ヲ行フタル證書ノ抄出書ヲ出シタル時ハ

其夫又ハ婦ヨリ其證書ノ取消ヲ訴ルヲ得ス

第百九十七條 然レ第百九十四條第百九十五條ニ記載シタル場合ニ於テ公ケニ夫婦ノ景状アル者其生ミタル子ア

リテ共ニ死去シタル時其子ハ其死者ノ子タルノ景状アリテ其出生ノ證書ニモ之ニ及シタルヲナキニ於テハ其婚

姻ヲ行フタル證書ヲ出サレ「アロキ」ウルクアンペリアルヨリ以テ「アロキ」ウルクアンペリアル其子ノ出生ニ非サルヲ述フ可カラズ

第百九十八條 若レ犯罪ノ訴訟ニ因リ正シク婚姻ヲ行ヒシ證ノ頭ハル、時ハ其裁判ノ言渡ヲ民生ノ證書ノ簿冊ニ記ス

ル「アロキ」ウルクアンペリアル其夫婦及其婚姻ニ因リ生シテ付キ其婚姻ヲ行ヒシヨリ總テ民法ニ管シタル諸件ヲ得ヒシム可シ

第百九十九條 夫婦タル可キ雙方又ハ一方ノ者官吏ノ奸情ヲ知ラズシテ死去シタル時ハ其婚姻ヲ法ニ適シタルモ

「アロキ」ウルクアンペリアル其官吏ノ罪犯ヲ訴出スヲ得可シ

第二百條 其奸情ヲ知リタル時其官吏既ニ死去シタル時ハ其婚姻ニ管スル者ノ訴訟ニ從ヒ其面前ニ於テ「アロキ」

ウルクアンペリアル其官吏ノ遺物相続人ニ對シテ其請求ムルノ訴ヲ為ス可シ

第二百一節 婚姻ヲ取消スノ旨渡アリト雖正意ヲ以テ其婚姻ヲ結ビタル時ハ夫婦及ヒ其子ニ付キ其婚姻ヨリ民法ニ管スル諸件ヲ生ス可シ

第二百二條 夫婦中一方ノ者ノ正意ヲ以テ婚姻ヲ結ビタル時ハ其者及ヒ其婚姻ニ因テ生レシ子ノ為メノミニ付キ其婚姻ヨリ民法ニ管スル諸件ヲ生ス可シ

○第五章 婚姻ヨリ生スル義務

第二百三條 夫婦ハ婚姻ヲ行ヒシニ因リ相共ニ其子ヲ養育スルノ義務アリトス

第二百四條 子ハ婚姻ヲ為シテ産業ヲ定ムル事及ヒ其他ノ事ニテ産業ヲ定ムル事ニ付キ其父母ニ對シテ訴テ為メノ權ナシ

第二百五條 子ハ父母及ヒ其他ノ尊屬ノ親ノ窮乏ナル時之ヲ養フ可シ

第二百六條 又婿及ヒ婦ハ前條ニ記シタル場合ニ於テ其舅姑ヲ養フ可シ然レモ再婚シタル時又ハ婿及ヒ婦ノ配偶者及ヒ其子ノ共ニ死去シタル時ハ義務ナシトス

第二百七條 前條ニ記シタル義務ハ舅姑ノ婚姻ニ於ケルモ亦同一ナリトス

第二百八條 養料ハ之ヲ得ントスル者ノ要スル所ト爲スル者ノ家産トノ割合ヲ以テ與フ可シ

第二百九條 若シ養料ヲ給與スル者既ニ之ヲ與フルヲ能ハサルニ至リシ時又ハ養料ヲ受ル者其全部又ハ一部ヲ受タルヲ要セサルニ至リシ時ハ全ク其養料ヲ給スルヲ止メ或ハ之ヲ減スルノ訴ヲ爲ス可シ

第二百十條 養料ヲ給ス可キ人之ヲ給スルヲ能ハサルノ證ヲ立ル時ハ裁判所ニ於テ其原由ヲ吟味シタル後養料ヲ受ク可キ者ヲ其住所ニ引取り之ヲ養フ可キノ旨渡ヲ爲ス可シ

第二百十一條 又父母養料ヲ給ス可キ子ヲ已ノ住所ニ引取りテ養育ス可キヲ述フル時ハ裁判所ニ於テ其養料ヲ給スルニ及ハサルヲ旨渡ス可シ

○第六章 夫婦ノ權利及ヒ義務

第二百十二條 夫婦互ニ貞實ニシテ相扶持ス可シ

第二百十三條 夫ハ其婦ヲ保護シ婦ハ其夫ニ聽順ス可シ

第二百十四條 婦ハ其夫ト同居シ且夫ノ居住ヲ爲サント欲スル地ニ隨行ス可シ又夫ハ其婦ヲ引取り已ノ家産ト分限トニ應シ生計ノ爲メ要用ノ諸件ヲ給ス可シ

第二百十五條 婦ハ公ケノ商賣ナル時又ハ夫ト財產ヲ共通セサル時又ハ夫ト財產ヲ分チタル後ト雖モ其夫ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ裁判所ニ出テ訴訟ヲ爲ス可シ

第二百十六條 婦ノ重罪犯又ハ輕罪犯ニ因リ訴訟ヲ受ケタル時ハ其夫ノ許諾ヲ得スニテ裁判所ニ出ルヲ得可シ

第二百十七條 婦ハ夫ト財產ヲ共通セス又ハ財產ヲ分チタル雖モ其夫ト共證書ヲ記シ又ハ誓ヲ以テ夫ノ許諾ヲ得ルニ非レハ人ニ物ヲ給與シ又ハ賣拂ヒ又ハ引取テシ又ハ費用ヲ有無ヲ問ハス已ノ所得ト爲ス可シ

第二百十八條 若シ夫其婦ノ訴訟ヲ爲ス可シ許諾セサル時ハ裁判所ニ其許ヲ爲ス可シ

第二百十九條 若シ夫其婦ノ證書ヲ記スルヲ許諾セサル時ハ其婦其夫ヲ相與ニ居住スル住所ヲ管轄スル下等裁判所直ニ呼出サシム可シ但シ裁判所ニ於テハ裁判役會議ノ室ニ其夫ヲ呼出シ聽取ル所ヲ聽キタル後又ハ之ヲ呼出シテ聽取ル時其允許ヲ爲シ又ハ爲ササルヲ自由ナリトス

第二百二十條 婦ノ公ケノ商賣ナル時ハ其商業ニ管スルヲ付キ其夫ノ許諾ヲ要セス自カラ契約ヲ爲ス可シ

第二百二十一條 若シ夫裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ爲サス又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ旨渡ヲ受ケシ時ト雖モ其夫ノ公ケノ商賣ナル時ハ其夫ノ許諾ヲ要セス自カラ契約ヲ爲ス可シ

第二百二十二條 若シ夫裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ爲サス又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ旨渡ヲ受ケシ時ト雖モ其夫ノ公ケノ商賣ナル時ハ其夫ノ許諾ヲ要セス自カラ契約ヲ爲ス可シ

第二百二十三條 若シ夫裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ爲サス又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ旨渡ヲ受ケシ時ト雖モ其夫ノ公ケノ商賣ナル時ハ其夫ノ許諾ヲ要セス自カラ契約ヲ爲ス可シ

第二百二十四條 若シ夫裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ爲サス又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ旨渡ヲ受ケシ時ト雖モ其夫ノ公ケノ商賣ナル時ハ其夫ノ許諾ヲ要セス自カラ契約ヲ爲ス可シ

第二百二十五條 若シ夫裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ爲サス又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ旨渡ヲ受ケシ時ト雖モ其夫ノ公ケノ商賣ナル時ハ其夫ノ許諾ヲ要セス自カラ契約ヲ爲ス可シ

第二百二十六條 若シ夫裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ爲サス又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ旨渡ヲ受ケシ時ト雖モ其夫ノ公ケノ商賣ナル時ハ其夫ノ許諾ヲ要セス自カラ契約ヲ爲ス可シ

第二百二十七條 若シ夫裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ爲サス又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ旨渡ヲ受ケシ時ト雖モ其夫ノ公ケノ商賣ナル時ハ其夫ノ許諾ヲ要セス自カラ契約ヲ爲ス可シ

第二百二十八條 若シ夫裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ爲サス又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ旨渡ヲ受ケシ時ト雖モ其夫ノ公ケノ商賣ナル時ハ其夫ノ許諾ヲ要セス自カラ契約ヲ爲ス可シ

第二百二十九條 若シ夫裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ爲サス又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ旨渡ヲ受ケシ時ト雖モ其夫ノ公ケノ商賣ナル時ハ其夫ノ許諾ヲ要セス自カラ契約ヲ爲ス可シ

第二百三十條 若シ夫裁判所ニ出席ス可キ命ヲ受ケ出席ヲ爲サス又ハ逃亡シタルニ付キ刑ノ旨渡ヲ受ケシ時ト雖モ其夫ノ公ケノ商賣ナル時ハ其夫ノ許諾ヲ要セス自カラ契約ヲ爲ス可シ

第二百二十二條 若シ夫治産ノ禁ヲ受ケタル時又ハ失踪ノ時ハ裁判役其理由ヲ聽乱シタル後其婦ニ訴訟又ハ契約ヲ為ス可キヲ允許ス可シ

第二百二十三條 夫ヨリ婚姻ノ契約書ニテ其婦ニ訴訟又ハ契約ヲ為ス可キノ許ヲ與ヘタリト雖モ其婦ハ已ノ財產ヲ支配スルノ外其許ヲ用フ可カラズ

第二百二十四條 夫ノ丁年ニ至ラサル時ハ其婦訴訟及ヒ契約ヲ為スニ必ス裁判役ノ允許ヲ必要トス

第二百二十五條 允許ヲ得サルヲ以テ契約ヲ取消ス可キハ婦又ハ夫又ハ其遺物相續人ニ非ラハ之ヲ述アルコトヲ得ス

第二百二十六條 婦ハ其夫ノ許諾ヲ得スシテ遺囑ヲ為スコトヲ得シ

○第七章 婚姻ノ解除ノ事

第二百二十七條 婚姻ヲ解クノ理由ハ左ノ數件ニアリ

第一 夫又ハ婦ノ死去スル事

第二 法律ニ依リ離婚ヲ言渡シタル事

第三 夫又ハ婦准死ニ至ル可キノ言渡ヲ受ケ其言渡ノ確定シタル事

○第八章 再婚

第二百二十八條 婦ハ前婚ヲ解シヨリ十月ノ後ニ非サレハ再婚ノ契約ヲ為ス可カラズ

○第六卷 離婚千八百三十三年三月二十一日決定同月三十一日布告千八百三十六年第五月八日廢ス

○第一章 離婚ノ理由

第二百二十九條 夫ハ其婦ノ姦通ヲ以テ理由ト為シ離婚ヲ訴フルコトヲ得可シ

第二百三十條 婦ハ其夫ノ其家ニセテ姦通シ置キシ時其姦通ヲ以テ理由ト為シ離婚ヲ訴フルコトヲ得可シ

第二百三十一條 夫婦中一方ノ者過慾苛虐又ハ至重ノ害ヲ受ケタルコトヲ以テ理由ト為シ離婚ヲ訴フルコトヲ得可シ

第二百三十二條 夫婦中一方ノ者加辱ノ刑ヲ言渡サレ時其言渡雖以テ理由ト為シ離婚ヲ訴フルコトヲ得可シ

第二百三十三條 夫婦法律上ニ定メタル方法ヲ以テ互ニ相承諾レ離婚ヲ求ムル旨ヲ固執レテ述ヘ且法律上ニ定メタル規則ヲ遵守セシ時ハ其互ニ夫婦タルニ耐ヘシテ離婚ヲ為ス可キ確的ノ理由アル十分ノ證據ト為ス可シ

第二章 定リレ理由アル離婚ノ事

第一款 定リレ理由アル離婚ノ規則

第二百三十四條 定リレ理由アル離婚ヲ訴フルニ至ラレシ事情又ハ罪科ノ如何ナルヲ問ハス離婚ハ總テ夫婦ノ住所ヲ管轄スル下等裁判所ニ訴フ可シ

第二百三十五條 若シ離婚ヲ訴フル夫又ハ婦ノ述ベタル事情ニ因リミエスニテールビゴリヨリ刑法ニ管レタル訴訟ヲ為スコトアル時ハ上等刑裁判所ノ言渡アルニ至ル迄離婚ノ訴訟ヲ中止シ其言渡アリレ後ニ再ヒ離婚ノ訴訟ヲ始ルコトヲ得可シ但レ被告ノ夫又ハ婦ハ刑裁判所ノ言渡ノ如何ナルヲ問ハス其言渡ヲ以テ原告ノ夫又ハ婦ノ訴訟ヲ為スニ付キ故障ヲ述フ可カラズ

第二百三十六條 離婚ヲ訴フル書ニハ其事情ヲ詳細ニ記ス可シ但レ其書ハ離婚ヲ訴フルニ要用ナル證書アル時ハ其證書ノ副本ト共ニ離婚ヲ訴フル夫又ハ婦自カラ裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判役ニ出ス可シ若シ其夫又ハ婦ノ病ニ罹リ此事ヲ為スコト能ハサル時ハ裁判役其者ノ願書ト内科外科ノ醫官二名又ハ下等醫師二名ノ證書トヲ受取リタル後離婚ヲ訴フル者ノ住所ニ至リ其訴ヲ聽ク可シ

第二百三十七條 裁判役ハ離婚ヲ訴フル者ノ述フル所ヲ聽キ相當ノ問札ヲ為シタル後離婚ヲ訴フル書及ヒ證書類ニ姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ畫レ此等ノ書類ヲ受取リレ證書ヲ記ス可ク且此證書ニハ裁判役及ヒ離婚ヲ訴フル者其姓名ヲ手署ス可シ但レ離婚ヲ訴フル者其姓名ヲ手署スルコトヲ知ラス又ハ手署スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

第二百三十八條 裁判役ハ其調書ノ紙尾ニ記シテ定メタル日刻ニ原告被告雙方ノ者自身ニテ已レノ面前ニ出席ス可

キヲ言渡ス可レ且之カ為メ裁判役自カラ其言渡書ハ寫テ被告ノ夫又ハ婦ニ送達ス可キヲ言渡ス可レ

第二百三十九條 裁判役ハ預定セシ日ニ至リ夫婦共ニ出席スル時ハ其雙方ノ者ニ對シテ離婚ヲ訴フル者ノミ出席

スル時ハ其者ノミニ對シテ和解ヲ為ス可キヲ諭示ス可レ若シ和解ヲ為サレムルコトヲ得ザル時ハ其旨ヲ調書ニ記

シ離婚ヲ訴フル書及ヒ證書類ヲ「ミステール」ニ送達シテ其訴訟ヲ裁判所ノ審判ニ任ス可キヲ言渡ス可レ

第二百四十條 此時ヨリ三日内ニ裁判所ニ於テハ其上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判役ノ啓告ノ旨ト「ミステ

ール」ビテリ「」ノ述ブル所ノ旨トニ從ヒ原告人ニ被告人ヲ裁判所ニ呼出ス可キノ允許ヲ與ヘ又ハ暫ク之ヲ猶豫ス

可レ但レ其猶豫ノ時間ハ二十日ヲ過ク可カラズ

第二百四十一條 原告人ハ裁判所ノ允許ヲ得タルニ因リ尋常ノ法式ニ循ヒ法律ニ於テ定メタル定期内ニ被告人自

カラ内吟味ニ出席ヲ為ス可キ為メ裁判所ヨリ之呼出サレム可レ且其呼出書ト共ニ離婚ヲ訴フル書及ヒ證書類ノ

寫ヲモ亦被告人ニ送達セシム可レ

第二百四十二條 法律ニ於テ定メタル定期ノ終リレ時被告人ノ出席ヲ為スト否トヲ問ハズ原告人ハ一人ニテ出席

ヲ為レ又ハ代言人ト共ニ出席ヲ為レ其訴ノ趣意ヲ自カラ述ヘ又ハ代言人ヲレテ述ヘシム可レ又原告人ハ證書類

ヲ出レ其證人ノ姓名ヲ述フ可レ

第二百四十三條 被告人自カラ出席ヲ為レ又ハ名代人ヲ出席セレン時ハ原告人ノ訴ノ趣意及ヒ證書類並ニ原告

人ヨリ姓名ヲ述ヘタル證人ノ事ニ付キ自カラ「」ニ意ヲ述ヘ又ハ名代人ヲレテ之ヲ述ベシムルコトヲ得可レ又被告

人ハ自己ノ方ニ於テ出席セシメント欲スル證人ノ姓名ヲ述フ可レ但レ原告人ハ被告人ヨリ姓名ヲ述ヘタル證人

ノ事ニ付キ「」ニ意ヲ述フルコトヲ得可レ

第二百四十四條 裁判役ハ原告被告ノ出席セタル事及ヒ其述ヘタル所並ニ其自陳レタル所ヲ調書ニ記シ其調書ヲ

雙方ニ讀聞セシメ後雙方ヨリテ其調書ニ姓名ヲ手署セシム可レ但レ其調書ニハ雙方共ニ姓名ヲ手署セタル事又ハ

姓名ヲ手署スルコト能ハズ或ハ手署スルコトヲ欲セサル旨ヲ述ヘタルコトヲ附記ス可レ

第二百四十五條 裁判所ニ於テハ原告被告ノ雙方ニ公ケノ吟味ニ出席ス可キヲ言渡シテ其日刻ヲ定メ且内吟味

ニ管レタル書類ヲ「」ニステール「」ビテリ「」ニ送達ス可キヲ言渡シテ掛リ裁判役ヲ任ス可レ若シ被告人ノ出席セ

サル時ハ裁判所ノ言渡ニテ定メタル期限内ニ原告人ヨリ其言渡書ヲ被告人ニ送達セシム可レ

第二百四十六條 預定セシ日刻ニ至リ裁判所ニテ掛リ裁判役ヨリ啓告ニ從ヒ且「」ニステール「」ノ述フル所ヲ聽キタル

後被告人他故ヲ述ヘ其訴訟ヲ拒ム「」アルニ於テハ先ツ其拒ム所ヲ裁判所ニ陳レ其拒ム所ヲ道理アル時ハ離婚ノ訴ヲ為スヲ許

サズ若シ其拒ム所ヲ道理ナク又ハ他故ヲ述ヘテ其訴訟ヲ拒ム「」キ時ハ離婚ノ訴ヲ為スヲ允許ス可レ

第二百四十七條 離婚ノ訴ヲ為スヲ允許セシ後直ニ裁判所ニテ掛リ裁判役ノ啓告ニ從ヒ且ツ「」ニステール「」ノ述

ル所ヲ聽キタル後訴訟ノ原告ノ裁判所ニ於テ其訴フル所ヲ裁判所ニ陳レ得可キ模樣トナリタル時ハ其裁判所ニ於テ然ラザ

ル時ハ裁判所ヨリ原告人ニ其述フル所ヲ證人ヲ以テ證ス可キ「」ヲ許シ又被告人ニ同一ノ許ヲ為ス可レ

第二百四十八條 訴訟中何ノ時ニ於テモ雙方ノ者裁判役ノ啓告ノ後「」ニステール「」ノ其訴ヲ述フル前ニ始

ハ他故ヲ以テ訴訟ヲ拒ム「」付キ後ハ訴訟ノ原告ニ付キ各其論辯ヲ為シ其代理人ヲシテ之ヲ論辯セシム可レ

但レ原告人自カラ出席スルニ非レハ其代言人ヲ出ス「」ヲ許ス可カラズ

第二百四十九條 裁判所ニテ證人ノ吟味ヲ為ス可キ言渡ヲ為シタル後裁判所ノ書記官ハ直チニ調書ノ中ニテ雙方

ヨリ出サント欲スル證人ノ姓名ヲ記セシメ部ヲ讀上ク可レ○裁判所ノ上席人ハ雙方ノ者ニ此時猶他ノ證人ノ姓名

ヲ述ル「」ヲ得可レト雖モ後ニ至リテハ之ヲ許サ「」旨ヲ言聞ス可レ

第二百五十條 其後直ニ雙方ヨリ互ニ相忌避スル證人ニ付キ故障ヲ述ヘ裁判所ニ於テハ「」ニステール「」ビテリ「」

述フル所ヲ聽キレ後其故障ノ可否ヲ裁判所ニ可レ

第二百五十一條 原告被告雙方ノ者ハ其子及ヒ卑屬ノ親ヲ除クノ外其他ノ親族ニ付キ其親族タルヲ以テ證人ト為

スノ故障ヲ述フ可カラズ又雙方ノ婢僕ニ付テモ其婢僕タルヲ以テ證人ト為スノ故障ヲ述フ可カラズ裁判所ニ於

テハ親族及ヒ婢僕ノ證ヲ聽ル可シ

第二百五十二條 證人ヲ以テ證ス可キヲ允許スル言渡書ニハ吟味ヲ為ントスル證人ノ姓名ヲ記シ且雙方ヨリ其證人ヲ出席セシム可キ日刻ヲ定ム可シ

第二百五十三條 證人ハ「ニステール」ビテリ、及ヒ原告被告並ニ其代官人又ハ其朋友ノ面前ニ於テ内吟味ヲ受ケ其證ヲ述フ可シ但シ其代官人又ハ朋友ノ負ハ三人ニ過ク可カラス

第二百五十四條 原告被告ハ其相當ト思量スル所ヲ自カラ證人ニ心付ケ且問亂レ又ハ代官人ヲレテ之ヲ為サシム可シ但シ證人ノ其證ヲ述フル時間ハ辭ヲ參フルヲ得ス

第二百五十五條 裁判所ニ於テハ證人ノ述フル所及ヒ其證人ニ原告被告ヨリ心付ケ且問亂セテ所ノ調書ニ記シ其調書ヲ雙方ノ者ト證人トニ讀聞セテ後皆其姓名ヲ手署セシム可シ又此等ノ者其姓名ヲ手署シタル時ハ其旨ヲ附記シ若シ姓名ヲ手署スルヲ能ハス或ハ姓名ヲ手署スルヲ欲セサルヲ述フル時ハ亦其旨ヲモ附記ス可シ

第二百五十六條 雙方ノ證人ノ吟味ヲ為シ終リ後又ハ被告人ヨリ證人ヲ出サステ原告人ノ證人ノモノ吟味ヲ為シ終リ後裁判所ヨリ其雙方ノ者ニ公ケテ吟味ニ出席ス可キヲ言渡シテ其日刻ヲ定メ且内吟味ニ管レタル書類ヲ「ニステール」ビテリ、ニ送達ス可キヲ言渡シテ掛リ裁判役ヲ任ヌ可シ○其言渡書ハ原告人ノ求メニテ其書中ニ記レタル定期内ニ被告人ニ送達ス可シ

第二百五十七條 決定ノ裁判ヲナス為メ定メタル日ニ於テ掛リ裁判役ヨリ裁判所ニ其啓告ヲ為シタル後原告被告雙方ノ者ハ其相當ト思量スル所ヲ自カラ述フ又ハ代官人ヲレテ之ヲ述ヘン其後「ニステール」ビテリ、其説ヲ述フ可シ

第二百五十八條 決定ノ裁判ハ公ケニ言渡ス可ク且原告人離婚ノ許レノ言渡ヲ得タル時ハ民生ノ官吏ノ面前ニ至リ離婚ヲ言渡シシムルノ允許ヲ得可シ

第二百五十九條 過愆苛重又ハ至重ノ害ヲ受ルニ因リ離婚ヲ訴フル時ハ其訴フル所ニ確證アリト雖モ裁判役直チニ離婚ヲ允許ス可カラス○此場合ニ於テハ裁判ヲ為ス前ニ婦ニ其夫ト居ラ分チテ其婦ノ意ニ從ヒ其夫ヲ容接スルニ

及ハサルヲ允許シ且婦ノ其生計ヲ為スニ足ル可キ人額ヲ有セサル時ハ夫ノ家産ニ准セシ養料ヲ其婦ニ給ス可キヲ言渡ス可シ

第二百六十條 此ノ如ク一年ノ時間ヲ經過セシ後雙方猶協和セサル時原告人ハ法律ニ於テ定メシ定期中ニ被告人ヲ裁判所ニ呼出サシノ離婚ノ言渡ヲ得可シ

第二百六十一條 若シ夫又ハ婦ノ加辱ノ刑ノ言渡ヲ受ケシニ因リ一方ノ者ヨリ離婚ヲ訴フル時ハ刑法裁判所ノ言渡書ノ真正ノ寫ト此言渡書ヲ法律ニ循ヒ更改ス可カラサル旨ヲ記シタル刑法裁判所ノ證書ト下等裁判所ニ出スノモノ法式ヲ以テ足レリトス

第二百六十二條 離婚ノ事ニ付キ下等裁判所ヨリ訴訟ヲ允許スルノ言渡ヲ受又ハ離婚言渡ヲ受ルト雖モ尚此等ノ言渡ニ服セシテ更ニ上等裁判所ニ訴出ス時ハ其上等裁判所ニ於テ之ヲ至急ノ事トシテ吟味シ其裁判ヲ為シ

第二百六十三條 下等裁判所ヨリ上等裁判所ニ訴出スルハ下等裁判所ニ雙方ノ者出席ヲ為シタルト一方ノ者ノ三出席ヲ為シタルト問ハス其裁判言渡書ヲ送達シタル日ヨリ三月内ニ非サレハ之ヲ為ス可カラス○又上等裁判所ノ裁判言渡ニ服セシテ「グウルドカ」サシラン他ノ裁判所ニテ言渡シタル裁判ニ訴出ル定期モ其言渡書ヲ送達シタル日ヨリ三月内ニ之ヲ為ス可シ此「グウルドカ」サシランニ訴出シタル時間ハ上等裁判所ノ言渡ノ執行ヒラ中止ス可シ

第二百六十四條 下等裁判所又ハ上等裁判所ニ於テ離婚ノ言渡ヲ得タル夫又ハ婦ハ二月内ニ民生ノ官吏ノ面前ニ至リ其官吏ヲシテ離婚ヲ言渡サシメサルヲ得ス但シ此時ハ被告人モ相當ノ法式ヲ以テ呼出ヲ受ケ可シ

第二百六十五條 此二月ノ期限ハ下等裁判所ノ言渡ニ付テハ上等裁判所ニ訴出ス可キ定期ノ終リシ時ヨリ之ヲ算ヘ又上等裁判所ニ訴出シタル時被告人ノ出席ヲ為スノナク言渡セシ裁判ニ付テハ其裁判執行ヒノ故障ヲ述フル

ヲ得可キ期限ノ終リシ時ヨリ之ヲ算ヘ又上等裁判所ニ於テ雙方出席ノ上言渡シタル裁判ニ付テハ「グウルドカ」ツサシランニ訴出ス可キ期限ノ終リシ時ヨリ之ヲ算フ可シ

及ハサルヲ允許シ且婦ノ其生計ヲ為スニ足ル可キ人額ヲ有セサル時ハ夫ノ家産ニ准セシ養料ヲ其婦ニ給ス可キヲ言渡ス可シ

第二百六十條 此ノ如ク一年ノ時間ヲ經過セシ後雙方猶協和セサル時原告人ハ法律ニ於テ定メシ定期中ニ被告人ヲ裁判所ニ呼出サシノ離婚ノ言渡ヲ得可シ

第二百六十一條 若シ夫又ハ婦ノ加辱ノ刑ノ言渡ヲ受ケシニ因リ一方ノ者ヨリ離婚ヲ訴フル時ハ刑法裁判所ノ言渡書ノ真正ノ寫ト此言渡書ヲ法律ニ循ヒ更改ス可カラサル旨ヲ記シタル刑法裁判所ノ證書ト下等裁判所ニ出スノモノ法式ヲ以テ足レリトス

第二百六十二條 離婚ノ事ニ付キ下等裁判所ヨリ訴訟ヲ允許スルノ言渡ヲ受又ハ離婚言渡ヲ受ルト雖モ尚此等ノ言渡ニ服セシテ更ニ上等裁判所ニ訴出ス時ハ其上等裁判所ニ於テ之ヲ至急ノ事トシテ吟味シ其裁判ヲ為シ

第二百六十三條 下等裁判所ヨリ上等裁判所ニ訴出スルハ下等裁判所ニ雙方ノ者出席ヲ為シタルト一方ノ者ノ三出席ヲ為シタルト問ハス其裁判言渡書ヲ送達シタル日ヨリ三月内ニ非サレハ之ヲ為ス可カラス○又上等裁判所ノ裁判言渡ニ服セシテ「グウルドカ」サシラン他ノ裁判所ニテ言渡シタル裁判ニ訴出ル定期モ其言渡書ヲ送達シタル日ヨリ三月内ニ之ヲ為ス可シ此「グウルドカ」サシランニ訴出シタル時間ハ上等裁判所ノ言渡ノ執行ヒラ中止ス可シ

第二百六十四條 下等裁判所又ハ上等裁判所ニ於テ離婚ノ言渡ヲ得タル夫又ハ婦ハ二月内ニ民生ノ官吏ノ面前ニ至リ其官吏ヲシテ離婚ヲ言渡サシメサルヲ得ス但シ此時ハ被告人モ相當ノ法式ヲ以テ呼出ヲ受ケ可シ

第二百六十五條 此二月ノ期限ハ下等裁判所ノ言渡ニ付テハ上等裁判所ニ訴出ス可キ定期ノ終リシ時ヨリ之ヲ算ヘ又上等裁判所ニ訴出シタル時被告人ノ出席ヲ為スノナク言渡セシ裁判ニ付テハ其裁判執行ヒノ故障ヲ述フル

第二百六十六條 原告人ノ被告人ヲ民生ノ官吏ノ面前ニ呼出サシムルコトナク前條ニ記セシ二月ノ期限ヲ經過シタル時ハ裁判言渡ノ利益ヲ失ヒ更ニ新ナル原由アルニ非サレハ再ヒ離婚ヲ訴フルコトヲ得ス但シ新ナル原由アリテ再ヒ離婚ヲ許出シタル時ハ已ノ利益ノ為メ以前ノ原由ヲ述フルコトヲ得可シ

○第二款 定リタル原由ノ為メノ離婚ニ付キ假リノ處置
第二百六十七條 離婚ノ訴訟中子ヲ假リニ管督スルコトハ離婚ノ原告タルト被告タルト問ハス其父之ヲ為ス可シ但シ子ノ利益ノ為メ母又ハ親族或ハ三ニステールビブルクノ訴ニ因リ裁判所ヨリ別段其處置ヲ言渡シタル時ハ格別ナリトス

第二百六十八條 婦ハ離婚ノ原告又ハ被告タルヲ問ハス其訴訟ノ期間夫ノ住所ヲ去リ夫ノ家産ニ准シタル養料ヲ得ント訴フルコトヲ得可シ○裁判所ヨリ婦ノ居住可キ家屋ヲ指示留且夫其婦ニ養料ヲ給ス可キ時ハ其額定ム可シ
第二百六十九條 婦裁判所ヨリ指示シタル家屋ニ居住スルノ證ヲ立ツ可キ求メテ受ケシ時ハ其證ヲ立ツ可シ若シ其證ヲ立テサル時ハ夫其養料ヲ給ス可キコトヲ拒ミ且其婦原告タル時ハ其訴ヲ繼續ス可カラサルノ言渡ヲ受可シ
第二百七十條 夫ト財産ヲ共通シタル婦ハ離婚ノ原告被告タルヲ問ハス第二百二十八條ニ記載シタル言渡ノ日ヨリ後其訴訟ヲ為ス時間何レノ時ト雖モ其權ヲ保護ス可キ為メ共通ノ財産ニ封印ヲ為スヲ訴フルコトヲ得可シ但シ其動産ノ評價ヲ為シテ其目錄ヲ記シ且夫ヨリ其目錄ニ記シタル動産ヲ引渡シ又ハ其價額ヲ拂フノ證ヲ立ツルニ非サレハ其封印ヲ除去ス可カラス

第二百七十一條 第二百三十八條ニ記シタル言渡ノ日ヨリ後夫婦共通ノ財産ヲ以テ償フ可キノ約定ニテ夫ノ負タル義務又ハ其言渡ノ後夫婦共通ノ不動産ヲ夫ヨリ賣拂フ可キ契約ハ其婦ノ權ヲ害ス可キ為メナシタルノ證アル時之ヲ取消ス可キコトヲ言渡ス可シ
○第三款 定リシ原由ノ為メノ離婚ノ訴ヲ他故ヲ述ヘ拒ム事

第二百七十二條 離婚ノ訴訟ヲ為スノ權ハ其訴訟ヲ起サシメタル事故アリシ後又ハ離婚ノ訴訟ヲ為シタル時ニ於テ後夫婦互ニ和解ヲ為スニ因リ消散ス可シ
第二百七十三條 前條ノ場合ニ於テハ原告人其訴訟ヲ為ス可カラサルノ言渡ヲ受ク可シ然レ和解ノ後更ニ離婚ヲ訴フルノ原由アル時ハ其訴訟ヲ為シ且已レノ利益ノ為メ以前ノ原由ヲ述フルコトヲ得可シ
第二百七十四條 其訴訟ノ原告人ヨリ和解ヲ為シタルコトナキ旨ヲ述ル時ハ被告人此章ノ第一款ニ記シタル法式ニ循ヒ書面又ハ證人ヲ以テ和解ヲ為タルノ證ヲ立ツ可シ

○第三章 雙方ノ承諾ニテ離婚ヲ為ス事
第二百七十五條 夫ノ二十五歳以下ナル時及ヒ婦ノ二十一歳以下ナル時ハ其雙方ノ承諾ニテ離婚ヲ為スコトヲ許ス可カラス
第二百七十六條 二年間婚姻ヲ結ビシ後ニ非レハ雙方ノ承諾ニテ離婚ヲ為スコトヲ許ス可カラス
第二百七十七條 既ニ二十年間婚姻ヲ結ビタル後又ハ婦ノ既ニ四十五歳以上ノ齡ニ至リシ時ハ雙方ノ承諾ニテ離婚ヲ為スコトヲ得ス

第二百七十八條 第五百十條ノ婚姻ニ定メシ規則ニ均シク父母又ハ現存ノ尊屬ノ親ノ許可ヲ受ルニ非サレハ夫婦雙方ノ承諾ノミヲ以テ離婚ヲ為ス可カラス
第二百七十九條 雙方ノ承諾ニテ離婚ヲ為セント欲スル夫婦ハ先ツ雙方ノ動産及ヒ不動産ノ目錄ヲ記シ且其評價ヲ為シテ雙方ノ權ヲ定ム可シ但シ其權ヲ定メタル後ト雖モ雙方ノ承諾ヲ以テ之ヲ更改スルコト自由ナリトス
第二百八十條 又左ノ三件ニ付テハ雙方ノ契約スル所ヲ證書ニ記ス可シ

○第一 其婚姻ニ因テ生レシ子ハ訴訟ノ時間又ハ離婚ノ言渡ヲ受シ後何レノ方ニテ引受ク可キヤ
○第二 訴訟ノ時間婦ハ何レノ家屋ニ至リテ居住ス可キヤ
○第三 若シ婦其生計ヲ為スニ十分ナル入額ヲ有セサル時ハ訴訟ノ時間夫ヨリ其婦ニ幾許ノ金額ヲ給可キヤ
第二百八十一條 夫婦相與ニ自カラ其住所ヲ管轄スル下等裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判役ノ面前

ニ至リ其伴行シタルハ「テイル」ニ賣ノ立會ニテ離婚ヲ欲スルノ意ヲ述フ可シ

第二百八十二條 裁判役ハ「テイル」ニ賣ノ立會ニテ其相當ト思量スル所ヲ夫婦ニ諭示シ其後又之ヲ其各人ニ諭示

シ且離婚ヨリ生マル諸件ニ付テハ此卷ノ第四章ヲ讀聞ヒ離婚ノ後如何ナル處置ニ至ル可キヤヲ言聞ス可シ

第二百八十三條 夫婦固執シテ離婚ヲ欲スル時ハ裁判役雙方承諾ノ上ニテ離婚ヲ訴ヘタル旨ヲ證書ニ記シ之ヲ

其雙方ノ者ニ渡ス可シ但シ雙方ノ者ヨリ第二百七十九條及ヒ第二百八十條ニ記シタル證書ノ外更ニ左ノ證書ヲ

出シテ直チニ之ヲ「テイル」ニ附托ス可シ

○第一 夫婦ノ出產ノ證書及ヒ婚姻ノ證書

○第二 夫婦ノ間ニ生レシ子ノ出產ノ證書及ヒ死去ノ證書

○第三 父母又ハ現存ノ尊屬ノ親其知ル所ノ原由ニ付キ其ト婚姻シタル已レノ男又ハ女或ハ已レノ孫男又ハ

孫女ノ離婚ヲ訴フルヲ許諾セシ旨ヲ記シタル公正ノ證書○但シ夫婦ノ父母祖父母ハ其死去ノ證書ヲ出

ス迄之ヲ生存スル者ト看做ス可シ

第二百八十四條 「テイル」二人ハ前條ニ記シタル諸件ヲ詳細ニ調査ニ記シ其正本ト之ニ附加ス可キ證書類トヲ其

二人中ノ先ニ任ヲ得タル者受寄ス可シ但シ其調書ニハ婦其夫ト議定シタル家屋ニ二十四時間ニ移居シ且離婚ヲ

言渡スニ至ル迄ハ其移居シタル場所ニ居住ス可キ告知ヲモ附記ス可シ

第二百八十五條 互ニ離婚ヲ欲スルノ意ヲ述フル事ハ初ノニ述ヘタル時ト同一ノ式ヲ用ヒ其時ヨリ第四月第七

月第卅月ノ初メノ半月間ニ之ヲ為シ毎々雙方ヨリ其父母又ハ現存ノ尊屬ノ親ノ離婚ヲ許諾スルノ意ヲ變更セ

サル事以前ト均シキ旨ヲ公正ノ書ヲ以テ證ス可シ然レ其他ノ證書ハ再ヒ之ヲ出スニ及ハス

第二百八十六條 初ノテ互ニ離婚ヲ欲スルノ意ヲ述ヘタル日ヨリ全周一年ニ至リシ後十五日内ニ夫婦各其住所ノ

「アルロンヂスマン」中ノ望族ニシテ五十歳以上ノ朋友三人ヲ伴行シ裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判

役ノ面前ニ相與ニ出席シ雙方離婚ノ承諾ヲ記シタル調書四通ト其書ニ附加ス可キ證書類トヲ其官吏ニ渡シ且一

方ノ者及ヒ四人ノ朋友ノ面前ニ於テ互ニ自カラ其官吏ニ離婚ノ允許ヲ求ム可シ

第二百八十七條 裁判役及ヒ四人ノ立會人ヨリ夫婦ヲ諭示レタル後雙方固執シテ離婚ヲ要スル時ハ其離婚ヲ求

ムル事及ヒ證書類ヲ渡シタル事ヲ記シタル證書ヲ裁判役ヨリ夫婦ニ渡ス可シ且裁判所ノ書記官ハ其旨ヲ調

書ニ記シテ夫婦及ヒ其伴行シタル四人ノ者及ヒ裁判役書記官皆之ニ其姓名ヲ手書ス可シ若シ夫婦其姓名ヲ手書

スルコトヲ知ラス又ハ手書スル能ハサルコトヲ述フル時ハ亦其旨ヲモ記ス可シ

第二百八十八條 裁判役ハ「ヨニス」ニ記ス可シ但シ此事ノ為メ裁判所ノ書記官ヨリ其證書類ヲ「ヨニス」ニ記ス可シ

審判ス可キ旨ノ言渡ヲ調書ノ紙尾ニ記ス可シ但シ此事ノ為メ裁判所ノ書記官ヨリ其證書類ヲ「ヨニス」ニ記ス可シ

リツニ送達シ置ク可シ

第二百八十九條 「ヨニス」ニ記ス可シ但シ此事ノ為メ裁判所ノ書記官ヨリ其證書類ヲ「ヨニス」ニ記ス可シ

上ノ齡婦ハ二十一歳以上ノ齡タルノ證ヲ檢知シ又ハ其時二年以前ニ婚姻ヲ結ヒシ事又ハ婚姻ヲ結ヒシ時ヨリ二

十年以上ニ至ラサル事又ハ婦ノ四十五歳以下ノ齡ナル事ヲ檢知シ又ハ此章ニ記スル所ノ規則法式ニ循ヒ就中父

母又ハ父母ノ死去セシ時ハ其他ノ現存スル尊屬ノ親ノ許諾ニ因リ一年間ニ四次雙方ノ承諾ヲ以テ離婚ヲ求メ

旨ヲ述ヘタル事ヲ檢知シタル時ハ法律ニ於テ「ヨニス」ト云フコトヲ述ヘ然ラザレハ法律ニ於テ「ヨニス」ト云フコトヲ述フ可シ

第二百九十條 裁判所ニテ掛リ裁判役ヨリ啓告ヲ得レ後ハ前條ニ記スル所ノ外更ニ他ノ事ヲ證スルニ及バス○裁

判所ノ意ニテ雙方共ニ法律上ニ定メタル法式ヲ行フタルト思察スル時ハ離婚ヲ允許シ且雙方共ニ民生ノ官吏ノ

面前ニ至リテ其官吏ヨリ離婚ノ言渡ヲ受クルコトヲ許ス可シ又然ラサル時ハ裁判所ヨリ離婚ヲ允許セサル旨ヲ言

渡シ且其裁判ノ趣意ヲ言聞ス可シ

第二百九十一條 下等裁判所ノ離婚ヲ允許セサル言渡ニ服セズ更ニ上等裁判所ニ訴出サント為スニハ下等裁判所

ニ於テ言渡ヲ為タル日ヨリ後十日ヨリ二十日ニ至ル迄ノ時間ニ雙方ヨリ各一通ノ願書ヲ出ス可シ

第二百九十二條 上等裁判所ニ訴出ル願書ノ副本ハ雙方ヨリ下等裁判所ノ「ヨニス」ニ送達シ且雙方

ノ者交相送達ス可シ

第二百九十三條 下等裁判所ノ言渡書ノ副本及ヒ其言渡ヲ為スニ用ヒタル證書類ヲ上等裁判所ノ口キテウレビ
日ヨリ十日内ニ下等裁判所ノ言渡書ノ副本及ヒ其言渡ヲ為スニ用ヒタル證書類ヲ上等裁判所ノ口キテウレビ
子テールヲ口キテウレバニ送達ス可シ○口キテウレバニ送達ス可シハ其證書類ヲ受取リシ時ヨリ十日内ニ書
面ヲ以テ其求ムル所ヲ述ヘ上等裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判役ヨリ上等裁判所ノ裁判役會議ノ
室ニ其啓告ヲ為シ上等裁判所ニテ口キテウレバニ送達ス可シ○口キテウレバニ送達ス可シハ其證書類ヲ受取リシ時ヨリ十日内ニ決定ノ
裁判ヲ言渡ス可シ

第二百九十四條 離婚ヲ允許セシ上等裁判所ノ言渡ヨリ二十日内ニ雙方ノ者相與ニ自カラ民生ノ官吏ノ面前ニ至
リ離婚ノ言渡ヲ受ク可シ若シ此定期ヲ過ル時ハ其離婚ノ言渡ヲ取消シタルト看做ス可シ

○第四章 離婚ヨリ生スル諸件

第二百九十五條 何レノ理由タルヲ問ハズ離婚シタル夫婦ハ互ニ復タ婚姻ヲ為ス可カラズ

第二百九十六條 定リタル理由ニ因リ離婚ノ言渡アル時ハ離婚ヲ受ケル婦其言渡ヲ受シ時ヨリ十月ノ後ニ非サレ
ハ再婚ス可カラス

第二百九十七條 雙方ノ承諾ニ因リ離婚シタル時ハ雙方共ニ其言渡ヲ受ケシ時ヨリ三年ノ後ニ非レハ再婚ス可カラス
第二百九十八條 姦通ヲ為タルニ付キ裁判所ヨリ離婚ノ言渡シタル時ハ姦通ヲ為タル夫又ハ婦其姦通姦夫ト婚姻
ヲ為ス可カラズ且姦通ヲ為タル婦ハ口キテウレバニ送達ス可シ○口キテウレバニ送達ス可シハ其證書類ヲ受取リシ時ヨリ十日内ニ書
面ヲ以テ其求ムル所ヲ述ヘ上等裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判役ヨリ上等裁判所ノ裁判役會議ノ
室ニ其啓告ヲ為シ上等裁判所ニテ口キテウレバニ送達ス可シ○口キテウレバニ送達ス可シハ其證書類ヲ受取リシ時ヨリ十日内ニ決定ノ
裁判ヲ言渡ス可シ

第二百九十九條 雙方ノ承諾ヲ以テ離婚セシ時ノ外ハ離婚ノ理由ノ如何ナルヲ問ハズ離婚ヲ受ケル被告ノ夫又ハ
婦ハ婚姻ノ契約ニ因リ原告タル配偶者ヨリ得タル利益ヲ失ヒ又ハ婚姻ノ契約ニ後得タル利益ヲ失フ可シ
第三百條 離婚ヲ得タル原告ノ夫又ハ婦ハ被告ノ婦又ハ夫ヨリ得タル利益ヲ保有ス可シ但シ其利益ハ原告
ヨリ多カラサル時間懲治場ニ禁錮スルノ言渡ヲ受ク可シ

被告互ニ之ヲ與フ可キノ契約アリシ雖モ原告ノミ之ヲ得可シ

第三百一條 夫婦互ニ利益ヲ與ヘタルトナキ時又ハ利益ヲ與フルノ契約アリト雖モ其利益ノミニテハ離婚ヲ得タ
ル原告ノ夫又ハ婦ノ生計ヲ為スニ十分ナラサル時ハ裁判所ヨリ被告ノ婦又ハ夫ノ所有物中ニテ原告ノ夫又ハ婦
ニ養料ヲ給ス可キ○言渡ス可シ但シ其養料ハ被告人ノ入額ノ三分ノ一ニ近ク可カラス○其養料ハ給與スルニ
及ハサルニ至リシ時之ヲ廢ス可シ

第三百二條 子ハ離婚ヲ得タル原告ノ夫又ハ婦ニテ養フ可シ但シ裁判所ニ於テ親族又ハ口キテウレバニ送達ス可シハ其證書類ヲ受取リシ時ヨリ十日内ニ書
面ヲ以テ其求ムル所ヲ述ヘ上等裁判所ノ上席人又ハ其上席人ニ代ル可キ裁判役ヨリ上等裁判所ノ裁判役會議ノ
室ニ其啓告ヲ為シ上等裁判所ニテ口キテウレバニ送達ス可シ○口キテウレバニ送達ス可シハ其證書類ヲ受取リシ時ヨリ十日内ニ決定ノ
裁判ヲ言渡ス可シ

第三百三條 何レノ人ニ子ヲ托レタルヲ問ハズ父母ハ各其子ノ教育ヲ管督スルノ權ヲ保チ且ツ其家産ニ准シテ其
教育ノ資助ヲ為ス可シ

第三百四條 裁判所ヨリ離婚ヲ允許セシニ因リ婚姻ヲ解キタルト雖モ其婚姻ニ因テ生レシ子ハ法律上ニテ父母ノ
婚姻ノ契約ヨリ得可キ利益ヲ失フコトナカル可シ但シ其子權利ヲ得ントスルニハ父母ノ離婚ヲ為ササル時其子ノ
之ヲ得可キト同一ノ方法ニ循ヒ且同一ノ景状アルコトヲ必要トス

第三百五條 夫婦雙方ノ承諾ニテ離婚ヲ為シタル時ハ其雙方ノ財産ノ半ヲ所有スルノ權ヲ初テ離婚ヲ欲スルノ意
ヲ述ヘタル日ヨリ其婚姻ニ因テ生レシ子ニ移ス可シ然レ其子ノ丁年ニ至ラサル時間其子ニ屬ス可キ財産ノ入額
ハ父母之ヲ所得ト為シ其分限及ヒ家産ニ准シテ其子ノ教育スルコトヲ任ス可シ

○第五章 夫婦居テ分テ事

第三百六條 定リシ理由ノ為メ離婚ヲ訴フ可キ道理アル時ハ夫婦其居テ分テ事ヲ為スル自由ナリトス
第三百七條 夫婦ノ居テ分テ事ヲ為スルハ民法ニ管シタル他ノ訴訟ト同一ノ方法ヲ用ヒ之ヲ定ヘ且之ヲ吟味シ

其裁判ヲ為スコレ但シ其居ヲ分ツ事ハ夫婦雙方ノ承諾ノニテ為スコカラス

第三百八條 婦姦通ヲ為レタルニ付キ夫ト居ヲ分ツ可キ言渡ヲ受ケシ時ハヨニステールビテリノ求ノニ因リ其言渡ト共ニ三月ヨリ少ナカラス二年ヨリ多カラサル時間懲治場ニ禁錮スル刑ノ言渡ヲ受ク可シ

第三百九條 夫其婦ヲ再ヒ引取ル可キコトヲ承諾スルニ於テハ其居ヲ分ツ可キ言渡ノ取消ヲ願フコトヲ得可シ

第三百十條 婦ノ姦通ヲ除クノ外其他ノ理由ニ付キ居ヲ分ツ可キコトヲ言渡セシ時ハ三年ノ後ニ至リ被告人ヨリ裁判所ニ離婚ヲ訴フルコトヲ得可シ但シ其時裁判所ニテ原告人ヲ呼出シタル上原告人直チニ居ヲ分ツ言渡ノ取消ヲ願フコトヲ承諾セサルニ於テハ離婚ヲ許スコレ

第三百十一條 夫婦ノ居ヲ分ツ時ハ必ス亦其財産ヲ分ツ可シ

○第七卷 父タル事及ヒ子タル事千八百三年第三月二十三日決定第四月二日布告

○第一章 婚姻ヲ結ヒタル間ニ生レレ子ヲ子ト為ス事

第三百十二條 婚姻ヲ結ヒタル間ニ懐胎セレ子ハ其夫ヲ以テ父トス

然レ其子ノ生レレ前三百日ヨリ百八十日ニ至ル迄ノ時間ニ夫其家ニ在ラス又ハ事故アリテ其婦ト同室スルコトヲ得サルノ證アル時ハ其夫其子ヲ以テ我子ニ非スト為スコトヲ得可シ

第三百十三條 夫ハ已ノ身體ノ產嗣ナルコトヲ述テ其子ヲ我子ニ非スト為スコカラス又婦ノ姦通ヲ理由ト為シ其子ヲ我子ニ非スト為スコカラス但シ婦其子ノ出産ヲ夫ニ掩蔽セシ時ハ夫其子ノ父ニ非サルコトヲ證スコキ諸件ヲ述フルコトヲ得可シ

千八百五十年第十二月六日左ノ如ク追加ス夫婦ノ居ヲ分ツ可キ事ヲ裁判所ヨリ言渡レタル時又ハ其言渡ヲ得シコトヲ訴ヘ未ク之ヲ得サル時ト雖モ訴訟法第八百七十八條ニ記スル所ニ循ヒ裁判所ノ上席人ノ言渡ヲ為シタル時

ヨリ三百日ノ後ニ生レシ子又ハ裁判所ニテ其訴ヲ允許マサルコトヲ決定シ及ヒ天婦ノ和解ヲ為シタル後百八日ニ至ラサル時間ニ生レシ子ハ夫我子ニ非スト為スコトヲ得可シ然レ共事實ニ於テ夫婦既ニ和解シタル時ハ夫其子ヲ以テ我子ニ非スト為スコトヲ許ス可カラス

第三百十四條 婚姻ヲ結ヒレヨリ百八十日ニ至ラサル時間ニ生レシ子ハ左ノ場合ニ於テ夫我子ニ非スト為スコトヲ得ス

第一 夫婚姻ヲ為ス以前ニ婦ノ懐胎セシコトヲ知リタル時

第二 夫其子ノ出産ノ證書ヲ記スル立會ヲ為シ且其出産ノ證書ニ姓名ヲ手書シ又ハ姓名ヲ手書スルコトヲ知ラサルノ陳述ヲ官吏ノ記シタル時

第三 其子ノ生存シ能ハサル時

第三百十五條 婚姻ヲ結ビシ時ヨリ三百日後ニ生レシ子ハ夫我子ニ非サルノ訴ヲ為スコトヲ得可シ

第三百十六條 夫其子ヲ我子ニ非スト為スコトヲ訴フ為シ得可キ場合ニ於テ夫其子ノ出産ノ地ニ在ル時ハ出産ノ時ヨリ一月内ニ之ヲ訴ヘ出スコシ

若シ夫其子ノ出産シタル地ニ在ラサル時ハ其歸來ノ時ヨリ二月間ニ其訴ヲ為スコシ

若シ婦其子ノ生レシコトヲ夫ニ掩蔽セシ時ハ夫其事ヲ知リタル時ヨリ二月間ニ其訴ヲ為スコシ

第三百十七條 若シ夫其子ヲ我子ニ非スト為スコトヲ訴ヘ得可キ定期内ニ其訴ヲ為サシテ死去セシ時ハ其子其死者ノ財産ヲ所有ト為シタル時又ハ遺物相續人等其死者ノ財産ヲ所有スルニ付キ其子ノ故障ヲ述シ時ヨリ二月内ニ其遺物相續人等其子ノ嫡出ニ非サルコトヲ訴ヘ出スコトヲ得可シ

第三百十八條 夫又ハ其遺物相續人等其子ヲ子ト為サル證書ヲ記シタルト雖モ裁判所外ニテ之ヲ記シタル時ハ其時ヨリ一月内ニ其子ノ別段ノ後見人ニ對シ其母ノ面前ニテ訴訟ヲ為サルニ於テハ其證書ヲ全ク記サルト同一ニ看做スコシ

○第二章 嫡出ノ子ノ子タル證

第三百十九條 嫡出ノ子ノ子タル事ハ民生ノ證書ノ簿冊ニ記シタル出產ノ證書ニ因テ之ヲ證ス

第三百二十條 此證書ナシト雖モ嫡出ノ子タルノ景状ヲ數年間現ニ有スルコトアル時ハ嫡出ノ子ナリト為スニ足ルノ證アリトス

第三百二十一條 子ト其子ノ竹屬ナリト言做シタル家族トノ間ニ互ニ親子タル可キノ關係ヲ證ス可キ事件ノ具ハル時ハ嫡出ノ子タルノ景状ヲ有スルモノト看做ス可シ但シ其數件中ニ於テ至重ナルモノハ

子其父ナリト言做タル者ノ姓ヲ常ニ常用スル事

父其子ナリト言フ者ヲ現ニ我子ト為シテ取扱ヒ且其教育産業等ノ管督ヲ為ス事

他人常ニ其者ヲ嫡出ノ子ナリト見做シタル事

其親族モ亦之ヲ嫡出ノ子ナリト見做シタル事

第三百二十二條 何レノ人ト雖モ出產ノ證書ニ從ヒ現ニ有スル所ノ景状ニ反シタル景状アリト自カラ述ルコトヲ得ス又出產ノ證書ニ從ヒ現ニ有スル所ノ景状ハ人ヨリ争フ可カラス

第三百二十三條 出產ノ證書ナク且多年ノ間子タルノ景状ヲ有スルコトナキ時又ハ姓名ヲ誤リ或ハ分明ナラサル父母ノ生ミタルモノト為シテ其子ノ出產ノ證書ヲ記ルシタル時ハ證人ヲ以テ子タルノ證ヲ立ツルコトヲ得可シ然レ書面ニ據リ其證ヲ端緒アル時又ハ其景状ヲ思度スルニ其證ヲ立ルヲ許スニ足ル可キ事アル時ニ非サレハ證人ニ因リ其證ヲ立ルコトヲ許ス可カラス

第三百二十四條 其證ノ端緒ハ家券又ハ父母ノ私ノ簿冊及ヒ書類又ハ訴訟ニ管シタル者ノ公私ノ證書又ハ既ニ死去シタルト雖モ若シ生存スル時ハ其訴訟ニ管ス可キ者ノ公私ノ證書等ニ因テ之ヲ得可シ

第三百二十五條 之ニ反スルノ證ハ子ナリト言フ者其母ト言做シタル者ノ子ニ非サル事又ハ母ニ付テノ確證アリト雖モ其母ノ夫ノ子ニ非サルコトヲ証スルニ足ル可キ諸件ヲ以テ之ヲ為スコトヲ得可シ

第三百二十六條 子タルノ景状ニ付テノ訴訟ヲ裁判スルコトハ民法裁判所ノ管轄ニアリトス

同法二六五

第三百二十七條 出產ノ證書ヲ偽造又ハ滅盡シタル罪ニ付テノ訴訟ハ子タルノ景状ニ付キ起シテ訴訟ノ裁判確定ノ後ニ非レハ之ヲ為スコトヲ得ス

第三百二十八條 子其父母ノ子ナリト述ル訴訟ヲ為スニ付テハ定期ナシトス

第三百二十九條 子未タ子タルノ訴訟ヲ為サスシテ死去シタルニ於テハ其子ノ未タ幼年ニテ死シタル時又ハ丁年ニ至リシ時ヨリ五年内ニ死シタル時ノ外其遺物相續人ヨリ其訴訟ヲ為スコトヲ得可カラス

第三百三十條 若シ子其父母ノ子タルノ訴訟ヲ為シ其訴訟ノ未タ審判ヲ得サル前ニ死去シタル時ハ其子ノ遺物相續人其訴訟ヲ繼續シテ為スコトヲ得可シ但シ其子既ニ其訴訟ヲ止ムルコトヲ陳述シ又ハ最終ニ其訴訟ヲ為シタル時ヨリ三年ノ時間ヲ其訴訟ヲ為サスシテ經過セシ後ニ死去シタル時ハ其遺物相續人其訴訟ヲ繼續シテ為スコカラス

第三章 私生ノ子

第一款 私生ノ子ヲ嫡出ノ子ト為ス事

第三百三十一條 私生ノ子ハ亂倫姦通ニ因リ生レシ者ヲ除クノ外其父母後ニ婚姻ヲ結フ前ニ之ヲ我子ナリト認メシ或ハ婚姻ノ證書ヲ以テ之ヲ我子ナリト認メシタル時其父母ノ婚姻ヲ結ビタルニ因リ嫡出ノ子ト為スコトヲ得可シ

第三百三十二條 私生ノ子卑屬ノ親ヲ遺留シテ死去シタル時ト雖モ其死去ノ後ニ至リ亦之ヲ嫡出ノ子ト認メ可シコトヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ其死去セシ子ノ卑屬ノ親ノ為メ權利ヲ生ス可シ

第三百三十三條 私生ノ子其父母後ニ婚姻ヲ結ビシニ因リ嫡出ノ子タルコトヲ得タル時ハ其父母ノ婚姻ヲ結ビシ後ニ生レタルト同一ノ權利ヲ有ス可シ

第二款 私生ノ子ヲ我子アリト認ムル事

第三百三十四條 私生ノ子ヲ其出產ノ證書ヲ以テ我子ナリト認ルコトナキ時ハ別ニ公正ノ證書ヲ以テ我子ト認ルコトヲ得可シ

第三百三十五條 亂倫及ヒ姦通ニ因リ生レシ子ハ我子ナリト認ルコトヲ得ス

第三百三十六條 母ノ陳述及ヒ承諾ナク父ノミニテ私生ノ子ヲ我子ナリト認メタル時ハ其父ノミニ付キ其關係アリトス可シ

第三百三十七條 夫又ハ婦其配偶者ト婚姻ヲ為シタル以前ニ其配偶者ニ非サル男又ハ女ニ因リ舉ケシ私生ノ子ヲ其婚姻ノ後我子ナリト認メタルト雖モ其配偶者又ハ其婚姻ニ因リ生レシ子ノ權利ヲ害スルコトナカル可シ然モ其婚姻ヲ鮮キシ後其婚姻ニ因テ生レシ子ノ生存スルコトナキ時ハ前項ノ私生ノ子ノ權利ヲ求ムルコトヲ得可カラズ但シ私

第三百三十八條 私生ノ子ハ父母ノ子ナリト認メラレタルト雖モ嫡出ノ子ノ權利ヲ求ムルコトヲ得可カラズ但シ私生ノ子ノ權利ハ遺物相續ノ卷之ヲ記ス

第三百三十九條 父又ハ母ノ私生ノ子ヲ我子ナリト認ルコト及ヒ私生ノ子ヨリ其事ヲ求ムルコトハ之ニ管係アル者ヨリ故障ヲ述ルコトヲ得可シ

第三百四十條 私生ノ子人ヲ指シテ我父ナリト訴ヘ出ル事ハ之ヲ禁ス○然モ母ノ強誘ヒラレタルト孕妊シタルト其時日ノ相違接シタル時ハ之ニ管係アル者ノ訴ニ因リ強誘者ヲ以テ其子ノ父ト為スコトヲ得可シ

第三百四十一條 私生ノ子人ヲ指シテ我母ナリト訴ルコトハ之ヲ許ス
人ヲ指シテ我母ナリト訴ル私生ノ子ハ其母ノ生ミシ子ト同人ナルノ證ヲ立テ可シ但シ此事ニ付テハ書面ニ據リ其證ノ端緒アル時ノ外證人ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得可カラズ

第三百四十二條 第三百三十五條ニ依ヒ私生ノ子ヲ我子ナリト認ムルコト能ハサル場合ニ於テハ其子人ヲ指シテ父又ハ母ナリト訴ルコトヲ得可カラズ

傳聞西民法二
法律書

辻士革筆賣

傳聞西民法第三
法律書

民法二六六

中博士眞作麟祥口譯

○第八卷 養子ノ事及ヒ之テールヲヒレズ自カラ好テ他人ノ子ヲ養ヒ其養見ヲ為ス事 事千八百三三年第三月二十三日決定第四月二日布告

○第一章 養子ノ事
○第一款 養子ヲ為ス事及ヒ養子ヲ為ス事ヨリ生スル諸件

第三百四十三條 男女ヲ問ハス其齡五十歳以上ニシテ子又ハ嫡出ノ卑屬ノ親ナク且養子トナル可キ者ヨリ十五歳以上ノ年長ナル者ニ非レハ養子ヲ為スコトヲ得ス

第三百四十四條 一人ニシテ親トナル可キ夫婦ノ外二人以上ノ養子トナル可カラズ

第三百四十六條 記シタル場合ノ外夫又ハ婦ハ其配偶者ノ承諾ヲ得ルニ非レハ養子ヲ為スコトヲ得ス

第三百四十五條 養子トナル可キ者ハ幼年ノ時六年以上ノ時間總ヘズ養親トナル可キ者ヨリ資助恩管ヲ受ケ又ハ戦闘及ヒ水火ノ厄災ノ時養親トナル可キ者ノ性命ヲ救ヒシ事アルヲ必要トス但シ戦闘及ヒ水火ノ厄災ノ時養親トナル可キ者ノ性命ヲ救ヒシ者ヲ養子ト為スニハ養親トナル可キ者丁年ニシテ子及ヒ嫡出ノ卑屬ノ親ナク且養子ト為ル可キ者ヨリ高年ニシテ配偶者アル時ハ其配偶者其養子ヲ為スヲ承諾シタルコトヲ以テ足レリトス

第三百四十六條 何レノ場合ニ於テモ養子トナル可キ者未タ丁年ニ至ラサル時ハ養子トナルコトヲ得ス○若シ養子トナル可キ者ノ父母共ニ生存シ又ハ父母ノ中一人生存シテ已レノ齡未タ滿二十五歳ニ至ラサル時ハ其者ヨリ其父母又ハ父母中ノ生存スル者ニ養子トナル可キコトノ評諾ヲ乞フ可シ又二十五歳以上ノ者ナル時ハ父母ノ護諭ヲ得可キコトヲ求ム可シ

第三百四十七條 養子トナリタル者ハ己ノ姓ニ養親ノ姓ヲ帶用ス可シ

第三百四十八條 養子トナリタル者ハ猶其實家ノ指揮ヲ受ケ且實家ニ於ケル諸般ノ權利ヲ保ツ可シ但シ左ノ者等ハ互ニ婚姻ヲ結ブヲ禁ス

養親ト養子トノ間及ヒ養親ト養子ノ卑屬ノ親トノ間並ニ養子ト養親ノ卑屬ノ親トノ間養子トナリシ者等ノ間

養子ト養親ノ養子ヲ為シタル後産ミタル子トノ間養子ト養親ノ配偶者トノ間及ヒ養親ト養子ノ配偶者トノ間

第三百四十九條 法律ニ定メタル場合ニ於テ子タル者其父母ニ養料ヲ給ス可ク又父母ヨリ其子ニ養料ヲ給ス可ク天成人義筋ハ養親ト養子トノ間ニ於テモ亦互ニ之ヲ行フ可シトス

第三百五十條 養子ハ養親ノ親族ノ遺物相續ヲ為スノ權ナシ然レ養親ノ遺物相續ヲ為スニ於テハ猶其實子タルト同一ノ權ヲ有ス可ク且養子トナリシ後ニ養親ノ實子ヲ擧ケタル時ト雖モ亦其遺物相續ヲ為スノ故障ナシトス

第三百五十一條 若シ養子ノ嫡出ノ卑屬ノ親ナク死去セシ時曾テ養親ヨリ養子ニ與ヘタル物又ハ養子ノ養親ヨリ遺物相續トシテ得タル物其儘現存スル時ハ養親又ハ其卑屬ノ親之ヲ取返ス可キノ權アリ但シ此權ト他人ノ得タル權ト相觸ル、トナク且ツ養親又ハ其卑屬ノ親此權ヲ行フニ付テハ其取返シタル財産ノ割合ヲ以テ其養子ノ負債ヲ償フ可シ

前ニ記シタル物件ノ外養子ノ有シタル財産ハ其死去ノ時其實家ノ父母及ヒ親族ニ屬ス可シ又其實家ノ父母及ヒ親族ハ前ニ記シタル物件ニ付テモ養親ノ卑屬ノ親ニ非サル遺物相續人ヨリ先ニ之ヲ得可キノ權アリ

第三百五十二條 若シ養親ノ生存中ニ養子ノ死去シ其後其養子ノ遺留セシ子及ヒ卑屬ノ親モ亦子孫ナク死去シタル時ハ其養親前條ニ記セシ如ク曾テ養子ニ與ヘタル物件ヲ取返ス可シ然レ此權ハ養親ノ一身ノニ有スルモノニシテ其遺物相續人ハ卑屬ノ親ト雖モ其權ヲ讓リ受ク可ラス

○第二款 養子ヲ為スノ法式

第三百五十三條 養子ヲ為サントスル者及ヒ養子トナラントスル者ハ相共ニ養子ヲ為サントスル者ノ住所ノ最下等裁判所ノ裁判役ノ面前ニ至リ雙方互ニ養子ノ事ヲ承諾スルノ證書ヲ記ス可シ

第三百五十四條 此證書ノ副本ハ其時ヨリ十日内ニ先ニ願出タル者ヨリ養子ヲ為ス者ノ住所ヲ管轄スル下等裁判所ノフロモリウルアンペリアルニ出シ其裁判所ノ許可ヲ得可キ求メテ為ス可シ

第三百五十五條 裁判役ハ會議ノ室ニ集會シ相當ノ間札ヲ為シタル後養子ノ事ニ付キ法律ニ定メシ規則ニ循ヒシヤ又養子ヲ為サントスル者ニ惡名ナキヤ取調フ可シ

第三百五十六條 裁判役ハフロモリウルアンペリアルノ述フル所ヲ聽キ別ニ裁判ノ式ヲ用ヒス且別ニ其主意ヲ言フナリ唯養子ヲ允許スハ養子ヲ允許セスト言渡ス可シ

第三百五十七條 下等裁判所ノ言渡ヨリ一月内ニ先ニ訴出タル者ヨリ其言渡書ヲ上等裁判所ニ出ス可シ但シ上等裁判所ニ於テハ下等裁判所ト同一ノ方法ヲ以テ裁判ヲ為シ其趣意ヲ言フナク唯下等裁判所ノ言渡ヲ可トス又ハ下等裁判所ノ言渡ヲ改ムト言渡シ次之ニ因リ養子ヲ允許ス又ハ養子ヲ允許セスト言渡ス可シ

第三百五十八條 上等裁判所ニテ養子ヲ為ス可キヲ允許スル言渡ハ衆人ノ面前ニ於テ之ヲ為シ裁判所ニテ相當ト思量スル場所ニ其言渡書ノ寫ノ相當ノ數ヲ貼附ス可シ

第三百五十九條 其言渡ノ時ヨリ三月内ニ養子トナリタル者又ハ養子ヲ為シタル者ノ願ニテ養子ヲ為シタル者ノ住所ノ民生ノ證書ノ簿冊ニ養子ノ事ヲ記載ス可シ

此記載ヲ為スニハ上等裁判所ノ言渡書ノ法ニ適シタル寫ヲ點視スルコトヲ必要トス但シ三月ノ定期内ニ其記載ヲ願フコトナキ時ハ養子ノ事ヲ允許シタル言渡ヲ取消ス可シ

第三百六十條 若シ養子ヲ為サントスル者養子ノ契約ヲ為ス可キノ意ヲ表シタル證書ヲ最下等裁判所ノ裁判役ノ面前ニテ記ルシ之ヲ下等裁判所ニ出セル後下等裁判所ニテ未タ決定ノ言渡ヲ為サル前養子ヲ為サントスル者死去シタル時ハ猶其事ノ審判ヲ為シ允許ス可キノ道理アル時ハ之ヲ允許ス可シ若シ養子ヲ為サントスル者ノ遺

物相續人等養子ヲ為ス可キヲ許ス可カラスト思量スル時ハテロモリワルアンベリアルニ其養子ヲ為ス事ヲ拒止スルノ書類ヲ渡シ且其意ヲ述ルヲ得可シ

第二章 左テールヲヒヒウズノ事

第三百六十一條 五十歳以上ニシテ子及ヒ嫡出ノ卑屬ノ親ナキ者幼者ヲ法律上ノ名義ニテ己ニ依附セシメント欲スル時ハ其幼者ノ父母又ハ父母中ノ生存スル者或ハ父母共ニナキ時ハ其親族ノ會議又ハ其幼者ニ分明ナル親族アラサル時ハ其幼者ノ住スル孤院ノ支配人又ハ其住地ノ官吏ノ許諾ヲ得テ其子ノ左トウルヲヒヒウズ人ノ子ヲ養ヒ其子ノ依トナルヲ得可シ

第三百六十二條 夫又ハ婦ハ其配偶者ノ承諾ヲ得シテ左トウルヲヒヒウズトナルヲ得ス

第三百六十三條 幼者ノ住所ノ家下等裁判所ノ裁判後ハ左テールヲヒヒウズニ管シタル請求及ヒ承諾等ヲ調書ニ記入可シ

第三百六十四條 左テールヲヒヒウズヲ受クル者ハ十五歳以下ノ幼者ニ限ル可シ

此左テールヲヒヒウズヲ為ス時ハ其幼者ノ養育ヲ為シ且生計ヲ為スノ道ヲ得セシムルヲ當然ナリトス但シ此規則ト別段ノ契約ト相觸ル、トナル可シ

第三百六十五條 其幼者財産ヲ所有シ且以前後見ヲ受ケシ者クル時ハ其財産支配ノ事及ヒ其身ヲ指揮スルノ權ヲ其左トウルヲヒヒウズニ移ス可シ然レ此左トウルヲヒヒウズハ其幼者ヲ養育スルノ費用ヲ其幼者ノ入額中ヨリ用テ可カラス

第三百六十六條 若シ左トウルヲヒヒウズ幼者ヲ養育シ始メタル時ヨリ全周五年ノ後ニ至リ其幼者ノ未タ丁年ニ至ラサル中自カラ死ス可キヲ先知シ遺囑書ヲ以テ其幼者ヲ養子ト為サントスル時其左トウルヲヒヒウズニ嫡出ノ子ナキニ於テハ其遺囑書ニ備ヒ之ヲ養子ト為スヲ得可シ

第三百六十七條 左トウルヲヒヒウズノ幼者ヲ養育シ始メタル時ヨリ五年ニ至ルト至ラサルトテ問ハス其幼者ヲ養子ト為サントスルヲナク死去セシ時ハ幼者ニ其幼年ノ時間生計ヲ為ス可キ物件又ハ金額又與テ可シ但シ其與テ可キ金額又ハ財産ノ種類ニ付キ曾テ契約ヲ為シ定メシヲナキ時ハ其死者ノ代人ト其幼者ノ代人ト協議シテ之ヲ定ム可シ若シ協議セズシテ訴訟ヲ為シタル時ハ裁判所ヨリ之ヲ定ム可シ

第三百六十八條 幼者ノ丁年ニ至リシ時其左トウルヲヒヒウズ之ヲ養子ト為サント欲シ其幼者承諾シタル時ハ前章ニ定メタル法式ニ備ヒ之ヲ養子ト為ス可シ但シ養子ト為シタル事ヨリ生ス可キ諸件モ亦前章ニ記スル所ト同一ナリトス

第三百六十九條 幼者丁年ニ至リシ時ヨリ三月内ニ養子トナル可キヲ左トウルヲヒヒウズニ求メタルト雖モ其求ムル所ヲ得ルヲナク且其幼者生計ヲ為ス可キノ道ナキ時ハ其左トウルヲヒヒウズ其幼者ニ生計ノ道ヲ得セシムルヲ能ハサルニ因リ幼者ニ償ヲ為ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

其償ハ幼者ヲシテ生計ヲ得セシムルニ足ル可キ資助ヲ與フルニアリトス但シ此償ト曾テ如此場合ヲ先知シテ為シタル所ノ契約ト相觸ル、トナル可シ

第三百七十條 幼者ノ財産ヲ支配スルノ權ヲ有シタル左トウルヲヒヒウズハ常ニ其使費ヲ算計ス可シ

第九卷 親ノ權 千八百三年三月二十四日決定 第四月三日布告

- 第三百七十一條 子タル者ハ其年次ヲ問ハハ父母ヲ尊敬ス可シ
- 第三百七十二條 子ハ丁年ニ至ル迄又ハ後見ヲ免ル、ニ至ル迄父母ノ權ニ從テ可シ
- 第三百七十三條 父母ノ婚姻ヲ結フ時間ハ父ノ三其權ヲ行フ可シ
- 第三百七十四條 子ハ滿十八歳ニ至ルノ後後勇兵召集加ハル為メノ外父許可ヲ得スシテ其親家ヲ去ル可カラス

第三百七十五條 父其子ノ行状ニ付キ至重ナル戻意ノ事アル時ハ其子ヲ懲治スルニ左ノ方法ヲ用フ可シ

第三百七十六條 若シ子ノ未タ十六歳ニ至ラサル時ハ其父一月ニ過サル時間其子ヲ禁錮セシムルヲ得可シ但シ之ガ為メ下等裁判所ノ上席人ハ父ノ求メニ從ヒ必ス其子ヲ捕提スル命令書ヲ渡ス可シ

第三百七十七條 十六歳ノ齡ニ至リシ時ヨリ丁年ニ至リ又ハ後見ヲ免ル、ニ至ル迄ノ時間ハ父ヨリ其子ヲ六月ニ過サル時間禁錮スルノ願ヲ為スヲ得可シ但シ此事ヲ為ス父ヨリ前條ニ記シタル裁判所ノ上席人ニ其願ヲ為シ其上席人ハプロキリウルクアンペリアルト商議シタル後其子ヲ捕提スルノ命令書ヲ渡シ又ハ之ヲ渡スホヲ允許セサルヲ自由ナリトス又其上席人ハ其捕提ノ命ヲ拒シタル時ト雖モ父ヨリ願フタル禁錮ノ期日ヲ減スルヲ得可シ

第三百七十八條 何レノ場合ニ於テモ捕提ノ命令書ノ外ハ書類及ヒ裁判ノ法式ヲ用フルヲナカル可シ但シ捕提ノ命令書ニハ其捕提ヲ為スノ理由ヲ記スルヲナカル可シ

父ハ其子ヲ禁錮スル時間ノ費用ヲ償ヒ且相當ノ養品ヲ給ス可キ證書ヲ記シ之ニ姓名ヲ手署ス可シ

第三百七十九條 父ハ其子ノ定メタル禁錮ノ時間又ハ裁判所ニ願フタル禁錮ノ時間ヲ減スルヲ得可シ○若シ其子禁錮ヲ免レシ後再び不良ノ所行ヲ為ス時ハ前ノ數條ニ記スル所ノ如ク再び禁錮ヲ言渡ス可シ

第三百八十條 父ノ再婚ヲ結ヒタル時ハ前婚ノ子十六歳以下ノ齡ト雖モ之ヲ禁錮セシムルニ付キ第三百七十七條ニ記スル所ニ循フ可シ

第三百八十一條 夫ノ死去シテ再婚セサル婦其子ヲ禁錮セシメント為スニハ夫ノ最親ノ親族二名ノ承諾ヲ得且第三百七十七條ニ記スル所ニ循ヒ願出スヲ必要トス

第三百八十二條 子其身ニ屬スル財産ヲ所有者又ハ自カラ職業ヲ行フ時ハ十六歳以下ノ者ト雖モ之ヲ禁錮セシムルニ第三百七十七條ニ記スル所ノ規則ニ循フ可シ

ニ告知ス可シ其上席人ハ父ニ其子ノ禁錮ヲ止メシムルノ意ナキヤヲ問糺セシ後諸般事件ヲ得タル上ニテ下等裁判所ノ上席人ノ言渡ヲ廢棄シ又ハ更改スルヲ得可シ

第三百八十三條 第三百七十六條第三百七十七條第三百七十八條第三百七十九條ニ記スル所ノ法ニ循ヒ私生ヲ婚出ト為シタル子ノ父母ニモ養適當シテ用フ可シ

第三百八十四條 夫婦ノ婚姻ヲ結ヒタル間ハ夫又婚姻ヲ解キタル後ハ夫婦中ノ後ニ生存スル者ニテ其子ノ滿十八歳ニ至ル迄又ハ十八歳以下ニテ其子ノ後見ヲ免ル、ニ至ル迄ノ時間其子ノ財産ノ入額ヲ得ルノ權アリ

第三百八十五條 此ノ如ク子ノ財産ノ入額ヲ得ル者ハ左ノ諸件ヲ擔當ス可シ

- 第一 總テ人ノ財産ノ入額ヲ得ル者ノ為ス可キ義務 第六百條以下ニ詳ナリ
 - 第二 子ノ家産ニ關シテ教育ヲ為ス事
 - 第三 子ノ負債ノ餘額ヲ償フ事及ヒ負債ノ息銀ヲ償フ事
 - 第四 子ノ最後ノ疾病中ノ費用及ヒ埋葬ノ費用ヲ償フ事
- 第三百八十六條 離婚ヲ受ケタル夫又ハ婦ハ子ノ財産ノ入額ヲ得可カラヌ又婦再婚ヲ為タル時モ亦之ヲ得可カラヌ
- 第三百八十七條 子ノ父母ニ管保ナク自己ノ職業因リ得タル財産又ハ父母ノ入額ヲ得可カラサル契約ヲ以テ他人ノ其子ニ附與シ又ハ遺留シタル財産ハ父母其入額ヲ得可カラヌ

○第十卷 幼年ノ事後見ノ事後見ヲ免ル、事字八百三年第三月二十六日決定第四月五日公布

○第一章 幼年ノ事

第三百八十八條 男女ヲ論セテ未滿二歳ニ至ラサル者ヲ幼者トス

○第二章 後見ノ事

○第一款 父母ノ後見

第三百八十九條 婚姻ヲ結ビタル間ハ夫其幼年ノ子ノ財産ヲ支配ス可シ

子ノ財産中ニテ父其入額ヲ所得ト為ザル物ニ付テハ其入額及ヒ其所有ノ權ヲ其子ニ屬スルモノトシ又父其入額ヲ所得ト為ス可キ物ニ付テハ其所有ノ權ノミヲ其子ニ屬スルモノトス

第三百九十條 夫婦中ニテ死去シ又ハ准死ヲ受ル者ヲテ婚姻ヲ解シ後ハ他ノ一方ノ者後見ヲ免シサル幼年ノ子ノ後見ヲ為スノ權アリ

第三百九十一條 然レ父ヨリ後ニ生存ス可キ母其子ノ後見ヲ為スニ付キ父其輔佐人ヲ任シタル時ハ其母其輔佐人ノ説ヲ得スシテ後見ニ管シタル證書ヲ記ス可カラス

若シ父ヨリ其輔佐人ノ管涉ス可キ證書ノ種類ヲ特ニ定メタル時ハ後見ヲ為ス母其他ノ證書ヲ記スルニ付キ其輔佐人ノ説ヲ得ルニ及ハズ

第三百九十二條 其輔佐人ヲ任スルニハ左ノ二箇ノ方法中ノ一ヲ用フ可シ

第一 遺囑ノ證書ヲ以テ為ス事

第二 書記官立會ノ上或下等裁判所ノ裁判役ノ面前又ハ「ライル」數人ノ面前ニ於テ陳述スル事

第三百九十三條 若シ夫ノ死去セシ時其婦腹胎シタルニ於テハ親族ノ會議ニテ其未タ出産セザル子ノ「モ」トウシヲ任ス可シ

子ノ出産シタル後ハ其母後見人トナリ「モ」トウシ後見人ノ監察者トナルノ權アリ

第三百九十四條 母ハ必ズ後見ノ任ヲ受ルヲ承諾スルニ及ハズ然レ特ニ後見人ヲ擔任セシムルニ至ル迄ハ後見ノ諸務ヲ行フ可シ

第三百九十五條 後見ヲ為ス母再婚セント欲スル時ハ婚姻ノ證書ヲ記スル前親族會議ヲ為サシメ其會議ニテ後見ノ職ヲ日後備其母ニ任ス可キヤ否ヲ定ム可シ

若シ親族ノ會議ヲ為サシメサル時ハ其母後見ヲ為スノ權ヲ失フ可シ又再婚ノ夫ハ其婦不相當ニ後見ヲ行フタルヨリ生ゼシ諸件ニ付キ婦ト相連帯シテ責ニ任ス可シ

第三百九十六條 母ヨリ相當ニ親族ノ會議ヲ為サシメ其會議ニテ日後備其母ニ後見ヲ為スヲ任シタル時ハ必ズ其再婚ノ夫ヲ其後見ノ副職ニ任ス可シ但シ其夫ハ婦ノ婚姻ノ後行フタル後見ノ諸事ニ付キ相連帯シテ責ニ任ス可シ

○第二款 父母ヨリ任シタル後見

第三百九十七條 親族タルト否トテ問ハズ後見人ヲ撰ムノ權ハ父母ノ中後ニ死去スル者ニ屬ス可シ

第三百九十八條 此權ヲ行フニ付テハ第三百九十二條ニ記スル所ノ法式ニ循ヒ且此條ニ記スル所ノ格別ノ規則ヲ守ル可シ

第三百九十九條 母再婚ヲ為シ前婚ノ子ノ後見ノ任ヲ受ケザル時ハ其母其子ノ後見人ヲ撰ム可カラス

第四百條 母再婚ヲ為シテ前婚ノ子ノ後見ノ任ヲ受ケ其死去セントスル時其子ノ後見人ヲ撰ミタルト雖レ親族會議ニテ之ヲ承諾シタルニ非レハ其撰任ヲ確定スルコトヲ得ス

第四百一條 父又ハ母ヨリ撰任ヲ得タル後見人ハ必ズ其職ニ任スルコトヲ承諾スルニ及ハズ但シ其人父母ヨリ別ニ撰任ヲ得スト雖レ親族ノ會議ヨリ其撰任ヲ得可キ者タル時ハ格別ナリトス

○第三款 尊屬ノ親ニテ後見ヲ為ス事

第四百二條 父母ノ中後ニ死去セシ者ヨリ幼者ノ後見人ヲ撰ミシレトナキ時ハ其幼者ノ本宗ノ祖父其後見ヲ為スノ權アリ又本宗ノ祖父ナキ時ハ其外族ノ祖父其後見ヲ為スノ權アリ又祖父ナキ時ハ曾祖父ニ其權アリトス但シ同級ノ尊屬ノ親ノ中ニ於テハ本宗ノ親外族ノ親ヨリ先ニ後見人トナルノ權アリ

第四百三條 幼者ノ本宗ノ祖父及ヒ外族ノ祖父ノ共ニアルコトナリ本宗ノ曾祖父二人アリテ互ニ後見ノ職ヲ爭フ時ハ其二人中ニテ幼者ノ父ノ本宗ノ祖父其後見ノ任ヲ受テ可シ

第四百四條 又外族ノ曾祖父二人ノ間ニ互ニ後見ヲ爭フアル時ハ親族ノ會議ニテ其二人中ノ一人ヲ後見ノ職ニ

仕ス可シ

○第四款 親族ノ會議ニテ任シタル後見

第四百五條 幼年ニシテ未タ後見ヲ免レサル子父母及ヒ父母ヨリ任シタル後見人ナク又算屬ノ男ノ親ナク且前ニ記シタル後見人ノ撰任ヲ受ケタル者後ニ記スル所第四百二十七條第四ノ如ク後見ノ職ニ任スルコト能ハス又ハ後見ノ職ヲ相當ニ辨シタル時ハ親族ノ會議ニテ其子ノ後見人ヲ任ス可シ

第四百六條 親族ノ會議ハ幼者ノ親族又ハ幼者ノ債主又ハ其他幼者ニ管保アル者ノ求メニ從ヒ又ハ幼者ノ住所ノ最下等裁判所ノ裁判後ヨリ其職務ヲ以テ求ムル所ニ從ヒ之ヲ集會ス可シ○何レノ人ト雖モ後見人ヲ任ス可キ原由ヲ其裁判後ニ述ルコトヲ得可シ

第四百七條 親族ノ會議ハ裁判後ヲ除クノ外幼者ノ住所ノコトムニノ内又ハ其住所ヨリ二ミリヤメートルノ距離内ニ在ル血屬又ハ姻屬ノ親六員ヨリ成ル可シ但シ其六員ノ中半ハ本宗ノ親ニシテ半ハ外族ノ親タル可ク且其親族ハ本宗外族共ニ親近ノ順序ニ從テ可シ

同級ノ親ニ於テハ血屬ノ親姻屬ノ親ヨリ先ニ其撰任ヲ受ケ又同級ノ血屬中ニ於テハ高年ノ親若年ノ親ヨリ先ニ其撰任ヲ受ケ可シ

第四百八條 幼者ト父母ト同スル兄弟及ヒ姉妹ノ夫ハ前條ニ記シタル定員ニ倍テニ及ハス但シ此等ノ者ノ數六人以上ナル時ハ幼者ノ算屬ノ親ノ寡婦及ヒ後見ノ職ヲ相當ニ辨シタル算屬ノ親ト共ニ親族ノ會議ヲ為シ他ノ親族ヲシテ參セシムルニ及ハス

若シ其父母ト同スル兄弟及ヒ姉妹ノ夫ノ員六人ニ充サレ時ハ其他ノ親族ヲ以テ其缺ヲ補ヒ親族ノ會議ヲ為サシム可シ
第四百九條 本宗及ヒ外族ノ血屬又ハ姻屬ノ親幼者ノ住所ノ地又ハ第四百七條ニ記シタル距離内ニ在ル者ノ數定員ニ充サレ時ハ最下等裁判所ノ裁判後ヨリ更ニ隔遠ノ地ニ居住スル血屬又ハ姻屬ノ親又ハ幼者ノ住所ノコトムニウチ内ニテ幼者ノ父母ト平生親交シタル者ヲ親族會議ニ參サレノ其缺ヲ補ハシム可シ

第四百十條 幼者ノ住所ノ地ニ在ル血屬又ハ姻屬ノ親ノ數定員ニ充ル時ト雖モ最下等裁判所ノ裁判後ハ其血屬又ハ姻屬ノ親ヨリ更ニ近親ノ血屬及ヒ姻屬ノ親又ハ同級ノ血屬及ヒ姻屬ノ親ノ更ニ隔遠ノ地ニ居住スル者ヲシテ親族會議ニ參セシムルコトヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ幼者ノ住所ノ地ニ在ル親族ニテ親族會議ノ中ニ加ハル可キ者ノ數ヲ減シ前ニ定メタル親族會議ノ定員ニ過ルコトヲカサシム可シ

第四百十一條 親族會議ニ出席ス可キ期限ハ最下等裁判所ノ裁判後之ヲ定ム可シ但シ其會議ニ參ス可キ親族等皆幼者ノ住所ノコトムニウチ内ニ居住シ又ハ二ミリヤメートルノ距離内ニ居住スル時ハ呼出書ヲ送達シタル日ト其會議ヲ為サント定メタル日トノ間ニ必ス三日ヨリ火カラサル時間ヲ隔ツ可シ

又親族會議ニ參ス可キ者ノ中其距離外ニ居住スル者アル時ハ三ミリヤメートル毎ニ一日ヲ増ス可シ
第四百十二條 此ノ如ク招集ヲ受ケタル血屬及ヒ姻屬ノ親又ハ朋友ハ自カラ會議ニ出席シ又ハ特ニ任シタル名代人ヲ出ス可シ

一人ニテ數人ノ名代人トナルコトヲ得ス
第四百十三條 血屬及ヒ姻屬ノ親又ハ朋友ノ親族會議ニ出席ス可キ招集ヲ受ケシ者正シキ辨解ノ理ナクシテ出席セサル時ハ最下等裁判所ノ裁判後ヨリ五十フランノ過ザル罰金ノ言渡ヲ受ケ可シ但シ其言渡ニ服セスト雖モ更ニ上等裁判所ニ訴出ス可カラズ

第四百十四條 若シ親族會議ヲ為ス可キ定期ニ至リ正シキ辨解ノ理アリテ出席セサル者アル時其者ノ來ルヲ待ツ事又ハ之ニ代テ他人ヲ任スル事ノ至當ナルニ於テハ總テ幼者ノ利益ノ為メ必要ナル事アル時ノ如ク最下等裁判所ノ裁判後其親族會議ノ集會ヲ日ヲ定メテ延期セシメ又ハ日ヲ定ムルコトナク延期セシムルコトヲ得可シ

第四百十五條 最下等裁判所ノ裁判後ヨリ親族會議ヲ為ス可キ場所ヲ別段ニ撰マサル時ハ當然其裁判後ノ家ニテ其會議ヲ為ス可シ○其會議ニ參ス可キ人員四分ノ三以上出席ヲ為サ、レハ集會シテ決議ヲ為ス事ヲ得ス

第四百十六條 其裁判後ハ親族會議ノ出席人ニシテ其會議ニ加ハリ可否ヲ述ルコトヲ得可ク且議員ノ決議ヲ為ス時

可トスル者ノ數ト否トスル者ノ數ト相均シキ時ハ其裁判後ノ說ニ循ヒ之ヲ定ム可シ

第四百十七條 若シ佛蘭西國內ニ居住ル幼者佛蘭西ノ藩屬地ニ財產ヲ所有シ又ハ佛蘭西ノ藩屬地ニ居住ル幼者佛蘭西國內ニ財產ヲ所有スル時ハ此等ノ財產ノ支配ノ為ニプロトウルク者ノ後見ノ任ヲ受スル可シ此場合ニ於テハ後見人トプロトウルクトハ互ニ相管スルヲナリ且一方ノ行ヒシ事ニ付キ他ノ一方ノ者其貴ニ任スルヲナシ

第四百十八條 後見人面ニ後見ノ職務ノ任ヲ受ケシ時ハ其任ヲ受ケシ日ヨリ其職務ヲ行フ可シ若シ然ラサル時ハ後見ノ職ヲ任シタル告知アリシ日ヨリ其職務ヲ行フ可シ

第四百十九條 後見ノ職ハ後見人ノ一身ノニ付キ任スル所ノモノトシ之ヲ其相續人ニ移ス可カラズ○然レ其相續人ハ後見人ノ生存中ニ行ヒシ諸事ニ付キ其貴ニ任ス可ク且其相續人丁年ナル時ハ新クニ後見人ヲ任スルニ至ル迄ノ時間假ニ後見ノ事務ヲ行フ可シ

第五款 後見人ノ監察者

第四百二十條 如何ナル後見人アル時ト雖モ親族會議ニテ其監察者ヲ任ス可シ

其職務ハ後見人ノ利益ト幼者ノ利益ト相觸ル、アル時幼者ノ利益ノ為メ其設置ヲ為スアリトス

第四百二十一條 此章ノ第一款第二款第三款ニ記シタル所ノ者後見ノ任ヲ受ケタル時ハ其職務ヲ行ヒ始ムル前ニ第四款ニ記シタル如ク親族會議ヲ為サシメ其監察者ヲ任セシム可シ

後見人此法式ニ循ハスレテ其職務ヲ行ヒ始ムル時ハ幼者ノ親族又ハ幼者ノ債主又ハ其他幼者ニ管係アル者ノ求メニ從ヒ又ハ家下等裁判所ノ裁判後ノ職務ヲ以テ親族會議ヲ為サシメ若シ其後見人ニ不正ノ意アル時ハ其會議ニテ後見ノ職ヲ退カシム可シ但レ此規則ト幼者ニ償フ可キ償額ト相觸ル、ヲナカル可シ

第四百二十二條 前條ニ記シタル以外ノ者後見ノ職ニ任シタル時ハ之ト同時ニ其監察者ヲ任ス可シ

第四百二十三條 如何ナル場合ニ於テハ後見人ハ其監察者ヲ任スルニ辞ヲ參フルヲ能ハス但レ後見人ノ監察者ト

ナル可キ者ハ幼者ト父母ヲ同スル兄弟中ヨリ之ヲ撰ミタル時ノ外本宗及ヒ外族中ニテ後見人ノ所屬ニ非サル族中ノ者ヲ撰ム可シ

第四百二十四條 後見人ノ監察者ハ後見ノ職ノ空位トナリ又ハ後見人ノ失踪セシ時其儘直ニ後見人トナル可キノ權ナレ但レ此場合ニ於テハ其監察者新クニ後見人ヲ任セシム可キ處置ヲ為ス可シ若シ此規則ニ背キテ幼者ノ為メ損害アル時ハ其償ヲ出ス可キノ言渡ヲ受ク可シ

第四百二十五條 後見人ノ監察者ノ職務ハ後見人ノ職務ト同時ニ終ル可シ

第四百二十六條 此章ノ第六款第七款ノ規則ハ後見人ノ監察者ニモ亦適當レテ用フ可シ然レ後見人ハ其監察者ヲ退任セシムルノ處置ヲ為ス可カラズ又監察者ヲ退任セシムルカ為メ集會シタル親族會議ノ中ニ辭ヲ參フ可カラズ

第六款 後見ノ職ヲ辭シ得可キ原由

第四百二十七條 左ノ數人ハ後見ノ職ヲ辭スルヲ得可シ

千八百四年第五月十八日ノ法律ノ第三章第五章第六章第八章第九章第十章第十一章ニ記スル所ノ人
皇族、陸軍總督、海軍總督、參議、衆議、院下院ノ議長等ヲ云フ

カウルトカツサレシ上席人及ヒ裁判役並ニ其裁判所ノプロキニウルクセテラレ及ヒ「アボカール」セテラレシニステールビテ「アバルト」中ノ官吏
幼者ノ住所ノ「アバルト」外ノ地ニテ公務ヲ行フ者

第四百二十八條 現ニ服役ニ充ツル兵士及ヒ佛蘭西國外ニテ皇帝ヨリ任シタル職務ヲ行フ者モ亦後見ノ職ヲ辭スルヲ得可シ

第四百二十九條 若シ皇帝ヨリ職務ノ任ヲ受ケタル公正ノ證ナキニ因リ爭論ノ生スル時ハ後見ノ職ニ任スルヲ辭セント欲スル者其所屬官局ノ執政ヨリ渡シタル證書ヲ出サレバ後見ノ職ヲ辭スル許シノ言渡ヲ得可カラズ

第四百三十條 前數條ニ記シタル者後見ノ任ヲ受ルヲ得可キ公務ニ任シタル後ニ後見ノ職ニ任スルヲ得

諾シタル時ハ後ニ其公務ヲ述ヘテ後見ノ職ヲ辭スルヲ得ス
第四百三十一條 後見ノ任ヲ受ケ其職ヲ行ヒ後公務ニ任シタル者其後見ノ職ヲ保有スルヲ欲セナル時ハ其公務ニ任シタル日ヨリ一月内ニ親族會議ヲ爲サレシ他ノ後見人ヲ撰マシム可シ

其者公務ノ任ノ滿チタル後自カラ再ヒ後見ノ職ニ任スルヲ求メ又ハ其者ニ代リ後見人トナリシ者其職ヲ退ク可キヲ求メタル時ハ親族會議ニテ前ノ後見人ヲ其職ニ復サシムルヲ得可シ

第四百三十二條 幼者ノ血屬又ハ姻屬ノ親ニ非サル者ハ其幼者ノ住所ヨリ四「ミリヤノートル」ノ距離内ニ後見ノ職ヲ任シ得可キ血屬及ヒ姻屬ノ親ノアラサル時ノ外強テ之ヲ後見ノ職ニ任スルヲ得可カラス

第四百三十三條 滿六十五歳以上ノ者ハ後見ノ職ニ任スルヲ辭シ得可シ○既ニ後見ノ職ニ任シタル者ハ七十歳ニ至リシ時其後見ノ職ヲ退クヲ得可シ

第四百三十四條 重疾ニ罹ルノ確證アル者ハ後見ノ職ニ任スルヲ辭シ得可シ
又既ニ後見ノ職ニ任シタル後重疾ニ罹ル時ハ其職ヲ退クヲ得可シ

第四百三十五條 如何ナル人ト雖モ二箇ノ後見ノ職ニ任シタル時ハ更ニ他ノ後見ノ任ヲ辭スルヲ得可シ
夫及ヒ父タル者既ニ一箇ノ後見ノ職ニ任シタル時ハ更ニ他ノ後見ノ任ヲ受ルニ及ハズ但シ已レノ子ノ後見ニ付テハ格別ナリトス

第四百三十六條 五人ノ嫡出ノ子アル者ハ其子ノ後見ノ外更ニ他ノ後見ノ職ニ任スルヲ得可シ
皇帝ノ兵籍ニ入り服役ニ充テテ死シタル子ハ此五人ノ子ノ數中ニ算入スルヲ得可シ

其他ノ死シタル子ハ現ニ生存スル孫ヲ遺留シタルニ非サレハ五人ノ數中ニ算入ス可カラズ
第四百三十七條 後見ノ職ヲ行フ時間ニ子ノ出産スル「アリト雖モ之ヲ述ベテ後見ノ職ヲ退クヲ得ス
第四百三十八條 後見ノ任ヲ受クル者之ヲ任スル親族會議ノ席ニ在ル時ハ其席ニ於テ直チニ其職ヲ辭スルヲ得

ベ其會議ニテ其評議ヲ爲ス可シ若シ其席ニ於テ辭スル「ナキ時ハ其後ニ至リ辭スルヲ得可シ

第四百三十九條 後見ノ任ヲ受クル者之ヲ任スル親族會議ノ席ニ在ラサル時ハ其職ヲ辭スルヲ評議マシム可シ
為ノ特ニ親族會議ヲ爲サシム可シ

其處置ハ其職ニ任スル告知ヲ得タル時ヨリ三日内ニ之ヲ爲ス可シ但シ幼者ノ住所ノ地ニ居住セサル者ノ爲ノニハ其住所ノ幼者ノ住所トノ間其路程三「ミリヤノートル」毎ニ一日ヲ増ス可シ○此等ノ期限ヲ過ル時ハ其辭職ノ求メヲ許サズ

第四百四十條 親族會議ニテ後見人ノ辭職ヲ肯セサル時ハ後見人裁判所ニ訴出テ其辭職ノ求メノ允許ヲ請フ可シ
然レ其訴訟ノ時間ハ假ニ後見ノ職ヲ行フ可シ

第四百四十一條 裁判所ニテ後見ノ職ヲ辭スル「ヲ允許シタル時ハ其辭職ヲ肯セサル者訴訟ノ費用ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ク可シ

若シ裁判所ニテ其辭職ヲ允許セサル時ハ原告人訴訟ノ費用ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ク可シ

第七款 後見ノ職ニ任スル「能サル事、後見ノ職ニ參セシメサル事、後見ノ職ヲ退カレムル事
第四百四十二條 左ノ數人ハ後見人又ハ親族會議ノ員中ニ加ハル「ヲ得ス

第一 父母ヲ除ク外ノ幼者
第二 治産ノ禁ヲ受ケル者
第三 母及ヒ尊屬ノ親ニ非サル女

第四 幼者ノ身分、幼者ノ家産又ハ幼者ノ財産ノ多量ニ付自カラ幼者ニ對シ訴訟ヲ爲ス者及ヒ其父母幼者ニ對シ同上ノ訴訟ヲ爲ス者

第四百四十三條 施體又ハ加辱ノ刑ニ處セクレシ者ハ後見ノ職ニ任スル「ヲ得ス○既ニ後見ノ職ニ任シタル者此等ノ刑ニ處セラレシ時ハ後見ノ職ヲ退ケラル可シ
第四百四十四條

第一 聞ハアル不行跡ノ人

第二 後見ノ職ヲ行フニ不適當又ハ不實ノ履置ヲ為シタル證アル者

此等ノ者ハ後見ノ職ニ任スルヲ能ハス又既ニ後見ノ職ニ任セシ者ハ其職ヲ退ケラル可シ

第四百四十五條 後見ノ職ニ任スルヲ能ハス或ハ後見ノ職ヲ退ケラレタル者ハ親族會議ノ員中ニ加ハルヲ得ス

第四百四十六條 後見人ヲ退職セシメントスル時ハ後見人ノ監察者ノ求ニ應ル又ハ寂下等裁判所ノ裁判役ヨリ

公務ヲ以テ集會セシメントスル親族會議ニテ之ヲ言渡ス可シ

其裁判役幼者ノ從兄弟又ハ更ニ近親ノ血屬又ハ姻族ノ親一人又ハ數人ヨリ親族會議ヲ集會セシム可キノ求ノヲ

受ケタル時ハ之ヲ為サレノヤルヲ得ス

第四百四十七條 親族ノ會議ニテ後見人トナル可キ者ヲ其職ニ任セサルト又ハ既ニ任レタル後見人ヲ退職セシム

ルヲ言渡ス書ニハ其言渡ヲ為スノ道理ヲ記ス可シ但レ後見人トナル所ヲ聽キタル後又ハ後見人ヲ呼出シテ審

出席セサル後ニ非レハ其言渡ヲ為ス可カラズ

第四百四十八條 後見人親族會議ノ言渡ニ循フタル時ハ其言ヲ其言渡書ニ附記レ新クニ任レタル後見人直チニ其

職務ヲ行ヒ始ルヲ得可シ

若シ後見人親族會議ノ言渡ニ循ハサル時ハ後見人ノ監察者親族會議ノ言渡ノ允許ヲ得シトテ下等裁判所ニ訴出ス

可シ

但レ其裁判所ノ言渡ニ服セサル者ハ更ニ上等裁判所ニ訴出ルヲ得可シ

又後見人トナル可キ者其職ニ任スルヲ能ハス又ハ其職ヲ退ケラレシ時ハ其職ヲ得ントスルニ付キ後見人ノ監察

者ヲ裁判所ニ呼出スヲ得可シ

第四百四十九條 親族ノ會議ヲ為サシメント求メタル血屬又ハ姻族ノ親ハ前條ニ記スル所ノ訴訟ニ參スルヲ得

可シ但レ此訴訟ハ至急ノ吟味ノ法式ヲ以テ之ヲ吟味シ及ヒ裁判ス可シ

○第八款 後見人ノ職務

第四百五十條 後見人ハ幼者ノ身體ヲ監察シ且民法ニ管スル諸件ニ付キ幼者ニ代ル可シ後見人ハ懇切ニ幼者ノ財

産ヲ支配シ且其支配ノ不良ナルニ付キ幼者ノ為メ生シタル損害ヲ擔當ス可シ

後見人ハ幼者ノ財産ヲ買入ル、ト得ヌ又親族會議ヨリ後見人ノ監察者ヲシテ其後見人ニ別段ノ許ヲ與ヘシム

可キトテ任シタル時ニ非レハ幼者ノ財産ヲ期限ヲ定メ借入ル、ト得ヌ又幼者ニ對シ債ヲ討スルノ權又ハ幼者

ニ對シ訴訟ヲ為スノ權アル者ヨリ其權ヲ讓リ受ルヲ得ヌ

第四百五十一條 幼者ノ財産ニ封印アル時ハ後見人其任ヲ受ケタルトテ相當ノ式ヲ以テ知り得タル日ヨリ十日内

ニ其封印ヲ除去ス可キトテ求メ直チニ「テイル」ヲシテ其監察者ノ面前ニテ幼者ノ財産ノ目錄ヲ記サシム可シ

又幼者ヨリ後見人ニ債ヲ可キ物件アル時ハ後見人「テイル」ノ問札ニ答ヘテ其幼者ヨリ得可キ物件アル旨ヲ述ベ

之ヲ幼者ノ財産ノ目錄中ニ記入セシメ且之ヲ記入シタル旨ヲ調書ニ記ス可シ若シ後見人此事ヲ為サル時ハ幼

者ヨリ債ヲ得ルヲ得ヌ

第四百五十二條 後見人ハ幼者ノ財産ノ目錄ヲ記シ終リシ時ヨリ一月内ニ官吏ヲシテ其監察者ノ面前ニテ幼者ノ

動産ヲ釋賣ヲ以テ賣拂ハシム可ク且其釋賣ヲ為スニハ公告又ハ貼附ヲ為シ其由ヲ調書ニ記ス可シ但シ新族會議

ニテ品物ノノ儘保チ置ク可キトテ欲スル財産ハ之ヲ賣拂フ可カラズ

第四百五十三條 父母法律ニ循ヒ幼者ノ財産ノ入額ヲ所得ト為シ且之ヲ品物ノ儘ニテ後ニ幼者ニ渡サント欲スル

時ハ之ヲ賣拂フニ及ハス

此場合ニ於テハ父母已ニ費用ヲ以テ評價人ニ幼者ノ財産ノ真價ヲ算定セシム可シ但シ其評價人ハ後見人ノ監察

者ヨリ任スル所ニシテ最下等裁判所ノ裁判役ノ面前ニテ誓ヲ述ノ可シ○父母後ニ品物ノ儘ヲ以テ幼者ニ渡ス

得ル動産ハ其價額ヲ幼者ニ渡ス可シ

第四百五十四條 父母ノ後見ヲ除クノ外總テ後見ノ職ヲ行ヒ始メントスル時親族會議ニテ後見人ノ支配スル財産

ノ多寡ニ准シ其計畫ヲ以テ幼者ノ毎歳ノ費用及ヒ財産支配ノ費用ノ額ヲ定ム可シ

又其計畫書ニ後見人其支配ヲ為スニ付キ給料ヲ與フ可キ輔佐人一人又ハ數員ノ助ケヲ得可キヤ否ヤヲ定ム可シ
但シ其輔佐人ノ處置ノ不良ナルトアル時ハ後見人其責ニ任ス可シ

第四百五十五條 親族ノ會議ニテ幼者ノ入額其費用ノ額ヨリ多キヲ發許ニ至ル時ハ後見人其金額ヲ幼者ノ利益ト
ナル可キ方法ニ用フ可キヤヲ定ム可シ但シ幼者ノ為メニ其金額ヲ用フルハ六月内ニ之ヲ為スコシ若シ此定期間
ニ之ヲ為サル時ハ後見人其金額ニ付幼者ニ相當ノ息銀ヲ拂フ可シ

第四百五十六條 若シ後見人幼者ノ金額發許ニ至ル時ハ之ヲ幼者ノ利益ノ為メ用フ可キヤヲ親族會議ニテ定メシ
ノタルトナキ時其後見人前條ニ記シタル定期ニ至リ滿之ヲ用ヒサルニ於テハ金額ノ多少ヲ論セヌ幼者ノ為メ用
ヒサル其總額ノ息銀ヲ幼者ニ拂フ可シ

第四百五十七條 後見人ハ父母ト雖モ親族會議ノ許諾ヲ得ルニ非レハ幼者ノ為メニ金額ヲ借受ケ又ハ幼者ノ不動
産ヲ他人ニ給與シ又ハ賣拂ヒ又ハ「イポテーク」ト為スヲ得ヌ其許諾ハ極ノ切要ナル事又ハ明白ナル利益アル
ニ非レハ之ヲ為スコカラス

幼者ノ為メニ金額ヲ借受ケント為スニハ後見人ヨリ簡略ナル計畫書ヲ出シ幼者ノ金額動産入額ノ不足ナルト
證シタルニ非レハ親族會議ニテ其許諾ヲ為スコカラス
何レノ場合ト雖モ親族會議ニテ如何ナル不動産ヲ先ニ賣拂フ可キヤヲ指示シ且之ヲ賣拂フニ付キ有益ナリト思
量セシ諸件モ亦指示ス可シ

第四百五十八條 此事ニ付キ親族會議ニテ為シタル決定ハ後見人ヨリ下等裁判所ニ願ヒ其允許ヲ得タル後ニ非
レハ之ヲ執行フ可カラス但シ下等裁判所ニ於テ裁判役會議ノ室ニテ「プロキリウル」アンペリアルノ述ル所ヲ聽キ
シ後其裁判ヲ為スコシ

第四百五十九條 其不動産ノ賣買ヲ為スニハ其「カントン」^{カントン}「ロンドン」^{ロンドン}「シマ」^{シマ}中ノ常例ノ場所ニテ相繼テ三次ノ

三三三

日曜日ニ羅賣ノ書ヲ貼附セシ後下等裁判所ノ裁判役又ハ特ニ任ヲ受ケタル「テイ」^{テイ}後見人ノ監督者ノ面前ニテ
之ヲ為スコシ

其貼附書ノ各通ハ之ヲ貼附シタル「コン」^{コン}「ユニ」^{ユニ}「ール」^{ール}「コン」^{コン}「ユニ」^{ユニ}「ン」^ンニテ檢印ヲ為シテ證ス可シ

第四百六十條 幼者ト不動産ヲ共通シテ所有スル者ノ願ニ因リ其不動産ヲ羅賣ニ為スコキノ言渡ヲ為シタル時ハ

幼者ノ財産賣拂ニ付キ第四百五十七條及ヒ第四百五十八條ニ記シタル法式ヲ用フルニ及ハス

此場合ニ於テハ唯前條ニ記スル所ノ體裁ニ循ヒ其羅賣ヲ為スコキノ必用トス但シ此羅賣ニハ必ス外人ヲ參ヒ
シム可シ

第四百六十一條 後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ得ルニ非サレハ幼者ノ為メ其遺物相續ヲ為スコキヲ承諾シ又ハ之ヲ拒
ムコトヲ得ス○後見人幼者ノ為メ其遺物相續ヲ為スコキヲ承諾シタル時ハ其遺物ノ目錄ヲ記シ其遺物ノ價額ニ至ル
迄ノ外負債及ヒ費用ヲ償ハサルノ約定ヲ以テ幼者ノ為メ之ヲ引受ク可シ

第四百六十二條 後見人幼者ノ為メ其遺物相續ヲ為スコキヲ拒ミシ後他ニ其遺物ヲ引受ル者ナキ時ハ後見人更ニ親
族會議ノ許諾ヲ得テ幼者ノ為メ其遺物ヲ引受ルコト又ハ幼者丁年ニ至リテ自カラ之ヲ引受ルコトヲ得可シ但シ此場
合ニ於テハ其遺物ヲ引受ケタル時ノ景状ヲ以テ其財産ヲ受取ル可ク其以前法ニ適シテ為タル財産賣拂ノ契約又
ハ其他ノ契約ニ付キ訴訟ヲ為スコカラス

第四百六十三條 後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ得ルニ非レハ人ヨリ幼者ニ與フル贈物ヲ幼者ノ為メ受ク可カラス
幼者ノ受ケタル贈物ハ丁年者ノ受ケタル贈物ト均シク看做スコシ

第四百六十四條 後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ得ルニ非レハ幼者ノ不動産ニ管シタル權ニ付キ訴訟ヲ為スコキ又
其權ニ付キ他人ヨリ要スル所ヲ承諾スコカラス

第四百六十五條 後見人幼者ノ他人ト共通スル財産ヲ分派セントスルニハ必ス親族會議ノ許諾ヲ要ム可シ然レモ他
人ヨリ其幼者ト共通スル財産ヲ分タント要ムル時後見人其答ヲ為スコキハ親族會議ノ許諾ヲ必要トス

第四百六十六條 前條ニ記シタル財産分派ニ付キ後見人幼者ヲシテ丁年者ニ均シキ權ヲ得セシメントスルニハ遺物相續ヲ為ス地ノ下等裁判所ヨリ任シタル評價人ヲシテ其財産ヲ評價セシメタル後裁判所ニテ其分派ヲ為ス可シ評價人ハ其裁判所ノ上席人又ハ之ニ代ル可キ裁判役ノ面前ニテ正實ニ其職ヲ行フ可キノ誓詞ヲ述ヘ其後遺物ノ不動産ヲ區分シテ其區分シタル地ヲ裁判役又ハ裁判役ヨリ任シタル「テイ」ノ面前ニテ開引ニ為シ此等ノ官吏其地ヲ引渡ス可シ

此方法ヲ用ヒスシテ為シタル分派ハ假ノ處置ナリト看做ス可シ

第四百六十七條 後見人ハ親族會議ノ許諾ヲ得且下等裁判所ノ「プロキ」リウルアンペリアルノ撰ミタル法律家三員ノ訓告ヲ得ルニ非サレハ幼者ニ代リテ和解ヲ為ス可カラズ 第三篇第五卷ニ詳ナリ

又其和解ハ下等裁判所ニテ「プロキ」リウルアンペリアルノ述ル所ヲ聽キテ後之ヲ允許シタルニ非サレハ其効ナク可シ

第四百六十八條 後見人幼者ノ行狀ニ付キ至重ナル良意ノ事アル時ハ之ヲ親族會議ニ述ヘ其許諾ヲ得タル上此篇第九卷指ニ定メタル規則ニ循ヒ幼者ヲ禁錮セント詁ルヲ得可シ

○第九款 後見人ノ算計ノ事

第四百六十九條 後見人ハ何者タルヲ問ハス其職ノ終リシ時其執行ヒタル諸件ニ付テノ算計ヲ為ス可シ

第四百七十條 父母ヲ除クノ外總テノ後見人ハ其職ヲ行フ時間ト雖モ親族ノ會議ニテ特ニ預定シタル期限ニ其行ヒシ諸件ニ付テノ算計書ヲ後見人ノ監察者ニ渡ス可シ然レ後見人ハ毎歲其算計書ヲ一通以上出スニ及ハス○此書ハ印稅ナキ紙ニ記シ且之ヲ渡スニ裁判ノ式ヲ用フルヲナク又費用ヲ要スルヲナシ

第四百七十一條 後見人ノ最終ノ算計書ハ幼者ノ丁年ニ至リ又ハ後見ヲ免ルニ至リシ時幼者ノ費用ヲ以テ之ヲ記ス可シ但シ其費用ハ後見人ノ前拂ニ為ス可シ

此算計書ニ記シタル費用中確證アリテ幼者ノ利益トナル可キモノハ後見人ニ償フ可シ

第四百七十二條 後見人ト幼者ノ丁年ニ至リシ者トノ間ニ約定ヲ為シタルト雖モ其約定ヲ為ス以前ニ詳細ナル後

見人ノ算計書及ヒ證書類ヲ其幼者ニ渡シ且其約定ヲ為スヨリ少クトモ十日前ニ幼者ノ其算計書及ヒ證書類ヲ受取リタル證書アルニ非レハ其約定ノ効ナカル可シ

第四百七十三條 若シ後見人ノ算計書ノ事ニ付キ争ノ生スル時ハ他ノ民法管スル争論ノ如ク之ヲ訴ヘ裁判ヲ受ク可シ

第四百七十四條 後見人ヨリ未タ幼者ニ償ザル殘額アル時ハ別ニ裁判所ニ訴出サスノ算計書終成ノ時ヨリ其息銀ヲ拂ハレム可シ

幼者ヨリ後見人ニ償フ可キ殘額ハ算計書終成ノ後其殘額ヲ償フ可キヲ訴出セル時ヨリ其息銀ヲ拂フ可シ

第四百七十五條 後見ノ諸事ニ付キ幼者ヨリ後見人ニ對シ訴訟ヲ為スヲ得可キ期限ハ幼者ノ丁年ニ至リシ時ヨリ十年ナリトス

○第三章 幼者ノ後見ヲ免ルノ事

第四百七十六條 幼者ハ婚姻ヲ為スニ因リ其後見ヲ免ル可シ

第四百七十七條 幼者ハ婚姻ヲ為サスト雖モ滿十五歳ノ齡ニ至リシ時ハ其父又ハ父ナキニ於テハ其母ヨリ後見ヲ免ル可キノ許シテ受ルヲ得可シ

此ノ如ク幼者ヲシテ後見ヲ免レシメント為スニハ父又ハ母ヨリ最下等裁判所ノ書記官ノ立會ニテ其裁判所ノ裁判役ニ其旨ヲ述ヘ其裁判役之ヲ關与クルヲノミテ以テ足レリトス

第四百七十八條 父母ナキ幼者滿十八歳ノ齡ニ至リシ時親族會議ニテ相當ト思量スルニ於テハ後見ヲ免ルヲ得可シ

此場合ニ於テハ親族會議ニテ幼者ノ後見ヲ免ル、トテ許可スルノ決定書ヲ記シ且最下等裁判所ノ裁判役親族會議ノ上席人タルニ付キ其決定書中ニ幼者ハ其後見ヲ免ルト云ヘル語ヲ書キ加フルヲ以テ其幼者後見ヲ免ル、ト得可シ

第四百七十九條 前條ニ記スル所ノ場合ニ於テ後見人幼者ノ後見ヲ免ル可キヲ求ムルヲ幼者ノ從兄弟又ハ更ニ近キ血屬及ヒ姻屬ノ親一人又ハ教人幼者ノ後見ヲ免カル、トテ相當ト思量スル時ハ此等ノ者ヨリ此事ヲ議

セシムル爲ノ親族會議ヲ爲サシム可キコトヲ取テ下等裁判所ノ裁判役ニ求ルコトヲ得可レ但シ其裁判役ハ此求ヲ允許セサルヲ得ス

第四百八十條 後見人ノ算計書ハ親族會議ニテ任シタルコトヲウレノ立會ニテ後見ヲ免レタル幼者ニ之ヲ渡ス可レ
第四百八十一條 後見ヲ免レシ幼者ハ家屋及ヒ土地ヲ九年ニ過キサル時間貸渡スノ證書ヲ記シ又ハ其家屋土地等ノ入額ヲ受取リテ其受取書ヲ與ヘ其他總テ財産ヲ支配スルノ事ヲ爲シ得可レ但シ其幼者此等ノ證書ヲ記シタル後之ヲ取消サント辭出スヲ得可キ場合ハ丁年者ト同一ナル可レ

第四百八十二條 幼者ハ後見ヲ免ル、ト雖モ其利ヲトシ立會ナクシテ不動産ニ管シタル訴訟ヲ爲シ及ヒ不動産ニ付キ他人ノ訴訟ノ被告トナリ又ハ人ニ貸シタル金額ヲ受取リテ其受取書ヲ與フルコトヲ爲ス可カラス但シ其幼者人ヨリ金額ヲ受取リタル時ハ利ヲトシ其用方ヲ監察ス可レ

第四百八十三條 幼者ハ後見ヲ免ル、ト雖モ金額ヲ借受ケントスルニハ親族會議ニテ之ヲ許可スルノ決定ヲ得且下等裁判所ニテテロキリウルアンベルアルノ説ヲ聽キレ後其親族會議ノ決定ヲ允許スルコトヲ必要トス

第四百八十四條 幼者ハ後見ヲ免ル、ト雖モ未タ後見ヲ免レサル幼者ノ爲メ定メタル所ノ法式ヲ守ラステ其不動産ヲ費拂ヒ又ハ人ニ給與ス可カラス又其財産支配ノ爲メノ外證書ヲ記ス可カラス

又人ヨリ物ヲ買入レ又ハ其他ノ事ニ付キ此幼者義務ヲ負タル時其額ノ多キニ過ルニ於テハ之ヲ減ス可レ但シ此事ニ付テハ裁判所ニテ幼者ノ家産及ヒ幼者ト契約シタル者ノ正邪並ニ幼者ノ費用ノ有益又ハ無益ヲ考察シテ其裁判ヲ爲ス可レ

第四百八十五條 後見ヲ免レシ幼者他人ヨリ負フタル義務ヲ前條ニ記スル如ク減ス可キノ言渡ヲ受ケタル時ハ後見ヲ免レシ益ヲ失フコトアル可レ但シ後見ヲ免レタル益ヲ取消サントスルニハ以前後見ヲ免レタル時ト同一ノ法式ニ循フ可レ

第四百八十六條 後見ヲ免レシ益ヲ失フコトアル幼者ハ其日ヨリ再ヒ後見ヲ受ケテ丁年ニ至ル迄ノ時間常ニ後見人ノ照

管ヲ受テ可レ

第四百八十七條 後見ヲ免レシ幼者商業ヲ爲ス時ハ其商業ニ管シタル事ニ付キ之ヲ丁年者ト同視ス可レ

○第十一卷 丁年ノ事 治産ノ禁ノ事 裁判所ヨリ任スル補佐人ノ事 千八百八十三年三月廿九日決定 第四月八日布告

○第一章 丁年ノ事

第四百八十八條 滿二十一歳ヲ以テ丁年トス

○此齡ニ至ル者ハ婚姻ノ卷ニ記シタル制限ヲ除クノ外總テ民法ニ管シタル生理ノ所爲ヲ行フコトヲ得可レ

○第二章 治産ノ禁ノ事

第四百八十九條 常ニ白癡癩疾精神錯乱シテ狂疾 精神錯乱シテ狂疾ノ景状アル丁年ノ者ハ間々平常ニ復スル事アリト雖モ治産ノ禁ヲ受ク可レ

第四百九十條 親族中ニ於テ互ニ治産ノ禁ヲ受ケレムルノ訴訟ヲ爲スコトヲ得可レ又夫婦モ互ニ其訴ヲ爲スコトヲ得可レ

第四百九十一條 狂疾ノ場合ニ於テ夫又ハ婦或ハ親族ヨリ狂者ヲシテ治産ノ禁ヲ受ケレム可キコトヲ訴出サ、ル時ハテロキリウルアンベルアルヨリ之ヲ訴フ可シ又白癡癩疾ノ場合ニ於テハ比官吏ヨリ配偶者又ハ分明ナル親族ノアテナル者ニ對シ此治産ノ禁ヲ受ケレム可キノ訴ヲ爲スコトヲ得可レ

第四百九十二條 治産ノ禁ヲ受ケレムルノ訴ハ下等裁判所ニ於テ之ヲ爲ス可レ

第四百九十三條 白癡癩疾狂疾ノ諸事ハ詳ニ之ヲ書面ニ記ス可レ○治産ノ禁ヲ受ケレム可キコトヲ訴出シタル者ハ證人及ヒ證書ヲ出ス可レ

第四百九十四條 裁判所ヨリ此篇ノ第十卷幼年後見ノ事第二章第四款親族ノ一定ノタル所ノ法ニ循ヒ集會ヲ爲シタル親族會議ニテ治産ノ禁ノ訴ヲ受ケレシ者ノ景状ニ付キ其意ヲ述フ可キコトヲ言渡ス可レ

第四百九十五條 治産ノ禁ヲ受ケシム可キノ訴訟ヲ爲シタル者ハ親族會議ノ列ニ加ハル可ラス然レ其訴訟ヲ爲シタル者之ヲ受ケシ者ノ配偶者又ハ其子ナル時ハ親族會議ノ列ニ加ハルヲ得可ク唯其決議ノ時ニ辯ヲ參フ可カラス
第四百九十六條 裁判所ニテ親族會議ノ説ヲ聽タル後裁判役會議ノ室ニ於テ被告人ヲ問糺ス可シ若シ被告人其室ニ出席ヲ爲スコトヲ得ヤル時ハ裁判役一員書記官ト俱ニ其家ニ至リ之ヲ問糺ス可シ但レ何レノ場合ニ於テモアリキニリウルアンベリアルハ問糺ノ場所ニ立會フ可シ

第四百九十七條 一度問糺ヲ爲シタル後裁判所ニ於テ必要ナリト思量スル時ハ被告人ノ身體及ヒ財産ヲ監察ス可キ假ノ支配人ヲ任ス可シ

第四百九十八條 治産ノ禁ノ訴訟ニ付テノ裁判ハ原告被告ノ雙方ヲ呼出タル上又ハ一方ノ者呼出ヲ受ケテ猶出席セサル上公ケニ吟味ヲ爲シテ之ヲ言渡ス可シ

第四百九十九條 治産ノ禁ヲ受ケシム可キノ訴訟ヲ裁判所ニテ允許セサル時ト雖モ裁判所ヨリ其時ノ景状ニ隨ヒ日後被告人ハ裁判所ノ言渡ニ因リ任シタル補佐人ノ立會アルニ非レハ訴訟ヲ爲シ又ハ和解ヲ爲シ又ハ金額ヲ借受ケ又ハ之ヲ受取リテ其受取書ヲ與ヘ又ハ自己ノ不動産ヲ賣拂ヒ及ヒ附與シ又ハ担保ヲシトナス等ノ事ヲ爲ス可カラサル旨ヲ言渡スコトヲ得可シ

第五百條 下等裁判所ノ言渡ニ服セズレテ更ニ上等ノ裁判所ニ訴出スコトアル時上等裁判所ニテ必要ナリト思量スルニ於テハ其治産ノ禁ノ訴訟ヲ受ケシ者ヲ再ヒ問糺シ又ハ特ニ任タル裁判役ヲシテ其問糺ヲ爲サシム可シ

第五百一條 治産ノ禁ヲ受ケシムル言渡書又ハ其補佐人ヲ任スル言渡書ハ原告人ノ求ニ應ジ十日間ニ之ヲ寫シ取り其寫ヲ被告人ニ送達シ且之ヲ懸帖ニ記ス可シ但レ其懸帖ハ裁判所ノ室及ヒ其裁判所管轄内ニ在ルコトイハル役所ニ懸テ可シ

第五百二條 治産ノ禁ヲ受ケシムル言渡又ハ補佐人ヲ任スル言渡ハ之ヲ爲シタル日ヨリ執行ヲ可シ○其言渡ノ後ニ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ記シタル證書又ハ補佐人ノ立會ナクシテ記シタル證書ハ皆廢物ナリトス

第五百三條 治産ノ禁ヲ受クル以前ニ記シタル證書ハ之ヲ記シタル時既ニ治産ノ禁ヲ受ク可キノ原由アルヲ明白ナルニ於テハ亦之ヲ廢物ト爲スコトヲ得可シ

第五百四條 人ノ死セサル中ニ治産ノ禁ノ言渡ヲ受ケ又ハ其禁ヲ受ク可キノ訴訟ヲ受ケタル時ニ非レハ其者ノ記シタル證書ヲ其死後ニ至リ精神錯亂ヲ言渡廢物ト爲サシト訂ルヲ得ス但シ其證書上ニ精神錯亂ノ證ノ分明ナル時ハ格別ナリトス

第五百五條 下等裁判所ヨリ治産ノ禁ヲ受ケシムルコトヲ言渡シタル裁判ニ付キ定期内ニ更ニ上等裁判所ニ訴ヘ出スコトナキ時又ハ更ニ上等裁判所ニ訴ヘ出スト雖モ其裁判所ニテ下等裁判所ノ言渡ヲ可ナリト爲タル時ハ此篇ノ第十卷 初年後見ニ記スル所ノ規則ニ備ヒ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ爲メ後見人及ヒ後見人ノ監察者ヲ任ス可シ○以前任シタル假ノ支配人ハ其職ヲ退ク可シ但シ其支配人後見ノ職ニ任セサル時ハ後見人ニ其計ヲ爲ス可シ

第五百六條 夫ハ別ニ願出ルニ及ハスシテ治産ノ禁ヲ受ケタル婦ノ後見人タル可キノ權アリ

第五百七條 婦ハ其夫ノ後見ノ職ニ任スルコトヲ得可シ○此場合ニ於テハ親族會議ニテ後見ノ職ヲ行フニ付テノ規則及ヒ約定ヲ立ツ可シ但シ其親族會議ノ決定不正ナリト思量スル時ハ之ヲ裁判所ニ訴出スコトヲ得可シ

第五百八條 治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ配偶者及ヒ尊屬卑屬ノ親ヲ除クノ外ハ何人ヲ論セズ其後見ノ職ヲ十年以上ノ時間行フニ及ハストス但シ十年ヲ過ル時ハ其後見人代職ノ者ヲ撰ム可キコトヲ讀ヒ退職ヲ爲スコトヲ得可シ

第五百九條 治産ノ禁ヲ受ケシ者ハ其身體及ヒ財産ニ付キ幼者ニ均シクシテ幼者ノ後見ノ法則ハ亦之ヲ治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ後見ニ適當シテ用フ可シ

第五百十條 治産ノ禁ヲ受ケシ者ハ其養生ノ方ヲ厚クシ且其疾ヲ速ニ平愈セシムルノ用ニ供ス可シ○其病症ト其家産トニ從ヒ親族會議ニテ其者ヲ其家ニテ療養セシメ又ハ養生所或ハ貧院ニ送ル可キコトヲ定ム可シ

第五百十一條 治産ノ禁ヲ受ケシ者ノ子婚姻ヲナスコトアル時ハ家産ノ事及ヒ子ノ相續ス可キ父ノ遺物ノ一部ヲ預メ受取ル事並ニ其他婚姻契約ノ諸件ヲ親族會議ニテ定ム可シ但シ其定ムル所ハ裁判所ニテ却リ口キリウルアンベ

リアルノ説ヲ聽タル後之ヲ允許シタルノ旨渡ヲ得ルコトヲ必要トス
第五百十二條 治産ノ禁ヲ受ケンメタル理由ノ終リシ時ハ其禁モ亦終ル可シ但シ其禁ヲ免スノ旨渡ハ以前其禁ヲ受ケレバタル時ト同一ノ法試ヲ行フタル後ニ非レハ之ヲ為ス可カラズ又其禁ヲ受ケン者ハ其禁ヲ免スノ旨渡ヲ得タル後ニ非レハ已レノ權ヲ行フコトヲ得ス

○第三章 裁判所ヨリ命シタル補佐人ノ事

第五百十三條 浪費ヲ為ス者ハ裁判所ヨリ任シタル補佐人ノ立會ナクシテ訴訟ヲ為シ又ハ和解ヲ為シ又ハ金額ヲ借受ケ又ハ之ヲ受取リ其受取書ヲ與ヘ或自己ノ不動産ヲ附與シ又賣却シ及シイボイボトナス等ノ事ヲ為ス可カラズ

第五百十四條 浪費ヲ為ス者補佐人ノ立會ナクシテ單ヲ行フ可カラサルノ禁ハ精神錯亂ノ者ニ治産ノ禁ヲ受ケシム可キコトヲ許フルノ權アル者ヨリ之ヲ許出スコトヲ得可シ又其許ヲ吟味シ且裁判スルノ方法モ治産ノ禁ノ許ト同一ナリ

又此禁ヲ免スニ付テモ治産ノ禁ヲ免スト同一ノ法式ニ循フ可シ

第五百十五條 治産ノ禁ノ旨渡及ヒ補佐人ヲ任スルノ旨渡ニ下等裁判所ニ許出シタル時ニ於テモ又ハ更ニ上等ノ裁判所ニ許出シタル時ニ於テモ皆「ニステール」ニテブリッヂノ説ヲ聽タル上ニ非レバ之ヲ為ス可カラズ

辻士草筆

大博士其作譯口譯

○第二篇 財産及ヒ財産所有ノ種類

○第一卷 財産ノ區別 千八百四十四年第一月二十五日決定 第二月四日布告

第五百十六條 財産ハ皆不動産又ハ動産ノ中ニアリトス

○第一章 不動産

第五百十七條 財産ハ其性質ニ因テ不動産タルモノアリ又ハ其用法ニ因テ不動産タル物アリ及ヒ權利ノ中ニ其目的ニ因テ不動産ト看做スモノアリ

第五百十八條 土地及ヒ建造物ハ其性質ニ因テ不動産トス

第五百十九條 牝ニ附着シテ建造物ノ一部ヲ為ス風車及ヒ水車ハ亦其性質ニ因テ不動産トス

第五百二十條 根有シテ地上ニ生シタル収納物及ヒ未ダ摘取セサル樹果モ亦同上ノ不動産トス

收納物ヲ刈取シ及ヒ樹果ヲ摘取シタル時ハ未ダ他所ニ搬運セスト雖モ之ヲ動産トス

若シ收納物ノ一部ヲ刈取シタル時ハ其一部ノミヲ動産トス

第五百二十一條 森林ノ所有者期限ヲ定メ伐出サントスル小樹及ヒ大木ハ其既ニ伐リ倒シタル物ノミヲ動産トス

第五百二十二條 借賃ヲ出シテ土地ヲ借受ル者又ハ收納物ノ一部ヲ出シテ土地ヲ借受ル者ニ其土地ノ所有者ヨリ其地ヲ耕ス可キ為メ貸與ヘタル獸類ハ其貸賃ノ有無ヲ問ハズ契約ニ循ヒ其獸類ヲ其地ニ留メ置ク間之ヲ不動産トス

土地ノ所有者ヨリ同上ニ非サル者ニ獸類ヲ貸與ヘタル時ハ其獸類ヲ動産ナリトス

第五百二十三條 家屋及ヒ其他ノ不動産ニ水ヲ灌漑スル水管ハ其不動産所屬ノ一部ニシテ亦之ヲ不動産トス

第五百二十四條 土地ノ所有者其地ヲ耕シ或ハ其地ニテ用フ可キカ為メ其土地ニ借ヘタル物ハ其用法ニ因テ不動

産トス故ニ

土地ヲ耕スニ用フル畝類

農具ノ器具

土地ヲ借リテ之ヲ耕シ借價又ハ其收納物ノ一部ヲ出ス者ニ與ヘタル種子類

倉倉中ニアル地

充倉中ニアル充

密蜂ノ巢

池沼中ノ魚

樽木、釜、蒸溜ノ器具、桶、樽ノ類

鑄造ノ器具、紙ノ製造及ヒ其他ノ製造ノ器具

糞及ヒ糞料

此等ノ品物ハ其所有者土地ヲ耕シ又ハ其土地ニテ用フ可キカ爲ノ備ヘタル時其用法ニ因テ不動産トス

如何ナル動産ト雖ヒ其所有者未ク之ヲ離分セサル方ヲ用ヒ不動産ニ附著シタル時ハ亦用法ニ因テ不動産トス

第五百二十五條 粘及ヒ石灰ヲ以テ動産ヲ不動産ニ附著シ又ハ其動産ヲ離分スル時ハ其動産又ハ不動産ノ一部ヲ

必ス毀壞シ又ハ損害ス可キ方ヲ以テ附著シタルニ於テハ其動産ノ所有者未ク之ヲ離分セシメザル方ヲ用ヒ不動

産ニ附著シタルモノト看做ス可シ

房室ノ玻璃板ノ格ヲ其屋財ト連合シタル時未ダ離分セシメザル方ヲ用ヒ備ヘタルモノト看做ス可シ但シ蓋類

及ヒ其他ノ裝飾ノ具モ亦此ノ如シ

立俵ハ之ヲ移動スルニ其屋財ヲ毀壞シ又ハ損害スルヲナシト雖ヒ特ニ之ヲ入置ク爲ノ壁ニ作タミ也等ニ在ル時

ハ之ヲ不動産トス

第五百二十六條

不動産ノ入額ヲ得ルノ權

土地ノ義務ヲ得ルノ權

不動産ヲ取戻サントスル訴訟ヲ爲スノ權

此等ノ權利ハ其目的ニ因テ之ヲ不動産ト看做ス可シ

第二章 動産

第五百二十七條 財產ハ其性質ニ因テ動産ト爲ス物アリ又ハ法律ニテ定メタル所ニ因リ動産ト爲ス物アリ

第五百二十八條 鳥類、獸類ノ如ク自カラ運行ヲ爲ス可キト無生物ノ如ク他力ニ因テ運行ヲ爲ス可キトヲ問ハス此

地ヨリ被地ニ搬運スルヲ得可キ物ハ其性質ニ因テ動産トス

第五百二十九條 人ヨリ金額又ハ動産ヲ得可キ契約及ヒ之ヲ得可キ訴訟ヲ爲スノ權又ハ錢糧、貿易、工作ノ會社ニ加

ハリタル股分及ヒ利益ハ其會社ニテ其興作ニ管シタル不動産ヲ所有シタルト雖ヒ法律ニ於テ定メタル所ニ因リ

之ヲ動産ト看做ス可シ但シ其股分及ヒ利益ハ其會社ノ存續スル時間ノ會社中各人ニ付テ之ヲ動産ト看做ス可シ

官府及ヒ平民ヨリ得可キ無期ノ年金 第三章 第十條 及ヒ學生、年金ハ法律ニテ定メタル所ニ因リ之ヲ動産トス

第五百三十條 千八百四年三月廿一日決定同月三十一日布告不動産ヲ買入レシ債ノ爲メ與フ可キ無期ノ年金又

ハ不動産ノ附與ヲ得タルニ代ヘテ出ス可キ無期ノ年金ハ之ヲ出ス可キ者ヨリ其元金ヲ皆湮スルヲ得可シ

然レ其年金ヲ得可キ者ハ元金算還ノ契約ノ箇條ヲ定ムルヲ得可シ

其年金ヲ得可キ者ハ三十年ヨリ多カラサル期限ノ後ニ非サレハ其元金ノ算還ヲ許サ、ルノ契約ヲ爲スヲ得可シ

但シ此定期ニ背キタル契約ハ之ヲ取消ス可シ

第五百三十一條 小艇、渡舟、船舶、船ニ在ル風車及ヒ水車、浴舟其他杖ニ附著シテ家屋ノ一部ヲ爲スニ非サル諸杖ノ證

具類ハ之ヲ動産トス然レモ此等ノ物件ハ重大ノモノタルニ因リ訴訟法ニ記スル所ノ如ク債主別段ノ法式ヲ行フ

テ之ヲ抵償ス可シ

第五百三十二條 建造物ヲ毀テ得クル物件及ヒ新ニ建造物ヲ管理ス可キ為メ集メタル物件ハ管理ノ為メ工丁ノ未タ用ヒサル間之ヲ動産トス

第五百三十三條 「ヨグアル」動産ノ意ニテ其ト云ヘル語ハ添辭ヲ用ヒス之ヲ法律又ハ人專ニ付キ用フル時金銀寶石貨額書籍費牌學藝及ヒ製造ノ器具、疋麻布、馬車兵馬、鞍、葡萄酒、枯草其他人獸ノ飲食料ヲ指シ言フコトナク亦畜養ノ品物ヲモ指シ言フコトナレ

第五百三十四條 「ヨグアル」ミウブレン 居室ニ備フルト云ヘル語ハ毛氈、臥床、椅子、鏡、自鳴鐘、卓子、陶器及ヒ居室ニテ使用スル此類ノ物及ヒ裝飾ト為ス物ノミヲ云フ
居室ノ家具ノ一部タル畫額及ヒ立像ハ「ミウブアル」ミウブレンノ中ニ算計ス可シ然レモ展畫ノ居室又ハ其他ノ居室内ニ集メタル畫額ハ其中ニ算入セス

又陶器ノ類モ居室ノ裝飾ノ一部タル物ノミヲ「ミウブアル」ミウブレンノ中ニ算入ス

第五百三十五條 「ヨグアル」動産ノ意ニテ其及ヒ「ヨグアル」同上或ハ「ヨグアル」モビリエールノ意ト云ヘル語ハ前數條第五百廿七條ニ記スル所ニ備ヒ動産ト為ス可キ物ヲ總括シテ云フ

動産ノ備ハリシ家屋ヲ賣拂ヒ又ハ贈與スト謂フ時「ヨグアル」ミウブレンノミヲ包テ言フトス

第五百三十六條 家屋ヲ其内ニ在ル諸品物ト共ニ賣拂ヒ又ハ贈與スト謂フト雖モ金額又ハ其屋内ニアル貨額ノ證券及其他ノ權利ヲ得可キ證券ヲ算入スルコトナシ但シ其他ノ「ヨグアル」モビリエールハ皆之ヲ算入ス

○第三章 財産ト之ヲ所有スル者トノ管係

第五百三十七條 何ノ人ト雖モ法律ニテ定メタル規則ヲ遵守スル時ハ己ニ屬スル所ノ財産自由ニ為スヲ得可シ

一人ニ屬セサル財産ハ其財産ノミニ付キ用テ可キ規則ニ備ヒ之ヲ支配シ及ヒ賣拂フ可シ

第五百三十八條 政府ニテ管轄スル所ノ道路、巷、街、市街、舟楫ヲ通ス可キ河川、海濱、海潮ノ進退ニ因リ出沒スル洲、汀、港

口、碇泊場及ヒ其他私ノ所有ト為ス可カラサル佛蘭西領地ノ部分ハ公領ノ所屬ナリト看做ス可シ

第五百三十九條 所有者ナキ財産及ヒ遺物相續人ナキ財産又相續人皆拋棄シタル財産ハ公領ニ附屬スルモノトス

第五百四十條 城塞ノ門、壁、壕、梁等ハ亦公領ノ一部トス

第五百四十一條 既ニ戰鬪ノ用ニ共セサル城塞中ノ地及ヒ壁、壕、梁ハ亦公領トス但シ官ヨリ之ヲ賣拂ヒ又ハ官ヨリ其所有者ニ對シ定期ノ時間訴訟ヲ為サハル時ハ格別ナリトス

第五百四十二條 「ヨグアル」ノ財産トハ一箇又ハ數箇ノ「ヨグアル」ノ住民相共ニ之ヲ所有ト為シ及ヒ其産物ヲ所得ト為ス可キ財産ヲ云フ

第五百四十三條 人財産ニ付キ其所有ノ權ヲ有スルアリ又其入額ヲ所得トスルノ權ヲ有スルアリ又土地ノ義務ノミヲ得可キノ權ヲ有スルアリ

○第二卷 所有ノ權 第八百四年 第四百廿七日 決定 第二月六日 布告

第五百四十四條 財産所有ノ權トハ法律規則ニ禁止スル方法ニテ財産ヲ用フルノ外十分自己ノ意ニ過シタル方法ヲ用ヒ財産ノ益ヲ得及ヒ財産ヲ取扱フノ權ヲ云フ

第五百四十五條 公ケノ利益ノ為メトシテ預メ相當ノ償ヲ得タルニ非レハ何人ヲ問ハス強テ其所有物ヲ奪ハル、コトナカル可シ

第五百四十六條 動産不動産間ハス財産所有ノ權アル時ハ天然又ハ人工ニ因テ其財産ヨリ生スル物及ヒ其財産ニ附加スル物モ亦所有スルノ權アリ

是ヲ知ケテ主ニ因テ從ヲ併スル權ト云

○第一章 財産ヨリ生スル物ニ付キ主ニ因テ從ヲ併スル權

第五百四十七條

天然又ハ人工ニ因リ地ヨリ生スリ利益法律上ニテ財産ヨリ得可キ利益土地家屋ノ貸額金銀
利息等ノ類ヲ云フ
蓄殖シタル獸類

此第ノ物ハ主ニ因リ從ヲ併スノ權ヲ以テ其財産ノ所有者ニ屬ス可シ

第五百四十八條 財産ヨリシテ生シタル益ハ其所有者他人ノ為シタル勞動耕耘種子ノ費用ヲ償ハサシハ已レノ所
有ト為ス可ラス

第五百四十九條 財産ヲ寄有スル者ハ信義ヲ以テ之ヲ有シタル時ノニ其財産ノ利益ヲ已ノ所得ト為スヲ得可シ
若シ信義ナク之ヲ有シタル時ハ其財産ト共ニ其財産ヨリ生シタル利益ヲ其真ノ所有者ノ要ニ應シ還與ス可シ
第五百五十條 人ヨリ財産ノ讓リ渡ヲ得シ證券ノ不正ナルヲ知ラスシテ其財産ヲ讓リ受ケ之ヲ已ノ有ト為シタル
時ハ信義ヲ以テ之ヲ寄有セシモノト為ス可シ
其證券ノ不正ナルヲ知リタル後猶之ヲ有スル時ハ信義ヲ寄有シタルモノト為ス可シ

第二章 財産ニ附加シ且合同スル物ニ付キ主ニ因テ從ヲ併スノ權

第五百五十一條 附屬財產附知シ且合同シタル物ハ如何ナル種類タルヲ問ハス次ニ記載スル所ノ規則ニ循ヒ其財産
ノ所有者ニ屬ス可シ

第五百五十二條 第一款 不動産ニ付キ主ニ因テ從ヲ併スノ權
土地ヲ所有ト為ス時ハ自カラ其地ノ上下ヲ所有ト為スノ權ヲ生ス

其地ノ所有者ハ此條ノ第四卷土地ノニ記スル所ノ除外地ニ自巳ノ欲スル所ノ種植造營為スヲ得可シ
又其所有者ハ礦坑ノ規則及ヒ取締ノ規則ニ定メタル所ヲ除外地ニ自巳ノ欲スル所ノ造營及ヒ窰穴等ヲ造
リ且其窰穴ヨリ生ス可キ物ヲ掘取ルヲ得可シ
第五百五十三條 地上及地下ニ在ル諸般ノ造營種植及ヒ窰穴ハ別段ノ設メタル時ノ外其地ノ所有者自巳ノ費用ヲ

以テ之ヲ為シテ其者ニ屬スルモノト看做ス可シ但シ他人其地ノ建築物ノ下ニ在ル地窖又ハ其建築物ノ一部ヲ定
期ノ時間所有シタル時ハ其者終ニ之ヲ所有ト為スノ權アリ

第五百五十四條 土地ノ所有者已ニ屬セサル品物ヲ用ヒ造營種植及ヒ土功ヲ為タル時ハ其品物ノ價ヲ拂フ可ク且
別段ノ處理アル時ハ其價金ヲ出ス可キノ言渡ヲ受テ可シ然レ其品物ノ所有者ハ其品物ヲ轉移スルノ權ナシ

第五百五十五條 土地ノ所有者ニ非サル人信義ニ依ラスシテ其地ヲ所有シ已ノ品物ヲ以テ種植造營及ヒ土功ヲ為
シタル時ハ其土地ノ真ノ所有者其種植造營及ヒ土功ヲ已ニ保有シ又ハ此諸般ノ工作ヲ為タル者ヲシテ強テ之ヲ
轉移セシムルノ權アリ

土地ノ真ノ所有者其種植造營土功ヲ廢毀セシメントスル時ハ其者價ヲ出スニ及ス其種植造營土功ヲ為シタル者
ヲシテ其費用ヲ以テ之ヲ廢毀セシメ且別段ノ處理アル時ハ其種植造營土功ヲ為シタル者其土地ノ所有者ノ受ケ
タル損失ノ價ヲ出ス可キノ言渡ヲ受テ可シ

若シ土地ノ真ノ所有者有此種植造營土功ヲ已ニ保有セント欲スル時ハ其種植造營土功ニ因リ地價ノ幾許ヲ増シ
ルヲ問ハス唯其種植造營土功ヲ為スニ用ヒタル品物ノ價及ヒ其工作ノ費用ノ價ノミヲ出ス可シ

土地ヲ有スルノ權ヲ失フト雖レ倍數ヲ以テ之ヲ寄有セシニ因リ其地ヨリ生シタル利益ヲ失ハサル者此種植造營
土功ヲ為シタル時ハ其土地ノ真ノ所有者其種植造營土功ヲ廢毀セシムルヲ得ス但シ其者ハ其種植造營土功ヲ
為タル者ニ其用ヒタル品物ノ價及ヒ工作ノ費用ヲ償ヒ又ハ其種植造營土功ニ因リ地價ノ増シタル額ヲ償フ自
由ナリトス

第五百五十六條 河川ノ傍側ニ知覺スルヲ得スシテ次第ニ増成セシ地ヲ名ケテ漸積ノ地ト云フ

漸積ノ地ハ河川ノ舟楫ノ通スルト否トヲ問ハス其傍側ニ在ル土地ヲ所有スル者ニ屬ス可シ但シ舟楫ヲ通ス可キ
河川ノ傍側ニ於テハ規則ニ循ヒ沿岸ノ小徑又ハ舟楫ノ津路ヲ餘シ置テ可シ

第五百五十七條 流水ノ知覺ヒサル中ニ此岸ヲ侵シテ彼岸ヲ退キ乾酒セシ地ヲ遺レ留ムル時ハ亦前條ニ記スル所

ニ均シク其乾涸セシ地ヲ其傍側ノ地ノ所有者ニ屬ス可シ但シ其對岸ノ地ノ所有者ハ其失ヒシ地ヲ取還ス可キノ
求メテ為スヲ得ス

海水ノ退キテ遺シ留メタル乾涸ノ地ニ付テハ此種ナリトス

第五百五十八條 湖池ニ付テハ漸積ノ地ヲ有スルコトナリトス但シ湖池ノ所有者ハ水量ノ減シタル時ト雖モ其満チ
タル時獲テ可キ地ヲ常ニ所有ス可シ

又沼池ノ所有者ハ其水ノ異常ニ滙流スル時獲テタル傍側ノ地ヲ所有スルノ權アリ

第五百五十九條 若シ河川ノ舟楫ヲ通スルト否トヲ問ハス若シ速ニ漲流シテ其傍側ノ地ノ不明ニ知り得可キ廣大
ノ一部ヲ裁割シ之ヲ下流又ハ對岸ノ地ニ移去シタル時ハ其裁割地ノ所有者猶モ其移去シタル地ヲ所有セ
ト要ムルコトヲ得可シ然モ其要メハ一年間ニ為ス可クシテ此定期ノ後ハ裁割セシ地ヲ其連合シタル土地ノ所有者
未タ已レノ所有ト為サ、ル時ノ外之ヲ為スヲ許サス

第五百六十條 舟楫ヲ通ス可キ河川中ニ生シタル島嶼洲渚ハ官ニ屬ス可シ但シ別段ノ證券アルニ付キ又ハ定期ノ
時間之ヲ有シタル者アリテ終ニ其所有ノ權ヲ得タル時ハ格別ナリトス

第五百六十一條 舟楫ヲ通ス可カラサル河川中ニ生シタル島嶼洲渚ハ其生シタル河川ノ土地ノ所有者ニ屬ス可シ
若シ其島嶼洲渚河川ノ一方ニ偏ラサル時ハ其河川ノ中央ヲ畫スル線ヲ分チ之ヲ兩岸ノ地ノ所有者ニ屬ス可シ

第五百六十二條 若シ河川ノ新タニ支流生シ河川ノ地ヲ裁割シテ之ヲ環繞シ島ト為シタル時ハ其島舟楫ヲ通
可キ河川中ニ生シタル時ト雖モ其地ノ所有者ニ屬ス可シ

第五百六十三條 舟楫ヲ通スルト否トヲ問ハス河川其故道ヲ去テ新決ノ道ヲ為ス時ハ新タニ河水ノ侵入セン地ノ
所有者其價ノ為メ各其失ヒシ地ノ割合ヲ以テ故道ノ地ヲ所有ス可シ

第五百六十四條 漁魚ノ從來棲息シタルニ非サル處舍允舎池沼ニ移接セン時ハ許計ヲ以テ誘導シタルノ外之ヲ
其移接セ處舍允舎池沼ノ所有者ニ屬ス可シ

○第二款 動産ニ付キ主ニ因テ從テ併スノ權

第五百六十五條 所有者二人ニ屬シタル二箇ノ動産ニ管スル主ニ因テ從テ併スノ權ハ全ク天然公平ノ道ニ順フ可
シ然レモ次ノ規則ハ其時ノ景状ニ從ヒ裁判役ノ考案ノ為メ之ヲ用フ可シ

第五百六十六條 所有者ノ異レル二箇ノ品物互ニ連合シテ一物ヲ為スト雖モ之ヲ離分シテ猶モ各全存ヲ得可キ時ハ
其主品ノ所有者附品ノ所有者ニ價ヲ償ヒ其全部ヲ所有ト為スヲ得可シ

第五百六十七條 使用裝飾補成ノ為メ他物ヲ附添シタル元品ヲ主品トス
第五百六十八條 然モ附品ノ價主品ノ價ヨリ大ニ貴クシテ且其附品ノ所有者之ヲ附添シタルコトヲ知ラザリシ時ハ
其連合セシ主品ヲ差毀損スルコトアリト雖モ附品ノ所有者之ヲ離分シ已ニ還サンム可キノ要メヲ為スヲ得可シ

第五百六十九條 若シ連合シテ全部ヲ為シタル二箇ノ品物中ニ何レノ主品ト為シ何レノ附品ト為ス可キノ分明
ナラサル時價ノ貴キ物ヲ以テ主品ト看做シ又其價ノ賤クシキ時ハ形ノ大ナル物ヲ以テ其主品ト看做ス可シ

第五百七十條 若シ工丁及ヒ其他ノ人已ニ屬セサル品物ヲ用ヒ新ナル物ヲ造リシ時ハ其品物ノ舊ニ復スルヲ得可
キト否トヲ問ハス其品物ノ所有者工價償之ヲ已レノ所有ト為スヲ要ムルノ權アリ

第五百七十一條 然モ工價ノ額許多ニシテ其用タル品物ノ價ヨリモ更ニ貴キ時ハ其工價ヲ以テ主ト為シ工丁ヨリ
其品物ノ所有者ニ其品物ノ價額ヲ償ヒ製造ノ品物ヲ以テ已レノ所有ト為スノ權アリ

第五百七十二條 已ニ屬スル品物ト已ニ屬セサル品物トヲ併用シテ新ナル品物ヲ造リ其二箇ノ品物全ク其本質ヲ
失フコトナシ雖モ不離スル時ハ必ス之ヲ損ス可キノ於テハ其所有者二人ニテ共ニ其製造ノ品物ヲ所有ス可シ但

シ其一人ハ已ニ屬スル品物ノ三ニ付テノ權ヲ有シ又一人ハ已ニ屬スル品物ト其工價トニ付テノ權ヲ有ス可シ

第五百七十三條 數人ノ所有者ニ屬スル數箇ノ品物ヲ連合シテ一箇ノ品物ヲ造リ其數箇ノ品物中ニ主品ト看做ス
可キ物ナクシテ離令スルを得可キ時ハ其數人中ニテ已ニ屬スル品物ノ連合シタルヲ知ラサル者ヨリ之ヲ離令セ
ント要ムルコトヲ得可シ

若シ其品物ヲ離分シテ之ヲ損ス可キ時ハ其數人ノ所有中各人ニ屬シタル品物ノ性質、分量、價額ノ割合ヲ以テ其數造ノ品物ヲ共同シテ所有ス可シ

第五百七十四條 然レ其數人ノ所有者中ノ一人ニ屬スル品物ノ分量及ヒ價額他ノ所有者ニ屬スル品物ニ數倍シタル時ハ其品物ヲ所有スル者他ノ品物ノ所有者ニ其價額ヲ償ヒ其連合シテ造リタル品物ヲ已ノ所有トセント要ムルコトヲ得可シ

第五百七十五條 數箇ノ品物ヲ以テ新ニ造リタル物ヲ其所有者數人ニテ相共ニ所有ト爲ス時ハ其數人ノ利益ノ爲メ之ヲ價額ト爲ス可シ

第五百七十六條 品物ノ所有者知ルコトナク他人其品物ヲ用ヒテ他種ノ品物ヲ造リシニ因リ其所有者其物ナル品物ヲ所有セント要ムルコトヲ得可キ時ハ其書物ト同種、同形、同量、同質ノ物ヲ取戻サントスルコト又ハ其價額ヲ取戻サントスルコトヲ得可シ

第五百七十七條 新ニ品物ヲ製造スルニ他人ニ屬スル品物ヲ其所有者ニ知ラシメスレテ用ヒタル者其所有者ニ其價額ヲ償フ可キノ道理アル時ハ之ヲ拂フ可キノ言渡ヲ受ク可シ但シ其他別段ノ道理アル時ハ其品物ノ所有者犯罪ノ訴訟ヲ爲スコトヲ得可シ

○第三卷 入額ヲ所得ト爲スノ權
ニ屬スル家屋ノ權千八百四年第一月三十日決定第二月九日布告
ニ住ス可キ權
○第一章 入額ヲ所得ト爲スノ權

第五百七十八條 入額ヲ所得ト爲スノ權トハ他人ノ所有スル物件ヲ保存シテ所有者ニ等シク其物件ノ入額ヲ得可キノ權ヲ云

第五百七十九條 入額ヲ所得ト爲スノ權ハ法律ニ因テ之ヲ生スルコトアリ又ハ各人ノ意ニ因テ之ヲ生スルコトアリ

第五百八十條 入額ヲ所得ト爲スノ權ハ或ハ別段ノ約定ナク或ハ期限ヲ定メ或ハ別段ノ約定ヲ爲シテ之ヲ生ス可シ

第五百八十一條 同上ノ權ハ動産及ヒ不動産ノ各權ニ付テ生ス可シ

○第一款 入額ヲ所得ト爲ス者ノ權
第五百八十二條 入額ヲ所得ト爲ス者ハ其物件ヨリ生ス可キ天然ノ利益、人工ノ利益、法律上ノ利益ヲ得ルノ權アリ

第五百八十三條 天然ノ利益トハ土地ヨリ自然ニ生スル利益ヲ云フ○賦類ヨリ生スル物件及ヒ増殖シタル賦類モ亦天然ノ利益ナリトス

土地ノ人工ノ利益トハ土地ニ植付テ爲シテ得タル所ノ利益ヲ云フ

第五百八十四條 法律上ノ利益トハ家屋ノ賃借、賃額ノ應得、年金ノ額ヲ云フ

土地ノ賃借モ亦法律上ノ利益中ニ算入ス可シ

第五百八十五條 入額ヲ得ル權ヲ得タル時、木ノ枝根ニ附着セシ天然及ヒ人工ノ利益トナル可キ物ハ其權ヲ得タル者ニ屬ス可シ又其權ノ終リシ時其枝根ニ附着シタル天然及ヒ人工ノ利益トナル可キ物ハ土地ノ所有者ニ屬ス可シ但シ雙方ノ者ハ其勞動及ヒ種子ニ付キ互ニ償ヲ得ント要ム可カラズ又入額ヲ得ル權ヲ得タル時及ヒ其權ノ終リシ時其土地ノ收買物ノ一部ヲ得可キ借主アル時ハ其借主其枝根ニ附着セシ物ノ一部ヲ得可キ權ハ差支トナルコトナカル可シ

第五百八十六條 法律上ノ利益ハ日毎ニ之ヲ得ルモノナリト看做シ入額ヲ所得ト爲ス者其權ヲ有スル時間ニ准シ其利益ヲ得可シ○此規則ハ家屋ノ賃借、土地ノ賃借及ヒ其他ノ法律上ノ利益ニモ亦適當シテ用フ可シ

第五百八十七條 入額ヲ得ル權ヲ得タル可キ物件中ニ金銀、穀物、飲料ノ如ク之ヲ用フル時ハ必ス其盡ス可キ物アル時ハ其權ヲ得タル者之ヲ用フルコトヲ得可シト雖モ其權ノ終リニ至リテ其盡シタル物ト同量、同質、同價ノ物又ハ其評價シタル金額ヲ償還ス可シ

第五百八十八條 學生間ノ年金ヲ得可キ元金ニ付テ入額所得ノ權ヲ得タル者ハ其權ノ終リニ至ル迄其年金ヲ全ク
已レノ所得トス可シ

第五百八十九條 入額ヲ所得ト為ス可キ物件中ニ麻布類及ヒ「ユウブル、ユウブラン」ノ如ク直ニ耗盡スルコトナシト雖
モ使用スルニ因リ漸ニ損敗ス可キ物アル時ハ其權ヲ得タル者其物品ノ當然ノ用法ニ用フルコトヲ得可ク且其權ノ
終リニ至リ其時ノ儘ヲ以テ之ヲ選スコトヲ得可シ但シ惡意又ハ過失ニ因テ之ヲ損敗シタル時ハ格別ナリトス

第五百九十條 土地ノ利益ヲ所得ト為ス可キ物件中ニ時々伐出ス可キ小樹アル時ハ其入額ヲ得可キ者其所有者ノ
定メタル方法及ヒ習慣ニ從ヒ其伐出ス可キ樹木ノ順序及ヒ分量ヲ定ム可シ但シ入額ヲ得可キ者其權ヲ有スル時
間時々伐出ス可キ小樹又ハ船舶製造ノ為メ特ニ殘シタル小樹ヲ其權ノ終リニ於テ伐出スコトナキ時ト雖モ其者及
ヒ其遺物相續人ニ其所有者ヨリ償還ヲ為スニ及ハサル可シ

土地ノ入額ヲ得可キ者培樹場ヲ損傷セシメテ其場中ヨリ移植スルコトヲ得可キ小樹ヲ已ニ得シトスルニハ必ス其
移植シタル樹ニ換ヘ他樹ヲ植ルコトニ付テ其地ノ習慣ニ從フ可シ

第五百九十一條 又土地ノ所有者期限ヲ定メ伐出サントシタル大木ハ定メシ地ノ一部ニ生シタルモノヲ伐ル可キ
ト其地ノ全部ニ於テ樹木ノ區別ヲ為サス其定數ヲ伐出ス可キトテ間ハ土地ノ入額ヲ得可キ者其所有者ノ定メ
タル期限ト其習慣トニ從フテ常ニ之ヲ已レノ所得ト為スコトヲ得可シ

第五百九十二條 其他ノ大木ハ土地ノ入額ヲ得ル者之ヲ已レノ所得ト為ス可カラズ唯其者ノ為ス可キ修復ノ為メ意
外ノ事ニ因テ倒臥レ或ハ摧折シタル大木ヲ用フルコトヲ得可シ但シ修復ノ為メ必用ナル時ハ故テニ其樹木ニ伐倒
スコトヲモ為シ得可シト雖モ其者ハ土地ノ所有者ニ其必用ナルノ證ヲ立テサルヲ得ス

第五百九十三條 土地ノ入額ヲ所得ト為ス者ハ森林中ニテ葡萄架ニ用フ可キ木ヲ取用シ及ヒ樹木ヨリ炭々又ハ時
々生スル物ヲ採收スルコトヲ得可シ但シ此等ノ諸件ヲ為スニ付テハ其地ノ習慣及ヒ所有者ノ定則ニ循フ可シ

第五百九十四條 菓樹ノ乾枯レ又ハ意外ノ事ニ因テ倒臥レ及ヒ摧折シタル時ハ土地ノ入額ヲ得ル者之ニ代メテ他
ノ菓樹ヲ植ヘ其乾枯又ハ倒折セシ菓樹ヲ已レノ所有者ト為スコトヲ得可シ

第五百九十五條 入額ヲ所得ト為ス者ハ其權ヲ自カラ保有レ又ハ償ヲ得テ他人ニ貸與ヘ又ハ其權ヲ賣拂ヒ又ハ償
ヲ得シテ他人ニ讓リ與フルコトヲ得可シ○若シ其權ヲ償ヲ得テ他人ニ貸與フル時ハ其約定ヲ結ビ直ス可キ
期限及ヒ約定ノ存續ス可キ時間ニ付テ第三篇第五卷第六節及ヒニ記スル所ノ如ク夫其婦ノ財産ヲ取扱フコ
トニ付テ定メタル規則ニ循フ可シ

第五百九十六條 土地ノ入額ヲ所得ト為ス者ハ土地ノ漸積第五百五十六條ニ詳ナリニ因リ増殖シタル部分ノ入額ヲモ亦所得
ト為ス可シ

第五百九十七條 土地ノ入額ヲ所得ト為ス者ハ人ニ土地ノ義務ヲ行ハシム可キノ權土地通行ノ權及ヒ其他所有者
ノ得可キ權ヲ得可シ但シ其權ヲ得ルノ方法モ亦所有者ニ均シトス

第五百九十八條 又土地ノ入額ヲ所有ト為ス者ハ其權ヲ得タル時穿開シタル金屬ノ礦及ヒ石礦ヲ所有者ニ均シク
已レノ益ト為スコトヲ得可シ然レ政府ノ免許ヲ得ルニ非レハ穿開ス可カラサル金屬ノ礦及ヒ石礦ニ付テハ皇帝ノ允
許ヲ得シ後ノ外之ヲ已レノ益ト為スコトヲ得ス

其者ノ權ヲ得タル時尙未タ穿開セサル金屬ノ礦及ヒ石礦又ハ未タ掘出サ、ル泥炭ノ地又ハ其權ヲ有スル時間ニ
見出ス可キ財寶ハ已レノ益ト為スノ權ナシ

第五百九十九條 所有者ハ自己ノ所為ニ因リ又ハ其他何ノ方法ヲ用アルヲ論セス入額ヲ得可キ者ノ權利ヲ害ス可
カラズ

入額ヲ得可キ者ハ其權ヲ有スル時間物件ヲ良好ニ為レ其價増加シタルト雖モ其權ノ終リシ時其償ヲ求ム可カラズ
然レ入額ヲ得可キ者及ヒ其遺物相續人ハ準備ヘ置キタル鏡蓋額及ヒ其他ノ裝飾物ヲ移轉スルコトヲ得可シ但シ此
諸品ヲ備ヘ置キタル場所ハ之ヲ其以前ノ形状ニ復ス可シ

○第二款 入額ヲ所得ト為ス者ノ義務

第六百條 入額ヲ所得ト爲ス者ハ物件ノ其景状ノ儘ニテ受取ル可シ然レ其所有者ノ面前入ハ其面前ニ非スト雖モ

法律ニ循ヒ其所有者ヲ呼出シタル後動産ノ目錄及ヒ不動産ノ模様書ヲ記セサレハ其入額ヲ所得ト爲スヲ得ス

第六百一條 入額ヲ所得ト爲ス者ハ其權ヲ得ルノ證書ニ因リ別條免許ヲ得タルニ非レハ其物件ヲ毀損セサルノ保

證ヲ立ツ可シ然レ父母法律ニ循ヒ其子ノ財産ノ入額ヲ所得ト爲ス時又ハ物件ノ所有者按ニ其入額ヲ得可キノ約

束ヲ以テ之ヲ賣リ又ハ贈リタル時ハ格別ナリトス

第六百二條 入額ヲ所得ト爲ス者其保證ヲ立ルヲ能ハサル時ハ其不動産ヲ他人ニ貸與ヘ又ハ他人ニ附托シ又其金

額ハ息銀ヲ得可キ爲メ之ヲ使用シ又其商品ハ之ヲ賣拂ヒ其賣拂ニ因リ得タル所ノ金額モ亦息銀ヲ得可キ爲メ使

用ス可シ

此等ノ金額ノ息銀及ヒ不動産ノ賃價ハ入額ヲ所得ト爲ス者ニ屬ス可シ

第六百三條 入額ヲ所得ト爲ス者其保證ヲ立ルヲナキ時ハ其所有者動産中ニテ使用スルニ因リ損敗ス可キ物件ヲ

賣拂ヒ其賣拂ニ因リ得タル所ノ金額ヲ商品ノ金額ニ均シク息銀ヲ得可キ爲メ使用スルヲ得可シ但レ此場合ニ

於テハ入額ヲ得可キ者其權ヲ有スル時間其金額ノ息銀ヲ得可シ然レ入額ヲ得可キ者自カラ管ヲ爲シテ證ヲ立

テ已ノ用フルニ必要ナル動産ノ一部ヲ殘置シ置ク可キヲ裁判後其時ノ景状ニ從ヒ之ヲ允許スルヲ得可シ

但レ入額ヲ得可キ者ハ其權ノ終ニ至リ其物件ヲ還ス可シ

第六百四條 入額ヲ所得ト爲ス者其保證ヲ立ツルヲ遲延スト雖モ其者入額ヲ得可キノ權ヲ得タルヨリ以未得可

キ所ノ利益ヲ失フコトナレ

第六百五條 家屋ノ入額ヲ所得ト爲ス者ハ其小補理ノミヲ爲ス可シ

修復ハ所有者ニテ之ヲ爲ス可シ但レ入額ヲ得可キ者其權ヲ得タル後必要ナル小補理ヲ爲スニ起リ家屋ノ損壞レ

タル時ハ入額ヲ得可キ者其修復ヲ爲ス可シ

第六百六條 修復トハ牆壁及ヒ天井ヲ修理シ梁椽及ヒ屋蓋ノ全部ヲ改造スル事并ニ壕堤境圍家屋ヲ支持スル壁ノ

全部ヲ改造スル事其他ノ修理ハ皆小補理ナリトス

第六百七條 歲月ヲ經タルニ因リ自カラ崩潰シタル建造物及ヒ意外ノ事ニ因リ損敗シタル建造物ハ其所有者及ヒ

其入額ヲ得可キ者共ニ之ヲ改造スルニ及ハス

第六百八條 土地ノ入額ヲ所得ト爲ス者之ヲ得ル時間ハ其税銀ヲ納メ其定例ニ因リ其入額中ヨリ償フ可キ毎歲ノ

費用ヲ拂フ可シ

第六百九條 財産ノ入額ヲ所得ト爲ス時間ニ其財産所有ノ權ニ付キ官ニ出ス可キ金額ハ其所有ト其入額ヲ所得ト

爲ス者トニテ左ノ如ク之ヲ出ス可シ

所有者ハ其金額ヲ拂ヒ入額ヲ所得ト爲ス者ハ其息銀ヲ所有者ニ算計ス可シ

若シ入額ヲ所得ト爲ス者其金額ヲ出シタル時ハ其入額所得ノ權ノ終ニ至リ時其母銀ヲ取還ス可シ

第六百十條 遺囑ヲ爲ス者ヨリ入ニ畢生間ノ年金又ハ養料ヲ贈遺トシテ與ヘタル時ハ其遺物ノ入額ノ全部ヲ得可

キノ權ヲ相續シタル者其年金又ハ養料ノ全額ヲ償フ可シ又其遺物ノ入額ノ一部ヲ得可キノ權ヲ相續シタル者ハ

其入額ノ割合ヲ以テ其年金又ハ養料ヲ償フ可シ但レ此等ノ者ハ遺物所有ノ權ヲ相續シタル者ヨリ其金額ヲ償還

セシムルヲ得ス

第六百十一條 遺囑者ノ不動産中ニテ別段定メタル一物ノミノ入額所得ノ權ヲ相續シタル者ハ其不動産ノ全部ヲ

賣物ト爲タル債ヲ償フニ及ハス若シ其者已ムコト得ズレバ其債ヲ償フタル時ハ其不動産所有ノ權ヲ相續シタル

者ヨリ之ヲ取還ス可シ但レ第六百二十條ニ記載スル所ハ格別ナリトス

第六百十二條 遺囑者ノ財産入額ノ全部ヲ得可キノ權ヲ相續シタル者又ハ其一部ノミヲ得可キノ權ヲ相續シタル

者ト其財産所有ノ權ヲ相續シタル者ト共ニ遺物ニ屬シタル員債ヲ償フ可キ方法左ノ如シ

同上ノ者ハ先ツ入額ヲ得可キ不動産ノ債ヲ算計シ其割合ヲ以テ各擔當ス可キ員債ノ額ヲ定ム可シ

又不動産ノ入額所得ノ權ヲ相續シタル者其不動産ノ割合ヲ以テ償フ可キ員債ノ額ヲ拂フ時ハ其入額所得ノ權ノ

終リニ至リ恩銀ヲ得ルコトナシ其母銀ノ償還ヲ得可シ

若シ又其入額所得ノ權ヲ相續シタル者其不動産ニ付テノ負債ヲ拂フコト承諾セタル時ハ其不動産所有ノ權ヲ相續シタル者其負債ノ額ヲ拂ヒ入額ヲ得ル者ヲシテ其權ヲ有スル時間其恩銀ヲ算計セシメ又ハ其不動産ニ屬シタル負債ノ額ニ至ル迄其不動産ノ一部ヲ賣拂フ事ヲ爲シ得可シ

第六百十三條 財産ノ入額ヲ所得ト爲ス者ハ其入額ヲ得ルニ管保シタル訴訟ノ費用ト其訴訟ニ因リ言渡サル可キ償金トヲ已ニ擔當ス可シ

第六百十四條 不動産ノ入額ヲ所得ト爲ス時間ニ他人其不動産ノ一部ヲ掠奪シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ所有者ノ權利ヲ害スル時ハ其入額ヲ得ル者ヨリ其由ヲ其所有者ニ報知ス可シ若シ其事ヲ報知セシテ其所有者ノ爲メノ損害ノ生シタル時ハ其入額ヲ得ル者之ヲ償フ可キト猶其者ノ自ラ其所有者ニ損害ヲ加ヘタル時ト同一ナリ

第六百十五條 一頭ノ獸ニ付キ入額所得ノ權ヲ得タル後其者ノ過失ニ非ズメ其獸ノ死セシ時ハ其者ヨリ其獸ニ代ヘ他ノ獸ヲ還與シ又ハ其價ヲ償フニ及ハス

第六百十六條 數頭ノ獸類ニ付キ入額所得ノ權ヲ得タル後其者ノ過失ニ非ズレテ意外ノ事又ハ疾病ニ因リ其獸ノ盡ク死スル時ハ其者ヨリ其所有者ニ其皮又ハ皮ノ價ヲ還與スルコトノミヲ必要トス

若シ其數頭ノ獸類ノ中一部ノ死シタル時ハ入額ヲ得可キ者此迄其獸類ノ増殖シタル數ニ至ル迄其死シタル獸類ノ數ヲ補フ可シ

第三款 入額ヲ所得ト爲ス權ノ終ル方法

第六百十七條 入額所得ノ權ハ左ノ方法ニテ終ル可シ

入額ヲ所得ト爲ス者ノ死去スル事准死トナル事及ヒ入額ヲ所得ト爲ス可キコトヲ許セシ期限ノ終ル事

入額ヲ所得ト爲スノ權ト所有ノ權トヲ一人ニテ併セタル事

入額ヲ得可キノ權ヲ三十年間行ハサル事

入額ヲ得可キ財産ノ全ク滅盡スル事

第六百十八條 又入額ヲ所得ト爲ス者其不動産ヲ毀壞シタル事及ヒ修理ヲ加ヘスレテ其不動産ヲ損敗セシメタル事ニ因リ其權ヲ行フニ付テノ過失アル時ハ其權終ル可シ

入額ヲ得可キ者ノ行ヒシ毀壞ヲ修繕セントシ且以後其者ノ保証者トナル可キコトヲ訴フルヲ得可シ但シ裁判役ハ其時ノ景狀ニ從ヒ其入額ヲ得可キノ權ノ全ク終ル可キコトヲ言渡シ或ハ入額ヲ得可キ者及ヒ其債主ニ其權ノ終

リニ至ル迄其所有者ヨリ毎歲定數ノ金額ヲ償フ可キノ約定ヲ爲シテ其財産ノ入額ヲ其所有者ニ償フ可キコトヲ言渡ス可シ

第六百十九條 一人ニ與ヘサル入額所得ノ權ニ與ヘタル權ヲ云フハ其期限三十年ヨリ多カラサル可シ

第六百二十條 甲ノ定リシ齡ニ至ル迄乙ニ與ヘシ入額所得ノ權ハ甲ノ定リシ齡ニ至ラステ死去シタル時ト雖モ預メ定メタル期限ニ至ル迄繼續ス可シ

第六百二十一條 入額ヲ得可キ者アル財産ヲ其所有者ノ賣拂ヒタル時ト雖モ其入額ヲ得可キ者ノ權ニ變更アルコトナシ但シ其者別段其權ヲ拋棄スルコトヲ過ヘタル時ハ格別ナリトス

第六百二十二條 入額ヲ所得ト爲ス者其權ヲ拋棄シテ債主ノ損害トナル可キ時ハ債主其者ノ其權ヲ拋棄スル證書ヲ取消ト爲スコトヲ得可シ

第六百二十三條 入額ヲ所得ト爲ス可キ財産ノ一部ノ滅盡シタル時ハ猶其存在セル一部ニ付キ入額ヲ得可キノ權ヲ保有ス可シ

第六百二十四條 若シ家屋ノ三ニ付キ入額ヲ得可キノ約アリテ其家屋火災及ヒ其他意外ノ事ニ因リ滅盡シタル時又ハ歲月ヲ經タルニ因リ損壞シタル時ハ其家屋ノ地及ヒ屋財ニ付キ入額ヲ得ルノ權ナシ

又家屋土地其他一切ヲ合併シテ入額ヲ得可キノ約アル時ハ同上ノ場合ニ於テ其家屋ノ土地及ヒ屋財ノ入額ヲ得サルノ權アリ

第二章 ヲザルノ權及ヒアビシクシラシノ權

第六百二十五條 ヲザルノ權及ヒアビシクシラシノ權ハ之ヲ得及ヒ失フノ方法入額所得ノ權ト同一ナリトス
第六百二十六條 預ノ保證ヲ立テ且不動産ノ模様書及ヒ動産ノ目録ヲ記スル事ナキ時ハニエナリトスノ權及ヒアビシクシラシノ權ヲ得ルヲ能ハサル權入額所得ノ權ヲ得ルヲ能ハサルト同一ナリトス

第六百二十七條 ヲザルノ權ヲ得ル者及ヒアビシクシラシノ權ヲ得ル者ハ其財産ヲ毀損破壊スルニナクシテ之ヲ用フ可シ
第六百二十八條 ヲザルノ權及ヒアビシクシラシノ權ハ其權ヲ與フルノ證書ヲ以テ之ヲ定ムルモノニシテ其證書ニ記スル所ニ依リ其權ノ輕重ヲ定ム可シ

第六百二十九條 若シ證書ニ其權ノ輕重ヲ定ムルヲナキ時ハ左ノ如ク之ヲ定ム可シ
第六百三十條 不動産ヨリ生スル利益ニ付キニエナリトスノ權ヲ有スル者ハ自己ト家族トノ為ニ必要ナル所ノニエテ要ムルヲ得可シ

第六百三十一條 ヲザルノ權ヲ得タル後ニ生レタル子ノ為ニ必要ナル所モ亦不動産ノ利益中ヨリ得ルヲ得可シ
第六百三十二條 家屋ニ付キアビシクシラシノ權ヲ有スル者ハ其權ヲ譲リ與ヘ又ハ貸與フ可カラス
第六百三十三條 家屋ノ為ニ必要ナル部分ヲ用フルヲ得可シ

第六百三十四條 アビシクシラシノ權ハ其權ヲ得タル者ト其家族トノ居住ノ為ニ必要ナル所ノニ限ル可シ
第六百三十五條 ヲザルノ權及ヒアビシクシラシノ權ヲ有スル者不動産ヨリ生スル利益ノ全部ヲ已ニ所得ト爲シ或ハ家屋ノ全部ヲ使用スル時ハ入額ヲ所得ト爲ス者ニ同シテ植附ノ費用ヲ拂ヒ家屋ノ小補理ヲ爲シ及ヒ税銀ヲ出ス可シ

若シ不動産ヨリ生スル利益ノ一部ノニエテ所得ト爲シ或ハ家屋ノ一部ノニエテ使用スル時ハ其所得ト爲シ或ハ使用シタル割合ヲ以テ其植附ノ費用ヲ拂ヒ家屋ノ小補理ヲ爲シ税銀ヲ出ス可シ

第六百三十六條 森林ノヲザルノ權ハ別段ノ法則ヲ以テ之ヲ定ム

○第四卷 土地ノ義務(千八百四年一月三十一日決定第二月十日布告)

第六百三十七條 土地ノ義務トハ一ノ所有者ニ屬スル不動産ノ便利ノ為メ他ノ不動産ニ屬スル義務ヲ云フ

第六百三十八條 土地ノ義務ニ因リ一ノ不動産他ノ不動産ニ優リタル等位ヲ得可カラス

第六百三十九條 土地ノ義務ハ或ハ其地ノ天然ノ位置ヨリ生シ或ハ法律ニテ定ムル所ヨリ生シ或ハ所有者ノ間ニ互ニ結ヒタル契約ヨリ生ス

○第一章 地ノ位置ヨリ生スル義務

第六百四十條 低下ノ地ハ高阜ノ地ヨリ人工ヲ用ヒス自然ニ流下スル水ヲ受ク可キノ義務アリ

低下ノ地ノ所有者ハ此流下スル水ヲ防ク可キ為メ堤ヲ築ク可カラス

高阜ノ地ノ所有者ハ低下ノ地ノ義務ヲシテ重罰ヲシム可キ事ヲ可カラス

第六百四十一條 已ノ土地内ニ水源ヲ有スル者ハ隨意ニ之ヲ用フルヲ得可シ但シ低下ノ地ノ所有者證書ニ因リ又ハ定期ノ時間其水源ヲ用ヒタルニ因リ得タル所ノ權利アキ時ハ格別ナリトス

第六百四十二條 此場合ニ於テ低下ノ地ノ所有者歳月ヲ限定シテ此權利ヲ得ントスルニハ自己ノ土地内ニ水ノ流下スルヲ容易ナラシムルヲ明白ナル造營土功ヲ為シ終リシ時ヨリ三十年間絶セズ其水源ヲ用ヒタルヲ必要トス

第六百四十三條 水源ノ所有者ヨリニエナリトス又ハ村落ノ住民ニ必要ナル水ヲ給スル時ハ其水路ヲ更改ス可カラス

然レ其住民等別段ノ契約ニ因リ其水ヲ用フルノ權ヲ得タルヲナク又ハ定期ノ時間之ヲ用ヒ終ニ其權ヲ得タルニ非サル時ハ水源ノ所有者其水ノ價ヲ得ント要ムルヲ得可シ但シ其價ハ評價人ノ立會ヲ以テ之ヲ定ム可シ

第六百四十四條 第五百三十八條(財産區ニ公領ノ附屬ト定メシモノニ非サル流水ノ傍側ニアル土地ノ所有者

已ノ土地ヲ潤ス可キ為メ其水路ニ於テ水ヲ用フルヲ得可シ

其流水ノ通過スル土地ヲ所有スル者ハ其通過スル場所ニ於テ其水ヲ隨意ニ用フルヲ得可シ然レ其地内ヨリ流レ出ル水口ニ於テハ必ス之ヲ當然ノ水路ニ復ス可シ

第六百四十五條 若シ其水ヲ以テ利益ト為ス土地ノ所有者數人ノ間ニ訴訟ノ生スル時ハ裁判所ニテ其土地ヲ所有スル權ヲ保護ス可キ道理ト農業ノ利益トヲ斟酌シテ裁判ヲ言渡シ且何ノ場合ニ於テモ水路ノ事及ヒ水ヲ用フル事ニ付キ其各地ノ別段ナル規則ニ循フ可シ

第六百四十六條 何人ヲ問ハス土地ノ所有者ハ其近隣ノ者ヲシテ相接シタル土地ニ繞圍ヲ造ラシムルヲ得可シ

○其繞圍ノ費用ハ雙方ヨリ之ヲ償フ可シ

第六百四十七條 何人ヲ問ハス土地ノ所有者ハ第六百八十二條ニ記シタル所ヲ除クノ外其所有スル土地ニ繞圍ヲ造ルヲ得可シ

第六百四十八條 繞圍ヲ造ラント欲スル土地ノ所有者ハ其繞圍ヲ造ル地ノ割合ヲ以テ數人ノ相互ニ用フル地ニ欲類ヲ牧畜スルノ權ヲ失フ可シ

○第二章 法律ニテ定メタル土地ノ義務

第六百四十九條 法律ニテ定メタル土地ノ義務ハ國ノ利益又ハ公ニシテノ利益又ハ一人ノ利益目的タル所ヲ第六百五十條 國ノ利益又ハ公ニシテノ利益ノ為メ定メタル土地ノ義務ハ舟楫ヲ通ス可キ河川ノ傍側ニ舟楫ノ牽路ヲ設ケ置ク事及ヒ道路ヲ造リ又ハ道路ヲ修理スル事及ヒ其外國又ハ公ニシテノ利益ニ管スル土功造營ヲ為ス事ヲ目的トス

此類ノ土地ノ義務ニ管シタル諸件ハ格別ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六百五十一條 土地ノ所有者互ニ結ヒタル契約ノ外法律ヲ以テ土地ノ所有ノ間ニ互ニ數箇ノ義務ヲ生ス

第六百五十二條 其義務ノ一部ハ田野取締ノ規則ニ因テ之ヲ定ム

其他ノ義務ハ雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ牆壁及ヒ溝渠ニ管シ又近隣ノ地ヲ望下スル事及ヒ溝渠ニ管シ又ハ土地通行ノ權ニ管ス

○第一款 雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ牆壁及ヒ溝渠

第六百五十三條 都會及ヒ田野ニ於テ他家屋ト高キ家屋ト依著スル盡頭ノ所ニ至ル迄家屋ヲ分界シタル牆壁又ハ二箇ノ内庭及ヒ園圃ノ分界牆壁又ハ田野中ニ繞圍ヲ為シタル二箇ノ地ヲ分界シタル牆壁ハ之ヲ雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ牆壁ト看做ス可シ但シ之ニ反シタル證書及ヒ憑據アル時ハ格別ナリトス

第六百五十四條 若シ牆壁ノ頂ノ一方斜直ニシテ一方斜面ナル時ハ雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ牆壁ニ非サル憑據アリトス

又牆壁ヲ造ル時施シタル牆簷又ハ塔兩及ヒ牆簷ノ受ケ木ノ一方ノミニアル時ハ亦同上ノ憑據アリトス

此場合ニ於テ其牆壁ハ承蓋牆簷ノ受ケ木及ヒ塔兩ノアル一方ノ所有者ノミニ屬シタルト看做ス可シ

第六百五十五條 雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ牆壁ヲ修復シ及ヒ改造スル時ハ其牆壁ヲ有スル者各其權ノ割合ヲ以テ其費用ヲ擔當ス可シ

第六百五十六條 分界ノ牆壁ヲ所有スル者ノ中一人其權ヲ拋棄シタル時ハ其牆壁ヲ修復シ及ヒ改造スル事ヲ擔當スルニ及ハス然レ其牆壁自己ニ屬スル家屋ヲ支持スル時ハ格別ナリトス

第六百五十七條 分界ノ牆壁ノ所有者中一方ノ者ハ其牆壁ニ傍テ物ヲ造作シ其厚サノ愈部内五十四「リ」メートル部令ニ梁椽ヲ鑿入シ及ヒ壁ニ傍テ壁礎ヲ設ケント爲ス時ハ一方ノ者ヲシテ其牆壁ノ中央迄其梁椽ヲ削穿セシム可キ權ノ差支トナルヲナカル可シ

第六百五十八條 牆壁其通シテ所有スル者ハ其分界ノ牆壁ノ高サヲ増スヲ得可シ然レ之ヲ高ク爲スノ費用及ヒ其増シタル部分ヲ修復スルノ費用ヲ擔當シ且高サヲ増シタル割合ヲ以テ一方ノ所有者ニ償ヲ拂フ可シ但シ其償

ハ牆壁ノ全價ニ依テ之ヲ定ム

第六百五十九條 分界ノ牆壁ノ高サヲ増ス時若シ破壊ス可キノ恐アルニ於テハ之ヲ高ク爲サントスル者自己ノ費用ヲ以テ其牆壁ノ全部ヲ改造シ且其厚サヲ増ス爲ノ必要ナル地ハ自己ノ地内ヨリ取用ス可シ

第六百六十條 其隣人ハ牆壁ヲ高ク爲スノ助ヲ爲サスト雖其費用ノ半ハト其厚サヲ増ス爲メ用ヒタル地價ノ半ハトヲ出ス時ハ其牆壁ヲ共通シテ所有スルヲ得可シ

第六百六十一條 牆壁ニ接シタル地ヲ所有スル者ハ其牆壁ノ價ノ半ハト其牆壁ノアル地價ノ半ハトヲ其所有者ニ償ヒ其全部ヲ共通シテ所有スルヲ得又牆壁ノ一部ノ費用ノ半ハト其一部ノアル地價ノ半ハトヲ償ヒ其一部ヲ共通シテ所有スルヲ得可シ

第六百六十二條 分界ノ牆壁ヲ所有スル雙方ノ者ハ互ニ其隣者ノ承諾ヲ得スシテ其牆壁ニ穴ヲ穿チ及ヒ其牆壁ニ傍ヲテ物ヲ造作スルヲ得ス若シ隣者其承諾ヲ爲サズル時ハ其新タニ爲ス可キ造營隊者ノ權ノ害トナラサル爲メ必要ナル方法ヲ堅定人ヲシテ定メシムルヲナク之ヲ爲ス可カラズ

第六百六十三條 都府及ヒ廳外ヲ問ハス何人ト雖其隣人ヲシテ二箇ノ家屋內庭園ヲ分界スル牆壁ノ造營及ヒ修復ニ付キ其助ヲ爲サシム可シ但シ其牆壁ノ高サハ別段ナル規則又ハ永ク相傳ヘ來底ノ熟知シタル習慣ニ從ヒ之ヲ定ム可シ若シ其規則及ヒ習慣ノラヤル時ハ以後造營又ハ修復ヲ爲ス可キ分界ノ牆壁五萬以上ノ人口アル都會ニ於テハ總督ヲ兼テ其高サ三十二メートルトシテノナクハ一メートル以上五メートル以上ト爲シ其他ノ各野ニ於テハ二十メートルノトルバエ以上ト定ム可シ

第六百六十四條 家屋ノ敷箇ノ層階ヲ所有スル者各異ナル時其層階ヲ所有ト爲ス證書ニ因リ之ヲ修復シ或改造スル方法ヲ定ムシ事ナキニ於テハ左ノ如ク其修復及ヒ改造ヲ爲ス可シ
大ナル牆壁及ヒ屋蓋ハ各所有者其所有ノ層階ノ價ニ準テ其費用ヲ出ス可シ
各層階ノ所有者ハ其踏歩スル權板ヲ造ル可シ

二階ノ所有者ハ其層階ニ登ル可キ梯子ヲ造リ三階ノ所有者ハ二階ニ登ル可キ梯子ニ連接シテ其層階ニ登ル可キ梯子ヲ造リ他ノ層階ノ所有者ハ皆之ニ倣フ可シ

第六百六十五條 家屋及ヒ雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ牆壁ヲ改造スル時ハ其新造ノ牆壁又ハ家屋ニ修キ之ヲ爲シタル一方ノ者他ノ一方ノ者ニ對シ已レノ權利ト已レノ義務トヲ以前ニ均シク繼續シ之ヲシテ以前ヨリ更ニ重割

ナラシム可ワラス然レ其義務ノ終リタル期限後ニ其改造ヲ爲シタル時ハ格別ナリトス
第六百六十六條 二箇ノ土地ノ中間ニアル溝渠ハ雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ溝渠ナリト看做ス可シ但シ之ニ反シタル證書又ハ憑據アル時ハ格別ナリトス

第六百六十七條 溝渠ノ一側ノミニ堤アル時又ハ之ヲ穿チテ濬ヒ上タル土ヲ堆積シタル時ハ雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ溝渠ニ非ルノ憑據アリトス

第六百六十八條 此溝渠ハ其濬ヒ上ケシ土ヲ堆積スル一側ノ所有者ノミニ屬スルト看做ス可シ
第六百六十九條 雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ溝渠ハ其所有者雙方ノ費用ヲ以テ之ヲ修理ス可シ

第六百七十條 二箇ノ土地ノ分界スル植籬ハ之ヲ雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ植籬ト見做ス可シ但シ其二箇ノ土地中ノ一箇ノミニ植籬ヲ爲シタル時又ハ其植籬一方ノ所有者ノミニ屬スル證書アル時及ヒ定期ノ時間一方ノ所有者ノミニ之ヲ用ヒタル時ハ格別ナリトス

第六百七十一條 現今定マリシ別段ノ規則及ヒ永ク相傳ヘテ來底ノ熟知セシ習慣ニ因リ定リタル距離ニ非サレハ大木ヲ植ニ可カラズ又其規則及ヒ習慣ノアラサル時ハ大木ニ付テハ二箇ノ土地ノ境界ノ線ヨリ二メートルノ距離其他ノ樹木及ヒ植籬ニ付テハ半メートルノ距離内ニ其樹木ヲ植ヘ又ハ植籬ヲ設ル事ヲ爲ス可カラズ

第六百七十二條 前條ニ記載スル所ヨリ更ニ少キ距離ニ植タル樹木及ヒ植籬ハ隣人ヨリ之ヲ抜去ル可キノ要メヲ爲スヲ得可シ

隣人ノ樹根已レノ土地内ニ侵出シタル時ハ隣人ヲシテ之ヲ伐ラシムルヲ得可シ若シ隣人ノ樹根已レノ土地内ニ侵

出シタル時ハ自カラ之ヲ伐ルノ權アリ

第六百七十三條 雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ植籬中ニ在ル樹木ハ其植籬ニ等シク雙方ノ所有者ニ屬シ其所有者中何レ者ト雖モ之ヲ伐ルヲ要ムルノ權アリ

○第二款 造管土功ヲ為スニ必要ナル距離及ヒ二箇ノ家屋ノ中間ニ為ス可キ造管ノ事

第六百七十四條 雙方ノ所有ニ屬スルト否トヲ問ハス分界ノ牆壁ニ傍テ井又ハ別荘ヲ掘ル者

其牆壁ニ傍テ穴竈鑄造打爐ヲ造ラントスル者

其牆壁ニ傍テ穴竈鑄造ヲ造ラントスル者

其牆壁ニ傍テ塩庫及ヒ物ヲ腐蝕ス可キ品物ノ貯場ヲ造ラントスル者

此等ノ者ハ其隣人ニ害ヲ為スヲ避ルカ為メ別段ノ規則及ヒ習慣ニテ定メタル距離ヲ設シ又ハ其規則及ヒ習慣ニ因リ定メタル如ク二箇ノ家屋ノ中間ニ造管土功ヲ為ス可シ

○第三款 隣地ヲ望下スル事

第六百七十五條 土地ノ所有者ハ何レノ方法タルヲ問ハス隣人ノ許諾ヲ得スシテ雙方ニ屬スル分界ノ牆壁ニ窓及ヒ穴ヲ穿ツ可カラズ但シ其窓ハ開閉セサル玻璃板ヲ用ヒタルモハト雖モ又之ヲ造ルヲ許サズ

第六百七十六條 一方ノミニ屬スル分界ノ牆壁ヲ所有スル者ハ其牆壁ニ開閉セサル玻璃板ヲ用ヒシ鐵格アル窓ヲ造ルヲ得可シ

其鐵格ノ間ハ一ツシノートル三ツアース八ツリシニ過ルヲナカル可シ

第六百七十七條 此窓ハ層階下ニ於テハ其空地僅ノ上二十六ツシノートル六ツビエニヨリ更ニ高所ニ造ル可ラス又層階ノ室ニ於テハ樓板ノ上十九ツシノートル六ツビエニヨリ更ニ高所ニ造ル可ラス

第六百七十八條 一方ノ牆壁ト隣地トノ距離十九ツシノートル六ツビエ以上ナルニ非サレハ隣地ノ範圍ノ有無ノ間ハ其牆壁ニ隣地ヲ直從ス可キ窓ヲ造ルヲ得ス又層階ノ窓前ニ線側及ヒ其他ノ突出ヒシ物ヲ造ルヲ得ス

第六百七十九條 其距離ノ六ツシノートル三ツビエ以上ナルニ非ザレハ隣地ヲ横ニ望下シ及ヒ斜ニ望下スル窓ヲ造ルヲ得ス

第六百八十條 前二條ニ記シタル距離ハ其窓ヲ穿リ可キ牆壁ノ外面ヨリ二箇ノ地ノ分界ノ線ニ至ル迄之ヲ減リ又層階ノ窓前ノ線側及ヒ其他ノ突出ヒシ物ニ付テハ其外部ノ線ヨリ之ヲ測ル可シ

○第四款 水害

第六百八十一條 不動産ノ所有者ハ己ノ土地内又ハ往還ノ道路ニ雨水ヲ流下セシム可キ方法ヲ以テ其屋蓋ヲ造ル可シ隣人ノ地内ニ雨水ヲ流下セシム可カラズ

○第五款 通行ノ權

第六百八十二條 自己ノ所有スル土地他人ノ土地ニ環遠セラレ往還ノ道ニ至ル可キ徑路ナキ時ハ隣地ヲ通行スルノ權ヲ得ント要ムルヲ得可シ但シ此專ニ付キ隣地ニ生ス可キ損失償ヲ出ス可シ

第六百八十三條 其徑路ハ必ス隣地内ニテ自己ノ地ヨリ往還ノ道ニ至ルニ其距離ノ最も少キ部分ニ之ヲ造ル可シ

第六百八十四條 然レ其徑路ハ隣地ノ為メニ最も損害ノ少ナキ部分ニ之ヲ造ル可シ

第六百八十五條 第六百八十二條ニ記セシ償ヲ要ムルノ許訟ハ之ヲ定期内ニ為サレニ於テハ終ニ其權ヲ失フ可シ但シ其償ヲ得可キ者既ニ其許訟ヲ為スノ權ヲ失フ時ニ至ルト雖モ通行ノ權ヲ得タル者ハ之ヲ失フヲナカル可シ

○第三章 人ノ所有ニ因テ生スル土地ノ義務

○第一款 財産ニ付キ生スル義務ノ種類

第六百八十六條 不動産ノ所有者ハ己ノ意ニ隨ヒ其不動産ニ付キ義務又ハ權利ヲ生スルヲ得可シ但シ此義務ハ人ニ付キ之ヲ生スルヲ得ス土地又ハ家屋ノミニ付キ之ヲ生スルヲ得可シ又其義務ニ因リ公ケノ安寧ヲ害スルヲナカル可シ

此ノ如ク生シタル義務ヲ行フ方法及ヒ其權利ノ輕重ハ其義務ヲ生シタル證書ヲ以テ定ム可シ若シ其證書ナキ時

ハ次ノ數條ニ記スル所ノ規則ニ循フ可シ

第六百八十七條 此義務ハ家屋ニ付キ生スルモノアリ又ハ土地ニ付キ生スルモノアリ

家屋ニ付キ生シタル義務ハ其家屋ノ都府又ハ田野ニアルヲ問ハス之ヲ總稱シテユルベイン市中ト云フ

土地ニ付キ生シタル義務ハ之ヲ總稱シテリテアル田野市中ト云フ

第六百八十八條 此義務ニ間断ナキモノアリ又間断アルモノアリ

間断ナキ義務トハ人ノ現ニ為ス所ニ因ラヌシテ連續スル義務ヲ云フ即チ水樋水竈窓障及ヒ此種類ノ物ニ付テノ義務是ナリ

間断アル義務トハ人ノ現ニ為ス所ニ因ル義務ヲ云フ即チ通行ノ義務汲水ノ義務牧畜ノ義務及ヒ此種類ノ義務是ナリ

第六百八十九條 土地ノ義務ニ人目ニ觸ル可キモノアリ又人目ニ觸レザルモノアリ

人目ニ觸ル可キ義務トハ造管及ヒ土功ニ因リ其憑據アルモノヲ云フ即チ門窓水樋アル時ノ義務是ナリ
人目ニ觸サル義務トハ其存在スル憑據ノ目ニ觸サルモノヲ云フ即チ土地ニ造管ヲ為スノ禁又ハ定リシ高サニ非レハ造管ヲ為ス可カラサル禁ノ如シ

○第二款 土地ノ義務ヲ定ムル方法

第六百九十條 間断ナク且人目ニ觸ル可キ義務ハ證書ニ因リ之ヲ定メ又ハ三十年ノ期限ヲ經タルニ因リ之ヲ定ム可シ

第六百九十一條 間断ナキ人目ニ觸ル可キ義務及ヒ間断アリテ人目ニ觸ル可キ義務又ハ間断アリテ人目ニ觸ル可キ義務ハ證書ニ因ラヌシテ之ヲ定ム可カラズ

起源ノ推知シ難キ時ヨリ此義務アリト雖ヒ證書ナクシテ之ヲ定ムルヲ得ス然ル定期間此類ノ義務アルニ因リ終ニ之ヲ定ムルヲ得可キ習慣アル地ニ於テハ其期限間繼續シタル所ノ義務ヲ方今ニ至リ取消ス可カラズ

第六百九十二條 間断ナク且人目ニ觸ル可キ義務ヲ定ムルニ付テハ別ニ證書ナシト雖ヒ土地ノ以前ノ所有者ノ意思ヲ以テ足レリトス

第六百九十三條 現今ニ箇ニ分テタル土地以前一人ノ所有者ニ屬シ且其所有者其土地ヲ現今ノ義務ヲ生ス可キ景

狀ト為シタルノ證アルニ非サレハ土地ノ所有者其義務ヲ生セシム可キノ意思アリトセス

第六百九十四條 二箇ノ土地ノ間ニ目ニ觸ル可キ義務ノ證アリテ其二箇ノ地ヲ所有スル者其義務ニ管シタル契約

ナク其一箇ヲ他人ニ賣拂フタル時其賣拂フタル土地ノ得可キ權利及ヒ行フ可キ義務ヲ共ニ以前ノ如ク繼續ス可シ

第六百九十五條 定期間得タルニ因リ終ニ定ムルヲ得タルニ非ル土地ノ權利ニ付キ之ヲ定ムタル證書ヲ失ヒシ

時ハ其義務ヲ行フ可キ地ノ所有者ノ記シタル其權利ヲ認ルノ書アルニ非サレハ一方ノ者其權利ヲ失可シ

第六百九十六條 義務ヲ生スルノ定ムタル時ニ方ノ權利ノ為ニ必要ナル諸件モ亦承諾シタルト看做ス可シ故ニ已

ノ地外ノ噴泉ニテ他人ニ水ヲ汲マシム可キノ義務アル時ハ其通行ノ權モ亦承諾シタルト看做ス可シ

○第三款 權利ヲ有シタル土地ノ所有者ノ權

第六百九十七條 土地權利ヲ有スル者ニ方ノ義務ヲ已ノ益ト為シ且之ヲ保全スルニ必要ナル造管及主功ヲ為スヲ得可シ

第六百九十八條 此造管及ヒ土功ハ其權利ヲ有スル者ノ費用ヲ以テ之ヲ為シ其義務ヲ行フ可キ者ノ費用ヲ以テ之

ヲ為ス可カラズ但シ其義務ヲ生スル證書ニ之ニ及シタル條件ヲ記シタル時ハ格別ナリトス

第六百九十九條 義務ヲ行フ可キ地ノ所有者證書ニ據リ其義務ヲ行ヒ又ハ之ヲ保全スルニ必要ナル造管及ヒ土功

ヲ為ス可約定アル時ト雖ヒ其義務ヲ行フ可キ土地ヲ權限ヲ有スル土地ノ所有者所與スル時ハ其費用ヲ出ス可キ

トヲ免ル、ヲ得可シ

第七百條 若シ權利ヲ有スル土地ヲ分テタル時ハ其各部ニ其權利アリトス然レ一方ノ地ノ義務ヲシテ以テ前ヨリ更

ニ重則ナラシムルコトナカレ可シ

故ニ通行ノ權ニ付テハ其分テタル土地ノ各部ノ所有者各必ス同一ノ道ヲ通行ス可シ

第七百一條 義務ヲ行フ可キ地ノ所有者ハ其權利ヲ有スル者ノ利益ヲ減シ又ハ其權利ヲ行フ不便ヲ為ス可キ事ヲ為ス可カラズ

ラズ故ニ義務ヲ行フ可キ地ノ所有者土地權限ヲ變易シ又其行フ可キ義務ヲ從來ノ場所ヨリ他ノ場所ニ移ス可カラズ

然其從來定マリシ場所ニテ其義務ヲ行フ其地ノ所有者ノ為ノ損害ヲ増スニ至ル可キ時又ハ其所有者其地内ニ有益ナル修復ヲ為スノ妨トシ時ハ義務ヲ行フ可キ者ヨリ權利ヲ有スル地ノ所有者其權利ヲ行フ可キ從來ニ等シク便利ナル部分ヲ換用ス可キノ求メヲ為ス可キ得可シ但シ此時ハ權利アル地ノ所有者其求メヲ肯セサルヲ得ス

第七百二條 土地ノ權利ヲ有スル者ハ已ノ土地ニ於テモ又ハ義務ヲ行フ可キ土地ニ於テモ義務ヲ重劇ニ為ス可キ變更ヲ為ス可キ得ス唯其證書ニ依リテ其權利ヲ行フ可シ

○第四款 土地ノ義務ノ終シ方法

第七百三條 不動産ヲ用フル能ハサル景状ニ至リシ時ハ其義務モ亦終ル可シ

第七百四條 其不動産ヲ用フル得可キ景状ニ復シタル時ハ其義務モ亦復ス可シ但シ第七百七條ニ記スル所ノ如ク義務ノ全ク終リシヲ推知スルニ足ル可キ時間ノ既ニ經過シタル時ハ格別ナリトス

第七百五條 義務ヲ行フ可キ地ト權利ヲ有スル地ト同人ノ所有トナル時ハ其義務終ル可シ

第七百六條 土地ノ義務ハ三十年間之ヲ行ハサルニ因リ終ル可シ

第七百七條 此三十年ノ期限ハ義務ノ種類ニ因テ算ヘ始ムルノ日各異ナリトス但シ間斷アル義務ニ付テハ其義務ヲ行フヲ止タル日ヨリ之ヲ算ヘ間斷ナキ義務ニ付テハ其義務ニ反シタル日ヨリ之ヲ算フ可シ

第七百八條 土地ノ權利ヲ行フノ方法ヲ變スル事ハ義務ニ均シク定期ニ循テ之ヲ為ス可シ

第七百九條 若シ權利ヲ有スル地ノ區別ナク數人ニ屬スル時其中ノ一人其權利ヲ行ヒタルニ於テハ其他ノ者定期間之ヲ行ハスト雖モ終ニ其權利ヲ失フニ至ルナカル可シ

第七百十條 若シ土地ヲ區別セス共同シテ所有スル數人中ニ幼者ノ如定期間權利ヲ行ハスト雖モ之ヲ失ハサル者アル時ハ其他ノ所有者モ亦其權利ヲ失フナカル可シ

神皇西民法四 終
法律書

辻士革筆受

民法五十三

神皇西民法第五

文部少博士箕作麟祥口譯

○第三篇 財産所有ノ權ヲ得ル種々ノ方法

○總規則 (千八百三年第四月十九日決定同月廿九日布告)

第七百一條 財産所有ノ權ハ遺物相續ニ因リ又ハ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ニ因リ又契約ニ因テ之ヲ得可シ

第七百二條 主ニ因テ從ヲ併スノ權又ハ連合ス可キ物ヲ得ルノ權及ヒ定期ノ時間已ノ用ヒタル物件ヲ所得ト為スノ權ニ因リ亦財産所有ノ權ヲ得可シ

第七百三條 所有者ナキ財産ハ政府ニ屬ス可シ

第七百四條 一人ニ屬セス衆人ノ相共ニ用フ可キ財産アリ

此財産ヲ用フルノ方法ハ國中取締ノ法ヲ以テ之ヲ定ム

第七百五條 打魚狩獵ヲ為スノ免許モ亦格別ノ法則ヲ以テ之ヲ定ム

第七百六條 自己ノ地内ニ於テ財貨ヲ見出シタル時ハ之ヲ見出シタル者ノ所有トス可シ若シ他人ノ地内ニ於テ之ヲ見出シタル時ハ其見出シタル者其半ハ之ヲ得トシ其地ノ所有者其半ハ之ヲ得トス可シ

見出シタル財貨トハ埋藏シタル材料ヲ見出シテ所有者ノ知レサル物ヲ云

第七百七條 性質及ヒ種類ノ如何ナルヲ問ハス海中ニ投ケ入レシ品物及ヒ海水ノ打上ケシ品物又ハ海岸ニ生スル草類ヲ所得トスルノ權ハ亦別段ノ法則ヲ以テ之ヲ規定スル所有者ノ出テサル拾取物モ亦之ニ均シ

○第一卷 遺物相續千八百三年四月十九日決定同月廿一日告示

○第一章 遺物相續ヲ始ムル事及ヒ相續人遺物ヲ所得ト為ス事

第七百十八條 遺物相續ハ人ノ死去及ヒ准死ニ因テ之ヲ始ム可シ

第七百十九條 遺物相續ハ第一條第一卷 受遺者第二章第二款ノ規則ニ當ヒ准死ヲ受ケシ時ヨリ之ヲ始ム可シ

第七百二十條 若シ互ニ遺物相續ヲ為ス可キ者數人同一ノ事ニテ死去シ其中何レノ者先ニ死去シタルヤヲ知ルヲ得サル時ハ其時ノ景況ニ因リ思料シテ其中ノ後ニ死去シタル者ヲ定メ又其景況ノ分明ナラサル時ハ其死者ノ年齢ト男女トノ分別ヲ以テ定ム可シ

第七百二十一條 若シ同時ニ死去シタル數人ノ者皆十五歳以下ナル時其中ノ年長者ヲ以テ後死去シタルト思料ス可シ

若シ同時ニ死去シタル數人ノ者皆六十歳以上ナル時ハ其中齡ノ少ナキ者ヲ以テ後ニ死去シタルト思料ス可シ

若シ同時ニ死去シタル數人中ニ十五歳以下ナル者ト六十歳以上ナル者トアリ時ハ十五歳以下ノ者ヲ以テ後ニ死去シタルト思料ス可シ

第七百二十二條 若シ同時ニ死去シタル數人ノ者皆滿十五歳以上六十歳以下ニシテ其齡ノ全ク均シク又ハ其齡ノ差一歳ニ過サル時ハ常ニ男ヲ以テ後ニ死去シタルト思料ス可シ

若シ其數人ノ者男又ハ女ノミナル時ハ遺物相續ヲ為ス可キ天然ノ順序ニ從テ思料ス可シ故ニ年少ノ者ヲ年長ノ者ヨリ後ニ死去シタルト思料スヘシ

第七百二十三條 當然ノ遺物相續人其遺物相續ヲ為スノ順序ハ法律ヲ以テ之ヲ規定シ若シ當然ノ遺物相續人アラスル時ハ私生ノ子遺物相續ヲ為シ又私生ノ子アラスル時ハ夫婦中ノ生存スル者之ヲ為シ夫婦中ノ生存スル者アラスル時ハ其財產ヲ官ニ徵收ス可シ

第七百二十四條 當然ノ遺物相續人ハ別ニ裁判所ニ願ハスト雖モ遺物中ノ負債及ヒ債務ヲ償フテ死者ノ財產及ヒ死者ノ權利ヲ所得ト為スノ權アリ然レ私生ノ子及ヒ夫婦中ノ生存スル者遺物相續ヲ為ス時又ハ其財產ヲ官ニ徵收スル時ハ必ス定式ニ循ヒ裁判所ノ許ヲ得タル上之ヲ為スヲ必要トス

○第二章 遺物相續ヲ為スニ必要ナル諸件

第七百二十五條 遺物相續ヲ為サントスル者ハ其遺物相續ヲ始ムル時現存スルヲ必要トス故ニ在ノ諸人ハ遺物相續ヲ為スヲ得ス

第一 未胎胎ノ後ナキ子

第二 出生後生存シ能ハサル可キ子

第三 遺棄受ケケシ者

第七百二十六條 千八百十九年第七月十四日ノ法ヲ以テ廢ス外國人ハ其親族ノ外國人又ハ佛蘭西人タルヲ問ハス其親族ノ佛蘭西領地内ニ於テ所有スル財產ヲ相續ス可キ場合ト方法トニ付キ必ス佛蘭西人其親族ノ外國領地内ニ於テ所有スル財產ヲ相續ス可キ場合ト方法トニ循フ可シ但シ此規則ハ第十一條 受遺者ニ記スル所ニ拘シトス

第七百二十七條

第一 死者ヲ殺シ又ハ殺サント為シタルヲニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケシ者

第二 死者ヲ死刑ニ處ス可キ讞斷ヲ上告シタル者

第三 死者ノ被害セラレタルヲ知リテ其事ヲ裁判所ニ上告セサル丁年者

此等ノ者ハ遺物相續ヲ為ス可カラサルニ因リ遺物相續人ノ真中ヲ除去セラル可シ

第七百二十八條 死者ヲ被害シタル者ノ血屬ノ尊屬ノ親及ヒ卑屬ノ親并ニ姻屬ノ同上ノ親及ヒ其配偶者兄弟姉妹伯叔父母娚姪ハ其被害ノ事ヲ上告セサルヲ以テ死者ノ遺物相續ヲ為ラズ又トナルヲナシ

第七百二十九條 遺物相續ヲ為スノ禁ヲ受ケタルニ因リ遺物相續人ノ真中ヨリ除去セラレタル者ハ遺物相續ヲ為シ得サルヨリ以來其所得ト為シタル利益及ヒ入額ヲ還ス可シ

第七百三十條 遺物相續ヲ為スノ禁ヲ受ケシ者ノ子其親ニ代リ遺物相續ヲ為ス可ラス然レ自己ノ權ニ因リ遺物相

續ヲ為ス可キ時ハ其親ノ過存ノ為ノ遺物相續人ノ貧中ヨリ除去セラルルナカレ可シ但遺物相續ヲ為スノ禁ヲ受ケシ者ハ通常ノ法則ヲ允許セシメテ其子ノ相續シタル財産ニ付キ其人類ヲ得可キノ權ヲ得ント要ム可カラズ

○第三章 遺物相續ヲ為スノ順序

○第一款 總規則

第七百三十一條 遺物相續ハ後ノ數條ニ記載スル所ノ順序ト規則トニ循ヒ死者ノ子及ヒ卑屬ノ親、卑屬ノ親及ヒ係系ノ親之ヲ為ス可シ

第七百三十二條 法律上ニテ遺物相續ノ規定ヲ為スニ付テハ財産ノ性質及ヒ原由ヲ問フナシ

第七百三十三條 卑屬ノ親及ヒ係系ノ親ノ相續ス可キ遺物ノ財産ハ之ヲ二箇ノ平等ノ部分ト為シ其一部ハ本宗ノ親ニ屬シ其一部ハ外族ノ親ニ屬ス

異父又ハ異母ノ兄弟ハ父母ヲ同ウスル兄弟ノ為ノ遺物相續人ノ貧中ヨリ除去セラル、ナカレ可シ然レ第七百五十二條ニ記スル所ノ外其所屬ノ族ニテ得可キ所ノ遺物ノ財産中ニ於テ已ノ部分ヲ得可シ○父母ヲ同フスル親族ハ本宗及ヒ外族ノ二族ニ於テ遺物相續ヲ為ス可キ得可シ

本宗及ヒ外族ノ二族中其一族ニ卑屬ノ親及ヒ係系ノ親ノ全クアラサル時ノ外他ノ一族親ニ全ク遺物相續ノ權ヲ得可カラズ

第七百三十四條 死者ノ本宗ノ親ト外族ノ親トノ間ニ遺物ノ財産ヲ分ナタル上ハ其支屬ノ間ニ更ニ之ヲ分ツニ及ハス但シ其本宗ト外族トノ二族ニ分ナタル部分ハ後ニ記スル所ノ代テ遺物相續ヲ為ス時ノ外最モ親近ノ遺物相續人一人又ハ故人ニ屬ス可シ

第七百三十五條 血筋ノ親疎ハ人ノ代ノ數ヲ以テ之ヲ定メ其一代ヲ名ケテ級ト云フ

第七百三十六條 數箇ノ級相連ナルヲ系ト云ヒ其徑直ニシテ互ニ血筋アル者ノ級相連ナルヲ宗系ト云ヒ又其徑直ニ非スシテ所出ノ同シキニ因リ互ニ血筋アル者ノ級相連ナルヲ傍系ト云フ

宗系ヲ分ツテニトス其一一ハ卑屬ノ宗系又一ハ尊屬ノ宗系ナリ

卑屬ノ宗系トハ人ヲ其卑屬ノ者ト相連接セシムル系ヲ云ヒ尊屬ノ宗系トハ人ヲ其尊屬ノ者ト相連接セシムル系ヲ云フ

第七百三十七條 宗系ニ於テハ代ノ數ニ准シテ級ノ數ヲ立ツ故ニ子ハ父ニ對シテ第一級トシ孫ハ第二級トス又之ニ及テテ言フ時ハ其親ヲ第一級トシテ其祖父ヲ第二級トス

第七百三十八條 傍系ニ於テハ此人ヨリ其所出ノ者ニ至リ其者ヨリ彼人ニ至ル代ノ數ニ准シテ級ノ數ヲ定ム故ニ兄弟ハ第二級トシ伯叔父ト甥トハ第三級トシ從兄弟ハ第四級トス他ハ皆之ニ倣フ

○第二款 代テ遺物相續ヲ為ス事

第七百三十九條 代テ遺物相續ヲ為ストハ法律上ニ於テ此人ヲ以テ直ニ彼人ト同視スル為ノ別段ニ設ケタル規則ニシテ其代ル者ニ死セシ本人ノ級ト權トヲ全ク移スラ云フ

第七百四十條 卑屬ノ親ハ其級ノ如何ナルヲ問ハズ尊屬ノ親ニ代テ遺物相續ヲ為ス可キ得可シ命ハ死者ノ子ト其死者ヨリ前ニ死シタル子ノ卑屬ノ親ト共ニ遺物相續ヲ為ス可キ時又ハ死者ノ子皆死者ヨリ前ニ死去シテ其子ノ同級ノ卑屬ノ親又ハ同級ヲササル卑屬ノ親數人ニテ共ニ遺物相續ヲ為ス可キ時ハ卑屬ノ親其尊屬ノ親ニ代テ遺物相續ヲ為ス可キ得可キ如シ

第七百四十一條 尊屬ノ親ハ卑屬ノ親ニ代テ遺物相續ヲ為ス可カラズ又本宗又ハ外族ノ親近ノ尊屬ノ親ハ常ニ疎遠ノ尊屬ノ親ヲ除去シテ遺物相續ヲ為ス可シ

第七百四十二條 傍系ニ於テハ死者ノ兄弟及ヒ姉妹ノ卑屬ノ親其伯叔父母ト共ニ遺物相續ヲ為ス可キ時又ハ死者ノ兄弟姉妹皆死者ヨリ前ニ死シテ其兄弟姉妹ノ同級ノ卑屬ノ親又ハ同級ヲササル卑屬ノ親數人共ニ遺物相續ヲ為ス可キ時卑屬ノ親其尊屬ノ親ニ代テ遺物相續ヲ為ス可キ得可シ

第七百四十三條 代テ遺物相續ヲ為ス可キ時ニ於テハ遺物ノ財産ヲ族ニ因テ之ヲ分ナ若シ同族ノ族ニ數箇ノ旁支アル時ハ其旁支中ノ族ニ因テ更ニ之ヲ分ナ同一ノ旁支中ノ人ハ一人毎ニ之ヲ分ツ可シ

第七百四十四條 生存スル人ニ代リテ遺物相續ヲ為スルヲ得可キ者ニ代リテ遺物相續ヲ為スルヲ得可シ

若シ尊屬ノ親死去シ卑屬ノ親其遺物相續ヲ承シタルト雖モ其後ニ其死者更ニ尊屬ノ親ノ遺物ヲ相續ス可キノ理アル時ハ其卑屬ノ親其死者ニ代リテ遺物相續ヲ為スルヲ得可シ

○第三款 卑屬ノ親遺物相續ヲ為スル

第七百四十五條 子及ヒ卑屬ノ親ハ男女ノ區別無ク且出生シタル順序ヲ問ハス又父母ノ異ナルヲ問ハス其父母祖父母及ヒ其他ノ尊屬ノ親ノ遺物相續ヲ為ス可シ

若シ其子及ヒ卑屬ノ親皆第一級ニ在テ自己ノ權ヲ以テ遺物相續ヲ為ス可キ時ハ各自ニ平等ノ部分ヲ相續ス可シ又其子及ヒ卑屬ノ親皆代テ遺物相續ヲ為ス可キ時又ハ其子及ヒ卑屬ノ親中ノ教人ノミ代テ遺物相續ヲ為ス可キ時ハ其族ニ因テ遺物相續ヲ為ス可シ

○第四款 尊屬ノ親遺物相續ヲ為スル

第七百四十六條 死者ニ子孫、兄弟、姉妹及ヒ其兄弟、姉妹ノ卑屬ノ親ナキ時ハ其死者ノ遺物ノ財產ヲ半ハニ分チ又ハ宗系ノ尊屬ノ親ト母又ハ外族ノ尊屬ノ親ト之ヲ相續ス可シ

級ノ親近ナル尊屬ノ親ハ自己ノ屬スル族ニ於テ受ク可キ所ノ遺物ノ財產ヲ相續シ其族中ノ更ニ疎遠ナル尊屬ノ親ハ其遺物ヲ相續ス可カラズ又同級ノ尊屬ノ親ハ各自ニ其遺物相續ヲ為ス可シ

第七百四十七條 尊屬ノ親ヨリ子及ヒ卑屬ノ親ニ與ヘタル物其子及ヒ卑屬ノ親ノ子ナクシテ死去シタル時猶以前ノ儘ニテ存スル時ハ其尊屬ノ親他ノ親族ヲ除去シテ其物ヲ相續ス可シ

又其與ヘタル物ヲ既ニ賣拂フタル時ハ其金額ヲ相續ス可シ又其物ヲ得タル子及ヒ卑屬ノ親ヨリ他人ニ對シテ其物ヲ販運ス可キ訴訟ヲ為テ權モ亦其尊屬ノ親ニ移ス可シ

第七百四十八條 人子孫ナクシテ死去シタル時其父母猶生存シ且其死者ノ兄弟、姉妹及ヒ其兄弟、姉妹ノ卑屬ノ親モ

亦生存スルニ於テハ其死者ノ財產ヲ平等ノ二部ニ分チ其一部ハ父母之ヲ相續シ其父ト母トニテ又其一部ヲ平等ノ二部ニ分ツ可シ

其他ノ一部ハ此章ノ第五款ニ記スル如ク兄弟、姉妹及ヒ其卑屬ノ親之ヲ相續ス可シ

第七百四十九條 人子孫ナクシテ死去シ其父母中ノ一人亦既ニ死去シテ其兄弟、姉妹及ヒ其兄弟、姉妹ノ卑屬ノ親アル時ハ前條ニ循ヒ父母中ノ死シタル者ニ屬ス可キ財產ノ部分ヲ兄弟、姉妹及ヒ其兄弟、姉妹ノ卑屬ノ親ニ屬ス可キ財產ノ一部ト併合ス可キ事此章ノ第五款ニ記スル所ノ如クナル可シ

○第五款 傍系ノ親遺物相續ヲ為スル

第七百五十條 子孫ナクシテ死去シタル者ノ父母既ニ死去セシ時ハ其兄弟、姉妹及ヒ兄弟、姉妹ノ卑屬ノ親ニテ尊屬ノ親及ヒ他ノ傍系ノ親ヲ除去シ遺物相續ヲ為ス可シ

其兄弟、姉妹、卑屬ノ親ハ此章ノ第二款ニ記シタル如ク自己ノ權ヲ以テ遺物相續ヲ為シ又ハ代テ遺物相續ヲ為ス可シ

第七百五十一條 子孫ナク死去シタル者ノ父母猶生存スル時ハ其兄弟、姉妹及ヒ兄弟、姉妹ノ卑屬ノ親死者ノ財產ノ半ハノミヲ相續ス可シ○若シ其父母中ノ一方ノミ生存シタル時ハ兄弟、姉妹及ヒ兄弟、姉妹ノ卑屬ノ親死者ノ財產ノ四分ノ三ヲ相續ス可シ

第七百五十二條 前條ニ循ヒ兄弟、姉妹ノ相續ス可キ死者ノ財產ノ半ハ又ハ其四分ノ三ヲ分派スル方法左ノ如シ○

其兄弟、姉妹皆死者ト父母ヲ同ウスル時ハ各自平等ニ其財產ヲ分チ若シ父母ヲ同ウセザル時ハ異父ノ兄弟、姉妹ト異母ノ兄弟、姉妹トノ雙方ニ其財產ヲ平分シ其兄弟、姉妹中ニテ死者ト父母ヲ同ウスル者ハ其雙方ノ財產中ニテ己ノ部分ヲ相續シ異父及ヒ異母ノ兄弟、姉妹ハ各其一方ノ財產中ニテ己レノ部分ヲ相續ス可シ若シ又異父ノ兄弟、姉妹ノミナル時又ハ異母ノ兄弟、姉妹ノミナル時ハ其一方ノ兄弟、姉妹他ノ親族ヲ除キテ其財產ノ全部ヲ相續ス可シ

第七百五十三條 死者ニ兄弟、姉妹及ヒ其卑屬ノ親ナク且父母中ノ一方ノアテナル時又ハ父母共ニナクシテ本宗及ヒ外族中ノ一族ニ尊屬ノ親ナキ時ハ父又ハ母又ハ生存スル尊屬ノ親其遺物ノ半ハヲ相續シ他ノ族中ノ最親ノ傍系

ノ親其半ハヲ相續ス可シ但シ同級ノ傍系ノ親數人アル時ハ其半ハヲ各自平等ニ分ツ可シ
第七百五十四條 前條ノ場合ニ於テ生存スル父母ハ自己ノ所有トシテ相續セシ物ニ非ザル財産ノ三分一ノ入額ヲ
得ルノ權アリ

第七百五十五條 第十二級以外ノ親族ハ遺物相續ヲ爲ス可カラズ

若シ本宗及ヒ外族中ノ一放ニテ遺物相續ヲ爲シ得キ級ノ親族ナキ時ハ他族ノ親族遺物ノ全部ヲ相續ス可シ

○第四章 規則外ノ遺物相續

○第一款 私生ノ子父母ノ遺物相續ヲ爲スノ權及ヒ子孫ナク死去シタル私生ノ子ノ遺物ヲ相續スルノ權
第七百五十六條 私生子當然ノ遺物相續入ニ非ル者トス故ニ親ヨリ之ヲ我子ナリト認メタル時ノ外其父母ノ遺物
ヲ相續スルノ權ナシ○子私生ノ子ノ父母ノ親族ノ遺物ヲ相續スルノ權ナシ

第七百五十七條 私生ノ子父母ノ遺物ヲ相續アルノ權ハ左ノ如クタル可シ

父母ニ抽出ノ子アル時私生ノ子ノ遺物相續ヲ爲ス可キ部分ハ抽出ノ子ノ相續ス可キ部分ノ三分一タル可シ又
父母ニ抽出ノ子又ハ卑屬ノ親ナクシテ尊屬ノ親及ヒ兄弟姉妹アル時私生ノ子ノ遺物ヲ相續ス可キ部分ハ其半ハタ
ル可シ又父母ニ尊屬ノ親卑屬ノ親及ヒ兄弟姉妹ノ共ニアラザル時私生ノ子ノ遺物ヲ相續ス可キ部分ハ其四分ノ三
タル可シ

第七百五十八條 父母ノ遺物相續ヲ爲シ得キ級ノ親族ナキ時ハ私生ノ子其遺物ノ全部ヲ相續スルノ權アリ

第七百五十九條 私一ノ子父母ヨリ前ニ死シタル時ハ私生ノ子ノ子及ヒ其卑屬ノ親前數條ニ記シタル所ノ部分ヲ
相續スルノ權アリ

第七百六十條 私生ノ子及ヒ其卑屬ノ親ハ以前父母ヨリ得タル贈物中ニテ此卷ノ第六章第二款ニ定メタル規則ニ
循ヒ遺物相續ノ時交還ス可キ諸件ヲ已メ得可キ部分中ヨリ差引ク可シ

第七百六十一條 私生ノ子父母ノ生存中ニ前數條ニ循ヒ其得可キ部分ノ半ハヲ受ケ其父母其私生ノ子ニ與フ可キ

財産ハ既ニ其贈與シタル部分ノミニ限ル可キノ意アルヲ別段述ヘタル時ハ父母ノ死去スル時私生ノ子及ヒ其
卑屬ノ親其餘ノ部分ヲ相續セント要ムルヲ得ス

若シ父母生存中ニ私生ノ子ニ贈與シタル財産其相續ス可キ部分ノ半ハヨリ少ナキ時ハ私生ノ子其半ハニ至ル迄
ノ外更ニ其餘ヲ要ムルヲ得ス

第七百六十二條 第七百五十七條及ヒ第七百五十八條ノ規則ハ姦通及ヒ亂倫ノ子ニ適用シテ用フ可カラス

法律上ニ於テハ此等ノ子ニ唯其養料ヲ給ス可キノ三十リトス

第七百六十三條 其養料ハ父母ノ家産及ヒ相續人ノ遺業ト級ノ親疎トニ從テ之ヲ定ム可シ

第七百六十四條 父母其姦通及ヒ亂倫ノ子ニ工藝ヲ學ハシメ又ハ父母中ノ一方ニテ其生存中此等ノ子養料ヲ得可
キノ道ヲ立テ置キタル時ハ此等ノ子父母ノ遺物相續ニ加ハリテ養料ヲ得ント要ムルヲ得ス

第七百六十五條 私生ノ子子孫ナク死去シタル時ハ其父母中ノ我子ナリト認メタル一方ニテ其遺物相續ヲ爲シ
又父母共ニ之ヲ我子ナリト認メタル時ハ父母各其遺物ノ半ハヲ相續ス可シ

第七百六十六條 私生ノ子ノ父母既ニ死去シテ私生ノ子モ亦子孫ナク死去シタル時其曾テ父母ヨリ受ケタル財産
猶以前ノ儘全存スルニ於テハ抽出ノ兄弟姉妹其財産ヲ相續シ且私生ノ子父母ヨリ受ケタル財産ヲ他人ニ奪ハレ
ン事アル時ハ之ヲ取戻ス可キ訴訟ヲ爲スノ權ト其私生ノ子父母ヨリ受ケタル財産ヲ他人ニ奪ハレ
取ラサル時ハ其價額ヲ受取可キノ權ト亦之ヲ抽出ノ兄弟姉妹ニ移ス可シ○其他ノ財産ハ私生ノ子ノ兄弟姉妹及
ヒ其卑屬ノ親之ヲ相續ス可シ

○第二款 死者ノ配偶者ノ權及ヒ官府ノ權

第七百六十七條 若シ死者ニ遺物相續ヲ爲シ得可キ級ノ親族及ヒ私生ノ子ナキ時ハ離婚シタルニ非ザル配偶者其
遺物相續ヲ爲ス可シ

第七百六十八條 又生存スル配偶者ナキ時ハ之ヲ官ニ徵收ス

第七百六十九條 死者ノ遺物ヲ相續ス可キ配偶者及ヒ死者ノ財産ヲ徵收ス可キ土地ノ官署ハ其財産ヲ封鎖シ且其目錄ヲ記ス可シ但シ其封印ヲ為シ及ヒ目錄ヲ記スル法式ハ遺物ノ價額ニ至ル迄ノ外負債及ヒ費用ヲ償ハザルノ特權ヲ以テ遺物相續ヲ肯スル者ノ為メ定メタル所ニ依リテ可シ 第七百九十三條以下ニ詳ナリ

第七百七十條 死者ノ配偶者及ヒ土地ノ官署ハ其地ヲ管轄スル下等裁判所ニ其財産ヲ所有ト爲ス可キヲ求ム可シ○其裁判所ニ於テハ常例ニ依リテ三次ノ公告及ヒ三次ノ附附ヲ爲シ且其口キリヲ行ハシメテ其ノ説ヲ聴キタル後ニ非サレハ其求メテ許ス可カラズ

第七百七十一條 死者ノ配偶者ハ其相續シタル動産ヲ賣拂フテ其價額ヲ貸付トナル可キ方法ニ用ヒ死者ノ當然ノ相續人三年内ニ出テ來ルコトアル時ハ其金額ヲ渡ス可キ爲メ至當ノ保證者ヲ立ツ可シ但シ三年ノ後ハ其保證者ニ免ス可シ

第七百七十二條 死者ノ配偶者及ヒ土地ノ官署其行フ可キ法式ヲ行ハス其財産ヲ所有トナシタル時後ニ其當然ノ相續人ノ出テ來ルコトアルニ於テハ其相續人ニ價額ヲ拂フ可キコトヲ裁判所ヨリ言渡サル可シ

第七百七十三條 第七百六十九條第七百七十條第七百七十一條第七百七十二條ノ規則ハ死者ノ親族ノアラサル時其遺物ヲ相續ス可キ私生子ノ子ニモ亦適當シテ用フ可シ

第五章 遺物相續ヲ肯スル事及ヒ肯セサル事

第一款 遺物相續ヲ肯スル事

第七百七十四條 遺物相續ハ別段ノ約定ナク之ヲ肯シ又ハ相續人其相續ス可キ遺物ノ價額ニ至ル迄ノ外負債及ヒ費用ヲ償ハザル特權ヲ有スル約定ヲ以テ之ヲ肯スルコトヲ得可シ

第七百七十五條 何人ト雖モ自己ノ爲メ可キ遺物相續ヲ必スシモ肯スルニ及バズ

第七百七十六條 第一節第五卷 結婚ノ權利ノ規則ニ依リテ其夫入ハ裁判所ノ允許ナクシテ當然遺物相續ヲ肯スルコトヲ得ス

幼者及ヒ治産ノ宗ヲ受テレ者ハ第一節第十卷 幼年使見ノ規則ニ依リテ當然遺物相續ヲ肯スルコトヲ得ス

第七百七十七條 遺物相續人其相續ノ事ヲ肯レタル時ハ死去ノ日ヨリ以テ未之ヲ肯レタルノ始アリトス

第七百七十八條 遺物相續ヲ肯スルハ明許又ハ黙許ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得可シ公私ノ證書ニ遺物相續ヲ肯セザルタルノ名目ヲ記シタル時ハ明許ナリトシ又相續人遺物相續ヲ必ス肯スルノ意タルコトヲ推知ス可キノ所行及ヒ遺物相續ヲ肯セザレハ爲スコトヲ得可カラサルノ所行ヲ爲シタル時ハ黙許ナリトス

第七百七十九條 死者ノ財産ヲ保全レ及ヒ之ヲ監察レ又ハ假リニ其財産ヲ支配スルノ所行ヲ爲スノ事ニ此等ノ事ニ管レタル證書ニ遺物相續ヲ肯セザル者タルノ名目ヲ記セサル時ハ此等ノ所爲ヲ以テ遺物相續ヲ肯レタルノ證ト爲ス可カラズ

第七百八十條 遺物相續人中ノ一人其與ニ遺物相續ヲ爲ス可キ者ノ全責又ハ其責中ノ者又ハ其他ノ者ニ遺物相續ヲ爲ス可キ權ヲ贈與シ又ハ賣渡シ又ハ移傳レタル時ハ其遺物相續人遺物相續ヲ肯レタルノ證アリトス

又遺物相續人中ノ一人其與ニ遺物相續ヲ爲ス可キ者ノ一人又ハ數人ノ爲メ遺物相續ヲ爲ス可キノ權ヲ放棄シタル時ハ其放棄ヲ爲スニ付キ報謝ヲ得スト雖モ其相續人遺物相續ヲ肯レタルノ證アリトス

若シ又相續人中ノ一人其與ニ遺物相續ヲ爲ス可キ者ノ全責ノ爲メ區別ナク遺物相續ヲ爲ス可キノ權ヲ放棄シタル時ト雖モ其報謝ヲ受ケタルニ於テハ亦前ニ均シトス

已ノ知リ得サル死者ノ遺囑書ヲ後ニ見出シタルニ因リ其相續ス可キ財産ノ數半ハ以上減シタル時ノ外ハ已ニ檢
害アルヲ以テ口實ト爲レ既ニ肯シタル遺物相續ヲ拒ム可カラス

○第二款 遺物相續ヲ肯セサル事

第七百八十四條 遺物相續ヲ肯セサル事ハ恩科ノミヲ以テ爲ス可カラス但レ遺物相續ヲ肯セサル事ハ其相續ヲ爲
ス地ヲ管轄スル下等裁判所ノ書記局ニ別段該ケタル簿冊中ニ之ヲ記入スルヲ必要トス

第七百八十五條 遺物相續ヲ肯セサル相續人ハ初ヨリ遺物相續人ニ非サル者ト看做ス可シ

第七百八十六條 遺物相續ヲ肯セサル者ノ受ク可キ遺物ノ部分ハ其與ニ遺物相續ヲ爲ス可キ者ニ移ス可シ若シ其
遺物相續ヲ肯セサル者ト與ニ相續ヲ爲ス可キ者ナキ時ハ更ニ一級疎遠ナル親族ニ移ス可シ

第七百八十七條 遺物相續ヲ肯セサル者ノ子孫ハ代リテ遺物相續ヲ爲ス可キ得ス但レ其遺物相續ヲ肯セサル者ト
同扱ニテ與ニ遺物相續ヲ爲ス可キ者ナキ時又ハ與ニ遺物相續ヲ爲ス可キ者アリト雖モ亦皆遺物相續ヲ肯セサル
時ハ其遺物相續ヲ肯セサル者ノ子孫自己ノ權ヲ以テ 各自ニ其遺物相續ヲ爲ス可シ

第七百八十八條 負債者遺物相續ヲ肯セサルニ因リ其債主ノ爲ノ損失ヲ生ス可キ得アル時ハ債主裁判所ヨリ負債
者ノ權ニ代リ自カラ遺物相續ヲ肯セサルノ允許ヲ受ルヲ得可シ

此場合ニ於テハ其債主ノ利益ノ爲ノ其貨額ニ至ル迄負債者ノ遺物相續ヲ拒ミレ事ヲ取消ス可シ但レ其負債者ノ
利益ノ爲ノ之ヲ取消ス可ナカル可シ

第七百八十九條 遺物相續ヲ肯シ又ハ肯セサルヲ得可キ期限ハ不動産所有ノ權ヲ訴フル事ニ付キ定メタル段モ
永キ期限ニ均シトス第二百六十條ニ詳ナリ

第七百九十條 一度遺物相續ヲ肯セサレシ者後遺之ヲ肯スルヲ得可キ定期内ニ他ノ遺物相續人ノ之ヲ肯シタル
ナキ時ハ其者更ニ其遺物相續ヲ肯スルヲ得可シ但レ此場合ニ於テ他ニ定期ノ時間其遺物中ノ物件ヲ有セシニ
因リ終ニ之ヲ所有ト爲スヲ得タル者アル時又ハ遺物相續人ナキ財産ヲ取扱ヒタルコト正レク契約ヲ結

ヒレニ因リ其遺物ノ物件ヲ所得ト爲レタル者アル時ハ其者ノ權ヲ害スルヲナカル可シ

第七百九十一條 婚姻ノ契約書ニ據ルト雖モ現存スル人ノ遺物相續ヲ爲スヲ預メ拒ム可カラス又現存スル人ノ
遺物相續ヲ爲ス可キ權ハ預メ之ヲ他人ニ讓リ度ス可カラス

第七百九十二條 遺物相續ノ財産ヲ竊ニ轉移シ又ハ入ノ隠蔽スルヲ知り告ケサル遺物相續人ハ其遺物相續ヲ爲ス
ヲ肯セサルノ權ヲ失フ可シ但レ其遺物相續人ハ自カラ其遺物相續ヲ爲スヲ肯セスト雖モ猶別段ノ約定ナキ遺
物相續人タル可ク且ツ己ノ竊ニ移轉シ又ハ入ノ隠蔽スルヲ知り告ケサル財産ハ少シモ之ヲ相續スルヲ得ス

○第三款 遺物相續人其相續セシ財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權此特權ヨリ生ス可キ諸件及
ヒ此特權ヲ有スル相續人ノ義務

第七百九十三條 遺物相續ヲ爲ス可キ者其相續スル財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權ヲ以テ相續ヲ爲サ
ント欲スル事ハ其相續ヲ爲ス地ノ下等裁判所ノ書記局ニ別段之ヲ届ケ相續ヲ肯セサルノ證ヲ記スル爲メ別段該
ケタル簿冊中ニ其由ヲ登記ス可シ

第七百九十四條 其屆ヲ爲スト雖モ其前又ハ其後ニ訴訟法ノ規則ニ循ヒ條條ニ記スル定期間ニ相續ヲ爲ス可キ財
産ノ詳密ニシテ且公正ナル目錄ヲ記スルニ非ザレハ其効ナカル可シ

第七百九十五條 同上ノ特權ヲ以テ遺物相續ヲ爲ス可キ者ハ其相續ヲ始ムル日ヨリ三月内ニ同上ノ目錄ヲ記可シ
且其者ハ其相續ヲ肯シ又ハ肯セサルヲ考テ爲ノ更ニ四十日ノ猶豫ヲ得可シ但レ其猶豫ノ期限ハ目錄ヲ
記スル三月ノ期限ノ終リレ日ヨリ之ヲ算ヘ若シ其目錄未タ三月ニ滿サル中ニ成就セシ時ハ目錄ノ成就ヒレヨ
リ之ヲ算テ可シ

第七百九十六條 若シ相續ス可キ遺物中ニ損敗ス可キ物又ハ蓄藏スルニ多クノ費用ヲ要ス可キ物アル時ハ其相續
ヲ爲ス可キ者遺物相續ヲ爲ス可キノ權アルニ因リ裁判所ヨリ其物件ヲ賣拂フ可キノ允許ヲ得可シ但レ其者此手
續ヲ爲スト雖モ其遺物相續ヲ肯シタリト看做ス可カラス

其遺物ノ賣拂ハ訴訟法ニ定メタル貼附及ヒ公布ヲ爲スノ後官吏之ヲ爲ス可シ

第七百九十七條 目録ヲ記シ及ヒ執考ヲ爲スタノノ期限間遺物相續ヲ爲ス可キ者ヲシテ強テ其相續人ナリト定ム
レムルコトヲ得ス且遺物相續ノ訴訟ニ付キ其者ヲ相手方ト爲シ裁判ヲ受ケレムルコトヲ得ス○此定期ノ終ル時又ハ
其終ル可キ前ニ其者遺物相續ヲ爲スコトヲ肯セサル旨ヲ届クル時ハ其時ニ至ル迄其者ノ正當ニ爲シタル費用ヲ遺
物ノ財産中ヨリ償フ可シ

第七百九十八條 此期限ノ終リシ後遺物相續ヲ爲ス可キ者訴訟ヲ受ケル時ハ更ニ延期ヲ得ント願フコトヲ得可シ但
シ其訴訟ヲ管スル裁判所ニ於テハ其時ノ模様ニ從ヒ其延期ヲ許レ或ハ之ヲ許ササル可シ

第七百九十九條 前條ニ記ヤシ訴訟ノ場合ニ於テ遺物相續ヲ爲ス可キ者死者ノ死去セラレテ知ラサル確證ヲ立シ時
及ヒ其遺物ノ所在地ニアリ又ハ其遺物ニ付キ争ノ起リシニ因リ延期ノ日數足ラサルノ確證ヲ立ル時ハ其訴訟ノ費
用ヲ遺物ノ財産中ヨリ償フ可シ然レモ若シ遺物相續ヲ爲ス可キ者其確證ヲ立サル時ハ其者ヲシテ其訴訟ノ費用ヲ
償ハレム可シ

第八百條 遺物相續ヲ爲ス可キ者ハ第七百九十五條ニ記シタル期限ノ終リシ後及ヒ第七百九十八條ニ記スル所ニ
補ヒ裁判後ヨリ許シタル延期ノ終リシ後ト雖モ尚目録ヲ記シ遺物ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權ヲ以テ
相續ヲ爲スコトヲ得可シ但シ其者此特權ヲ以テ相續ヲ爲スニ及レタル方法ニテ相續ヲ爲スコキノ證書ヲ記シ又ハ
訴訟ノ終審ノ裁判アリテ其者其特權ナキ相續人タル可キコトヲ裁判所ヨリ言渡シタル時ハ格別ナリトス

第八百一條 遺物相續ヲ爲ス可キ者其遺物ヲ隠蔽シタル時或ハ故ヲ不正ノ意ヲ以テ目録中ニ遺物ヲ記セサル時
ハ遺物ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權アル相續人タル可キノ權ヲ失フ可シ

第八百二條 同上ノ特權ヲ以テ相續ヲ爲ス時ハ其相續人ノ爲メ左ノ權ヲ生ス可シ
第一 已レノ相續レテ得タル遺物ノ價ニ至ル迄ノ外遺物相續ニ付キ擔當ス可キ負債ヲ拂ハサルノ權利及ヒ
死者ニ償還ヲ要ム可キ債主又ハ死者ノ遺屬ノ贈還ヲ受ケ可キ者ニ已レノ相續セシ遺物ヲ盡ク渡シ時遺物
相續ニ付キ擔當ス可キ負債ヲ拂フヲ免ルノ權利

相續ニ付キ擔當ス可キ負債ヲ拂フヲ免ルノ權利

第二 其相續人自己ニ屬スル財産ヲ其相續シタル財産ト混同スルコトヲ且以前死者ニ貸與ヘタル金高又ハ
物件ヲ遺物財産中ヨリ取戻ス可キ訴ヲ爲スノ權利

第八百三條 相續シタル遺物ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權ヲ以テ遺物相續ヲ爲シタル者ハ其相續シタル
遺物ヲ支配シ且死者ノ債主及ヒ死者ノ遺屬ノ贈還ヲ受ケ可キ者ニ其支配スル遺物中ヨリ償還ノ算計ヲ爲ス可シ
此遺物相續人同上ノ算計ヲ爲ス可キノ催促ヲ受ケ償之ヲ爲サレハ其者ニ屬スル財産中ヨリ其算計ヲ爲
サシムルコトヲ得ス

第八百四條 同上ノ特權ヲ有スル相續人ハ其任ヲ得シ遺物支配ノ事ニ付キ重大ノ過アル時ノ外其責ニ任スルコト
ナル可シ

第八百五條 同上ノ特權アル遺物相續人遺物中ノ動産ヲ賣拂ハントスルニハ定例ニ從ヒ貼附及ヒ公布ヲ爲シタル
上官吏ノ照管ヲ以テ之ヲ賣拂ハシ得ス可シ

第八百六條 又此遺物相續人物品ノ儘其動産ヲ渡シ時ハ已レノ懈怠ニ因リ其低價ニ至リシ高ヲ擔當ス可シ

第八百七條 此遺物相續人ハ訴訟法ニ定メタル法式ヲ用ヒシテ不動産ヲ賣拂フ可カラズ又此相續人ハ死者ノ不
動産ヲ「イボテ」ク「ト」シテ取タル債主ノ要ノニ從ヒ其不動産ヲ賣拂フテ得タル代金ヲ以テ其債主ニ償フ可シ
第八百七條 又此遺物相續人債主及ヒ其他遺物相續ニ管係アル者ノ導ノヲ受ケタル時ハ目録中ニ記シタル動産ノ
代金及ヒ「イボテ」ク「ト」ノ權アル債主ニ渡シタル以外ノ不動産ノ代金ヲ償フニ足ル可キ保證者ヲ立リ可シ
若シ其保證者ヲ立テサル時ハ動産ヲ賣拂ヒ其代金ヲ「イボテ」ク「ト」ノ權アル債主ニ渡タル以外ノ不動産ノ代金ト共
ニ官署ニ預ケ遺物相續ニ付キ擔當ス可キ負債ノ拂方ニ供ス可シ

第八百八條 債主中ニ其債ノ拂方ヲ得ルニ付キ別段已レノ特權ヲ保護スルヲ許フル者アル時ハ同上ノ遺物相續人與

判後ヨリ定メタル順序ト方法トヲ用ヒスシテ其債ヲ拂フ可カラス
若シ債主中ニ別段其特權ヲ保護スルヲ許フル者ナキ時ハ此遺物相續人債主及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ受テ可キ者ノ求
テ爲ス順序ニ從ヒ其債ヲ爲ス可シ

第八百九條 債主中別段其特權ヲ保護スルヲ許ヘサル者ハ此遺物相續人既ニ算計ヲ爲シ終リ其相續シタル諸件
ヲ盡ク他ノ債主ニ拂ヒタル後ニ至リテ其相續人ニ貸金ノ債ヲ要ム可カラス唯遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル者ノミニ共
要ノヲ爲スヲ得可シ

此場合ニ於テ同上ノ債主ハ此遺物相續人ノ算計ヲ爲シ終リテ其相續シタル諸件ヲ盡ク他ノ債主ニ索ヒシモヨリ
三年内ニ遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル者ニ對シ貸金ノ債ヲ得ルノ許ヲ爲ス可シ若シ其定期ヲ過ル時ハ其許ヲ許サス
第八百十條 若シ遺物ニ封印ヲ爲シタル時ハ其封印ヲ爲スノ費用並ニ其目録及ヒ算計若シテ記スル費用ハ遺物ノ計
産中ヨリ之ヲ償フ可シ

○第四款 遺物相續人ノ虧缺シタル財産

第八百十一條 目録ヲ記シ及ヒ換考ヲナス爲メノ定期ノ後ニ遺物相續ヲ求ムル者出テ來ラス又ハ人ノ知ル所ノ遺
物相續人ナク又ハ遺物ヲ相續ス可キ者アリト雖モ此等ノ者皆其相續ヲ肯セサル時ハ之ヲ遺物相續人ノ虧缺シタ
ル財産トス可シ

第八百十二條 同上ノ遺物相續ヲ爲ス地ヲ管轄スル下等裁判所ニ於テハ其遺物ニ管轄アル者ノ職ニ因リ又ハアゴ
キリウルアンヘリアルノ申立ニ從ヒ其財産ノ管理ヲ任ス可シ

第八百十三條 遺物相續人ノ虧缺セシ遺物ヲ支配スルキヨトハ先ツ目録ヲ記シテ其遺物ノ模様ヲ證明シ及ヒ
遺物相續ノ事ニ管スル權利ヲ行ヒ又其權利ヲ保護ス可キ爲メ許訟ヲ爲シ又人ヨリ許訟ヲ爲スアル時ハ被告ニ
ナリテ其答辯ヲ爲シ且其遺物ノ財産ヲ支配ス可シ但シ此キヨトハ遺物中ニアル金高ト不動産動産ヲ賣却ニ
得タル竹ノ代金ト官署ニ預ケ債主ノ權ヲ損害セサル法ヲ以テ其債ヲ償フ可シ

第八百十四條 遺物ノ債ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權ヲ以テ相續ヲ爲フ者ノ記ス可キ目録ノ記載遺物ヲ支配
スルノ方法及ヒ債主ヘノ算計ニ付キ此章ノ第三款ニ記スル所ノ規則ハ相續人ノ虧缺セシ遺物ヲ支配スルキヨト
ルニモ亦通シテ之ヲ用フ可シ

○第六章 遺物分派ノ事及ヒ死者ヨリ嘗テ受ケタル贈遺ヲ返還スル事

○第一款 分派ノ訴訟及ヒ其法式

第八百十五條 如何ナル遺物相續人ト雖モ其相續シタル遺物ヲ必スシモ他ノ相續人ト永ク共同スルニ及ハス別段
其遺物ヲ分派ス可カラサルノ禁制及ヒ契約アル時ト雖モ相續人中ノ一人ヨリ其分派ヲ許フルヲ得可シ

然モ相續人等定期ノ時間其分派ヲ爲サハルノ契約ヲ結フヲ得可シ但シ其契約ハ五年以上遵守スルニ及ハスト
雖モ其期限ニ至リ更ニ之ヲ改結スルヲ得可シ

第八百十六條 與ニ遺物相續ヲ爲ス數人中ノ一人遺物ノ一部ヲ別ニ占有シタル時ト雖モ他ノ相續人等其一部ヲ合
シテ數人ニ分派ス可キヲ許フルヲ得可シ但シ其一部ヲ別段其一人ニ屬ス可キヲ記シタル證書アリ又ハ其
人定期ノ時間永ク之ヲ占有シタル時ハ格別ナリトス

第八百十七條 幼年ノ遺物相續人又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ遺物相續人ノ爲メ分派ヲ求ムル許ハ其後見人別段親族會
議ノ許諾ヲ得テ之ヲ爲ス可シ

失踪セシ遺物相續人ノ爲メ分派ヲ求ムル許ハ失踪者ノ財産ヲ假ニ有シタル其親族之ヲ爲ス可シ

第八百十八條 婦ノ人ヨリ相續スル動産及ヒ不動産ヲ夫婦共同ノ財産中ニ加入スル時ハ夫其婦ノ承諾ヲ得シテ
其動産及ヒ不動産ノ分派ヲ他ノ遺物相續人ニ對シ許フルヲ得可シ然モ婦ノ人ヨリ相續スル動産及ヒ不動産ヲ
夫婦共同ノ財産中ニ加入セサル時ハ夫其婦ノ承諾ヲ得シテ他ノ遺物相續人ニ對シ其分派ヲ許フ可カラス但シ
夫婦共同ノ所有ト爲サ、ル婦ノ得タル遺物ニ付キ夫其入額ヲ得ルノ權アル時ハ他ノ相續人ニ對シ假リノ分派ヲ
爲サント許フルヲ得可シ

又婦ト共ニ遺物相續ヲ為ス者ハ其天婦雙方ニ對シ訴ヲ為サ、レハ確定ノ分派ヲ為シ得可カラズ

第八百十九條 遺物相續人皆其相續ヲ為ス可キ地ニ在リ且皆丁年者ナル時ハ其遺物ニ必スシモ封印ヲ為スニ及ハス其遺物相續人等ノ隨意ノ方法ニ其分派ヲ為ス可キ得可シ

若シ遺物相續人中其相續ヲ為ス可キ地ニ在ケル者アル時又ハ幼者或ハ治産ノ察ヲ受ケン者アル時ハ相續人ノ職ニ因リ又ハ下等裁判所ノカロキリウアルベリアルノ申立ニ因リ又ハ遺物相續ヲ為ス地ヲ管轄スル最下等裁判所ノ裁判役ノ公務ニ因リカノテ急速ニ遺物ノ財産ニ封印ヲ為ス可シ

第八百二十條 債主モ亦裁判官渡ノ如ク執行ヲ可キ旨ヲ附記シタル公正ノ證書ニ因リ又ハ裁判役ノ允許ニ因リ其遺物ノ財産ニ封印ヲ為スヲ求ムルヲ得可シ

第八百二十一條 債主ハ前條ニ記シタル證書又ハ裁判役ノ允許ナキ時ト雖モ相續人等既ニ遺物ニ封印ヲ為シタル上ハ已ニ報知セヌンテ封印ヲ除去ス可カラサル旨ヲ告ルヲ得可シ

第八百二十二條 今派ヲ求ムル訴訟及ヒ分派ヲ為ス時間ニ生スル争ハ遺物相續ヲ為ス地ノ下等裁判所ニ申出ノ可シ又遺物ノ財産中ニテ分派シ難キ物ハ同上ノ裁判所ニテ之ヲ釋賣ニ為ス可シ又與ニ分派ヲ為ス相續人ノ名得可キ

遺物ノ部分ヲ互ニ保證スルニ管シタル訴訟ハ八百八十及ヒ分派ヲ取消セントスル訴モ亦此裁判所ニ申出ス可シ

第八百二十三條 若シ與ニ遺物相續ヲ為ス者ノ中一人分派ヲ承諾セサル時又ハ分派ヲ取扱フ方法及ヒ之ヲ成就スル方法ニ付テ争ノ生スル時ハ下等裁判所ニテ急速ニ判決ヲ用ヒ其訴ヲ審判シ又別段ノ道理アル時ハ分派ヲ

為ス可キ為ノ特ニ裁判役中ノ一人ヲ其掛リニ任シ其啓告ヲ得タル上其訴ヲ審判ス可シ

第八百二十四條 不動産ノ評價ハ分派ノ事ニ管係アル者ヨリ任シタル評價人又分派ノ事ニ管係アル者其評價人ヲ任スルヲ背セサル時ハ裁判所ノ公務ヲ以テ任シタル評價人ヲシテ之ヲ為サシム可シ

評價人ノ調書ニハ其評價ノ大旨ヲ記ス可シ但シ六百トハ評價シタル不動産ヲ分派シテ不便ナキヤ否ノ事且分派

シテ不便ナキ時ハ如何ナル方法ヲ以テ分派ス可キヤノ事及ヒ幾箇ノ部分ニ分派ス可キヤノ事並ニ其各部分ノ價ハ幾許タルヤノ事ヲ定ムルヲ云フ

第八百二十五條 又動産ノ評價モ既ニ其評價書アル時ノ外別段評價人ヲシテ之ヲ為サシム可シ但シ評價人其價ヲ定ムルニハ正當ノ價ヲ以テ別段之ニ増價ヲ為スヲ要セザル方法ヲ用フ可シ

第八百二十六條 遺物相續ヲ為ス可キ數人ハ各其相續ス可キ動産及ヒ不動産ノ部分ヲ品物ノ儘得可キノ訴ヲ為ス事ヲ得可シ然レモ負債ノ被償トシテ遺物ノ財産ヲ差押フル債主アル時又ハ相續人中過半其遺物ノ負債ヲ償フ可キ

為ノ其財産ヲ賣拂フヲ必要ナリト述ル時ハ其動産ヲ通常ノ法式ヲ以テ釋賣ニ為ス可シ

第八百二十七條 又不動産ヲ分派スル事不便ナル時ハ其不動産ヲ裁判所ニテ釋賣ニ為ス可シ

然レ各遺物相續人皆丁年ナル時ハ其相續人協議ノ上撰任シタル「ノテイル」ノ面前ニ於テ其釋賣ヲ為スヲ得可シ

第八百二十八條 不動産及ヒ動産ノ評價ヲ為シ且之ヲ賣拂フ可キ時ハ之ヲ賣拂ヒシ後掛リ裁判役ノ首渡ニテ各遺物相續人ヲ其協議シテ任シタル「ノテイル」ノ面前ニ至ラシノ若シ其相續人「ノテイル」ヲ任スルニ付キ協議セザル時ハ裁判所ノ公務ヲ以テ任シタル「ノテイル」ノ面前ニ至ラシム可シ

其「ノテイル」ノ面前ニ於テ各相續人其為ス可キ算計ヲ為シ分派ス可キ財産ノ合部ト各人ニ分派ス可キ部分ヲ定メ又相續人中ノ一人ヨリ他ノ相續人ニ引渡ス可キ物アル時ハ其分量ヲ定ム可シ

第八百二十九條 各遺物相續人ハ後ニ記スル所ノ規則ニ循ヒ其嘗テ死者ヨリ得タル贈物ト其死者ヨリ借リタル金高トク財産ノ合部中ニ返還ス可シ

第八百三十條 若シ遺物相續人中ノ一人其死者ヨリ受ケタル贈物ヲ品物ノ儘返還セサル時ハ他ノ相續人其一人ノ返還セサル財産ニ均シキ部分ヲ遺物財産ノ合部中ヨリ已ニ收取ス可シ但シ此場合ニ於テハ他ノ相續人其一人ノ返還セサル財産ト成ル可キ丈ケ同質同價ノ財産ヲ已ニ收取ス可シ

第八百三十一條 此ノ如ク財産ヲ收取シタル後遺物財産ノ合算中ニ尚餘リアル時ハ其餘分ヲ遺物相續人ノ終ニ在シテ之ヲ分テ又ハ其族數ニ准シテ之ヲ分ツ可シ

第八百三十二條 ○遺物ノ財産ヲ分派スルニハ成ル可キ大其不動産ヲ細小ニ分割スルヲ避ク可シト雖モ其分派シタル各部ニ成ル可キ大同質同價ノ動産及ヒ不動産ヲ入レ且ツ同種ノ權利ヲ加フ可シ

第八百三十三條 ○分派シタル動産又ハ不動産ノ價平等ナラサル時ハ其多分ヲ得タル者ヨリ一方ノ者ニ相當ノ年金ヲ與ヘスハ金額ヲ與ヘテ其不足ヲ補フ可シ

第八百三十四條 ○遺物相續人ノ為ス可キ數人ニテ其中ノ一人ヲ選ンテ財産分派ヲ為サシム可キヲ協議シ其一人之ヲ為ス可キヲ承諾シタル時ハ其者自カラ分派ヲ為ス可シ若シ然ラサル時ハ掛リ裁判役ノ任シタル評價人ヲシテ其分派ヲ為サシム可シ

第八百三十五條 分派シタル部分ヲ關引ニ為ス前各相續人其部分ノ作り方付キ故障ヲ遂フルヲ得可シ

第八百三十六條 遺物財産ノ合部ヲ相續人等ニ分派ス可キ規則ハ數箇ノ族中ニ分チタル部分ヲ更ニ細分スルニモ亦通シテ用フ可シ

第八百三十七條 若シノタイルノ面前ニテ行フタル分派ノ手續ニ付キ生スル時ハノタイル各遺物相續人ノ述ヘタル故障及ヒ論說ヲ調書ニ記シ其相續人ニ掛リ裁判役ノ面前ニ至ル可キ旨ヲ告ク可シ但シ其餘ノ事ハ訴訟法ニ定メタル法式ニ循ヒ其争ノ裁判ヲ為ス可シ

第八百三十八條 若シ與ニ遺物相續人ノ為ス可キ數人中其場ニ在ラサル者アル時又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者及ヒ既ニ後見ヲ免レタルト否トヲ問ハス幼者アル時ハ第八百二十九條ヨリ以下前條ニ至ル迄ノ數條ニ記載セシ規則ニ准ヒ裁判ノ手續ヲ經テ其分派ヲ為ス可シ ○若シ分派ヲ為スニ付キ其權ノ互ニ相續ル可キ幼者二人以上アル時ハ其各幼者ノ為ノ別設後見人ヲ任ス可シ

第八百三十九條 前條ニ記スル場合ニ於テ親費ヲ為スアル時ハ必ス幼者ノ財産費拂ニ付キ定メタル所ノ法式ヲ用ヒ裁判所ニ於テ之ヲ為ス可シ ○其親費ニハ必ス外人ヲ管涉セシム可シ 第四百六十條見合セ

第八百四十條 親族會議ノ許諾ヲ得タル後見人キテトシル補佐ヲ受ケル後見ヲ免レシ幼者遺物相續人ノ地ニ在テアル相續人ノ名代人前條條ニ記載セシ規則ニ循ヒ行フタル分派ハ之ヲ確定ノ分派トス可シ若シ前條條ニ記セシ規則ヲ遵守セス分派シタル時ハ之ヲ假リノ分派トス可シ

第八百四十一條 死者ノ親族タルト否トヲ問ハス其遺物ヲ相續スルノ權ナキ者遺物相續人中ノ一人ヨリ其相續ノ權ヲ讓リ受ケタル時ハ他ノ遺物相續人ノ金貨又ハ一人其者ニ其讓リヲ受ケタルニ付ニ拘フタル金高ヲ償ヒ其者ヲ分派中ヨリ除去スルヲ得可シ

第八百四十二條 分派ヲ為シタル後各相續人ニ各其所得ト為シタル財産ニ付テノ證書ヲ引渡ス可シ

二箇ニ分チタル財産ノ證書ハ其過半ヲ得ル者ニ引渡シ若シ其財產少部ヲ得ル者其證書ノ必要ナルヲアル時ハ一方ノ者ヨリ之ヲ渡ス可シ

諸般ノ財産ニ通シ用フ可キ證書ハ遺物相續人等協議シテ其中一人ニ預ケ置ク可シ但シ其者ハ他ノ相續人等其證書ノ入用ナルヲアル時ハ之ヲ渡ス可シ

若シ此證書ヲ預カル可キ者ヲ撰ムニ付キ單アル時ハ裁判役之ヲ定ム可シ

○第二款 返還ノ事

第八百四十三條 遺物相續人ハ特權ヲ有スル者ト雖モ嘗テ死者ヨリ生存中ノ贈遺トシテ直ケニ得タル物及ヒ他人ノ介人ニ因リ得タル者ヲ遺物相續ノ時ニ至リ他ノ遺物相續人ニ返還ス可ク死者ヨリ嘗テ受ケタル生存中ノ贈物ヲ已ニ保テ置ク可カラヌ又死者ノ遺囑ノ贈遺ニ因リ已ノ受ケ可キ物ヲ得テ未ム可カラヌ但シ嘗テ死者ヨリ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ為シタル時其贈遺ヲ受ケシ者遺物相續ノ時ニ至リ之ヲ返還スルニ及ハサル者ヲ死者

ノ介人ニ因リ得タル者ヲ遺物相續ノ時ニ至リ他ノ遺物相續人ニ返還ス可ク死者ヨリ嘗テ受ケタル生存中ノ贈物ヲ已ニ保テ置ク可カラヌ又死者ノ遺囑ノ贈遺ニ因リ已ノ受ケ可キ物ヲ得テ未ム可カラヌ但シ嘗テ死者ヨリ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ為シタル時其贈遺ヲ受ケシ者遺物相續ノ時ニ至リ之ヲ返還スルニ及ハサル者ヲ死者

明カニ定メ置キタル時ハ格別ナリトス

第八百四十四條 遺物相續人嘗テ死者ヨリ生存中ノ贈遺入ハ遺囑ノ贈遺ヲ受テ遺物相續ノ時ニ至リ之ヲ返還スルニ及ハサル旨ヲ死者ノ明カニ定メ置キタル時ト雖モ其相續人死者ノ隨意ニ贈與スルヲ得可キ定分ニテ得可キ所ノ財産ノ部ハテテ九ヨリ更ニ過分ノ贈物ヲ受ケタル時ハ其過分ヲ返還ス可シ

第八百四十五條 遺物相續人其相續ヲ背セサル時ハ嘗テ死者ヨリ受ケタル生存中ノ贈物ヲ已ニ保テ置キ又ハ遺囑ノ贈物ヲ受取ラント求ムルヲ得可シ但シ其生存中ノ贈物中ニテ死者ノ隨意ニ贈與スルヲ得可キ定分ニテ返還スルノ部分ハ之ヲ減ス可シ又遺囑ノ贈物中ニテモ亦同上ノ部分ハ之ヲ受ケ取ラント求ム可カラズ

第八百四十六條 嘗テ死者ヨリ贈物ヲ受ケン時未タ其遺物相續ヲ為ス可キノ權ナキ者其遺物相續ヲ為ス時ニ至リ其相續人トナリシ時ハ其贈物ヲ返還ス可シ但シ死者其返還ヲ為スニ及ハサル旨ヲ明カニ定メ置キタル時ハ格別ナリトス

第八百四十七條 遺物相續ヲ始ル時其相續人ノ子嘗テ死者ヨリ受ケタル贈物ハ常ニ之ヲ返還スルニ及ハサルノ旨ヲ以テ與一タルモノト看做ス可ク其相續人之ヲ返還スルニ及ハス

第八百四十八條 凡ソ人ヨリ贈物ヲ受ケン者ノ死去シタル後其子己ノ權ヲ以テ其贈與者ノ遺物ヲ相續ス可キ時ハ其子既ニ父ノ遺物ヲ相續シタルト雖モ嘗テ其父ノ得タル贈物ヲ返還スルニ及ハス然レモ若シ其子父ノ權ニ代リ嘗テ其父ニ贈與シタル者ノ遺物相續ヲ為ス可キ時ハ父ノ遺物相續ヲ背セザリシ場合ト雖モ嘗テ其父ノ得タル贈物ヲ返還セザルヲ得ス

第八百四十九條 遺物相續ヲ為ス可キ者ノ配偶者ニ與一タル贈物ハ其相續人之ヲ返還スルニ及ハサルノ旨ヲ以テ與一タル者ト為ス可シ

第八百五十條 贈物ノ返還ハ贈與ヲ為シタル者ノ遺物ノ財産中ニ之ヲ為ス可シ

第八百五十一條 遺物相續人ノ一人ニ産業ヲ得セシムル為メ又ハ負債ヲ償ハシムル為メ嘗テ贈遺ト為シタル財産

ハ之ヲ返還ス可シ

第八百五十二條 撫養及ヒ教育ノ費用期限ヲ定メテ修業ヲ為サシムル費用尋常ノ衣服及ヒ身具ノ費用婚姻ノ費用常例ノ贈物ハ之ヲ返還スルニ及ハス

第八百五十三條 遺物相續人嘗テ死者ト結ヒタル契約ニ因リ得タル利益ハ亦之ヲ返還スルニ及ハス但シ其契約ニ因リ不當ノ利益ヲ得タル時ハ格別ナリトス

第八百五十四條 嘗テ死者ト遺物相續人中ノ一人ト不正ノ事ヲ會社ヲ結ビ其會社ヲ結ヒレ契約ヲ公正ノ證書ヲ以テ規定シタル時ハ其會社ヲ結ヒタルニ因リ得タル利益モ亦之ヲ返還スルニ及ハス

第八百五十五條 贈物ヲ得タル者ノ過失ニ非ステテ意外ノ事ニ因リ滅盡シタル不動産ハ其代物ヲ返還スルニ及ハス

第八百五十六條 返還ヲ為ス可キ財産ヨリ生レタル利益ハ遺物相續ヲ始ムル日ヨリ以來算計シテ之ヲ返還ス可シ

第八百五十七條 返還ハ一ノ遺物相續人ヨリ他ノ相續人ニ之ヲ為ス可ク遺囑ノ贈遺ヲ受ク可キ者及ヒ死者ノ債主ニ之ヲ為ス可カラズ

第八百五十八條 返還ハ品物ノ儘之ヲ為シ又ハ相續ス可キ遺物中ニテ以前得タル部分ヲ差引キ遺物相續ヲ為スノ法ヲ以テ之ヲ為ス可シ

第八百五十九條 不動産ヲ贈物トシテ得タル相續人未タ其不動産ヲ人ニ賣拂ヒシコトナク且遺物中ニ他ノ相續人ノ為メ平等ナル部分ヲ為スニ付キ其不動産ト同質同價ノ不動産ナキ時ハ其不動産ノ儘之ヲ返還ス可シ

第八百六十條 若シ不動産ヲ贈物トシテ得タル者遺物相續ヲ始ムル前ニ其不動産ヲ賣拂フタル時ハ其遺物中ヨリ以前得タル部分ヲ差引キ遺物相續ヲ為スノ法ヲ以テ其返還ヲ為ス可シ但シ返還ヲ為スニ付テハ價ハ遺物相續ヲ始ムル時ノ價ニ從テ定ム可シ

第八百六十一條 何レノ場合ト雖モ不動産ヲ贈物トシテ得タル者其不動産ヲ良好ニシテ為メ費用ヲ出セル時ハ其返還ヲ為スニ其價ノ増シタル高ヲ算計ス可シ但シ其價ノ増シタル高ヲ算計スルニハ遺物財産分派ノ時ノ價ニ從テ可シ

第八百六十二條 其贈物ヲ受ケン者不動産ヲ別段良好ニ爲スヲ要シ雖モ其損壞ヲ諱スルニ必要ナル點ヲセシメ時ハ亦其費用ヲ等計ス可シ

第八百六十三條 不動産ヲ贈物トシテ受ケル者已ノ所爲又ハ已ノ過失及ヒ解志ニ因リ之ヲ毀壞シ又ハ損敗シテ其價ノ減シタル時ハ其者其價ノ減シタル高ヲ算計シテ返還ス可シ

第八百六十四條 不動産ヲ贈物トシテ受ケル者其不動産ヲ入ニ賣拂フタル時ハ其買主其不動産ヲ良好ニ持シ又ハ毀壞損敗シテ其價ヲ減シタル高ヲ其相續人前ニ算計シテ其返還ヲ爲ス可シ但レ此返還ハ不動産ノ當取價ノ減額ヲ算入スルヲ用フルヲ云フ

第八百六十五條 不動産ヲ其儘返還スル時ハ之ヲ贈物トシテ得タル者ノ擔當シタルイボテックノ義務ヲ減消シテ遺物財産ノ合部中ニ返還ス可シ但レイボテックノ權アル債主ハ其不動産返還ニ付キ故ラニ已ノ權ヲ害スルコトヲ防ク可キ爲メ其財産ノ分派ニ管渉スルコトヲ得可シ

第八百六十六條 死者ヨリ遺物相續人中ノ一人ニ不動産ヲ與ヘタル時モ他ノ相續人ニ之ヲ返還スルニ及ハサル旨ヲ別段定メタルト雖モ其不動産死者ノ隨意ニ贈與スルヲ得可キ財産ノ定分ニ過キ其過分ヲ他ノ部分ヨリ分ツニ不便ナキ時ハ其過分ヲ返還ス可シ又其不動産ノ過分ヲ他ノ部分ヨリ分ツニ不便ナル時其過分ノ價不動産ノ全價ノ半ハニ過ルニ於テハ其贈與ヲ受ケル者其不動産ノ全部ヲ返還シ遺物財産ノ合部中ヨリ其不動産ノ中死者ノ隨意ニ贈與スルコトヲ得可キ定分ノ代金ヲ已ニ收取ス可シ○若シ其不動産ノ中死者ノ隨意ニ贈與スルコトヲ得可シ定分ノ價其不動産ノ全價ノ半ハニ過ル時ハ其贈物ヲ受ケル者其不動産ノ全部ヲ已ニ保有スルコトヲ得可シ但レ其場合ニ於テハ其贈物ヲ得タル者其相續ス可キ遺物ノ財産中ニテ以前得タル過分ノ不動産ノ價ニ當ル可キ部分ヲ差引ク可シ又然ラザレバ其贈物ヲ得タル者ヨリ他ノ相續人ニ其過分ノ不動産ノ代金ヲ拂ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ其價ヲ爲ス可シ

第八百六十七條 不動産ヲ其儘ニテ返還ス可キ遺物相續人ハ其不動産ヲ良好ニ爲シタルニ付キ已ニ返還セシメ遺物

盡ク受取ル迄ハ其不動産ヲ占有スルコトヲ得可シ

第八百六十八條 贈物ノ動産ハ品物ノ儘返還ス可ラス必ズ其贈物ヲ得タル相續人遺物ノ財産中ニテ其動産ノ價ニ當ル可キ部分ヲ差引キ相續スルノ方法ヲ以テ其返還ヲ爲ス可シ○其動産ノ價ニ當ル可キ部分ヲ秤ルニハ當テ其動産ヲ贈與シタル證書ニ添ヘタル評價書ニ據リ其贈與ヲ爲セシ時ノ價ニ從テ可シ若シ又其評價書ノアテサル時ハ評價人ヲシテ之ヲ評價セシメタル價ニ從テ可シ但レ評價人其價ヲ定ムルニハ正當ノ價ヲ以テ別段之ニ増價ヲ爲スヲ要ス可キ方法ヲ用フ可ラス

第八百六十九條 贈物トシテ得タル金高ハ遺物ノ金高中ニテ之ヲ差引キ遺物相續ヲ爲スノ法ヲ以テ返還ス可シ若シ贈物トシテ金高ヲ得タル者遺物ノ金高中ニテ之ヲ差引キ遺物相續ヲ爲スノ法ヲ以テ返還セント爲スト雖モ遺物ノ金高之ニ足ラサル時ハ其返還ス可キ金高ニ當ル可キ遺物ノ動産ヲ拋棄シ又其動産ノ足ラサル時ハ其遺物ノ不動産ヲ拋棄シ其總金高ヲ已ニ保有スルコトヲ得可シ

○第三款 遺物相續ニ付キ擔當ス可キ負債ヲ拂フ事

第八百七十條 遺物相續ヲ爲ス數人ハ各其得ル所ノ遺物ノ割合ヲ以テ遺物相續ニ付キ擔當ス可キ負債ヲ拂フ可シ第八百七十一條 遺囑ノ贈遺ヲ爲ス者ヨリ其財産中ニテ別段指定メサル一部ヲ受ケル者ハ遺物相續人ニ等シク其所得ノ割合ヲ以テ其遺物相續ニ付キ擔當ス可キ負債ヲ拂フ可シ然レ遺囑者ノ財産中ニテ別段指定メタル品物係見合セテ受ケル者ハ此負債ヲ擔當スルニ及ハズ但レ其者ノ死者ヨリ得タル不動産ニ付キイボテックノ權ヲ有スル債主アル時ハ其者自カテ其負債ヲ擔當ス可シ

第八百七十二條 死者人ニ年金ヲ拂フ可キ受合トシテ其不動産ヲイボテックト爲シタル時ハ其遺物相續ヲ爲ス各人其不動産ノ分派スル前ニ其年金ノ元金ヲ寄附シテ其不動産ノイボテックヲ減掃ス可キコトヲ訴フルヲ得可シ

○若シ遺物相續人等其遺物中ノ不動産ノイボテックヲ減掃スルコトナク其儘ニテ分派シタル時ハ其イボテックノ義務ヲ負フタル不動産ヲモ亦他ノ不動産ト同一ノ割合ニ評價シ其價中ニテ其年金ノ元金ノ高ヲ差引ク可シ但レ

此場合ニ於テハ其不動産ヲ已部分トシテ得タル相續人ノミニニ年金ヲ拂フ可ク且他ノ遺物相續人等ニ對シ其年金ノ拂方ヲ自カラ仕スルヲ保證ス可シ

第八百七十三條 遺物相續人ノ各擔當ス可キ負債ノ部分ハ其已ニ得タル遺物財產ノ割合ヲ以テ定ム可ク又不動産ノ「イ」ボテシノ負債ハ其不動産ヲ得タル相續人盡ク之ヲ其一身ニ擔當ス可シ但シ其相續人ハ他ノ相續人ニ對シ及ヒ死者ノ財產ノ全部ヲ遺囑ノ贈物トシテ得タル者^{第十三}ニ對シ各其擔當ス可キ負債ノ部分ヲ已ニ拂ヒ還セシムルノ許ヲ爲シ得可シ

第八百七十四條 遺囑者ノ財產中ニテ別段指定メタル不動産ヲ贈物トシテ得タル者其不動産ニ付キ擔當シタル「イ」ボテシノ負債ヲ拂フタル時ハ遺物相續人ニ對シ及ヒ遺囑者ノ財產中ニテ別段指定メサル一部ヲ贈物トシテ受ケレ者ニ對シ債主ノ權ニ代リテ拂還レノ許ヲ爲ス可キ得ヘレ^{第八百七十}

第八百七十五條 遺物相續人中ノ一人又ハ遺囑者ノ財產中ニテ別段指定メサル一部ヲ贈物トシテ得タル者死者ノ不動産ノ「イ」ボテシノ負債ヲ拂フニ付キ自己ノ拂フ可キ部分ヨリ更ニ餘分ヲ拂フタル時ハ自カラ債主ノ權ニ代リ許ヲ爲ス可シ唯他ノ遺物相續人及ヒ他ノ遺囑者ノ贈遺ヲ得タル者ニ對シ各其人ノ擔當ス可キ部分ノ「イ」ボテシ還テ許フルコトヲ得可シ但シ遺物財產ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ擔ハサル特權アル相續人ハ他ノ債主ト同一ノ方法ヲ以テ他ノ遺物相續人ニ對シ不動産ニ管シタル自己ノ資金ヲ拂ハシムルノ許ヲ爲ス可キ權アリ

第八百七十六條 遺物相續人中ノ一人又ハ遺囑者ノ財產中ニテ別段指定メサル一部ヲ贈物トシテ受ケレ者ノ中一人遺物ノ不動産ノ「イ」ボテシノ負債ヲ其擔當ス可キ負債ヲ拂フコトハ他ノ相續人又ハ他ノ贈物ヲ受ケレ者其各得タル財產ノ割合ヲ以テ其一人ノ拂フ可キハサル負債ノ部分ヲ擔當ス可シ

第八百七十七條 債主死者ノ負債ノ抵償トシテ其財產ヲ差押ル裁判言渡ノ如ク執行ヲ可キ證書ヲ有スル時ハ亦其遺物相續人ニ對シ其言渡ノ如ク執行ヲ「イ」得可シ然レ其債主ハ其證書ヲ遺物相續人又ハ其住所ニ送達セシヨリ八日ノ後ニ非サレハ其裁判言渡ノ如ク執行ヲ「イ」手續ニ取掛ル可カラス

第八百七十八條 前條ニ記スル債主ハ何レノ場合ニ於テモ遺物相續人ノ債主ニ對シ死者ノ遺物ト遺物相續人ノ元氣所有スル財產トヲ分別セントスルノ許ヲ爲ス可キ得可シ

第八百七十九條 然レ死者ノ債主遺物相續人ノ死者ニ代テ債ヲ負フ可キコトヲ承諾シ死者ノ債ヲ取消シ更改シテ相續人ノ債ト爲シタル時ハ其債主前條ノ許ヲ爲ス可キ權ナシ^{第十條ニ見合}

第八百八十條 死者ノ債主同上ノ許ヲ爲ス可キ期限ハ動産ニ付テハ三年ノ時間トシ又不動産ニ付テハ遺物相續人其不動産ヲ所有スル時間トス

第八百八十一條 遺物相續人ノ債主ハ死者ノ債主ニ對シ死者ノ遺物ト相續人ノ財產トヲ分別セントスルノ許ヲ爲ス可カラス

第八百八十二條 遺物相續人ノ債主ハ故ラニ已ノ權利ヲ害ス可キ分派ヲ爲スタ防ク可キ為メ自己ノ面前ニ非サレハ其分派ヲ爲ス可カラサル旨ヲ其相續人ニ掛合タル上其債主自己ノ費用ヲ以テ其分派ニ管涉スルノ權アリ然レ其相續人其債主ノ掛合ニ管セス其面前ニ非スシテ分派ヲ爲シタル時ノ外既ニ成就シタル分派ニ付キ其債主故障ヲ述フ可カラス

○第四款 遺物ノ財產ヲ分派シタルヨリ生テ諸件遺物相續人分派シタル部分ヲ互ニ保證スル事

第八百八十三條 各遺物相續人ハ已ノ相續シタル財產及ヒ雜費ノ上得タル金高ヲ遺物相續ノ始マソシ時ヨリ已一人ニテ相續シタルト看做シ遺物中他ノ財產ハ之ヲ所有シタルトアソシト看做ス可シ

第八百八十四條 若シ遺物相續人中ノ一人分派ヲ爲ス前ニ生シタル理由ニ因リ已ノ部分タル財產所有ノ權又ハ其利益ヲ得ルノ權ニ付キ人ヨリ故障ヲ受クルアルニ放テハ他ノ相續人其損失ヲ償フ可キコトヲ保證ス可シ若シ又分派ノ證書中ノ一箇條ニ遺物相續人中ノ一人其所得ト爲ス部分ノ財產ニ付キ日後同上ノ故障ヲ受ルコトアリトモ他ノ相續人其損失ヲ償ハサルコトヲ別段定メ置キタル時ハ同上ノ保證ナキモノトス又遺物相續人中ノ一人自己ノ過失ニ因リ其故障ヲ受ルコトアル時ハ又其保證ノ効ナシトス

過失ニ因リ其故障ヲ受ルコトアル時ハ又其保證ノ効ナシトス

過失ニ因リ其故障ヲ受ルコトアル時ハ又其保證ノ効ナシトス

過失ニ因リ其故障ヲ受ルコトアル時ハ又其保證ノ効ナシトス

過失ニ因リ其故障ヲ受ルコトアル時ハ又其保證ノ効ナシトス

過失ニ因リ其故障ヲ受ルコトアル時ハ又其保證ノ効ナシトス

第八百八十五條 若シ遺物相續人中ノ一人其所得ト爲シタル部分ノ財産ニ付テ人ヨリ故障ヲ受ケタルニ因リ損失ノ生シタル時ハ前條ニ准ヒ他ノ相續人各其所得トシタル部分ノ割合ヲ以テ其損失ヲ償フ可シ

若シ他ノ遺物相續人中ニ其損失ヲ償フコト能ハサル者アル時ハ其者ノ遺物ヲ可キ部分ヲ其損失ヲ受ケタル相續人トシテ其他ノ相續人トニ平等ニ割付ク可シ

第八百八十六條 相續人中ノ一人其所得ト爲シタル部分ノ財産中ニ人ヨリ年金ヲ得可キノ權アリテ若シ其人年金ヲ拂フコト能ハサル時ハ其損失ヲ受ケタル相續人他ノ相續人ヨシテ其損失ヲ償ハシムルノ權アリ但シ其訴ハ分派ヨリ五年内ニ他ノ相續人ニ對シ之ヲ爲ス可シ○若シ既ニ分派ヲ成就シタル後年金ヲ拂フ可キ者相續人中ノ一人ニ之ヲ拂フコト能ハサルニ至リシ時ハ其相續人他ノ相續人ヲシテ其損失ヲ償ハシムルヲ得ス

○第五款 遺物財産ノ分派ヲ取消ス事

第八百八十七條 一度分派ヲ爲シタルト雖モ強迫及ヒ詐偽ノ所爲アル時ハ之ヲ取消ト爲スルヲ得可シ又遺物相續人中ノ一人自己ノ相續ス可キ遺物ノ部分四分一以上不足ナルノ證ヲ立ル時ハ分派ヲ取消ト爲スルヲ得可シ○若シ相續ス可キ一箇ノ遺物ヲ分派ノ時遺忘セシノミニ放テハ其分派取消スルヲ訴フ可カラズ唯分派ノ證書ニ其一箇ノ遺物ヲ追補シテ記入ス可シ

第八百八十八條 遺物相續人等ニ遺物ノ財産ヲ分ツ證書ハ分派ノ證書ノ名義ヲ用フルコトナク費拂ノ契約書交換ノ契約書和解ノ契約書ノ名義ヲ用ヒ又ハ其他如何ナル名義ヲ用フルト雖モ前條ニ准ヒ之ヲ取消ス可キノ訴ヲ爲スルヲ得可シ

然レ一度分派ノ證書ヲ記シタル後又ハ分派ノ證書ニ換用ス可キ證書ヲ記シタル後相續人等ノ間ニ起リタル真ノ争ヲ和解シ其單ヲ落著シテ和解ノ證書ヲ記シタル時ハ之ヲ公ケニ訴出シタルトナシト雖モ前條ニ記シテ所ニ因テ其和解ノ契約書ヲ取消サント訴フ可カラズ

第八百八十九條 遺物相續人中ノ數人又ハ一人ヨリ他ノ相續人ニ後ニ故障ノ生スルコトアリト雖モ之ヲ已ニ擔當セ

アルノ約定ヲ以テ遺物相續ノ權ヲ詐偽ナク費拂ヘシ時ハ後ニ其費拂ノ契約ヲ取消ス可キノ訴ヲ爲ス可カラズ

第八百九十條 遺物相續人ノ損害不足ト云フノ計ルニハ遺物ノ財産分派ノ時ノ價ニ從テ之ヲ算計ス可シ

第八百九十一條 分派ヲ取消ス可キ訴訟ノ被告人ハ原告人ニ金貨又ハ品物ヲ以テ其相續ス可キ部分ヲ追補スルニ因リ其訴訟ヲ止メ改メテ分派ヲ爲スヲ防クコトヲ得可シ

第八百九十二條 遺物相續人其相續シタル財産ニ付キ他ノ遺物相續人ノ詐偽ヲ知發シタル後又ハ強迫ノ既ニ止ミタル後ニ其相續シタル財産ヲ費拂ヒタル時ハ其詐偽又ハ強迫ヲ述テ分派ノ取消ヲ訴フ可カラズ

佛蘭西 民法第五

佛蘭西 民法第六

文部少博士其作辭釋口譯

○第二卷 生存中ノ贈遺ノ證書及ヒ遺囑ノ贈遺ノ證書千八百三年第五月三日決定同月十三日布告

○第一章 總規則

第八百九十三條 凡ソ財産ハ後ニ記スル所ノ法式ニ從ヒ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ爲スノ外償ヲ得スシテ之ヲ人ニ與フルコトヲ得ス

第八百九十四條 生存中ノ贈遺ノ證書トハ贈遺ヲ爲ス者其贈遺ヲ受ルコトヲ承諾スル者ノ爲メ自己ノ財産ヲ即

時ニ譲リ與フル證書ヲ云フ但シ此證書ハ贈遺者後ニ之ヲ廢棄スルヲ得ス

第八百九十五條 遺囑ノ贈遺ノ證書トハ其贈遺ヲ為ス者其死シタル後自己ノ財産ノ全部又ハ一部ヲ人ニ與フル證書ヲ云フ但シ此證書ハ贈遺者後ニ之ヲ廢棄スルヲ得可シ

第八百九十六條 遺囑ヲ受クル者其生存中其贈遺物ヲ保有シ其死後ニ當テ其贈遺ハ之ヲ禁止ス生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ受クル者ヲシテ其受クル所ノ財産ヲ保有セシメ其死スル時其贈遺者ノ預定シタル人ニ之ヲ譲ラシムルノ約定ハ縱令ヒ其贈遺ヲ受ル者之ヲ承諾スルト雖モ其効ナカル可シ然レ皇帝ヨリ皇族ニ別段與ヘタル世襲ス可キ不動産ハ之ヲ負債ノ質ト為シタル時ノ外千八百六十六年三月三十日ノ命令書及ヒ第四月十四日ノ命令書ヲ以テ規定シタル如ク之ヲ世襲ス可シ

第八百九十七條 此章ノ第六章ニ父母兄弟姊妹等ノ贈遺ニ付キ別段定メタル規則ハ前條ニ記スル所ノ例外ナリトス第八百九十八條 生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ受ク可キ者若シ其贈遺ヲ受ルヲ承諾セス又ハ車故アリテ其贈遺物ヲ受ルヲ能ハサルニ於テハ贈遺者ノ定メタル人ニ其贈遺ヲ為ス可キノ約定ハ「ユ」ヲ云フニテ之ヲ看做ス可カラズ之ヲ法律上ニテ允許シタルモノト為ス可シ

第八百九十九條 一人ニ財産ノ入額ヲ得可キノ權ヲ與ヘ又一人ニ其財産ヲ所有スルノモノノ權ヲ與フル生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ノ約定ハ亦前條ニ記スル所ノ約定ノ如ク法律上ニテ允許シタルモノトス第九百條 生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ為スニ付キ人ノ行ヒ能ハサル車ヲ為サシムル約定書又ハ法律及ヒ風儀ヲ害スル車ヲ為サシムル約定書ハ初ノヨリ全ク之ヲ記セサルモノト看做ス可シ

○第二章 生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ為シテ人ニ財産ヲ贈與シ又ハ之ヲ收受スルニ必要ナル諸件第九百一一條 生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ為スニハ精神ノ昏迷セサルヲ必要トス第九百二一條 法律上ニ於テ別段制禁ヲ受ケタル者ノ外何人ニ限ラズ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ為シテ人ニ財産ヲ贈與シ又ハ其贈遺ヲ收受スルヲ得可シ

第九百三條 十六歳以下ノ幼者ハ此章ノ第九章ニ記載スル所ノ外何レノ方法ヲ論ヒス自己ノ財産ヲ人ニ贈與スルヲ得ス第九百四條 十六歳以上ノ幼者ハ遺囑ノ贈遺ヲ為スノ外其財産ヲ人ニ贈與スルヲ得ス且其遺囑ノ贈遺ヲ以テ人ニ贈與スルヲ得可キ財産ハ丁年者人ニ贈與スルヲ得可キ財産ノ半ハノミトス

第九百五條 婚姻シタル婦ハ第二百十七條及ヒ第二百十九條ノ規定ニ記スル所ノ夫ニ立會又ハ其立會ニ非ラズト雖モ別段夫ノ許諾ヲ得又然ラザレハ裁判所ヨリノ允許ヲ得ルニ非ラザレハ生存中ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與スルヲ得ス

然レ婦遺囑ノ贈遺トシテ財産ヲ人ニ贈與スルニ付テハ其夫ノ許諾及ヒ裁判所ノ允許ヲ必要トセス第九百六條 生存中ノ贈遺ヲ受クルヲ得可キ者ニハ其贈遺ヲ為ス時之ヲ受クル者母ノ胞内ニアルヲ以テ足レリトス遺囑ノ贈遺ヲ受クルヲ得可キ者ニハ其贈遺ヲ為ス者ノ死スル時之ヲ受クル者母ノ胞内ニアルヲ以テ足レリトス然レ其子出生シタル上生存ス可キノ證ヲキ時ハ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ノ効ナカル可シ

第九百七條 幼者ハ縱令十六歳以上ニ至ルト雖モ其後見人ニ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺トシテ自己ノ財産ヲ贈與スルヲ得ス又幼者既ニ丁年ニ至ルト雖モ其後見人算計書ヲ其幼者ニ渡シテ其算計ヲ為シ終リタル後ニ非レハ其幼者生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺トシテ後見人ニ自己ノ財産ヲ贈與スルヲ得ス

此二項ニ記シタル場合ニ於テ幼者ノ尊屬ノ親其後見ヲ為シタル時ハ格別ナリトス第九百八條 私生ノ子ハ此章ノ第一卷ノ規定ニ其得可キ事ヲ記シタル遺物ノ外生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺トシテ其父母ノ財産ヲ受テ可カラズ

第九百九條 内科外科ノ醫師下等醫師又ハ製藥者病者ヲ診察シ其病者終ニ死シタル時ハ其病ヲ聞其死者ヨリ醫師又ハ製藥者ニ為シタル生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ノ効ナカル可シ然レ其死者ノ家産ト其醫師製藥者ノ勞力トニ准レ其死者ノ遺意ニ為スルヲ得可キ財産中別段定メタル一部ヲ

賜與ノ證トシテ贈與スル約定ハ前項ニ記スル所ノ例外ナリトス

又其死者ニ宗系ノ遺物相續人ナク其醫師又ハ製藥者其死者ノ第四級ニ至ル迄ノ血屬ノ親ナル時ハ其死者ノ遺意ニ為スヲ得可キ財產ノ全部ト雖モ之ヲ贈遺トシテ受クルヲ得可シ但レ其醫師又ハ製藥者其死者ノ宗系ノ遺物相續人ナル時ハ其他ニ宗系ノ相續人アリト雖モ同上ノ贈遺ヲ受クルヲ得可シ

脱教ノ僧ニ付テモ亦同上ノ規則ニ循テ可シ

第九百十條 食院及ヒゴンミニョーレンノ食者ノ為メ又ハ衆庶ノ裨益ヲ為サントシテ設ケタル公ケノ建造物ノ為メ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ以テ財產ヲ贈與スル約定ハ皇帝ノ命令ニテ之ヲ允許シタル上ニ非レハ其効ナカル可シ

第九百十一條 贈遺ヲ受テ可カラサル者ノ為メ財產ヲ贈與スルノ約定ハ倘テ其價ヲ收ムル契約ノ體裁ニテ為スト雖モ又ハ介入スル者ノ名ヲ借テ為スト雖モ其効ナカル可シ

贈遺ヲ受テ可カラサル者ノ父母子卑屬ノ親配偶者ハ介入者ト看做ス可シ

第九百十二條 千八百十九年第七月十四日ノ法ヲ以テ廢ス外國人佛蘭西人ノ為メ贈遺ヲ為スヲ得可キ時ノ外佛蘭西人外國人ノ為メ贈遺ヲ為ス可カラス

○第三章 隨意ニ贈遺ト為スヲ得可キ財產ノ定分及ヒ贈遺ト為レタル財產ヲ減スル事

○第一款 贈遺ト為スヲ得可キ財產ノ定分

第九百十三條 贈遺ヲ為ス者嫡出ノ子一人ヲ遺ス時ハ自己ノ財產ノ半ハテ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺トシテ人ニ贈與スルヲ得可シ又嫡出ノ子二人ヲ遺ス時ハ其三分ノ一ヲ贈與スルヲ得可シ若シ又三人以上ノ嫡出ノ子ヲ遺ス時ハ其四分ノ一ヲ贈與スルヲ得可シ

第九百十四條 前條ニ子ト記スル者ハ級ノ如何ナルヲ問ハス卑屬ノ親ヲ紡ヘテ之ヲ指シテ云フモノトス但シ卑屬ノ親代テ遺物相續ヲ為スノミノ權ヲ有スル時ハ其卑屬ノ親數人アリト雖モ之ヲ一人ト看做シテ算フ可シ

第九百十五條 贈遺ヲ為ス者子ヲ遺サント雖モ本宗外族ノ兩族二人又ハ數人ノ尊屬ノ親ヲ遺ス時ハ其財產ノ半ハノミヲ人ニ贈與スルヲ得可シ又本宗及ヒ外族中ノ一族ノミニ尊屬ノ親ヲ遺ス時ハ其財產ノ四分ノ三ヲ贈與スルヲ得可シ此ノ如ク尊屬ノ親ノ為メ別段遺シ置キタル財產ハ其尊屬ノ親遺物相續ヲ為ス可キ定則ノ順序ヲ以テ之ヲ相續ス可シ但シ死者ノ遺物ヲ相續スル時此尊屬ノ親ノ權傍系ノ親ノ權ト相觸レ其尊屬ノ親ノ相續ス可キ財產ノ定數不足ナル時ハ尊屬ノ親其別段遺シ置キタル財產ヲ盡ク己レノ有ト為スヲ得可シ

第九百十六條 尊屬ノ親及ヒ卑屬ノ親ノ共ニアラル時ハ生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺トシテ財產ノ全部ヲ人ニ贈與スルヲ得可シ

第九百十七條 財產ノ入額ヲ得ルノ權又ハ畢生間ノ年金ヲ得ルノ權ヲ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺トシテ贈與シタル時ハ其遺物相續人其贈與ヲ為レタルトテ承諾ス可シ若シ相續人之ヲ承諾セサル時ハ死者ノ遺物中ニテ其死者ノ贈遺ト為スヲ得可キ財產ノ定分ヲ其贈遺ヲ受ケル者ニ與ヘテ同上ノ權ヲ取還スルヲ得可シ

第九百十八條 畢生間ノ年金ヲ受取ル可キ約束又ハ入額ヲ得可キ約束ヲ以テ營テ死者ヨリ遺物相續人中ノ一人ニ所有ノ權ヲ賣リ渡シタル財產ノ價ハ贈遺ト為スヲ得可キ財產ノ定分中ヨリ之ヲ差引テ可シ若シ其財產ノ價贈遺ト為スヲ得可キ定分ニ過ル時ハ其餘ノ遺物ノ合部中ニ返還ス可シ○其差引及ヒ返還ハ死者同上ノ約束ニテ財產所有ノ權ヲ賣リ渡スル承諾セラル他ノ遺物相續人ヨリ之ヲ訴ヘ出ス可カラス又何レノ場合ニ於テモ傍系ノ遺物相續人ヨリ之ヲ訴ヘ出ス可カラス

第九百十九條 贈遺ト為スヲ得可キ財產ノ定分ノ全部又ハ一部ハ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺トシテ其所有者己レノ子又ハ其他ノ遺物相續人ニ贈與スルヲ得可シ但シ其贈與ヲ為ス者後ニ其贈遺トシテ其所有者己レノ子又ハ其他ノ遺物相續人ニ贈與スル時ハ之ヲ返還スルコト及ハス

遺物相續人中ノ一人ニ財產ヲ贈與シ後ニ之ヲ遺物ノ合部中ニ返還スルニ及ハサルノ約定ハ之ヲ其贈遺ノ證書中ニ附記シ又ハ其贈遺ヲ為レタル後ニ贈遺ノ證書ニ等シキ體裁ノ證書ニ記ス可シ

○第二款 贈遺ト為レタル財產ヲ減スル事

第九百二十條、生存中ノ贈物及ヒ遺囑ノ贈物贈遺ト爲スヲ得可キ定分ニ過ル時ハ遺物相續ヲ始ムル時之ヲ其定分ニ減ス可シ

第九百二十一條、法律上ニテ死者ノ財産ノ一部ヲ必ス相續ス可キ者又ハ其者ノ遺物相續人又ハ其者ノ權ニ付ル可キ者ハ生存中ノ贈物ヲ減スルノ訴ヲ爲スヲ得可シ但シ其他ノ贈遺ヲ受ケレ者及ヒ死者ノ債主ハ之ヲ減ス可キノ訴ヲ爲スヲ得ス又之ヲ減スルニ因リ己レノ利益ヲ得ルヲ得ス

第九百二十二條、贈遺ノ財産ヲ減スルニハ先ツ其贈遺ヲ爲レタル者ノ死セシ時存在シタル諸般ノ財産ヲ總括シテテ生存中ノ贈遺トシテ贈與シタル財産ヲ其贈遺ヲ爲レタル時ノ模樣ト其贈遺ヲ爲レタル者ノ死セシ時ノ價トニ准シテ之ヲ遺物ノ合部中ニ併合セシモノト看做シ此諸般ノ財産中ヨリ負債ヲ差引キタル上其死者ノ贈遺ト爲スヲ得可キ財産ノ定數ハ幾許ナルヤヲ算計ス可シ

第九百二十三條、遺囑ノ贈遺中ニアル諸般ノ財産ヲ減シ盡クシテ尙不足ナル時ニ非レハ生存中ノ贈物ヲ減スルヲ得ス但シ數人ニ與ヘタル生存中ノ贈物ヲ減ス可キ時ハ其最終ノ贈物ヲ最初ニ減ス可シ若シ最終ノ贈物ヲ減シ盡クシテ尙不足ナル時ハ最終ヨリ第二次ノ贈物ヲ減シ其他次第ニ前ニ爲レタル贈遺ニ及ホレテ之ヲ減ス可シ

第九百二十四條、遺物相續人中ノ一人嘗テ死者ヨリ生存中ノ贈物ヲ受ケ其贈物ヲ減ス可キ時其贈物ト自カラ遺物相續人タルニ付キ相續ス可キ財産ト同一ノ種類ナルニ於テハ其贈物中ニテ自己ノ相續ス可キ財産ノ高ニ充ル迄一ヲ保チ置クヲ得可シ

第九百二十五條、生存中ノ贈遺ノ價死者ノ贈遺ト爲スヲ得可キ財産ノ定分ニ過キ又ハ之ニ等シキ時ハ總テ遺囑ノ贈遺ノ効ナカル可シ

第九百二十六條、若シ遺囑ノ贈遺ノ財産死者ノ贈遺ト爲スヲ得可キ定分ニ過クル時又ハ其定分中ヨリ生存中ノ贈遺ヲ差引キタル部分ニ過クル時ハ死者ノ財産全部ノ遺囑ノ贈遺ト別段指定シタル品物ノ遺囑ノ贈遺トノ差別ヲ其贈遺ノ財産ノ高ニ准シテ之ヲ減ス可シ

第九百二十七條、然レ遺囑ノ贈遺ヲ爲ス者一ノ贈遺ノ財産ヲ他ノ贈遺ノ財産ヨリ特ニ必ス贈與セント願フヲ以テカニ定メ置キタル時ハ其願フ所ニ從ヒ其別段ノ贈遺ヲ減ス可キラス但シ他ノ贈遺ノ財産ノ全價ヲ以テ尙遺物相續人ノ爲メ遺シ置ク可キ財産ノ價ニ充ルニ足ラサル時ハ格別ナリトス

第九百二十八條、生存中ノ贈遺ヲ受ケシ者其贈遺者ノ死去シタルヨリ一年內ニ贈物ヲ減ス可キノ求メヲ受クル時ハ死者ノ贈遺ト爲スヲ得可キ定分ニ過クル贈遺ノ財産ニ付キ其贈遺者ノ死去シタルヨリ以來得タル所ノ利益ヲ返還ス可シ若シ其一年ノ期限後ニ其求メヲ受ケタル時ハ之ヲ受ケシ日ヨリ以來得タル所ノ利益ヲ返還ス可シ

第九百二十九條、贈物ヲ減スルニ因リ嘗テ死者ヨリ贈遺トシテ典ヘタル不動産ヲ其遺物相續人ノ取戻ス時ハ其贈遺ヲ得シ者其不動産ニ付キ擔當シタル負債ヲ拂拂シテ之ヲ戻ス可シ

第九百三十條、不動産ノ贈遺ヲ受ケタル者其不動産ヲ人ニ賣リ渡シタル時遺物相續人其不動産中ニテ死者ノ贈遺ト爲スヲ得可キ定分ニ過キタル一分ヲ已レニ取戻サントスル訴ハ其買入人ニ對シテ之ヲ爲ス可シ但シ其訴ノ方法ト順序トハ其贈遺ノ受ケタル本人等ニ對シテ爲ス所ニ依リ且相續人ハ買入人ニ對シ其訴ヲ爲ス前ニ先ツ贈遺ヲ受ケタル者ノ財産ヲ抵償トシテ差押ヘ之ヲ賣拂フテ其賣拂ニ因リ得タル代金尙不足ナル上ニテ其訴ヲ爲ス可シ

○其訴訟ヲ受クル順序ハ其贈遺ヲ受ケシ者ヨリ最後ニ不動産ヲ買入レタル者ヲ以テ初トシ次第ニ前ニ買入レタル者ニ及ホス可シ

○第四章 生存中ノ贈遺

○第一款 生存中ノ贈遺ノ法式

第九百三十一條、生存中ノ贈遺ヲ爲ス證書ハ尋常ノ契約書ノ法式ヲ用ヒハテイルノ面前ニ於テ之ヲ記シ其正本ヲ「テイル」ニ渡ス可シ若シ此事ヲ爲サル時ハ其證書ノ効ナカル可シ

第九百三十二條、生存中ノ贈遺ハ其贈遺ヲ受クル者之ヲ承諾シタル旨ヲ贈遺ノ證書ニ記入セシ日ヨリ後ニ非サレハ贈遺ヲ爲ス者必ス之ヲ執行フニ及ハス且其日ヨリ後ニ非サレハ其贈遺ノ効ヲ生スルヲナカル可シ

又贈遺ヲ爲ス者ノ生存中ニ於テハ贈遺ヲ受クル者其贈遺ノ證書ヨリ後ニ公正ノ證書ヲ記シテ其贈遺ヲ受クルヲ承諾シ其證書ノ正本ヲ「テイル」ニ渡ストテ得可シ然レ此場合ニ於テハ其承諾ヲ爲ス證書ヲ贈遺者ニ示シタル日ヨリ後ニ非サレハ其者ニ對シ其効ナカル可シ

第九百三十三條 贈遺ヲ受クル者丁年者ナル時ハ自カラ其贈遺ヲ承諾シ又ハ其本人ニ代テ特ニ其一箇ノ贈遺ヲ承諾ス可キ權又ハ總テ其者ノ受ク可キ諸般ノ贈遺ヲ承諾ス可キノ權ヲ任セラレシ名代人其承諾ヲ爲スヲ得可シ此名代人ヲ任スル書ハ「テイル」ノ面前ニテ之ヲ記シ其寫書ヲ贈遺ノ證書ノ正本ニ添ヘ置ク可シ若シ又贈遺ノ證書ト贈遺ノ承諾ヲ爲ス證書ト異ナル時ハ其寫書ヲ其承諾ヲ爲ス證書ノ正本ニ添ヘ置ク可シ

第九百三十四條 婚姻シタル婦ハ第二百十七條及ヒ第二百十九條ノ婚姻ニ記スル所ニ其夫ノ許諾ヲ得スシテ人ヨリ爲シタル贈遺ヲ承諾スルヲ得ス又夫ノ許諾セサル時ハ裁判所ノ允許ヲ得スシテ其贈遺ヲ承諾スルヲ得ス第九百三十五條 後見ヲ免レサル幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受ケシ者ニ爲シタル贈遺ハ第四百六十三條ノ後見ニ記スル所ニ其後見人之ヲ承諾ス可シ

後見ヲ免レタル幼者ハ「キ」ラトールノ立會ニテ人ヨリ贈遺ヲ承諾ス可シ
總テ後見ヲ免レタルト否トテ問ハス幼者ノ父母又父母ノ生存中ト雖モ其尊屬ノ親ハ自カラ其幼者ノ後見ノ任又ハ「キ」ラトールノ任ヲ受ケタルト否トニ係ハラヌ幼者ノ爲メニ贈遺ヲ承諾スルヲ得可シ

第九百三十六條 啞聲者文字ヲ書スルヲ知ル時ハ自カラ贈遺ノ承諾又ハ名代人ヲシテ其承諾ヲ爲サシムルヲ得可シ若シ啞聲者文字ヲ書スルヲ知ラサル時ハ第一篇第十卷ノ後見ニ定メタル規則ニ循ヒ特ニ任シタル「キ」ラトールヲシテ其贈遺ノ承諾ヲ爲サシム可シ

第九百三十七條 貧院又ハ「ゴ」ムニ「ユ」ンノ貧者ノ爲メ又ハ衆庶ノ裨益ヲ爲サントシテ設ケタル建築物ノ爲メナシタル贈遺ハ其貧院又ハ「ゴ」ムニ「ユ」ン又ハ建築物ノ支配人別段之ヲ承諾ス可キノ官許ヲ得タル後ニ非レハ其承諾ヲ爲ス可カラズ

第九百三十八條 贈遺ヲ受クル者相當ノ式ヲ以テ贈遺ヲ承諾シタル上ハ其贈遺ヲ爲ス者ト之ヲ受クル者トノ意ニ因リ其贈遺ヲ爲シ終リタルモノト爲シ其贈遺ノ財産ヲ所有スルノ權ヲ其贈遺ヲ受ケタル者ニ移ス可ク別段ノ法式ヲ用ヒ之ヲ引渡スニ及ハス

第九百三十九條 「イ」ボテトクト爲スヲ得可キ財産ヲ贈遺ト爲シタル時ハ其贈遺ト承諾トヲ記シタル證書又贈遺ノ證書ト承諾ノ證書ト異ナル時ハ其武通ノ證書ヲ其財産所在ノ地ヲ管轄スル「イ」ボテトクトノ官署ノ簿冊ニ登記ス可シ

第九百四十條 婦前條ニ記スル財産ノ贈遺ヲ受ケタル時ハ夫其贈遺ノ證書及ヒ承諾ノ證書ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルヲ求ム可シ若シ夫此式ヲ行ハサル時ハ其婦別ニ裁判所ノ允許ヲ受クルヲナクシテ其證書ヲ登記スルヲ求ムヲ爲ストテ得可シ

幼者又ハ治産ノ禁ヲ受クル者又ハ衆庶ノ裨益ノ爲メ設ケタル建築物其贈遺ヲ受クル時ハ其後見人「キ」ラトール又配人其贈遺ノ證書及ヒ承諾ノ證書ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルヲ求ムヲ爲ス可シ

第九百四十一條 贈遺ノ證書及ヒ承諾ノ證書ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルヲナキ時ハ其贈遺ノ財産ニ管係アル各人他ノ事故ニ付キ訴訟ヲ爲ス時ニ當リ其登記ナキ旨ヲ申立ルヲ得可シ但シ其登記ノ求メヲ爲ス可キ者又ハ其者ノ權ニ代ル者又ハ贈遺ヲ爲ス者ハ之ヲ申立ルヲ得ス

第九百四十二條 幼者治産ノ禁ヲ受ケシ者婚姻シタル婦ハ贈遺ヲ承諾スル事及ヒ贈遺又ハ承諾ノ證書ヲ官署ノ簿冊ニ登記スル事ヲ其後見人又ハ其夫ノ忌リタル時自カラ之ヲ忌リタルニ等シキ責ニ任ス可ク唯其後見人又ハ其夫ニ對シ損失ノ償ヲ訴フ可キ道理アル時ハ之ヲ訴フルヲ得可シ但シ其後見人又ハ夫ヨリ幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者又ハ婦ニ其損失ノ償ヲ爲ストテ能ハサル時ト雖モ此等ノ者ハ其後見人又ハ夫忌リタル責ヲ免ル、トテ得ス

第九百四十三條 生存中ノ贈遺ハ贈遺ヲ爲ス者ノ現在所有スル財産ノミニ限ル可シ若シ其贈遺ノ契約書中ニ贈遺者日後所有ト爲ストアル可キ財産ヲ記シタルト雖モ其贈遺ノ効ナカル可シ

第九百四十四條 若シ贈遺爲ス者ノミノ意ニ管スル契約ヲ以テ生存中ノ贈遺爲シタル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ
第九百四十五條 又生存中贈遺ヲ受ケル者ヲシテ其贈遺ノ時現ニ在ル以外ノ負債又ハ贈遺ノ證書及ヒ其證書ニ附
加ス可キ目録ニ記シタル以外ノ負債ヲ償ハシム可キノ契約ヲ以テ贈遺ヲ爲タル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ

第九百四十六條 生存中ノ贈遺ヲ爲ス者其贈遺ト爲シタル財産中ノ品物又ハ贈遺ト爲シタル財産中ノ定數ノ金高
ヲ自己ノ意ニ隨ヒ自由ニ取扱フ可キノ權ヲ特ニ保有シ其權ヲ行フテ死シタル時ハ其贈遺ヲ受ケタル者ノ爲
メ如何ナル契約アルヲ問ハス其品物又ハ其金高ヲ贈遺者ノ遺物相續人所得ト爲ス可シ

第九百四十七條 前四條ハ此卷ノ第八章及ヒ第九章ニ記載スル所ノ贈遺ニ通シテ用テ可ラス
第九百四十八條 動産ノ贈遺ヲ爲ス時ハ其動産ノ評價書ヲ記シ贈遺ヲ爲ス者及ヒ之ヲ受ケル者又ハ贈遺ヲ受ケル
者ノ爲メ其贈遺ヲ承諾スル者之ニ姓名ヲ手署シ其評價書ヲ贈遺ノ證書ノ正本ニ添ヘ置クニ非サレハ其贈遺ノ効
ナカル可シ

第九百四十九條 動産又ハ不動産ノ贈遺ヲ爲ス者ハ其入額ヲ所得トスルノ權ヲ已ニ保テ置キ又ハ他人ノ爲メニ
保テ置クヲ得可シ

第九百五十條 動産ノ贈遺ヲ爲ス者其動産ノ入額ヲ得可キノ權ヲ已ニ保テ置キタル時ハ贈遺ヲ受ケル者贈遺ヲ
爲タル者ノ入額ヲ所得トスル權ノ終ル時存在スル動産付テハ其時ノ形狀ノ儘之ヲ受取ル又存在セサル財産ニ付
テハ以前贈遺ヲ爲シタル時ニ記シタル評價書ニ從ヒ其代金ヲ得可キヲ其贈遺者又ハ其遺物相續人ニ對シ訴フ
ルヲ得可シ

第九百五十一條 若シ贈遺ヲ受ケル者贈遺ヲ爲ス者ヨリ先キニ死去スル時又ハ贈遺ヲ受ケル者ト其卑屬ノ親ト贈
遺ヲ爲ス者ヨリ先キニ死去スル時ハ其贈遺者贈遺ト爲タル財産ヲ取戻ス可キノ契約ヲ贈遺ヲ受ケル者ト共ニ爲
スヲ得可シ

此條ハ贈遺ヲ爲メ者ノミノ利益ノ爲メ之ヲ契約スルヲ得可シ

第九百五十二條 前條ノ如ク贈遺ヲ爲シタル財産ヲ取戻ス可キノ約定アル時ハ贈遺ヲ受ケシ者ヨリ其贈遺ノ財産
ヲ他人ニ賣渡シタル契約ヲ廢棄シ且其財産ニ付キ擔當ス可キノ負債及ヒ「ボテ」ノ負債ヲ捺捺シテ贈遺ヲ爲タ
ル者ニ之ヲ取戻スヲ得可シ○然レ其贈遺ヲ受ケル者ノ婚姻ノ契約書ニ此贈遺ノ旨ヲ附記セシ時後ニ其贈遺ヲ
受ケタル者死去シテ其元來所有スル財産ノミニテハ其配偶者ノ嫁資ヲ償ヒ又ハ其他婚姻ノ契約ノ如ク執行フ
ルハサル時ハ贈遺ヲ爲シタル者其財産ニ付キ擔當ス可キノ負債ヲ捺捺シテ之ヲ取戻スヲ得ス

○第二款 生存中ノ贈遺ノ證書ヲ發棄ス可カラサル規則外ノ諸件

第九百五十三條 生存中ノ贈遺ノ證書ハ贈遺ヲ受ケル者其贈遺ヲ受ケルニ付キ契約シタル諸件ヲ執行ハサル事又
ハ恩義ヲ忘ル、事又ハ贈遺ヲ爲ス者其贈遺ヲ爲シタル後ニ子ノ出生スル事ニ因リ之ヲ廢棄スルヲ得可シ

第九百五十四條 贈遺ヲ受ケルニ付キ契約シタル諸件ヲ執行ハサルヲ以テ贈遺ノ證書ヲ廢棄シタル時ハ贈遺ヲ受
ケタル者ノ擔當ス可キノ負債及ヒ「ボテ」ノ負債ヲ捺捺シテ其贈遺ヲ爲タル者其財産ヲ取戻シ且其贈遺ヲ爲シ
タル者ハ贈遺ヲ受ケタル者ニ對シテ爲ス可キノ所ニ等シキ訴訟ヲ贈遺ヲ受ケタル者ヨリ其贈遺ノ不動産ヲ得タル
者ニ對シテ爲フヲ得可シ

第九百五十五條 生存中ノ贈遺ノ證書ハ左ノ場合ニ於テ恩義ヲ忘レタル事ニ因リ之ヲ廢棄スルヲ得可シ

- 第一 贈遺ヲ受ケシ者贈遺ヲ爲シタル者ノ性命ヲ害セントシタル時
 - 第二 贈遺ヲ受ケシ者贈遺ヲ爲シタル者ニ對シ暴行罪犯又ハ至重ノ損害ヲ爲シタル時
 - 第三 贈遺ヲ受ケシ者贈遺ヲ爲シタル者ニ養料ヲ給スルヲ肯セザル時
- 第九百五十六條 贈遺ヲ受ケルニ付キ契約シタル諸件ヲ執行ハス又ハ恩義ヲ忘レタルニ因リ生存中ノ贈遺ノ證書
ヲ廢棄スル事ハ其贈遺ヲ爲ス者ノ自己ノ權ノミヲ以テ之ヲ爲ス可カラス必ス裁判所ニ訴ハ出シタル上ニテ之ヲ爲ス可シ
- 第九百五十七條 恩義ヲ忘レタルニ因リ贈遺ノ證書ヲ廢棄スルノ訴ハ贈遺ヲ爲シタル者其贈遺ヲ受ケタル者ヨリ
害ヲ蒙リタルト述ヘシ日ヨリ一年內又ハ贈遺ヲ爲タル者其贈遺ヲ受ケタル者ノ行フタル罪犯ヲ知り得タル日ヨ

リ一年以内ニ之ヲ為ス可シ

其贈遺ノ證書ヲ廢棄スルノ許ハ贈遺ヲ為シタル者ヨリ贈遺ヲ受ケタル者ノ遺物相續人ニ對シテ之ヲ為ス可カラ
ス又贈遺ヲ為シタル者ノ遺物相續人ヨリ贈遺ヲ受ケタル者ニ對シテ之ヲ為ス可カラス但シ贈遺ヲ為シタル者其
訴ヲ為シ其未ク決定セサル内ニ死去シタル時又ハ贈遺ヲ為シタル者其訴ヲ為サスト雖モ贈遺ヲ受ケタル者ノ罪
犯ヲ行フタルヨリ一年以内ニ死去シタル時ハ贈遺ヲ為シタル者ノ遺物相續人ヨリ贈遺ヲ受ケタル者ニ對シテ其訴
ヲ為ス可ク得可シ

第九百五十八條 第九百三十九條ニ記シタル如ク不動産ノ贈遺ノ證書及ヒ承諾ノ證書ヲ公正ニ為ス可キカ為メ之
ヲ官署ノ簿冊ニ登記シタル端ニ贈遺ヲ受ケタル者恩義ヲ忘レタルニ因リ其贈遺ノ證書ヲ廢棄セント許フル書面
ヲ附記スル前ニ其贈遺ヲ受ケタル者其贈遺ノ不動産ヲ賣拂ヒ又ハ其不動産ヲ貸付クト為シ又ハ其他ノ方法
ニテ負債ノ質ト為シタル時ハ其贈遺ノ證書ヲ廢棄スルト雖モ其賣拂ヒノ契約又ハ負債ノ質ノ契約ヲ廢棄ス可カラス
此場合ニ於テ不動産贈遺ノ證書ヲ廢棄シタル時ハ其廢棄ノ許ヲ為タル時ノ其不動産ノ價并ニ其訴ノEヨリ以來ノ
其入額ヲ贈遺ヲ受ケタル者ヨリ贈遺ヲ為シタル者ニ償還ス可シ

第九百五十九條 婚姻ノ為メナシタル贈遺ハ恩義ヲ忘レタルヲ以テ之ヲ廢棄ス可カラス

第九百六十條 子及ヒ卑屬ノ親ナキ者ノ為シタル生存中ノ贈遺ノ證書ハ其贈遺ノ財産ノ價ト其贈遺ノ名義トノ如
何ナルヲ問ハス又其贈遺ヲ相互ニ為シ又ハ酬謝ノため之ヲ為シ又ハ婚姻ノ為メ之ヲナシタルト雖モ贈遺ヲ為シ
タル者ノ生存中又ハ死後ニ其嫡出ノ子ノ生レシ時又ハ其贈遺ヲ為シタル後ニ生レタル私生ノ子ヲ後ニ婚姻ニ因
テ嫡出ノ子ト認メタル時ハ別ニ裁判所ニ訴ヘ出サスト雖モ其證書ヲ廢棄ス可シ但シ其親屬ノ親ヨリ其卑屬ノ親ト
ル夫婦ノ者ニ為シ又ハ夫婦ノ互ニ為シタル贈遺ハ格別ナリトス

第九百六十一條 贈遺ヲ為ス時其子既ニ母ノ胎内ニアリシ時ト雖モ其子ノ出生シタルニ因リ亦前條ニ記スル所ノ
如ク贈遺ノ證書ヲ廢棄ス可シ

第九百六十二條 若シ贈遺ヲ為シタル者ノ子出生シタル後贈遺ヲ受ケシ者猶其贈遺ノ財産ヲ所有シ且贈遺ヲ為シ
タル者之ヲ拒マサル時ト雖モ亦其贈遺ノ効ナカル可シ但シ此場合ニ於テハ贈遺ヲ受ケシ者贈遺ヲ為シタル者ノ
子ノ出生シタル事又ハ私生ノ子ヲ後ニ婚姻ニ因テ嫡出ノ子ト認メタル事ノ相當ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ後ニ其
贈遺ノ財産ヨリ得タル利益ヲ還與ス可シ又贈遺ヲ為シタル者其子ノ出生シタル事又ハ私生ノ子ヲ嫡出ノ子ナリ
ト認メタル事ヲ贈遺ヲ受ケシ者ニ報告シタル後ニ其贈遺ノ財産ヲ取戻サント訴ヘタル時モ亦其報告後ニ其財産
ヨリ得タル利益ヲ還與ス可シ

第九百六十三條 廢棄シタル贈遺ノ證書中ノ財産ハ其贈遺ヲ受ケシ者其財産ニ付キ擔當シタル負債及ヒイボテ
ノ負債ヲ擔當シテ之ヲ贈遺ヲ為シタル者ニ還ス可ク其贈遺ヲ受ケタル者其婦ノ嫁資ヲ還ス事又ハ婦ト共通シタ
ル財産ノ一部ヲ其婦ニ還ス事又ハ其他婚姻ノ契約ノ如ク行フ事ノ為メニ決シテ其贈遺ノ財産ヲ用フ可カラス但
シ其贈遺ヲ為シタル者贈遺ヲ受ケシ者ノ婚姻ノ為メ其財産ヲ贈與シテ其旨ヲ婚姻ノ契約書中ニ附記シ且ツ贈遺
ヲ為シタル者其贈遺ノ財産ヲ以テ必ス婚姻ノ契約書ノ如ク行ハシム可キ保證者タル時ト雖モ亦前ニ記シタル所
ニ等シカル可シ

第九百六十四條 廢棄シタル贈遺ノ證書ハ其贈遺ヲ為シタル者ノ子死去スルト雖モ又ハ贈遺ヲ為シタル者贈遺ヲ
受ケシ者ニ其儘其財産ヲ與ヘ置ク可キノ證書ヲ記シタルト雖モ再ヒ其効ヲ生スルコトナカル可シ若シ其贈遺ヲ為
シタル者其廢棄シタル贈遺ノ證書中ノ財産ヲ其贈遺ヲ受ケシ者ニ是迄ノ如ク再ヒ與ヘント欲スル時ハ其出生シ
タル子ノ死生ニ管ヤス更ニ新ニ其財産ヲ贈遺スルノ證書ヲ記ス可シ

第九百六十五條 贈遺ヲ為ス者縱令子ノ出生スルコトアリトモ其贈遺ノ證書ヲ廢棄セサル可シトノ契約ハ全ク其効
ナカル可シ

第九百六十六條 贈遺ヲ受ケタル者又ハ其遺物相續人又ハ其權ニ代ル者又ハ其他贈遺ノ財産ヲ占有スル者ハ其財
産ヲ三十年間占有シタル後ニ非レハ贈遺ヲ為シタル者ノ子ノ出生シタルニ因リ其効ヲ失フタル贈遺ノ證書中ノ

ス可カラス

第九百七十九條 遺囑者言語ヲ發スルヲ結スレテ文字ヲ書スルヲ得可ク時ハ遺囑書ノ全文ヲ手記シ且年月及ヒ姓名ヲ手記シテ其遺囑書ヲハタイド及ヒ證人ニ渡シ其書ハ自己ノ遺囑書ナルヲハタイド并ニ證人ノ面前ニテ表書ノ初ニ記シ其後ハタイドハ自己ト證人トノ面前ニテ遺囑者同上ノ事ヲ記シタル旨ヲ表書ニ記ス可シ但シ其餘ノ法式ハ第九百七十六條ニ記載スル所ニ循フ可シ

第九百八十條 遺囑書ヲ記スル時其前ニ立會可キ證人ハ民權ヲ受ケタル佛蘭西人ニシテ且丁年ニ至リシ男ニ限ル可シ

第九百八十一條 兵士又ハ兵隊中ニテ使用セラル、者ノ遺囑贈遺ノ證書ハ何レノ國ニ於テ之ヲ記スルト雖モ步兵大隊長又ハ騎兵大隊長又ハ其他ノ上等士官證人二人ノ面前ニテ之ヲ公證シ又ハ兵隊ノ諸務ヲ管理スル官吏二人又ハ一人證人二人ノ面前ニテ之ヲ公證ス可シ

第九百八十二條 若シ又遺囑ノ贈遺ヲ爲ス者病ニ罹リ又ハ創傷ヲ被リテ兵病院ニアル時ハ病院監察ノ任ヲ受ケレ

第九百八十三條 前二條ノ規則ハ佛蘭西領地外ニ發遣シタル兵隊中又ハ其領地外ノ屯營又ハ城寨中ニアル者及ヒ城寨

敵ニ虜獲セラレタル者ノ爲メ設タル所ニシテ佛蘭西領地内ノ屯營及ヒ城寨中ニアル者ハ其所在ノモ替及ヒ城寨

敵兵ノ攻圍ヲ受ケ又ハ其所在ノ地戰闘ノ爲メニ其門ヲ鎖閉シテ内外相通セサル時ノ外其規則ヲ用フ可カラス

第九百八十四條 第九百八十一條及ヒ第九百八十二條ニ記シタル法式ヲ用ヒ記シタル遺囑贈遺ノ證書ハ其遺囑者

通常ノ法式ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ爲スヲ自由ナル地ニ歸來シタルヨリ六月ノ後ニ至ラハ其効ナカル可シ

第九百八十五條 時疫及ヒ其他傳染病ノ爲メ外地ト全ク往來スルヲ得サル地内ニテ記スル遺囑贈遺ノ證書ハ證

人二人ノ面前ニ最下等裁判所ノ裁判役又ハ其ヨムニユーシノ官吏一員之ヲ公證スルヲ得可シ

第九百八十六條 此規則ハ現ニ其病ニ罹リシ者又ハ現ニ其病ニ罹ラヌト雖モ其病ノ流傳シタル地ニ在ル者ノ爲メ

之ヲ用フルヲ得可シ

第九百八十七條 其遺囑者所在ノ地再ヒ外地ト往來ヲ爲スヲ自由トナリシヨリ六月ノ後又ハ其遺囑者自由ニ往來

ヲ爲スヲ得可キ地ニ移轉シタルヨリ六月ノ後ニ至ル時ハ前二條ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ノ効ナカル可シ

第九百八十八條 航海中海上ニテ記スル遺囑贈遺ノ證書ヲ公證スル方法在ノ如シ

兵船又ハ其他ノ官船ニ於テハ其船ノ指揮官若シ指揮官在ラサル時ハ之ニ代ル可キ次官其船ノ諸務ヲ管理スル官

吏又ハ之ニ代ル可キ者ト共ニ其遺囑贈遺ノ證書ヲ公證ス可シ商船ニ於テハ其船ノ書類ヲ預カル者又ハ之ニ代ル

可キ者其船ノ船長若シ船長在ラサル時ハ之ニ代ル可キ者ト共ニ其遺囑贈遺ノ證書ヲ公證ス可シ

此條中ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ證人二人ノ面前ニテ其遺囑贈遺ノ證書ヲ公證スルヲ必要トス

第九百八十九條 兵船又ハ官船ノ指揮官及ヒ其船ノ諸務ヲ管理スル官吏ノ遺囑贈遺ノ證書又ハ商船ノ船長及ヒ其

船ノ書類ヲ預カル者ノ遺囑贈遺ノ證書ハ其次席ノ者之ヲ公證可シ但シ其他ノ諸事ハ前條ノ規則ニ循ヒ之ヲ爲ス可シ

第九百九十條 何レノ場合ニ於テモ前二條ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ハ之ヲ武通ニ記ス可シ

第九百九十一條 其船佛蘭西國土ノ在留スル外國ノ港ニ着スル時ハ其遺囑贈遺ノ證書ヲ公證セシ者其證書一通ニ

封ヲ爲シ且印ヲ押シタル上ニテ之ヲ其岡士ニ渡シ岡士之ヲ海軍事務執政ニ送呈シ執政其遺囑者住所ノ地ノ最下

等裁判所ノ書記局ニ之ヲ藏シシム可シ

第九百九十二條 其船ヲ裝裝シタル佛蘭西ノ港又ハ之ヲ裝裝シタルニ非ナル佛蘭西ノ港ニ歸船シタル時ハ亦其遺

囑贈遺ノ證書一通ニ封ヲ爲シ且印ヲ押シタル上若シ又前條ニ記スル所ノ如ク航海中既ニ其一通ヲ岡士ニ渡シタル

時ハ他ノ一通ニ封ヲ爲シ且印ヲ押シタル上之ヲ海軍兵士召募ノ官署ニ納メ其官署ノ官吏直チニ之ヲ海軍事

務執政ニ送呈シ其執政前條ニ記スル所ノ如ク遺囑者住所ノ地ノ最下等裁判所ノ書記局ニ之ヲ藏シシム可シ

第九百九十三條 其船ノ乘組人姓名簿ノ中其遺囑者ノ姓名ヲ記シタル端ニ岡士又ハ海軍兵士召募ノ官署ニ其遺囑

贈遺ノ證書ヲ渡シタル旨ヲ附記ス可シ

不可カラス

第九百七十九條 遺囑者言語ヲ發スルコト能ハシテ文字ヲ書スルコトヲ得可キ時ハ遺囑書ノ全文ヲ手記シ且年月及ヒ姓名ヲ手記シテ其遺囑書ヲアライシ及ヒ證人ニ渡シ其書ハ自己ノ遺囑書タルコトヲアライシ并ニ證人ノ面前ニテ表書ノ初ニ記シ其後「タイ」ハ自己ト證人トノ間ニテ遺囑者同上ノ事ヲ記シタル旨ヲ表書ニ記ス可シ但シ其餘ノ法式ハ第九百七十六條ニ記載スル所ニ循フ可シ

第二款 別段ノ遺囑贈遺ノ法式ニ付テノ規則

第九百八十條 遺囑書ヲ記スル時其前ニ立會可キ證人ハ民權ヲ受ケタル佛蘭西人ニシテ且丁年ニ至リレ男ニ限ル可シ

第九百八十一條 兵士又ハ兵隊中ニテ使用セラル、者ノ遺囑贈遺ノ證書ハ何レノ國ニ於テ之ヲ記スルト雖モ步兵大隊長又ハ騎兵大隊長又ハ其他ノ上等士官證人二人ノ面前ニテ之ヲ公證シ又ハ兵隊ノ諸務ヲ管理スル官吏二人又ハ一人證人二人ノ面前ニテ之ヲ公證ス可シ

第九百八十二條 若シ又遺囑ノ贈遺ヲ爲ス者病ニ罹リ又ハ創傷ヲ被リテ兵病院ニアル時ハ病院監察ノ任ヲ受ケレ兵官ノ立會ニテ兵部醫官其遺囑書ヲ公證ス可シ

第九百八十三條 前二條ノ規則ハ佛蘭西領地外ニ發遣シタル兵隊中又ハ其領地外ノ屯營又ハ城寨中ニアル者及ヒ敵ニ虜獲セラレタル者ノ爲メ設タル所ニシテ佛蘭西領地内ノ屯營及ヒ城寨中ニアル者ハ其所在ノ屯營及ヒ城寨敵兵ノ攻圍ヲ受ケ又ハ其所在ノ地戰闘ノ爲メニ其門ヲ鎖閉シテ内外相通セサル時ノ外其規則ヲ用フ可カラス

第九百八十四條 第九百八十一條及ヒ第九百八十二條ニ記シタル法式ヲ用ヒ記シタル遺囑贈遺ノ證書ハ其遺囑者通常ノ法式ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ爲スコト自由ナル地ニ歸來シタルヨリ六月ノ後ニ至ラハ其効ナカル可シ

第九百八十五條 時疫及ヒ其他傳染病ノ爲メ外地ト全ク往來スルコトヲ得サル地内ニテ記スル遺囑贈遺ノ證書ハ證人二人ノ面前ニ最下等裁判所ノ裁判役又ハ其ヨムニニシノ官吏一員之ヲ公證スルヲ得可シ

第九百八十六條 此規則ハ現ニ其病ニ罹リシ者又ハ現ニ其病ニ罹ラズト雖モ其病ノ流傳シタル地ニ在ル者ノ爲メ之ヲ用フルヲ得可シ

之ヲ用フルヲ得可シ

第九百八十七條 其遺囑者所在ノ地再ヒ外地ト往來ヲ爲スコト自由トナリシヨリ六月ノ後又ハ其遺囑者自由ニ往來ヲ爲スコトヲ得可キ地ニ移轉シタルヨリ六月ノ後ニ至ル時ハ前二條ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ノ効ナカル可シ

第九百八十八條 航海中海上ニテ記スル遺囑贈遺ノ證書ヲ公證スル方法在ノ如シ

兵船又ハ其他ノ官船ニ於テハ其船ノ指揮官若シ指揮官在ラサル時ハ之ニ代ル可キ次官其船ノ諸務ヲ管理スル官吏又ハ之ニ代ル可キ者ト共ニ其遺囑贈遺ノ證書ヲ公證ス可シ商船ニ於テハ其船ノ書類ヲ預カル者又ハ之ニ代ル可キ者其船ノ船長若シ船長在ラサル時ハ之ニ代ル可キ者ト共ニ其遺囑贈遺ノ證書ヲ公證ス可シ

此條中ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ證人二人ノ面前ニテ其遺囑贈遺ノ證書ヲ公證スルコトヲ必要トス

第九百八十九條 兵船又ハ官船ノ指揮官及ヒ其船ノ諸務ヲ管理スル官吏ノ遺囑贈遺ノ證書又ハ商船ノ船長及ヒ其船ノ書類ヲ預カル者ノ遺囑贈遺ノ證書ハ其次席ノ者之ヲ公證シ得レ但シ其他ノ諸事ハ前條ノ規則ニ循ヒ之ヲ爲ス可シ

第九百九十條 何レノ場合ニ於テモ前二條ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ハ之ヲ武通ニ記ス可シ

第九百九十一條 其船佛蘭西國士ノ在留スル外國ノ港ニ着スル時ハ其遺囑贈遺ノ證書ヲ公證セシ者其證書一通ニ封ヲ爲シ且印ヲ押シタル上ニテ之ヲ其岡士ニ渡シ岡士之ヲ海軍事務執政ニ送呈シ執政其遺囑者住所ノ地ノ最下等裁判所ノ書記局ニ之ヲ藏シシム可シ

第九百九十二條 其船ヲ續裝シタル佛蘭西ノ港又ハ之ヲ續裝シタルニ非ナル佛蘭西ノ港ニ歸船シタル時ハ亦其遺囑贈遺ノ證書二通ニ封ヲ爲シ且印ヲ押シタル上若シ又前條ニ記スル所ノ如ク航海中既ニ其一通ヲ岡士ニ渡シタル時ハ他ノ一通ニ封ヲ爲シ且印ヲ押シタル上之ヲ海軍兵士召募ノ官署ニ納メ其官署ノ官吏直チニ之ヲ海軍事務執政ニ送呈シ其執政前條ニ記スル所ノ如ク遺囑者住所ノ地ノ最下等裁判所ノ書記局ニ之ヲ藏シシム可シ

第九百九十三條 其船ノ乘組人姓名簿ノ中其遺囑者ノ姓名ヲ記シタル端ニ岡士又ハ海軍兵士召募ノ官署ニ其遺囑贈遺ノ證書ヲ渡シタル旨ヲ附記ス可シ

第九百九十四條 航海旅行中ト雖モ佛蘭西官吏ノ在留ナル外國ノ領地又ハ佛蘭西ノ領地ニ着船シタル後遺囑贈遺ノ證書ヲ記シタルニ於テハ其贈遺ノ證書ヲ海上ニテ記シタルモノト看做ス可カラス但シ此場合ニ於テハ佛蘭西ニテ用フル所ノ法式ニ循ヒ又ハ其贈遺ノ證書ヲ記シタル國ニテ用フル所ノ法式ニ循ヒ之ヲ記シタル其効ナカル可シ

第九百九十五條 前數條ニ記載シタル規則ハ船ノ乘組人ニ非ナル通常ノ旅客ノ記シタル遺囑贈遺ノ證書ニモ亦通シテ用フル可シ

第九百九十六條 第九百八十八條ニ記シタル法式ヲ用ヒ海上ニテ記シタル遺囑贈遺ノ證書ハ其遺囑者海上ニテ死去シタル時又ハ通常ノ法式ヲ用ヒ之ヲ改記スルコトヲ得可キ地ニ上陸シタルヨリ三月内ニ死去シタル時ノ外其効ナカル可シ

第九百九十七條 海上ニテ遺囑贈遺ノ證書ヲ記スル時ハ船ノ士官及ヒ船中ニテ職務ヲ爲ス者ノ爲メ其贈遺ヲ爲ス可カラス但シ此等ノ者其贈遺ヲ爲ス者ノ親族タル時ハ格別ナリトス

第九百九十八條 此款ノ前數條ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ハ其遺囑者ト其證書ヲ公證スル者ト其姓名ヲ手書ス可シ若シ遺囑者姓名ヲ手書スル事ヲ知ラス又ハ手書スルコト能ハサル旨ヲ述フル時ハ其述フル所ト其手書スルコトヲ得サル原由トヲ附記ス可シ

第九百九十九條 外國ニ在ル佛蘭西人ハ第九百七十七條ニ記シタル如ク自筆ノ私書ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ爲シ又ハ其國ニテ用フル所ノ法式ニ循ヒ記シタル公正ノ證書ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ爲スコトヲ得可シ

第一千條 外國ニテ遺囑贈遺ノ證書ヲ記シタル佛蘭西人ノ住所現時佛蘭西國內ニ在ル時ハ其住所ノ官署ノ簿冊ニ其證書ヲ登記シタル後若シ又其住所現時佛蘭西國內ニアラザル時ハ人ノ通知シタル佛蘭西國內ニアル最終ノ住所ノ官署ノ簿冊ニ之ヲ登記シタル後ニ非レハ佛蘭西國內ニ在ル幼産ニ付キ其證書ノ如ク執行コトヲ得ス又其遺囑

民法 第六百六十六條

贈遺ノ證書ニ佛蘭西國內ニアル不動産ヲ贈遺スル時ハ其大ニ記スル所ノ外更ニ其不動産所在ノ地ノ官署ノ簿冊ニモ亦其證書ヲ登記スルコトヲ必要トス但シ斯ノ如ク其證書ヲ二箇ノ簿冊ニ登記スルト雖モ二倍ノ税銀ヲ出タスニ及ハス

第一千條 此款及ヒ前數ノ規則ニ循ヒ請般ノ遺囑贈遺ノ證書ヲ記ス可キ法式ハ必ス之ヲ遵守ス可シ若シ之ヲ遵守セザル時ハ其證書ノ効ナカル可シ

止士 草案 受

佛蘭西 民法 第六條

佛蘭西 民法 第七條

文部少博士 兼 作 麟 祥 口 譯

○ 第三款 遺囑贈遺ノ證書ノ種類

第一千二條 遺囑贈遺ノ證書ハ遺囑者ノ財産ノ全部ニ關係シ又ハ其財産中ノ別段指定メサル一部ニ關係シ又ハ其財産中ノ別段指定メタル品物ニ關係ス

遺囑贈遺ノ證書ハ如何ナル名義ヲ以テ之ヲ爲シタルヲ問ハズ遺囑者財産ノ全部ノ贈遺其財産中ノ別段指定メサル一部ノ贈遺其財産中ノ別段指定メタル品物ノ贈遺ニ付キ後ニ記載スル規則ニ循其効ヲ生ス可シ

○ 第四款 財産全部ノ遺囑贈遺ノ證書

第一千三條 財産全部ノ遺囑贈遺ノ證書トハ遺囑者ノ死去スル時其遺留スル財産ノ全部ヲ一人又ハ数人ニ贈與スル遺囑ノ證書ヲ云フ

第一千四條 遺囑者死去ノ時法律上ニテ必ス其財産ノ一部ヲ得可キ相續人アル時ハ其相續人遺囑者ノ死去ニ因リ其財産ノ全部ヲ皆自己ニ收受ス可シ但シ遺囑者ノ財産全部ノ贈遺ヲ受ク可キ者ハ其相續人ヨリ遺囑贈遺ノ財産ノ引渡ヲ得ント許ラ可シ

第一千五條 此場合ニ於テ財産全部ノ遺囑ノ贈遺ヲ受ク可キ者遺囑者ノ死去セシヨリ一年内ニ相續人ヨリ其財産ノ引渡ヲ得ント許フル時ハ遺囑者死去ノ日ヨリ以來ノ其財産ノ利益ヲ所得ト為ス可キ得可シ然レハ其引渡ヲ許セタル日又ハ遺物相續人其財産ヲ其贈遺ヲ受ク可キ者ニ引渡ス可キ承諾シタル日ヨリ以來ノ入額ヲ所得ト為ス可キ得可シ

第一千六條 遺囑者ノ死去シタル時法律上ニテ必ス其財産ノ一部ヲ得可キ遺物相續人アラサル時ハ其財産全部ノ贈遺ヲ受ク可キ者遺囑者ノ死去ニ因リ即時ニ其財産ヲ所有ト為ス可キノ權アリ

第一千七條 遺囑者自筆ノ遺囑贈遺ノ證書ハ其書中ニ記載シタル如ク執行フ前ニ其遺物相續ヲ為ス地ヲ管轄スル下等裁判所ノ上席人ニ之ヲ差出ス可シ○此贈遺ノ證書ニ封印アラハ其上席人ノ別段定メタルノテニ預ク可シ又秘密ノ遺囑贈遺ノ證書ハ之ヲ裁判所ノ上席人ニ差出シ其上席人開封ヲ為シ且其差出シタル事及ヒ開封ノ事ト

第一千八條 第一千六條ニ記シタル場合ニ於テ遺囑者自筆ノ遺囑贈遺ノ證書又ハ秘密ノ證書アル時其財産全部ノ贈遺ヲ受クル者其財産ヲ自己ニ收受セント欲スルニハ此等ノ證書ヲ開封シテ預ケタル旨ヲ記セシ書面ヲ添ヘテ其願

書ヲ裁判所ノ上席人ニ差出シ上席人ヨリ其允許ノ旨ヲ得タル上其言渡ノ旨ヲ願書ニ附記シ之ヲ添トシテ其財産ヲ收受スルヲ得可シ

第一千九條 遺囑者ノ財産全部ノ贈遺ヲ受クル者法律上ニテ必ス遺囑者ノ財産ノ一部ヲ得可キ遺物相續人ト共ニ其財産ヲ分ツ時ハ其自己ニ得タル財産ノ割合ヲ以テ遺物ニ付テノ負債ヲ擔當シ又其得タル不動産ノ割合ヲ以テ負債ハ一身ニ之ヲ擔當シ且他ニ遺囑ノ贈遺ヲ受ク可キ者アラハ其者其贈遺ノ財産ヲ渡ス可シ但シ第九百二十五條及ヒ第九百二十七條ニ記スル如ク減少ス可キ贈遺ノ財産ハ之ヲ渡スニ及ハス

○第五款 財産中ノ別段指定ノサル一部ノ遺囑贈遺ノ證書トハ遺囑者其財産ノ半ハ又ハ三分ノ一又ハ其不動産ノ全部又ハ其動産ノ全部又ハ其不動産ノ全部等ノ如ク總テ法律上ニテ贈遺ト為ス可キ得可キ財産定分ノ一部ヲ贈遺スル證書ヲ云フ

第一千十條 財産中ノ別段指定ノサル一部ノ遺囑贈遺ノ證書トハ遺囑者其財産ノ半ハ又ハ三分ノ一又ハ其不動産ノ全部又ハ其動産ノ全部等ノ如ク總テ法律上ニテ贈遺ト為ス可キ得可キ財産定分ノ一部ヲ贈遺スル證書ヲ云フ

第一千十一條 財産中ノ別段指定ノサル一部ノ遺囑贈遺ヲ受クル者ハ法律上ニテ必ス其財産ノ一部ヲ得可キ遺物相續人ニ自己ノ得可キ財産ノ引渡ヲ求ム可シ若シ其相續人アラサル時ハ其財産全部ノ贈遺ヲ受クル者ニ其引渡ヲ求ム可シ若シ又其全部ノ贈遺ヲ受クル者アラサル時ハ此篇ノ第一卷 遺物相續ニ定メタル順序 第七百三十一條以下見合

第一千十二條 財産中ノ別段指定ノサル一部ノ遺囑贈遺ヲ受クル者ハ其全部ヲ受クル者ノ如ク其自己ニ得タル財産ノ割合ヲ以テ遺物ニ付テノ負債ヲ擔當シ又其得タル不動産ノ割合ヲ以テ其贈遺ト為ス可キ得可キ財産定分ノ一部ヲ贈與シタル時ハ其贈遺ヲ受クル者當然ノ遺物相續人ト共ニ其得タル財産ノ割合ヲ以テ遺囑者財産中ノ別

段指定ノタル品物ノ贈遺ヲ受ク可キ者ニ其品物ヲ引渡ス可キ得可シ

○第六款 遺囑者財産中ノ別段指定メタル品物ノ贈遺

第一千十四條 凡ソ別段ノ約束ナキ遺囑ノ贈遺アル時ハ其贈遺ヲ受クル者遺囑者ノ死去セシ日より其贈遺ノ財産ヲ所有スルノ權アリ但シ此權ハ贈遺ヲ受クル者ノ遺物相續人及ヒ其代權者ニ之ヲ傳フルコトヲ得可シ
然レ遺囑者ノ財産中ニ別段指定メタル品物ノミノ贈遺ヲ受クル者ハ第一千十一條ニ定メタル順序ニ從ヒ己ノ得可キ財産ノ引渡ヲ許セタル日又ハ其財産ヲ引渡ス可キ者ノ意ヲ以テ之ヲ引渡スコトヲ承諾シタル日より後非レハ其贈遺トシテ受ケタル財産又ハ權利ヲ己ニ收受スルコトヲ得且其財産又ハ權利ヨリ生スル利益ヲ得ント求ムルコトヲ得ス

第一千十五條 然レ左ノ場合ニ於テハ遺囑ノ贈遺ヲ受クル者別ニ許ヲ為サスシテ遺囑者死去ノ日より其得可キ財産又ハ權利ヨリ生スル利益ヲ所得ト為スル得可シ

第一 遺囑者其遺囑書中ニ別段其意ヲ記入シタル時

第二 畢生間ノ年金ヲ得可キ權ヲ養料ノ名義ヲ以テ遺囑ノ贈遺ト為シタル時

第一千十六條 遺囑ノ贈遺ヲ受クル者其贈遺ノ財産ノ引渡ヲ新フル費用ハ遺物相續人ノ相續ス可キ遺物中ヨリ之ヲ差引可シ然レ法律上ニテ必ス遺物ノ一部ヲ受ク可キ者ノ為メ遺置キタル財産ノ一部ヲ是カ為メ減スルコトヲ得ス
遺囑贈遺ノ財産引渡ヲ官署ノ簿冊ニ登記スル費用ハ其贈遺ヲ受クル者之ヲ拂フ可シ
然レ遺囑贈遺ノ證書中ニ別段ノ約定アル時ハ前項ト異ナリトス

第一千十七條 遺囑者ノ遺物相續人又ハ其他遺囑者財産中ノ別段指定メタル品物ノ贈遺ヲ引渡ス可キ者ハ各其得タル財産ノ割合ヲ以テ動産ノ贈物ヲ引渡スコトヲ擔當ス可シ
又不動産ノ贈物ヲ引渡スニ付テハ遺物相續人又ハ其他遺囑者ノ財産ヲ引渡ス可キ者其所得ト為シタル不動産ノ價

ニ至ル迄之ヲイボテクニ爲シタルト看做シ其不動産引渡ヲ一身ニ擔當ス可シ 第八百七十
第一千十八條 遺囑贈遺ノ財産ハ遺囑者ノ死去シ時ノ模様ノ儘其必要ナル附従物ト共ニ之ヲ引渡ス可シ

第一千十九條 不動産所有ノ權ヲ遺囑ノ贈遺ト為ス證書ヲ記シタル者後ニ其不動産ノ大サヲ増加シタル時ハ其増加シタル不動産以前ノ不動産ト相接シタル時ト雖モ之ヲ其遺囑贈遺中ノ一部アリト看做ス可キ但シ其増加シタル部分モ亦贈與ス可キ旨ヲ記シタル贈遺ノ證書アル時ハ格別アリトス
又遺囑ノ贈遺ト為セシ不動産ニ添フタル裝飾物又ハ新ニ爲シタル造管又ハ遺囑者新ニ置キ入タル不動産ハ前項ト異ナリテ其遺囑贈遺中ノ一部ナリト看做ス可シ

第一千二十條 若シ遺囑贈遺ノ證書ヲ記スル前又ハ其後其遺囑者贈遺ト為ス可キ不動産ヲ自己ノ負債ノ質ト爲シタル時又ハ其不動産ヲ他人ノ負債ノ質ト爲シタル時又ハ他人ニ其不動産ノ入額所得ノ權ヲ與ヘタル時ハ後ニ其不動産ヲ贈遺ヲ受クル者ニ引渡ス可キ相續人又ハ其他ノ者其質ヲ受戻スニ及ハス又入額所得ノ權ヲ取戻スニ及ハス其儘之ヲ引渡スヲ得可シ但シ遺囑者其質ノ受戻シ又ハ入額所得ノ權ノ取戻シヲ為ス可キコトヲ別段其遺囑贈遺ノ證書ニ記シタル時ハ格別ナリトス 第八百七十
第一千二十一條 若シ遺囑者他人ニ屬スル財産ヲ贈遺ト為シタル時ハ其遺囑者其財産ノ已ニ屬セサルヲ知りタルト否トヲ問ハス其贈遺ノ効ナカル可シ

第一千二十二條 遺囑者其贈遺ノ種類ヲ定メ其品物ヲ定メケル時ハ其遺物相續人其遺囑ノ贈遺ヲ受クル者ニ最モ良好ノ質アル財産ヲ渡スニ及ハス又最モ廉潔ノ質アル財産ヲ渡ス可キヲ得
第一千二十三條 債主ニ與フル遺囑ノ贈遺ハ負債ノ償ナリト看做ス可キ又又債主ニ與フル遺囑ノ贈遺ハ債金ノ償ナリト看做ス可キヲ得

第一千二十四條 遺囑者ノ財産中ニ別段指定メタル品物ノ贈遺ヲ受クル者ハ遺囑者ノ負債ヲ拂フニ及ハス但シ其贈遺トシテ得タル不動産ニ付キイボテクニ擔當債主ヨリ遺囑者債ヲ拂フ可キノ訴ヲ受ケタル時ハ之ヲ拂フ可

シ 第四百七十又其贈遺ヲ受ケタル者ハ前ニ第九百ニ記シタル如ク其時ノ模様ニ因リ其贈遺ノ財產ヲ減セラル、
トアル可シ

○第七款 遺囑者ノ托ヲ受ケ遺囑ノ諸事ヲ管理スル者

第一千二十五條 遺囑者ハ其遺囑ノ諸事ヲ管理スル者一人又ハ數人ヲ任スルヲ得可シ
第一千二十六條 遺囑者ハ其遺囑ノ諸事ヲ管理スル者ニ已ノ動産ノ全部又ハ一部ヲ委託スル事ヲ得可シ然レ其委託
ハ其遺囑者ノ死去ヒシ時ヨリ一年有一日ノ時間ニ過ク可カラズ
遺囑ノ諸事ヲ管理スル者其委託ヲ受ケサル時ハ之ヲ受ケント許テ可カラズ

第一千二十七條 遺物相續人死者ノ遺囑贈遺ノ動産ヲ贈遺ヲ受クル者ニ渡ス可キヲ證スル爲メ十分ナル金高ヲ其
管理者ニ預ケタル時又ハ既ニ自カラ其遺囑贈遺ノ動産ヲ贈遺ヲ受クル者ニ渡シタルトテ證スル時ハ其管理者嘗
テ遺囑者ヨリ委託ヲ受ケシ動産ヲ遺物相續人取戻スルヲ得可シ

第一千二十八條 契約ヲ爲スト能ハサル者ハ遺囑ノ管理者トナルヲ得ス

第一千二十九條 婚姻シタル婦ハ其夫ノ許諾ヲ得ルニ非レハ遺囑管理ノ任ヲ受クルヲ得ス

若シ婚姻ノ契約又ハ裁判所ノ言渡ニ因リ婦其夫ノ財產ヲ分チタル時ハ其婦其夫ノ許諾ヲ得テ遺囑管理ノ任ヲ受
ケ又夫ノ之ヲ許諾セサル時ハ第二百十七條及ヒ第二百十九條ノ條ニ記スル所ニ依リ裁判所ノ允許ヲ得タル上ニ
テ其任ヲ受クルヲ得可シ

第一千三十條 幼者ハ後見人又ハ「ガートル」ノ許諾ヲ得ルト雖モ遺囑管理ノ任ヲ受ク可カラズ

第一千三十一條 遺物相續人中ニ幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受クシ者又ハ失踪者アル時ハ遺囑ノ管理者其遺物ノ財產ニ封
印ヲ爲スノ手續ヲ爲ス可シ

此場合ニ於テハ其管理者如者又ハ治産ノ禁ヲ受ケシ者又ハ失踪者ヲ除キテ遺囑者最近ノ親族タル遺物相續人ノ
面前ニテ又其相續人ヲ法ニ循ヒ呼出シ出席セサル上ニテ遺物財產ノ目錄ヲ記シムルノ手續ヲ爲ス可シ

其管理者ハ遺囑贈遺ノ契約ノ如ク執行スル爲メ十分ナル金高ノアラサル時動産ヲ賣拂ハシムルヲ得可シ
其管理者ハ遺囑ノ諸事ヲ執行スルヲ監督シ且其諸事ヲ行フニ付キ訴訟ノ生スル時ハ其訴訟ニ管涉シ遺囑者ノ如
ク執行ス可キヲ論辨ス可シ

其管理者ハ遺囑者ノ死去シタルヨリ一年ノ後ニ至リ其行フタル諸事ノ算計ヲ爲ス可シ

第一千三十二條 遺囑ノ管理者ノ權ハ其遺物相續人ニ傳フルヲ得ス

第一千三十三條 遺囑管理ノ任ヲ受ケシ者數人アル時ハ其中ノ一人他ノ管理者ニ代リ遺囑ノ諸事ヲ處置スルヲ得
可ク又其數人ノ管理者ハ其委託ヲ受ケタル動産ノ用法ヲ算計スルニ付キ皆連帶シテ其責ニ任ス可シ但シ遺囑者
其管理者數人ノ職務ヲ分チ且ツ其各人己ノ任ヲ得タル職務ノミヲ行フタル時ハ格別ナリトス

第一千三十四條 遺囑ノ管理者遺囑ノ財產ニ封印ヲ爲シ其財產ノ目錄ヲ記シ其行フタル諸事ノ算計書ヲ出スノ費用
及ヒ其他管理者ノ職務ヲ爲スニ付テノ費用ハ遺物ノ財產中ヨリ之ヲ償ス可シ

○第八款 遺囑贈遺ノ證書ヲ廢棄スル事及ヒ遺囑贈遺ノ證書ノ効ナキ事

第一千三十五條 凡ソ遺囑贈遺ノ證書ハ其後ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ニ因リ又ハ遺囑者其意ヲ變更ヒシトテ
一ルノ面前ニテ記シタル公正ノ證書ニ因リ其全部又ハ一部ヲ廢スルヲ得可シ

第一千三十六條 後ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ニ前ニ記シタル遺囑贈遺ノ證書ヲ廢棄スルヲ別段記セサル時ハ前
ノ證書中ニテ後ノ證書ニ記スル條件ト並行ス可カラサル事又ハ組結シタル事ノミヲ廢棄ス可シ

第一千三十七條 後ノ遺囑贈遺ヲ證書ニ據リテ贈遺ヲ受ク可キ者之ヲ受クルト能ハサルニ因リ又ハ其贈遺ヲ受ク可
キ者之ヲ受クルト肯セサルニ因リ後ノ遺囑贈遺ノ證書ノ効ナキ時ト雖モ其證書ニ從ヒ前ノ遺囑贈遺ノ證書ヲ
廢棄ス可シ

第一千三十八條 遺囑者遺囑ノ贈遺ト爲ス可キヲ約シタル財產ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ賣渡シタル時ハ縱令其賣
渡シ時後ニ之ヲ買戻スルヲ得可キノ約定ヲ爲シタル時又ハ之ヲ賣渡シテ他物ト交換シタル時ト雖モ其賣渡シタ

ル財産ニ付テハ其遺囑贈遺ノ證書ヲ廢棄ス可シ但シ其賣拂ノ契約ノ効ナクシテ賣拂人之ヲ已ニ取戻シタル時モ亦同一ナリトス

第一千三十九條 凡ソ遺囑贈遺ノ證書ハ其贈遺ヲ受ク可キ者遺囑者ヨリ前ニ死シタル時ハ其効ナシトス
第一千四十條 凡ソ未定ノ後事ヲ指示シタル約束ヲ以テ遺囑贈遺ノ證書ヲ記シ且遺囑者其後事ノ有無ニ從ヒ其贈遺ノ證書ノ如ク執行フト否トヲ決ス可キ時其贈遺ヲ受ク可キ者其後事ノ未タ生セサル以前ニ死去シタルニ於テハ其贈遺ノ證書ノ効ナカル可シ

第一千四十一條 前條ノ如ク後事ニ管スル約アリト雖モ其後事必ス生ス可キ事ニシテ遺囑者ノ意ニテ唯其贈遺ノ證書ノ如ク執行ノ事ヲ遲延スルノミナル時ハ其贈遺ヲ受ク可キ者其贈遺ノ證書ヲ承諾シタル時ヨリ直チニ其贈遺ヲ受ク可キノ權ヲ得若シ其約シタル後事ノ未タ生セサル時死去シタルニ於テハ其贈遺ヲ得ルノ權ヲ已レ遺物相續人ニ傳フルニ妨ケナシトス

第一千四十二條 遺囑ノ贈遺ト爲シタル財産其遺囑者ノ生存中ニ全ク滅盡シタル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ又遺囑贈遺ノ財産ヲ渡ス可キ遺物相續人其贈遺ヲ受ク可キ者ニ之ヲ渡スルヲ遲延セシ時ト雖モ其相續人ノ所爲及ヒ過失ニ非スニテ其贈遺ノ財産滅盡シ其財産繼承令ニ既ニ其贈遺ヲ受ク可キ者ノ所有トナリタルトモ亦滅盡ス可キ場合ニ於テハ其贈遺ノ効ナカル可シ

第一千四十三條 遺囑ノ贈遺ヲ受ク可キ者之ヲ受クルヲ肯セス又ハ之ヲ受クルヲ能サル時ハ其贈遺ノ効ナカル可シ
第一千四十四條 數人ニ連帶シテ遺囑ノ贈遺ヲ爲シタル時若シ其數人中其贈遺ヲ受ルヲ肯セス又ハ之ヲ受クルヲ能ハサル者アルニ於テハ其他ノ數人其者ノ部分ヲ已レ得可キ部分ニ加ヘテ所得ト爲スルヲ得可シ

一通ノ證書ヲ以テ遺囑ノ贈遺ヲ爲シ且其證書ニ贈遺ト爲ス財産中各人ニ與フル部分ヲ指定ノサル時ハ之ヲ數人ニ連帶シテ爲シタル遺囑ノ贈遺ナリトス
第一千四十五條 又遺囑者數人ニ一物ヲ贈與シ其各人ノ得可キ部分ヲ指定ノサル時ト雖モ一通ノ證書ヲ以テ其遺囑ノ

贈遺ヲ爲シ且ツ其物ヲ分ツ時必ス之ヲ毀壞ス可キニ於テハ亦之ヲ數人ニ連帶シテ爲シタル遺囑ノ贈遺ト看做ス可シ
第一千四十六條 第九百五十四條ト第九百五十五條ノ第一及ヒ第二トニ猶ヒ生存中ノ贈遺ヲ廢棄セント訴フルヲ許ス可キ原由アル時ハ亦遺囑ノ贈遺ヲ廢棄セント訴フルヲ得可シ
第一千四十七條 若シ遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル者遺囑者ノ生存中ノ譽望ヲ大ニ毀害シタル時ハ他人ヨリ其贈遺ヲ廢棄ス可キノ訴ヲ受ク可シ但シ其訴ハ其罪ヲ犯シタルヨリ一年内ニ之ヲ爲ス可シ

○第六章 生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ爲ス者其孫ノ爲メナス所ノ約定又ハ其甥姪ノ爲メナス所ノ約定
第一千四十八條 父母ハ其隨意ニ贈遺ト爲スルヲ得可キ財産定分ノ全部又ハ一部ヲ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ノ證書ヲ以テ其子一人又ハ數人ニ與ヘ後ニ其贈遺ヲ受ケタル子ノ死去スル時其贈遺ノ財産ヲ其子ノ生イタル子及ヒ生ムアル可キ子ニ傳フ可キノ約定ヲ爲スルヲ得可シ

第一千四十九條 子ナキ者ハ其隨意ニ爲スルヲ得可キ財産定分ノ全部又ハ一部ヲ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ノ證書ヲ以テ其兄弟姉妹一人又ハ數人ニ與ヘ其兄弟姉妹ノ死去スル時其贈遺ノ財産ヲ其生イタル子及ヒ生ムアル可キ子ニ傳フ可キノ約定ヲ爲スルヲ得可シ
第十五十條 前二條ニ記シタル贈遺ノ約定ハ年齡及ヒ男女ノ區別ナク贈遺ヲ受ケタル子ト贈遺ヲ受ケタル兄弟姉妹トノ生イタル子及ヒ生ムアル可キノ數人ノ爲メ其贈遺ノ財産ヲ傳フ可キノ約定ハ其効ナカル可シ

第一千五十一條 若シ前數條ニ記シタル場合ニ於テ贈遺ヲ受ケタル子又ハ兄弟姉妹ノ死去シタル時此等ノ者ノ現存ノ子ト既ニ死去シタル子ノ卑屬ノ親トアルニ於テハ自己ノ權ヲ以テ其贈遺ノ財産ヲ讓リ受ケ既ニ死去シタル子ノ卑屬ノ親ハ死シタル卑屬ノ親ニ代リ其贈遺ノ財産ヲ讓リ受ケ可シ
第一千五十二條 子及ヒ兄弟姉妹初度ノ生存中ノ贈遺ヲ受ケタル時其財産ヲ死後已レノ子ニ傳フ可キノ約定ナレト雖モ更ニ再度生存中ノ贈遺ヲ受ケ又ハ遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル時初度ノ贈遺ノ財産ヲ死後已レノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ承諾シタルニ於テハ其贈遺ヲ受ケタル者後ニ其二箇ノ贈遺ヲ分チテ其再度ノ贈遺ノ財産ヲ放棄スルト雖モ初

度ノ贈遺ノ財産ヲ已ノ隨意ニ爲スルヲ得又再度ノ贈遺ノ財産ヲ已ノ子ニ傳フ可キ事ヲ述フルト雖モ初度ノ贈遺ノ財産ヲ已ノ隨意ニ爲スルヲ得ス

第十五十三條 已ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ財産ノ贈遺ヲ受ケタル子又ハ兄弟姉妹其財産ヲ所有スル權ノ終リタル時ハ其權ノ終リタル理由ノ如何ナルヲ問ハス此等ノ者其子ニ其贈遺ノ財産所有ノ權ヲ移ス可シ但レ已ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ財産ノ贈遺ヲ受ケタル者其財産所有ノ權ノ終ハラサル中預メ其子ノ爲メ其贈遺ノ財産所有ノ權ヲ拋棄スト雖モ其拋棄ヲ爲ス前ニ自己ニ物件ヲ貸シタル債主ノ權利ヲ害スルコトナカレシ

第十五十四條 已ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ財産ノ贈遺ヲ受ケタル者ノ婦ハ其嫁資ヲ取戻スニ付キ其夫ノ自由ナル財産不足ナル時夫其子ニ傳フ可キ贈遺ノ財産ヲ以テ其嫁資ノ償ヲ得ント訴フルコトヲ得可シ但レ婦其訴ヲ爲レ得可キ場合ハ此贈遺ヲ爲レタル者其訴ヲ爲レ得可キ事ヲ別段預メ定メ置キタル時ニ限ル可キ其他ノ時ハ其訴ヲ爲スルコトヲ得ス

第十五十五條 前數條ニ記シタル贈遺ヲ爲ス者ハ其贈遺ノ證書又ハ其後ニ記スル公正ノ證書ヲ以テ其贈遺ノ約定ノ如何ヲ執行フ可キヲ監察スル管照者ヲ任ス可シ但レ其管照者ハ第一篇第十卷幼年檢見第二章第六款ニ記載シタル理由アル時ノ外其任ヲ辭スルコトヲ得ス

第十五十六條 贈遺者此管照者ヲ任セサル時ハ已ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ財産ノ贈遺ヲ受ケタル者若シ又其者幼年ナル時ハ其後見人贈遺者ノ死去セレヨリ一月内ニ其管照者ヲ任シ又其死去ノ後ニ同上ノ贈遺ノ證書アルコトヲ知リタル時ハ其日ヨリ一月内ニ其管照者ヲ任ス可シ

第十五十七條 已ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ財産ノ贈遺ヲ受ケタル者前條ニ記セシ如ク管照者ヲ任セサル時ハ其贈遺ヲ受ケレ權利ヲ失フ可シ但レ此場合ニ於テ其贈遺ヲ受ケレ者ノ子丁年ナル時ハ其子ノ訴ニ因リ若シ其子ノ幼年ナル時又ハ治産ノ禁ヲ受ケレ時ハ其後見人ノ訴ニ因リ又其子ノ丁年幼年又ハ治産ノ禁ヲ受ケタル時ハ其子ノ親族ノ求ニ因リ又然ラザレバ遺物相續ヲ爲ス地ノ下等裁判所ノプロモリアルベリアルノ申立ニ因

リ其贈遺ノ財産所有ノ權ヲ其子ニ移スルヲ得可シ

第十五十八條 前數條ニ記セシ遺囑贈遺ヲ爲レタル者ノ死去セレ後通常ノ法式ヲ以テ其遺囑贈遺ノ財産ノ目録ヲ記ス可シ但レ其遺囑者ノ財産中ニ別段指定メタル品物ノ遺囑ノ贈遺ナル時ハ其目録ヲ記スルニ及ハス○此目録ニハ「ウブ」及ヒ「エツヘー」モビリエールノ正當ナル評價ヲ附記ス可シ

第十五十九條 其目録ハ贈遺ヲ受ケタル者此篇ノ第一卷遺物相續ノ是第七百九十五條ニ定メタル期限内ニ其贈遺ノ約定ノ如何ヲ執行フコトヲ監察スル管照者ノ前ニテ之ヲ記スル手續ヲ爲ス可シ但シ其目録ヲ記スルニ付テノ費用ハ其贈遺ノ財産中ヨリ之ヲ差引ク可シ

第十六十條 贈遺ヲ受ケタル者前條ニ記スル所ノ期限内ニ其目録ヲ記スル手續ヲ爲サ、ル時ハ其翌月中ニ其贈遺ノ管照者贈遺ヲ受ケタル者ノ面前又其贈遺ヲ受ケタル者幼年ナル時ハ其後見人ノ面前ニテ其手續ヲ爲ス可シ

第十六十一條 若シ贈遺ヲ受ケタル者并ニ管照者前二條ニ記シタル如ク目録ヲ記スル手續ヲ爲サ、ル時ハ第十五十七條ニ記シタル各人其贈遺ヲ受ケタル者又其者幼年ナル時ハ其後見人ト管照者トヲ呼出シ其面前ニテ其目録ヲ記スル手續ヲ爲ス可シ

第十六十二條 贈遺ヲ受ケタル者ハ次ノ二條ニ記スル所ヲ除クノ外其贈遺ノ財産中ノ「ミウブル」及ヒ「エツヘー」モビリエールヲ定例ノ如ク貼附ヲ爲レタル上釋賣ニテ賣拂フ可シ

第十六十三條 贈遺ノ契約書ニ品物ノ儘保存シ置ク可キヲ別段定メタル「ミウブル」及ヒ其他ノ動産ハ其贈遺ヲ受ケタル者之ヲ保シ置キ後ニ之ヲ其子ニ傳フル時ニ至リ其時ノ景狀ノ儘之ヲ傳フ可シ

第十六十四條 土地ヲ耕スニ入用ナル獸類及ヒ器具ハ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ト爲レタル土地中ニ包含セシ物ト看做レ已ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ贈遺ヲ受ケタル者其獸類及ヒ器具ノ評價ヲ爲シ置キ後其子ニ其評價ノ價ニ等シキ代金ヲ傳フ可シ

第十六十五條 已ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ贈遺ヲ受ケタル者ハ目録ヲ成就シタル日ヨリ六月内ニ現ニ其贈遺

中ニアル金高及ヒ「ウブル」又ハ「エツヘー」モヒリエールヲ費拂フテ得タル所ノ金高並ニ贈遺中ニアル貸金証書ニ因リ現ニ受取リタル所ノ金高ヲ利益トナル可キ方法ニ用フ可レ

若レ格別ノ道理アル時ハ其六月ノ期限ヲ更ニ延ハスヲ得可レ

第十六十六條 已レ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ贈遺ヲ受ケタル者ハ其贈遺ノ後人ヨリ取戻シタル貸金ノ証書中ニアルモノニ因リ受取リタル所ノ金高ト年金ノ高トヲ受取リタル日ヨリ三月内ニ之ヲ利益トナル可キ方法ニ用フ可レ

第十六十七條 贈遺ヲ爲ス者前ニ記セシモノノ金高ヲ用フ可キノ方法ヲ定メシ時ハ其定メタル方法ニ循テ之ヲ用フ可レ若レ其方法ヲ定メサル時ハ不動産買入ノ爲メ其金高ヲ用ヒ又ハ其金高ヲ人ニ貸與ヘテ其償價ノ爲メ他ノ債主ヨリ先ニ其借受人ノ不動産ヲ質物トシテ得可キノ特權ヲ保有ス可レ

第十六十八條 前數條ニ記載セタル所ノ金高ヲ用フル事ハ贈遺ノ管照者ノ立合ニテ之ヲ爲ス可レ

第十六十九條 贈遺ヲ受ケル者ヲシテ其子ニ傳ヘレム可キノ約定ヲ以テ贈遺ヲ爲シタル事ハ之ヲ受ケタル者又ハ其贈遺ノ管照者之ヲ公ケニ爲ス可レ但レ不動産ニ付テハ其不動産所在ノ地ノ「イポテーク」官署ノ簿冊ニ其贈遺ノ証書ヲ登記シテ之ヲ公ケニ爲レ又他ノ債主ヨリ先ニ借受人ノ不動産ヲ抵償トシテ得可キノ特權ヲ以テ人ニ貸與ヘタル金高ニ付テハ其不動産ヲ質ト爲レタル旨ヲ官署ノ簿冊ニ登記シタル端ニ其特權ヲ記入シテ之ヲ公ケニ爲ス可レ

第十七十條 若レ前條ノ如ク官署ノ簿冊ニ登記セサル時ハ其不動産ノ贈遺ヲ受ケタル者ノ債主又ハ其不動産ヲ買入レタル者其贈遺ヲ受ケタル者ノ子ニ對シテ其登記ナキ旨ヲ訴ヘ已ノ權利ヲ保護スルコトヲ得可レ但レ其贈遺ヲ受ケタル者ノ子ハ切者又ハ治産ノ禁ヲ受ケタル者タル時ト雖モ其登記ナキ旨ヲ已ニ引受ク可ク唯其贈遺ヲ受ケタル父母ト贈遺ノ管照者トニ對シテ其損失ノ償ヲ得ント訴フルコトヲ得可レ若レ又其父母ト管照者ト共ニ其損失ノ償ヲ爲スコト能ハサル時ト雖モ父母ノ債主又ハ其不動産買入人ノ權利ヲ害ス可キ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第十七十一條 第十六十九條ノ如ク贈遺ノ証書ヲ官署ノ簿冊ニ登記セサル時ハ其贈遺ヲ受ケタル者ノ債主又ハ贈遺ノ不動産ヲ買入レタル者其登記ヲ見タル以外ノ方法ニテ其贈遺ノ約定ヲ知りタルト雖モ贈遺ヲ受ケタル者ノ子其責ヲ免ルコトヲ得ス

第十七十二條 前ニ記シタル贈遺ヲ爲ス者ヨリ他ノ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ贈遺ヲ受ケタル者並ニ其相續人及ビ此等ノ者ヨリ更ニ又贈遺ヲ受ケタル者又ハ其相續人ハ第十六十九條ニ記シタル如ク官署ノ簿冊ニ登記シタルコトヲ申述テ前ニ記シタル贈遺ヲ受ケタル者ノ子ノ權利ヲ害ス可キ訴ヲ爲ス可カラス

第十七十三條 贈遺ノ管照者動産ヲ賣拂フ事金高ヲ用フル事贈遺ノ証書ヲ官署ノ簿冊ニ登記スル事他ノ債主ヨリ先ニ借入人ノ不動産ヲ抵償トシテ得可キ特權ヲ記入スル事ニ付キ前數條ニ定メタル規則ニ循ハサル時又贈遺ヲ受ケタル者ヲシテ贈遺ノ約定ニ違ハス其贈遺ノ財産ヲ其子ニ傳ヘシム可キ處置ヲ爲サザル時ハ其贈遺ヲ受ケタル者ノ子ノ爲メ生スル損失ノ償ヲ自己ニ擔當ス可レ

第十七十四條 己ノ子ニ傳フ可キノ約定ヲ以テ贈遺ヲ受ケタル者縱令幼年ナル時ト雖モ此章ノ數條ニ定メタル規則ニ循ヒ其行フ可キ諸件ヲ行ハサルニ於テハ自カラ其責ニ任ス可ク後ニ其後見人ニ對シテ其償ヲ得ントスルコトヲ爲スコトヲ得可レ但レ其贈遺ヲ受ケタル幼者ハ後見人ヨリ其償ヲ得ルコト能ハサルノ時ト雖モ己ノ責ヲ免ルコトヲ得ス

第十七十五條 父母又ハ其他ノ尊屬ノ親其財産ヲ卑屬ノ親ニ分派スル事

第十七十六條 父母又ハ其他ノ尊屬ノ親ハ其子又ハ卑屬ノ親ニ其財産ノ分派ヲ爲スコトヲ得可レ

第十七十七條 其分派ハ生存中ノ贈遺及ビ遺囑ノ贈遺ノ爲メ定メタル雜則ト規則トニ循ヒ生存中ノ証書又ハ遺囑ノ証書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得可レ

第十七十八條 生存中ノ証書ヲ以テ爲シタル分派ハ現在所有スル財産ノミヲ目的ト爲ス可レ

第十七十九條 若レ尊屬ノ親死去シタル時其遺留シタル財産中ニ當テ其分派中ニ入ラサル物件アル時ハ其物件ヲ法律定例ニ循テ分派ス可レ

第七十八條 若レ尊屬ノ親ノ死去シタル時生存スル子ト既ニ死去シタル子ノ卑屬ノ親トノ全員中ニ其財産ヲ分派シタルコトナキ時ハ其分派ノ効全クナカル可レ○此場合ニ於テハ財産ノ一部ノ分派ヲ得サル子及ビ卑屬ノ親ハ

勿論其分派ヲ得タル子及ヒ卑屬ノ親ト雖モ法律定例ニ循ヒ更ニ改メテ分派ヲ為サント訴フルヲ得可シ

第七十九條 尊屬ノ親ノ為レタル分派ニ付キ其子及ヒ卑屬ノ親中ニテ其當然得可キ部分ノ四分一以上損失ヲ受クルトアル時ハ其損失ヲ受ル子及ヒ卑屬ノ親其分派ヲ廢セント訴フルヲ得可シ又分派ノ方法ト分派ヲ得ル者ノ中一人ニ別段餘分ヲ贈與シタルトニ因リ分派ヲ得ル者ノ中一人法律定例ニ循ヒ當然得可キ部分ノ財產ヲ得ル時ハ他ノ分派ヲ得ル者ヨリ其分派ヲ廢セント訴フルヲ得可シ

第八十條 前條ニ記レタル理由中ノ一ニ因リ尊屬ノ親ノ為シタル分派ヲ廢セント訴フル子ハ財產評價ノ費用ヲ預メ出シ置テ可シ但シ其子其訴ヲ為スノ道理ヲキ証アル時ハ其評價ノ費用ト裁判所ノ費用トヲ擔フ可シ

第八章 婚姻ノ契約ヲ以テ夫婦又ハ其婚姻ニ因リ生ス可キ子ノ為メニナス所ノ贈遺

第八十一條 現在所有スル財產ノ生存中ノ贈遺ハ婚姻ノ契約書ヲ以テ夫婦又ハ其中一方ニ與ヘタル時ト雖モ通常ノ生存中ノ贈遺ニ付キ此卷ニ定メタル一般ノ規則ニ循フ可シ

此生存中ノ贈遺ハ此卷ノ第六章ニ記載レタル場合ノ外後ニ其夫婦間ニ廢ルコトアル可キ子ノ為メニ之ヲ為スコトヲ得ス第九百六條見合セ

第八十二條 夫婦トナラントスル者ノ父母又ハ其他ノ尊屬ノ親及ヒ傍系ノ親又ハ親族ニ非サル者ト雖モ其死亡スル時ニ遺留ス可キ財產ノ全部又ハ一部ヲ婚姻ノ契約ヲ以テ其夫婦ニ贈與シ若シ其贈遺ヲ受ク可キ夫婦其贈遺ヲ為ス者ヨリ前ニ死亡セタル時ハ其夫婦ノ間ニ生レタル子ニ其贈遺ノ財產ヲ贈與スルコトヲ得可シ此條ノ場合ニ付引受タル者ハ全ク負債ヲモ引受ク可シ

此贈遺ハ夫婦又ハ其中ノ一人ノミニ為シタル時ト雖モ前ニ記スル所ノ如ク其贈遺ヲ受ク可キ夫婦其贈遺ヲ為シタル者ヨリ前ニ死亡セタル時ハ常ニ其夫婦ノ子及ヒ卑屬ノ親ニ其贈遺ヲ為レタルモノト看做ス可シ

第八十三條 前條ニ記レタル種類ノ贈遺ハ其贈遺ヲ為ス者其贈遺ノ財產中ニテ些少ノ部分ヲ除クノ外總テ其財產ヲ償フ得ステ更ニ他人ニ贈與スルコトヲ得サルニ付テハ其贈遺ヲ廢ス可キモノト為ス可シト雖モ償フ得

テ其財產ヲ更ニ他人ニ賣拂ヒ又ハ貨物ト為ス類ノ事自由ナルニ付テハ其贈遺ヲ廢スルヲ得可キモノト為ス可シ

第八十四條 婚姻ノ契約ヲ以テ現在所有スル財產ト後ニ所有ト為スコトアル可キ財產トヲ贈遺ト為ス時ハ其贈遺ノ証書ニ其贈遺ヲ為ス時贈遺者ノ現ニ負フタル債ヲ記セシ書面ヲ添フ可シ○此場合ニ於テハ其贈遺ヲ受クル者贈遺ヲ為ス者ノ死亡セシ時ニ至リ當テ其贈遺ノ時贈遺者ノ現在所有セシ財產ノミヲ受ケ其贈遺者ノ後ニ所有ト為レタル財產ヲ拋棄スルコトヲ得可シ

第八十五條 前條ニ記レタル如ク贈遺ヲ為ス者ノ現在所有スル財產ト後ニ所有ト為スコトアル可キ財產トノ贈遺ヲ為シタルト雖モ其贈遺ノ証書ニ其贈遺者ノ負債ヲ記レタル書面ヲ添ヘサル時ハ此場合ハ前條ノ如ク其贈遺ヲ受クル者其贈遺ノ財產ヲ全ク收受シ然ラザレハ全ク之ヲ拋棄ス可シ○其財產ヲ收受シタル時ハ其贈遺ヲ受クル者贈遺ヲ為ス者ノ死亡セシ時現存セシタル財產ノミヲ得可シ且贈遺者ノ負債ヲ盡ク引受ク可シ

第八十六條 婚姻ノ契約ヲ以テ夫婦及ヒ其間ニ生ル可キ子ニ為シタル贈遺ハ贈遺ヲ為ス者ノ何人ナルヲ問ハス贈遺ヲ受クル者ヲ以テ贈遺ヲ為ス者其負債ヲ區別ナク引受ケシムル約定ヲ以テ之ヲ為スコトヲ得又ハ其他贈遺ヲ為ス者隨意ノ約定ヲ以テ之ヲ為スコトヲ得可シ但シ其贈遺ヲ受クル者ハ其贈遺ノ財產ヲ拋棄スルニ非レバ其約定ノ如ク執行ヲ可シ○又其現在所有スル財產ヲ贈遺ト為シ其中ノ一物又ハ定款ノ金高ヲ贈遺者後ニ已レ欲スル所ニ隨ヒ取扱フ可キノ約定ヲ婚姻ノ契約ニ定メ置キ其贈遺者其一物又ハ其金高ヲ別段其欲スル所ニ隨ヒ取扱フコトヲ死亡セタル時ハ之ヲ贈遺ノ財產中ニ包含セシモノト看做シテ贈遺ヲ受ク可キ者又ハ其遺物相續人ノ之ヲ所有ト為スヲ得可シ

第八十七條 婚姻ノ契約ヲ以テ為シタル贈遺ハ之ヲ得可キ者ノ別段之ヲ承諾センコトヲ述ヘケルヲ以テ口賣ト為レ之ヲ廢棄セント訴フ可カラス

第八十八條 婚姻ノ契約ヲ以テ為シタル贈遺ハ其婚姻ヲ為ササル時其効ナカル可シ

第八十九條 第八十二條第八十四條第八十六條ニ記スル所ノ贈遺ハ夫婦間ノ一人ニ為シタル贈遺ハ贈遺ヲ

受ク可キ夫又ハ婦並ニ其卑屬ノ親贈遺ヲ為シタル者ヨリ前ニ死去シタル時其効ナカル可シ

第一千九十条 婚姻ノ契約ヲ以テ夫婦ニ為シタル贈遺ノ財産其贈遺者ノ隨意ニ為スヲ得可キ財産ノ定分ニ過ル時ハ其贈遺ヲ為ス者ノ遺物相續ヲ始ムル時其贈遺ノ財産ヲ其定分ニ減ス可シ

○第九章 婚姻ノ契約書ヲ以テ夫婦互ニ為ス所ノ贈遺及ヒ婚姻ヲ結ビタル時間夫婦互ニ為ス所ノ贈遺
第一千九十一条 夫婦ハ婚姻ノ契約書ヲ以テ其相當ト思量スル贈遺ヲ相互ニ為シ又ハ之ヲ一方ヨリ一方ニ為ス事ヲ得可シ但シ其贈遺ニ付テハ後ノ數條ニ記スル所ニ循フ可シ

第一千九十二条 夫婦其現在所有スル財産ヲ婚姻ノ契約書ヲ以テ互ニ生存中ノ贈遺ト為シ又ハ一方ヨリ一方ニ生存中ノ贈遺ト為ス時ハ其贈遺ヲ受ク可キ夫又ハ婦其贈遺ヲ為ス配偶者ヨリ後ニ生存シタルニ非レハ其贈遺ノ効ナカル可キ旨ノ約定ヲ以テ為シタル贈遺ト看做ス可カラズ且其贈遺ハ生存中ノ贈遺ニ付キ前ニ記シタル法則ニ循フ可シ但シ同上ノ約定ヲ以テ贈遺ヲ為ス旨ヲ別段婚姻ノ契約書ニ記シタル時ハ格別アリトス

第一千九十三条 夫又ハ婦死去ノ時遺留スル財產可キ財産ヲ婚姻ノ契約書ヲ以テ互ニ贈遺ト為シ第一千九十四又ハ現在所有スル財産ト後ニ所有ト為ス財產可キ財産ト婚姻ノ契約書ヲ以テ互ニ贈遺ト為シ第一千九十四又ハ此等ノ財産ヲ一方ヨリ一方ノ贈遺ト為シタル時ハ人ヨリ夫婦ニ為ス所ノ此種類ノ贈遺ニ付キ前章ニ定メタル規則ニ循フ可シ然レ共其贈遺ノ財産ハ贈遺ヲ受ク可キ夫又ハ婦贈遺ヲ為シタル共配偶者ヨリ前ニ死シタル時ハ其婚姻ニ因リ生レタル子ニ其財産ヲ傳フ可カラズ

第一千九十四条 若シ夫又ハ婦其死去スル時子及ヒ卑屬ノ親ヲ遺留セザルニ於テハ其隨意ニ為スヲ得可キ財産全部ノ所有ノ權ト法律ニ循ヒ遺物相續人ヲ云フ親ノ為ニ必ス遺シ置ク可キ財産ノ部分ノ入額所得ノ權トアリ已レ配偶者ニ贈與ス可キヲ婚姻ノ契約書ニ記シ又ハ婚姻ヲ結フ時間ニ約束スルヲ得可シ
又夫或ハ婦子及ヒ卑屬ノ親ヲ遺留スルニ於テハ其配偶者ニ已レノ財産四分一ノ所有ノ權ト更ニ四分一ノ入額所得ノ權トヲ贈與シ又ハ已レノ財産ノ半ハノ入額所得ノ權ヲ贈與ス可キヲ約束スルヲ得可シ

民法 八十四

第一千九十五条 幼者ハ婚姻ヲ結フニ付キ其許諾ヲ得可キ者ヲ云フノ允許ト立會トヲ得サレハ婚姻ノ契約書ヲ以テ

夫婦ノ間ニ互ニ贈遺ヲ為シ又ハ一方ヨリ一方ニ贈遺ヲ為スヲ得可シ但シ其允許ヲ得ル上ハ法律ニ循ヒ丁年ノ夫又ハ婦ヨリ其配偶者ニ贈與スル事ヲ許シタル諸件ノ贈與スルヲ得可シ

第一千九十六条 婚姻ヲ結ビタル時間夫婦互ニ為シ又ハ一方ヨリ一方ニ為シタル贈遺ハ生存中ノ贈遺ト雖モ常ニ之ヲ廢棄スルヲ得可シ

婦ハ夫ノ承諾又ハ裁判所ノ允許ヲ得シテ其贈遺ヲ廢棄スルヲ得可シ
此贈遺ハ子ノ生レタルト以テ廢棄ス可カラズ

第一千九十七条 夫婦ハ生存中ノ贈遺ノルト遺囑ノ贈遺タルトヲ問ハス唯一通ノ証書ヲ以テ互ニ贈遺ヲ為ス可カラズ

第一千九十八条 夫又ハ婦前婚ノ嫡出ノ子數人アリテ更ニ再婚ヲ結ビシ時ハ其前婚ノ嫡出ノ子中ニテ最モ少量ノ財産ヲ得可キ者ノ部分ニ等シキ財産ノミヲ其再婚ノ配偶者ニ贈與スルヲ得可シ又何レノ場合ニ於テモ其再婚ノ配偶者ニ贈與スルヲ得可キ部分ハ財産ノ四分一ニ過ク可カラズ

第一千九十九条 夫又ハ婦ハ如何ナル方法ヲ用アルヲ問ハス前ニ記スル所ノ規則第一千九十四條及ヒニ循ヒ其配偶者ニ贈與スルヲ得可キ財産ヨリ更ニ餘分ヲ贈遺ト為スヲ得可シ
他ヲ名義ヲ管ヘ又ハ他人ノ介入ヲ以テ夫又ハ婦其配偶者ニ為シタル贈遺ハ其効ナカル可シ

第一千百條 夫又ハ婦其配偶者ノ前婚ノ子ニ為シタル贈遺及ヒ夫又ハ婦其配偶者ニ遺物ノ繼承可キ親族ニ為シタル贈遺ハ縱令其配偶者其親族ヨリ後ニ生存セスト雖モ之ヲ他人ノ介入ヲ以テ為シタル贈遺ト看做ス可シ

附屬民法七

辻士革筆受

○第三卷 契約及ヒ總テ契約ヨリ生スル義務千八百四年二月七日決定同月十七日布告

○第一章 前加規則

第一千一百一條 契約トハ一人又ハ數人ヨリ他ノ一人又ハ數人ニ對シ或物ヲ與ヘ又ハ或事ヲ為シ又ハ或事ヲ行フ可キ約束ヲ云フ

第一千一百二條 契約ヲ結ビタル者ノ為ノ互ニ義務ヲ生スル時ハ其契約ヲ名ケテ雙務ノ契約ト云フ

第一千一百三條 甲ノ一人又ハ數人ヨリ乙ノ一人又ハ數人ニ對シテ義務ヲ生シ乙ノ一人又ハ數人ノ為ノ義務ヲ生スル事ナキ時ハ其契約ヲ名ケテ片務ノ契約ト云フ

第一千一百四條 甲者ヨリ乙者ニ與ヘタル物又ハ乙者ノ為ノニ為シタル事ニ換ヘテ乙者ヨリ甲者ニ或物ヲ與ヘ又ハ或事ヲ為シ可キ旨ヲ互ニ契約シタル時ハ其契約ヲ名ケテ互易ノ契約ト云フ

第一千一百五條 思慮ノ契約トハ甲者ヨリ乙者ニ全ク價ヲ得スシテ利益ヲ與フル契約ヲ云フ

第一千一百六條 要價ノ契約トハ其契約ヲ結フ一方ノ者他ノ一方ヨリ得タル所ノ價トシテ或物ヲ與ヘ又ハ或事ヲ為シ可キ義務ノ契約ヲ云フ

第一千一百七條 契約ノ條ニ同旨ノ名義アルモノト其名義ナキモノトヲ問ハス其卷ニ記スル所ノ一般ノ規則ニ循フ可シ

或ル契約ノミニ管シタル規則ハ各其契約ノ卷ニ之ヲ記載シ商業ノ事ノミニ管シタル規則ハ商法中ニ之ヲ記載ス

○第二章 契約ヲ法ニ適シタルモノト為スニ必要ナル條件

第一千零八條 契約ヲ法ニ適シタルモノト為スニハ左ノ四件ヲ必要トス

義務ヲ行フ可キ者ノ承諾

契約ヲ為ス者其契約ヲ結ビ得可キ事

契約ノ目的タル定マリシ事物

義務ヲ生ス可キ法ニ適シタル理由

○第一款 義務ヲ行フ可キ者ノ承諾

第一千零九條 錯誤ヲ以テ承諾ヲ為シタル時又ハ暴行ニ因リ已ムテ得ス承諾ヲ為シタル時又ハ詭欺ヲ受ケテ承諾ヲ為シタル時ハ法ニ適シタル承諾アリトセス

第一千十條 契約ヲ結フノ目的タル事物錯誤シタル時ニ非サレバ其錯誤ヲ以テ契約ヲ廢棄スルノ理由ト為ス可キ事又契約ヲ結ハント為ス人ノミテ錯誤シタル時ハ其錯誤ヲ以テ其契約ヲ廢棄スル理由ト為ス可キ事但シ契約ノ主要其人ニ在ル時ハ格別アリトス

第一千十一條 義務ヲ行フ可キ者ノ承諾者人ヨリ暴行ヲ受ケ已ムテ得ス之ヲ承諾シタル時ハ其契約ヲ廢棄ス可シ但シ其暴行ヲ為シタル者其契約ニ因リ利益ヲ得ントスル者ト別人タル時ト雖モ又同ナリトス

第一千十二條 精神ノ靜定マシテ者ノ心ヲ動カシ其者ヲシテ其身體及ヒ財産ニ現ニ許多ノ禍害ヲ受ケ可キ畏懼ノ念ヲ生セシメシ時ハ暴行アリトス

第一千十三條 現ニ契約ヲ結フ者ニ對シ暴行ヲ加ヘタルニ非スト雖モ其配偶者又ハ其尊屬及ヒ卑屬ノ親ニ對シ暴行ヲ加ヘタル時ハ亦其契約ヲ廢棄ス可シ

第一千十四條 卑屬ノ親屬ノ親ヨリ現ニ暴行ヲ受ケルニ非ラスニテ唯、父母及ヒ尊屬ノ親ヲ長敬スルノ意ニ因リ契約ヲ結ビシ時ハ其畏敬ノ原由トシテ契約ヲ廢棄スルコト得ス

第一千十五條 暴行ニ因リ契約ヲ結ビタル後其暴行ヲ受ケン者之ヲ明許又ハ黙許シ又ハ法律上ニテ其契約ヲ廢棄セント訴テ可キ定期ヲ經過セシノ時ハ其暴行ヲ以テ原由トシテ其契約ヲ廢棄スルコト得ス

第一千十六條 契約ヲ為ス者ノ中甲者乙者ニ對シ詭欺ヲ為シタルニ非サレハ乙者苟モ初メヨリ其契約ヲ結ブナカル可キ事由ノ明白ナル時ハ其詭欺ヲ以テ契約ヲ廢棄スルノ原由ト為スヲ得可シ

第一千十七條 錯誤暴行詭欺ニ因リ結ビタル契約ト雖モ其儘之ヲ廢棄ス可カラズ唯、此卷ノ第五章第七款ニ記載スル所ノ場合ト方法トニ循ヒ之ヲ廢棄ス可キノ訴ヲ為スコト得可シ

第一千十八條 契約ヲ結ビタル一方ノ者其契約ノ為ノ損害ヲ受ケル事アリト雖モ其契約ヲ廢棄ス可ラス但シ此卷ノ第五章第七款ニ記スル所ノ契約又ハ其款ニ記スル所ノ人ニ付テハ格別アリトス

第一千十九條 何ノ人ト雖モ縱テ自己ノ為メノ外自己ノ名義ヲ以テ契約ヲ為ス可カラズ

第一千二十條 然レ、甲者ハ丙者ヨリ乙者ニ對シテ行テ可キ義務ノ保證人トナルノ契約ヲ為スコト得可シ但シ丙者其義務ヲ行ハサル時ハ乙者其保證人タル甲者ニ對シテ債ヲ求ムルコト得可シ

第一千二十一條 甲者自カヲ乙者ト結フ所ノ契約又ハ甲者ヨリ乙者ニ為ス所ノ贈遺ニ付キ丙者ノ利益トアル可キ契約ヲ為サント欲スル時ハ之ヲ為シ得可シ但シ此場合ニ於テ丙者其契約ニ因リ己ノ利益ヲ得ント欲スル旨ヲ述フル時ハ甲者其契約ヲ廢棄ス可カラズ

第一千二十二條 契約ヲ為シタル者ハ自己ノ為メト共遺物相續人並ニ代權人ノ為メトニ其契約ヲ為シタルモノト看做ス可シ但シ契約書ノ文中ニ之ニ反シタル事ヲ記シタル時又ハ其契約ノ換據ニ因リ之ニ反シタル事ヲ推知ス可キ時ハ格別アリトス

○第二款 契約ヲ為ス者其契約ヲ結ビ得可キ事

第一千二十三條 法律上ニテ特ニ契約ヲ結フ可カラサル禁アル者ノ外如何ナル人ト雖モ契約ヲ結フコト得可シ

第一千二十四條 契約ヲ結フコト得可キ者ハ
幼者
治産ノ禁ヲ受ケシ者

別段法律ニ定メタル場合ニ於テハ婚姻ヲ結ビタル時
其他總テ法律ニテ或ル契約ヲ結フ可カラサルノ禁ヲ受ケシ者

第一千二十五條 幼者、治産ノ禁ヲ受ケシ者、婚姻ヲ結ビタル時ハ別段法律ニテ定メタル場合ノ外自カラ契約ヲ結フコト得可シ其既ニ結ビタル契約ヲ廢棄セント求ムルコト得ス

自カラ契約ヲ結フコト得可キ者ハ己ト契約ヲ結ビタル幼者、治産ノ禁ヲ受ケシ者、婚姻シタル時ハ其契約ヲ結フコト得可シ其既ニ結ビタル契約ヲ廢棄セント求ムルコト得ス

○第三款 契約ノ目的タル定マリシ事物

第一千二十六條 契約ハ一方ニ與テ可キ物又ハ一方ヨリ一方對シテ為ス可キ事或ハ一方ヨリ一方ニ對シテ為ス可カラサル事ヲ以テ其目的トス

第一千二十七條 物件ヲ借用フル事又ハ物件ヲ寄有スル事ヲ以テ契約ノ目的ト為スヲ得可キ其物件ヲ以テ契約ノ目的ト為スヲ得可キカ如クナリトス

第一千二十八條 賣買ヲ為スヲ得可キ物ニ非サレハ之ヲ契約ノ目的ト為ス可カラズ
第一千二十九條 契約ノ目的ト為ス物ハ其種類ノ定マリタルコトヲ必要トス
契約ノ目的ト為ス物ノ分量ヲ後ニ定ムルコト得可キ時ハ必シモ預メ之ヲ定ムルニ及ハス
第一千三十條 後ニ所有ト為ス可キ物ハ亦之ヲ契約ノ目的ト為スコト得可シ

然其未遺物相續ヲ始メサル財産ハ縱令其財産所有者ノ承諾アリト雖モ相續ヲ為ス可キ者預メ之ヲ放棄シ又ハ其相續ノ事ニ付キ預メ他人ト契約ヲ為ス可カラス

○第四款 契約ノ原由

第一千三百一十一條 全ク原由ナキ契約ノ義務又ハ詐偽ノ原由及ヒ法律ニ背キタル原由アル契約ノ義務其効ナカル可シ
第一千三百一十二條 契約ノ原由ハ別段之ヲ契約書ニ記スルコトヲ禁シ其契約ノ効アリトス可シ
第一千三百一十三條 別段法律上ニテ禁シタル契約ノ原由及ヒ人民ノ風儀又ハ國ノ安寧ヲ害ス可キ契約ノ原由ハ之ヲ法ニ背キタルモノト為ス可シ

○第三章 契約ノ義務ノ効

○第一款 總規則

第一千三百一十四條 正シク結ヒタル契約ハ之ヲ結ヒシ雙方ノ者ノ為メ國ノ法律ニ等シキカアリトス
契約ハ之ヲ結ヒシ雙方ノ者ノ承諾又ハ法律上ニテ允許シタル原由アルニ非サレハ之ヲ廢棄ス可カラス
雙方ノ者ハ共ニ其契約ヲ正實ニ執行フ可シ
第一千三百一十五條 契約ヲ結ヒタル者ハ其契約書中ニ記セン條件ヲ行フ可キノ義務アルノミニ非ラズ公義習慣法律ニ背キ自然其契約ヨリ生ス可他ノ條件ヲモ亦執行フ可キノ義務アリトス

○第二款 物ヲ與フ可キノ義務

第一千三百一十六條 人ニ物ヲ與フ可キノ義務アル時ハ其物ヲ保全シテ後ニ之ヲ引渡ス可キノ義務アリトス若シ其義務ヲ行フ可キ者之ニ背ク時ハ一方ノ者ニ對シテ其損失ノ償ヲ為ス可シ
第一千三百一十七條 契約ヲ結ヒシ者ノ中一方ノミニ利益ヲ目的ト為スト雙方ノ利益ヲ目的ト為ストヲ問ハス一方ヨリ一方ニ引渡ス可キノ物ヲ保全ス可キノ義務アル時ハ其義務ヲ行フ可キ者其物ヲ毀損セサルニカメテ注意ス可シ其義務ハ契約ノ種類ニ因リ輕重ノ差異アリ但シ其義務ノ効ハ各種ノ契約ノ卷ニ別段之ヲ記載ス

第一千三百一十八條 物ヲ引渡ス可キノ義務ハ契約ヲ結ヒタル雙方ノ承諾ノミヲ以テ生シタルモノトス

一方ノ者ニ其義務アル時ハ其物ヲ受取ル可キ者其所有者トナリ之ヲ渡ス可キ者尙未タ其物ヲ渡サズト雖モ既に渡ス可キ期限ニ至リシ後其物ノ毀壞滅盡シタル時ハ之ヲ受取ル可キ者ノ損失タリトス然レトモ之ヲ渡之可キ者其物ヲ渡ス事ヲ怠リ其物ノ毀壞滅盡シタル時ハ之ヲ渡ス可キ者ノ損失タリトス

第一千三百一十九條 物ヲ引渡ス可キノ契約ヲ為シタル者之ヲ渡ス可キノ催促書ヲ受ケ又ハ其催促書ニ等シキ書面ヲ受ケ尙之ヲ渡サル時又ハ契約中ニ一方ヨリ別段其物ヲ渡ス可キノ催促書ヲ送ラスト雖モ唯其渡ス可キノ期限ノ經過マシノミニ因リ之ヲ渡サル者ノ怠リノ咎アル可キ事ヲ預メ定メタルニ其期限ニ至リ尙之ヲ渡サル時ハ之ヲ渡サル者怠リノ咎アリトス

第一千四百條 不動産ヲ與及ヒ引渡ス可キノ義務ノ効此篇ノ第五卷 婚姻ノ契約及ヒ 第十八卷 及ヒ有ボテイビノ權上之ヲ定ム
第一千四百一十一條 引續テ二人ニ動産ヲ與ヘ又ハ引渡ス可キ時其二人中ノ一人現ニ其物ノ引渡ヲ得タルニ於テハ其物ヲ得可キノ權他ノ一人ノ權ヨリ後ニ生シタルト雖モ其引渡ヲ得タル者ノ權ヲ他ノ一人ノ權ニ優レルモノトシ之ヲ其物ノ所有者ト爲ス可シ但シ其者不正ノ廢置ヲ以テ其引渡ヲ得タル時ハ格別ナリトス

○第三款 事ヲ為ス可キノ義務及ヒ事ヲ為ス可カラサルノ義務

第一千四百一十二條 事ヲ為ス可キノ義務又ハ事ヲ為ス可カラサルノ義務アル者其義務ヲ行ハサル時ハ一方ノ者ニ其損失ノ償ヲ為ス可シ

第一千四百一十三條 又義務ヲ得可キ者ハ義務ヲ行フ可キ者ノ契約ニ背キ爲シタル諸件ヲ廢棄セシム可キノ款ヲ爲スノ權アリ但シ其諸件ヲ廢棄スルハ其義務ヲ行フ可キ者ノ費用ヲ以テ之ヲ爲ス可ク且ツ別段ノ道理アル時ハ義務ヲ行フ可キ者ヨリ義務ヲ得可キ者ニ損失ノ償ヲ為ス可シ

第一千四百一十四條 又義務ヲ行フ可キ者之ヲ行ハサル時ハ義務ヲ得可キ者其義務ヲ行フ可キ者ノ費用ヲ以テ他人ヲシテ其義務ヲ行ハシムルヲ得可シ

第千四百十五條 又事ヲ為ス可カラサルノ義務アル時ハ其義務ヲ行フ可キ者其義務ニ背キタル事ニ因リ義務ヲ得可キ者ニ損失ノ償ヲ為ス可シ

○第四款 義務ヲ行ハサルヨリ生スル損失ノ償

第千四百十六條 損失ノ償ハ義務ヲ行フ可キ者其義務ヲ行フ事ヲ怠リシ時義務ヲ得可キ者ニ之ヲ為ス可シ但シ義務ヲ行フ可キ者其約定ノ期限ヲ過セン時ト雖モ事故アリテ其定期内ニ契約ノ如ク物ヲ與ヘ又ハ事ヲ為ス可シ能ハサル時ハ格別ナリトス

第千四百十七條 義務ヲ行フ可キ者縱令ヒ不正ノ意アルニ非スト雖モ義務ヲ行ハサル時ハ其義務ヲ行ハサルニ付テハ償ヲ為シ又ハ其義務ヲ行フ可キ者運延シタルニ付テハ償ヲ為ス可キ言渡ヲ受ク可シ但シ意外ノ事故アリテ其義務ヲ行フ可シ能ハサルシノ證ラ立ル時ハ格別ナリトス

第千四百十八條 義務ヲ行フ可キ者抗拒ス可カラサルカノ為メ強迫セラレ又ハ意外ノ事故アリテ其義務ノ如ク人ニ物ヲ與ヘ又ハ事ヲ為ス可シ妨ケラ受ケ又其為ス可カラサル事ヲ為シタル時ハ一方ノ者ニ其償ヲ為スニ及ハス

第千四百十九條 義務ヲ行フ可キ者ヨリ義務ヲ得可キ者ニ為ス可キ償ハ其義務ヲ得可キ者ノ受ケタル損失ト失フタル利益トヲ併合シテ算計ス可シ但シ其償ノ事ニ付テハ後ノ款條ニ記スル所ニ指テ可シ

第千四百二十條 義務ヲ行フ可キ者詐偽ニ因リ其義務ニ背キタル時ノ外ハ嘗テ契約ヲ結ビシ時既ニ預知シタル損害ノ償及ヒ預知スルコトヲ得可キ損害ノ償ノミヲ為ス可シ

第千四百二十一條 義務ヲ行フ可キ者詐偽ニ因リ其義務ニ背キタル時ト雖モ其義務ヲ得可キ者ノ受ケタル損失ト失フタル利益トノタメ為ス可キ償ヲ算計スルニハ其契約ニ背キタルニ因リ直チニ生スル所ノミニ限ル可シ

第千四百二十二條 若シ義務ニ背キタルニ於テハ其者ヨリ一方ノ者ニ定マリシ金高ク其償トシテ拂フ可キ事ヲ契約ヲ以テ預定シタル時ハ其義務ニ背キタル者其預定シタル金高ヨリ更ニ多量ノ償ヲ為スニ及ハス又更ニ少量ノ償ヲ為ス可シ得ス

第千四百二十三條 一方ヨリ一方ニ金高ク拂フ可キ事ノミヲ契約ヲ為シタル時其義務ヲ行フ可キ者運延シタルニ付テハ償ハ法律上ニテ定タル利息銀ヲ拂フ事ノミニ限ル可シ但シ商業又ハ保證人ニ管シタル規則ハ格別ナリトス

其義務ヲ得可キ者ハ別段損失ヲ受ケシトテ證スルニ及ハスニテ其償ノ利息銀ヲ得可シ
其償ハ一方ノ者別ニ訴テ為サスト雖モ他ノ一方ノ者其義務ヲ行フ可キ者運延シタル時ヨリ當然之ヲ為ス可キコトヲ法律上ニテ特ニ定メタル場合ノ外總テ一方ノ者其償ノ訴ヲ為タル日ヨリ以來他ノ一方ノ者之ヲ為ス可シ

第千四百二十四條 貸金ノ利息銀ヲ拂フ時ハ之ヲ得可キ者ノ訴ニ因リ又ハ原ノ契約ヲ以テ定タル所ニ因リ其利息銀ノ見込拂フ可キ者義務アリ但シ此ノ如ク利息銀ノ利息銀ヲ拂フ可キ者義務ヲ生スルハ一年以上ノ利息銀ヲ拂ハサル時ハ限ル可シ

第千四百二十五條 又土地ノ賃貸家屋ノ賃貸無期ノ年金畢生間ノ年金等ノ如キ入額ノ受取期限ニ至リシ時ハ之ヲ得ント訴出シタル日又ハ別段ノ契約ヲ以テ預定シタル日ヨリ其利息銀ヲ生ス可シ

人ヨリ取戻ス可キ財産ノ入額及ヒ負債者ニ代リテ其債主ニ拂フタル利息銀ニ付テ亦此條ノ規則ヲ通シテ用フ可シ
○第五款 契約ノ書ヲ解釋スル事

第千四百二十六條 契約書ヲ解釋スルニハ其文詞ノミニ依著スルヨリ其契約ヲ為シタル雙方ノ者ノ旨趣ノ如何ナルヤヲ講究ス可シ

第千四百二十七條 契約書中ノ大詞ヲ二様ノ意ニ解シ得可キ時ハ其契約ノ効ナカラン可キ意ニ之ヲ解スルヨリ寧ロ其効ヲ生セシム可キノ意ニ之ヲ解ス可シ
第千四百五十八條 二様ノ意ニ解シ得可キ文詞ハ契約ノ目的ニ最も適シタリ意ニ之ヲ解ス可シ
第千四百五十九條 意味ノ疑ハシキ文詞ハ其契約ヲ結ビタル地方ノ習慣ニ從テ之ヲ解ス可シ
第千四百六十條 契約書中ニ習慣ニテ別段必要ト爲ス文詞ヲ記セサル時ハ之ヲ記シタルモノト看做シテ解釋ス可シ
第千四百六十一條 契約書中ノ各文詞ハ皆其全文ノ大旨ヨリ生ス可キ意ニ從ヒ互ニ相解釋ス可シ
第千四百六十二條 契約ノ文意ノ疑ハシキ時ハ其義務ヲ行フ可キ者ノ利益トナル可クシテ其義務ヲ得可キ者ノ損失

トナル可キ方法ニ之ヲ解釋ス可シ

第一千六百六十三條 契約書ノ大意ノ如何ニ博キ時ト雖凡其契約ヲ結ヒシ雙方ノ者互ニ契約シタル可シト推知スルヲ得可キ物シミヲ包含ス可シ

第一千六百六十四條 契約書中ニ其義務ヲ解釋ス可キ爲メ別段一箇ノ場合ヲ記シタル時ト雖凡其契約ノ模樣ニ因リ其他ノ場合ヲモ亦包含シタルヲ推知ス可キニ於テハ其一箇ノ場合ノミニ限リタルモノト看做ス可カラズ

○第六款 契約ヲ結ヒシ以外ノ者ニ付其契約ノ如

第一千六百六十五條 總テ契約ハ互ニ之ヲ結ヒタル雙方ノ間ノ外其効ヲ生スルヲナシ故ニ之ヲ結ヒシ以外ノ者ノ爲メ損害ヲ生スルヲナク又第一千二百二十一條ニ記シタル場合ノ外ハ其利益ヲモ生スルヲナカル可シ

第一千六百六十六條 然凡契約ノ義務ヲ得可キ者ハ他人ニ對シ其義務ヲ行フ可キ者ノ諸般ノ權ヲ行ヒ且其者ニ代リ他人ニ對シテ訴訟ヲ爲スノ權ヲ行フヲ得可シ但シ義務ヲ行フ可キ者ノ一身ニ限リタル權利ハ格別ナリトス

第一千六百六十七條 又其義務ヲ得可キ者ハ其義務ヲ行フ可キ者其權利ヲ害ス可キ爲メ他人ト結ヒシ契約ヲ廢棄セントスル訴ヲ自己ノ名目ニテ爲スヲ得可シ

然凡其義務ヲ得可キ者ハ此篇ノ第一卷遺物ト此篇ノ第五卷 婚姻ノ契約及ヒトニ記載シタル所ノ權ニ付テハ其二箇ノ卷ニ定ムル所ノ規則ニ循フ可シ

○第四章 契約義務ノ種類

○第一款 未必ノ條件ニ管スル契約ノ義務

○第一節 總テ義務ヲ行フト行ハサルトヲ定ムル未必ノ條件及ヒ其種類

第一千六百六十八條 契約ノ義務ノ執行ヲ後ニ或事ノ生スルニ至ル迄停止ニ又ハ其事ノ生シ或ハ生セサルニ從ヒ其義務ヲ解除スルト如ク總テ義務ノ執行ヲ來時ノ未定ノ事件ニ管セシムル時ハ其義務ヲ未必ノ條件ニ管スル義務ナリトス
第一千六百六十九條 偶生ノ未必ノ條件トハ其生スルト生セサルト全ク偶然ニシテ其義務ヲ得可キ者ノ力ニモ其義務

ヲ行フ可キ者ノ力ニモ全ク管セサル事件ヲ云フ

第一千七百七十條 人意ニ管スル未必ノ條件トハ契約ヲ結ヒタル者ノ中其一方ノ力ニテ生セシムルト生セシメサルトヲ得可キ事件ヲ云フ

第一千七百七十一條 潭同ノ未必ノ條件トハ互ニ契約ヲ結ヒタル者ノ中一方ノ意ト其契約ヲ結ヒタル以外ノ者ノ意トニ管スル事件ヲ云フ

第一千七百七十二條 人ノ爲ス能ハサル事又ハ國ノ風俗ヲ亂ス可キ事又ハ法律上ニテ禁止シタル事ヲ爲ス可キ未必ノ條件ハ其効ナキカ故ニ其條件ニ管シタル契約ノ義務モ亦其効ナカル可シ

第一千七百七十三條 人ノ爲ス能ハサル事ヲ爲サハル未必ノ條件ニ管シタル契約ノ義務ハ其効ヲ生スルヲ得可シ

第一千七百七十四條 義務ヲ行フ可キ者ノ意ニ管スル未必ノ條件ニ依ル所ノ契約ノ義務ハ其効ナカル可シ

第一千七百七十五條 總テ未必ノ條件ハ契約ヲ結ヒシ雙方ニテ希望シ且思料シタル可シト推知スルヲ得可キ方法ニ之ヲ行フ可シ

第一千七百七十六條 定期内ニ或事ノ生ス可キ未必ノ條件ニ管シタル義務ヲ約セシ時定期内ニ其事ノ生スルヲナキニ於テハ其條件全ク消散セシメント看做シテ其義務ヲ取消ス可シ○若シ又同上ノ定期ナキ時ハ其事ノ生セサルヲ確定シタル後ニ非レハ其條件ヲ消散シタルト看做ス可カラズ

第一千七百七十七條 定期内ニ或事ノ生セサル可キ未必ノ條件ニ管シタル義務ヲ約セシ時定期内ニ其事ノ生スルヲナキニ於テハ其條件ノ如ク成リタルモノトス可シ又其定期ノ終ル前ト雖凡其事件ノ生セサルヲ確定シタル時ハ亦其條件ノ如ク成リタルモノトス可シ若シ又同上ノ定期ナキ時ハ其事件ノ生セサルヲ確定シタル後ニ非レハ其條件ノ如ク成リタルト看做ス可カラズ

第一千七百七十八條 未必ノ條件ニ管シタル義務ヲ行フ可キ者自カラ其條件ノ如ク成ル可キヲ妨ケン時ハ猶其條件ノ如ク成リタルニ等シキモノト看做ス可シ

第一千零七十九條 未必ノ條件ノ如ク成シ時ハ嘗テ其契約ヲ結ビシ日ニ溯ル迄致反ノ効アリトス○若シ義務ヲ得可キ者未必ノ條件ノ如ク成ル可キ以前ニ死去スル時ハ其遺物相續人其權ヲ承継ス可シ

第一千零八十條 義務ヲ得可キ者ハ未必ノ條件ノ如ク成ル可キ以前ニ已ノ擔ヲ保全ス可キ處置ヲ爲スヲ得可シ

○第二節 義務ノ執行ヲ停止スル未必ノ條件
第一千八十一條 義務執行停止スル未必ノ條件ニ管スル義務トハ未定ノ事ニ管シ又ハ既ニ生シタルト雖モ猶未タ其契約ヲ爲ス雙方ノ者ノ知ラサル事ニ管スル義務ヲ云フ但シ其義務來時ノ未定ノ事ニ管シタル時ハ其事ノ生シタル後ニ非レハ其義務ヲ行フヲナシ又既ニ生シタルト雖モ猶未タ其契約ヲ爲ス雙方ノ者ノ知ラサル事ニ管シタル時ハ其義務ヲ生スル契約ヲ結ビシ日ヨリ其義務ノ効アリトス

第一千八十二條 義務ノ執行ヲ停止スル未必ノ條件ニ管スル契約ヲ爲シタル時ハ其義務ヲ行フ可キ者其契約ノ目的タル物ヲ已ニ擔當シ現ニ其未必ノ條件ノ如ク成リシ時ニ非レハ其物ヲ引渡スニ及ハス

若シ義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ非スシテ其物ノ全ク滅盡シタル時ハ其義務消散ス可シ若シ義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ非スシテ其物ノ卑惡トナリシ時ハ其義務ヲ得可キ者其義務ヲ解除シ又ハ其價ハ減シタル現在ノ模樣ノ價其物ヲ得可キノ求ヲ爲スヲ自由ナリトス

若シ義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ因リ其物ノ卑惡トナリシ時ハ其義務ヲ得可キ者其義務ヲ解除シ又ハ價ヲ得テ其物現在ノ模樣ノ價之ヲ得ルノ求ヲ爲スヲ自由ナリトス

○第三節 義務ヲ解除スル未必ノ條件

第一千八十三條 義務ヲ解除スル未必ノ條件トハ其條件ノ如ク成リタル時其義務ヲ解除シ初ヨリ全ク其義務アリト同一ノ模樣ニ復ス可キ事ヲ云フ

此未必ノ條件ハ其義務ノ執行ヲ遲延スルニ非ラズ其條件ノ如ク成リレ時一方ノ者嘗テ收受セシ物ヲ他ノ一方ニ還ル可シ

第一千八十四條 雙務ノ契約ノ時其契約ヲ結ビシ一方ノ者之ニ背ク時ハ毎ニ其義務ヲ解除ス可シ

此場合ニ於テハ契約ヲ結ビシ一方ノ者其契約ニ背キタルノミニ因リ直チニ之ヲ解除ス可カラズ必ズ他ノ一方ノ者ヨリ其訴ヲ爲ス可シ○此場合ニ於テ其義務ヲ得可キ一方ノ者其義務ヲ行フ可キ一方ノ之ヲ爲シ得可キニ放テハ強テ其義務ヲ執行ハシメ又ハ價ヲ得テ其義務ヲ解除ス可キノ訴ヲ爲ス事自由ナリトス

其契約ヲ解除スルハ之ヲ裁判所ニ訴ヘ裁判所ニテ其時ノ模樣ニ從ヒ被告人ニ相當ノ擔保ノ時間ヲ許シテ得可シ

○第二款 執行ノ期限アル義務
第一千八十五條 執行ノ期限アル義務ハ契約ノ執行ヲ停止スルニ非ラズ唯其契約ノ執行ヲ預定ノ日ニ至ル迄延フルニ因リ未必ノ條件ニ管シタル義務ト差異アリトス

第一千八十六條 預定ノ期限ニ至リテ得可キ義務ハ其期限ニ至ル前ニ之ヲ得ント求ムルヲ得ス然レ其期限ニ至ル前ニ渡シタル物ハ之ヲ取戻スヲ得ス

第一千八十七條 義務ノ期限ハ其義務ヲ行フ可キ者ノ爲メ之ヲ約シタルト看做ス可シ但シ契約書ノ文詞又ハ其時ノ模樣ニ因リ其義務ヲ得可キ者ノ爲メ期限ヲ定メタルノ分明ナル時ハ格別ナリトス

第一千八十八條 若シ契約ノ義務ヲ行フ可キ者家賃分散ヲ爲シタル時又ハ其者嘗テ契約ヲ以テ義務ヲ得可キ者ニ與ヘシ保證ノ高ヲ已ノ所爲ニ因テ減損シタル時ハ其期限ノ利益ヲ失フ可シ

○第三款 二箇中ノ一ヲ擇ムヲ得可キ義務

第一千八十九條 二箇中ノ一ヲ擇ムヲ得可キ義務ヲ行フ可キ者ハ其契約ニ定メタル二物中ノ一ヲ渡スニ因リ其義務ノ釋放ヲ得可シ

第一千九十條 義務ヲ得可キ者其二箇ノ義務中ノ一ヲ擇ム可キヲ別段定メタル時ノ外其義務ヲ行フ可キ者之ヲ擇ムヲ得可シ

第一千九十一條 義務ヲ行フ可キ者ハ契約ニ定メタル二物中ノ一ヲ渡スヲ以テ其義務ノ釋放ヲ得可シト雖モ其義務

務ヲ得可キ者ヲシテ此一物ノ一分ト彼一物ノ一分トテ強テ收取セシムルヲ得ス

第一千九十二條 引渡ノ契約ヲ爲シタル二物中ノ一箇契約ノ目的ト爲ス可カラサル物タル時ハ從令ヒ二箇中ノ一ヲ擇ム可キノ契約ヲ爲シタルト雖モ其義務ヲ通常ノモノトス

第一千九十三條 引渡ノ契約ヲ爲シタル二物中ノ一箇滅盡シテ之ヲ渡スヲ得サルニ至リニ時ハ義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ因ルト因ラサルト問ハス二箇中ノ一ヲ擇ム可キ義務通常ノ義務トナル可シ但シ此場合ニ於テハ滅盡シタル物ニ代ヘ其價ヲ引渡スヲ得ス

第一千九十四條 又前條ニ記シタル場合ニ於テ義務ヲ得可キ者契約ニ因リ二物中ノ一ヲ擇ム可キノ權ヲ得タル時其義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ非ラスニテ其二物中ノ一箇滅盡シタルニ於テハ其義務ヲ得可キ者二物中ノ存シタル物ヲ得可シ若シ其滅盡シタルト其義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ因ル時ハ其義務ヲ得可キ者二物中ノ存在シタル物ヲ得ント求メ又ハ滅盡シタル物ノ價ヲ得ント求ムルヲ自由ナリトス

又其二物共ニ滅盡シ其義務ヲ行フ可キ者其二物ニ付キ過失アル時又ハ其中ノ一物ノミニ付キ過失アル時ト雖モ其義務ヲ得可キ者其二物中ニテ已ノ擇ム所ノ一物ノ價ヲ得ント求ムルヲ得可シ

第一千九十五條 又義務ヲ行フ可キ者ノ過失ニ非ス且其者引渡ヲ怠リタルニ非スニテ其二物共ニ滅盡シタル時乘

第一千九十六條 三箇以上ノ中其一ヲ擇ム可キ義務ニ付テモ亦前ニ記スル所ノ規則ヲ通シテ用フ可シ

○第四款 連帶シタル義務

○第一節 義務ヲ得可キ者數人ノ連帶スル事

第一千九十七條 縱令ヒ義務ヲ得ルヨリ生スル利益ヲ其義務ヲ得可キ數人ノ間ニ分テ可キ時ト雖モ其數人中ノ各

人其義務ノ全部ヲ得可キノ求メヲ爲スノ權アルトシ其義務ヲ行フ可キ者其義務ヲ得可キ者ノ中一人ニ對シ其義務ノ全部ヲ行フニ因リ義務ノ釋放ヲ得可キトシ契約シタル時ハ其義務ヲ得可キ者數人相連帶シテ之ヲ得可シトス

第一千九十八條 義務ヲ行フ可キ者數人中何レノ人ニ對シテ其義務ヲ行フトモ隨意ナリトス

○第二節 義務ヲ行フ可キ者數人ノ連帶スル事

第一千九十九條 連帶シテ義務ヲ得可キ者ノ中一人義務ヲ行フ可キ者ノアレスクリプシヨビテ中止スル處置ヲ爲シタル時ハ其義務ヲ得可キ他ノ者モ亦之ヲ爲メ其益ヲ受ク可シ

第一千二百條 義務ヲ行フ可キ數人同一ノ義務ヲ行フ可ク又其數人中ノ各人義務ノ全部ヲ行フ可キノ訴ヲ受ク可ク且其數人中ノ一人其義務ノ全部ヲ行フニ因リ其他ノ各人義務ノ釋放ヲ得可キ時ハ其義務ヲ行フ可キ數人相連帶シタルモノトス

第一千二百一條 義務ヲ行フ可キ數人皆同一ノ物ヲ渡スニ付キ其義務ヲ行フ可キ方法相異ナル時ト雖モ之ヲ其義務ヲ行フ可キ者ノ相連帶シタルモノトス譬ハ其數人中一人ノ義務ハ通常ノモノニシテ他ノ者ノ義務ハ未必ノ條件ニ管シタル時又ハ其一人ハ義務ヲ執行フニ付テノ期限ヲ得他ノ者ハ其期限ヲ得サル時ト雖モ其義務ヲ行フ可キ數人ヲ相連帶シタルモノト爲スカ如シ

第一千二百二條 義務ヲ行フ可キ數人ノ連帶スル事ハ思料ヲ以テ之ヲ定ム可カラズ別段其契約アルヲ必要トス又別段其契約ナシト雖モ法律上ニテ義務ヲ行フ可キ數人連帶ス可キヲ定メタル時ハ此條ノ例外ナリトス

第一千二百三條 義務ヲ得可キ者ハ連帶シテ義務ヲ行フ可キ數人中自己ノ擇ム所ノ者ニ其義務ノ全部ヲ行ハシム可キ求メヲ爲スヲ得可ク其義務ヲ行フ可キ者ハ其義務ヲ分テ數人ニテ之ヲ行フ可キヲ得可カラズ

第一千二百四條 義務ヲ得可キ者ハ連帯ニテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ニ對シ訴訟ヲ爲スト雖モ亦其義務ヲ行フ可
キ他ノ者ニ對シ訴訟ヲ爲スノ妨ナシ

第一千二百五條 連帯ニテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人又ハ數人ノ過失ニ因リ其別渡ス可キ物ノ減盡シ又ハ其物ヲ引
渡ストモ其別渡ス可キ物ノ減盡シタル時ハ其連帯ニテ義務ヲ行フ可キ他ノ者其物ノ價ヲ拂フ可キ義務ヲ免ル

第一千二百六條 連帯ニテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人訴訟ヲ受ケル時ハ其義務ヲ行フ可キ他ノ者アレズクリブシヨ
シノ權ヲ得可ヒラス

第一千二百七條 連帯ニテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人息銀ヲ償フ可キノ求メヲ受ケル時ハ其義務ヲ行フ可キ他ノ者
ニ付テモ亦息銀ヲ償フ可キ義務ヲ生スルモノトス

第一千二百八條 連帯ニテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人義務ヲ得可キ者ヨリ訴訟ヲ受ケル時ハ其義務ノ本質ヨリ生ス
可キ抵拒ノ法連帯ニテ義務ヲ行フ可キ自己ノ一身ノミニ屬スル抵拒ノ法トシテ其訴訟ヲ拒ムコトヲ得可シ

第一千二百九條 連帯ニテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人其義務ヲ得可キ者ノ遺物相續人トナル時又ハ其義務ヲ得可キ
者連帯ニテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人遺物相續人トナル時ハ連帯ニテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ノ擔當ス

第一千三百條 義務ヲ得可キ者連帯シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ノ擔當ス可キ部分ヲ得タル時ト雖モ其受取證書ニ其得
ル高ハ其一人ノ部分ノ爲メナリト云フコト別段記セサルニ於テハ其一人ノ連帯ヲ釋放シタルト爲ス可カラズ

第一千三十一條 義務ヲ得可キ者連帯シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ノ部分ヲ分ツテ之ヲ得其受取證書ニ其一人
ノ部分ノ爲メナリト云フコト別段記セサルニ於テハ其一人ノ連帯ヲ釋放シタルト爲ス可カラズ

第一千三十二條 義務ヲ得可キ者連帯シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ノ部分ヲ分ツテ之ヲ得其受取證書ニ其一人
ノ部分ノ爲メナリト云フコト別段記セサルニ於テハ其一人ノ連帯ヲ釋放シタルト爲ス可カラズ

第一千三十三條 義務ヲ得可キ者連帯シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ノ部分ヲ分ツテ之ヲ得其受取證書ニ其一人
ノ部分ノ爲メナリト云フコト別段記セサルニ於テハ其一人ノ連帯ヲ釋放シタルト爲ス可カラズ

第一千三十四條 義務ヲ得可キ者連帯シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ノ部分ヲ分ツテ之ヲ得其受取證書ニ其一人
ノ部分ノ爲メナリト云フコト別段記セサルニ於テハ其一人ノ連帯ヲ釋放シタルト爲ス可カラズ

第一千三十五條 義務ヲ得可キ者連帯シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ノ部分ヲ分ツテ之ヲ得其受取證書ニ其一人
ノ部分ノ爲メナリト云フコト別段記セサルニ於テハ其一人ノ連帯ヲ釋放シタルト爲ス可カラズ

第一千三十六條 義務ヲ得可キ者連帯シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ノ部分ヲ分ツテ之ヲ得其受取證書ニ其一人
ノ部分ノ爲メナリト云フコト別段記セサルニ於テハ其一人ノ連帯ヲ釋放シタルト爲ス可カラズ

第一千三十七條 義務ヲ得可キ者連帯シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ノ部分ヲ分ツテ之ヲ得其受取證書ニ其一人
ノ部分ノ爲メナリト云フコト別段記セサルニ於テハ其一人ノ連帯ヲ釋放シタルト爲ス可カラズ

第一千三十八條 義務ヲ得可キ者連帯シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ノ部分ヲ分ツテ之ヲ得其受取證書ニ其一人
ノ部分ノ爲メナリト云フコト別段記セサルニ於テハ其一人ノ連帯ヲ釋放シタルト爲ス可カラズ

第一千三十九條 義務ヲ得可キ者連帯シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ノ部分ヲ分ツテ之ヲ得其受取證書ニ其一人
ノ部分ノ爲メナリト云フコト別段記セサルニ於テハ其一人ノ連帯ヲ釋放シタルト爲ス可カラズ

第一千四十條 義務ヲ得可キ者連帯シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ノ部分ヲ分ツテ之ヲ得其受取證書ニ其一人
ノ部分ノ爲メナリト云フコト別段記セサルニ於テハ其一人ノ連帯ヲ釋放シタルト爲ス可カラズ

第一千四十一條 義務ヲ得可キ者連帯シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ノ部分ヲ分ツテ之ヲ得其受取證書ニ其一人
ノ部分ノ爲メナリト云フコト別段記セサルニ於テハ其一人ノ連帯ヲ釋放シタルト爲ス可カラズ

第一千四十二條 義務ヲ得可キ者連帯シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ノ部分ヲ分ツテ之ヲ得其受取證書ニ其一人
ノ部分ノ爲メナリト云フコト別段記セサルニ於テハ其一人ノ連帯ヲ釋放シタルト爲ス可カラズ

第一千四十三條 義務ヲ得可キ者連帯シテ義務ヲ行フ可キ者ノ中一人ノ部分ヲ分ツテ之ヲ得其受取證書ニ其一人
ノ部分ノ爲メナリト云フコト別段記セサルニ於テハ其一人ノ連帯ヲ釋放シタルト爲ス可カラズ

可キ他ノ數人中ニ己ノ義務ヲ行フ能ハサル者アルニ於テハ其者ノ部令ヲ連帶ノ釋放ヲ受ケシ者ト其義務ヲ行フ可キ他ノ數人トニ分ツ可シ

第一千二百十六條 連帶セシ義務ヲ生シタル事ノ原由其連帶セシ者ノ中一人ノニ管シタル時ハ其一人連帶セシ他ノ數人ニ對シ其義務ノ全部ヲ擔當ス可ク其連帶シタル他ノ數人ハ其一人ノ保證人ナリト看做ス可シ

○第五款 分ツ可キ義務及ヒ分ツ可カラサル義務

第一千二百十七條 義務ノ目的ト爲ス者ヲ渡スニ付キ又ハ義務ノ目的ト爲ス事ヲ行フニ付キ實地ニ管スルト想像ニ管スルトト問ハス其義務ヲ分ツ可キ時ハ之ヲ分ツ可キ義務トシ其義務ヲ分フ可カラサル時ハ之ヲ分フ可カラサル義務トス

第一千二百十八條 義務ノ目的ト爲ス事ノ性質ハ之ヲ分ツ可キモノタル時ト雖モ其義務ヲ行フ可キ旨趣ニ因リ其一部ノミヲ行フ可カラサル時ハ其義務ヲ分ツ可カラサルモノトス

第一千二百十九條 連帶シテ義務ヲ行フ可キ契約アル時雖モ其義務必シモ之ニ分ツ可カラサルモノナリト爲ス可カラス

○第一節 分ツ可キ義務ノ効

第一千二百二十條 分ツ可キ義務ハ之ヲ得可キ者ト之ヲ行フ可者トノ間ニ於テハ之ヲ分ツ可カラサル義務ニ均シク執行フ可ク之ヲ分ツ可キノ効ハ其義務ヲ得可キ者ノ遺物相續人又ハ其義務ヲ行フ可キ者ノ遺物相續人ニ管ス可シ但其義務ヲ得可キ者ノ相續人ハ之ヲ得可キ者ノ權ニ代リテ己ノ得可キ部分ノニ付キ其義務ヲ求ムルヲ得可キ又其義務ヲ行フ可キ者ノ遺物相續人ハ之ヲ行フ可キ者ノ義務ニ代リテ己ノ擔當可部分ノニ付キ之ヲ行フ可キ

第一千二百二十一條 左ニ記列スル場合ニ於テハ其義務ヲ行フ可キ者ノ遺物相續人前條如ク其義務ヲ行フ可カラス

第一 其義務不動産ノ「イ」ボテ「ク」ニ管シタル時
第二 其義務預定シタル物件ニ管シタル時
第三 其義務ヲ得可キ者其目的ト爲ス二箇物件中一箇ヲ擇ムコトヲ得テ他一箇ハ之ヲ分ツ可キ得サル時

第四 遺物相續人中ノ一人證書ニ因リ義務ヲ行フ可キコトヲ己一人ニ擔當シタル時

第五 契約ノ種類又ハ契約ノ目的ト爲ス物件又ハ契約ノ旨趣ニ因リ其契約ヲ結ヒシ者ノ意其義務ノ一部ヲ行フニ非サル事ノ分明ナル時

第一千二百二十三條 分ツ可カラサル義務ヲ與ニ角ラタル數人ハ縱令ヒ連帶シテ其義務ヲ契約セサル時ト雖モ其義務ノ全部ヲ擔當ス可シ

○第二節 分ツ可カラサル義務ノ効

第一千二百二十四條 分ツ可カラサル義務ヲ與ニ角ラタル數人ハ縱令ヒ連帶シテ其義務ヲ契約セサル時ト雖モ其義務ノ全部ヲ擔當ス可シ

第一千二百二十五條 分ツ可カラサル義務及ヒ契約セシ者ノ遺物相續人ニ付テモ亦前條ト同一ナリトス

第一千二百二十六條 義務ヲ得可キ者ノ各遺物相續人ハ分ツ可カラサル義務ヲ全部ニ執行ヲ訴フルコトヲ得可シ

○若シ遺物相續人中一人其義務一部ヲ釋放シ又ハ物件ノ一部ニ價ヲ受取リタル者ハ其部分ヲ差引テ其分ツ可カラサル義務得シト訴可シ其義務ノ一部ヲ釋放シ又ハ物件ノ一部ニ價ヲ受取リタル者ハ其部分ヲ差引テ其分ツ可カラサル義務得シト訴可シ
第一千二百二十五條 義務ヲ行フ可キ者ノ遺物相續人中ノ一人其義務ノ全部ヲ行フ可キノ訴訟ヲ受ケシ時ハ其與ニ相續ヲ爲ス者ヲシテ亦其義務執行ノ訴訟ニ參セシムル爲メ相當ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得可シ然レモ其義務ノ全部ヲ行フ可キノ訴訟ヲ受ケシ相續人其一身ニ非レハ行フ能ハサル義務ニ付テハ其者一身ニテ直チニ其義務ヲ行フ可キノ旨趣ヲ受ク可ク唯與ニ相續ヲ爲ス者ニ對シ其價ヲ求ムルコトヲ得可シ

○第六款 契約ノ如ク行ハサル時ハ過代ヲ出ス可キノ約束アル義務

第一千二百二十六條 過代ノ約束トハ契約ノ如ク執行ヲ行フヲ保證ス可キ爲メ若シ其契約ノ如ク行ハサル時ハ其價トシテ過代ヲ出ス可キヲ定メタル約束ヲ云フ

第一千二百二十七條 主タル義務ノ効ナキ時ハ過代ノ約束モ亦其効ナカル可シ

過代ノ約束ノ効ナキ時ハ雖モ必スシモ主タル義務ノ効ナシトセス

第一千二百二十八條 主タル義務ヲ得可キ者ハ其義務ヲ行フ可キノ求メテ爲シ其者債之ヲ忘リシ時預メ約束シタル過代ニ代ヘ主タル義務ヲ行ハシム可キノ訴ヲ爲ス可キヲ得可シ

第一千二百二十九條 過代ノ約束ハ主タル義務ヲ行フ可キ者之ヲ行ハサルニ因リ其義務ヲ得可キ者ノ受タル損失ヲ償フ約束ナリ

義務ヲ得可キ者ハ其義務ヲ行フ可キ者之ヲ行フヲ遲延セシノミニ因リ其過代ヲ出サシム可キヲ別段預メ約束シタル時ノ外主タル義務ノ執行ト過代ヲ出ス可キ約束ノ執行トヲ共ニ得ント訴フルヲ得ス

第一千二百三十條 主タル義務ヲ行フ可キ期限ヲ特定メタルト否トヲ問ハス物ヲ渡シ又ハ之ヲ受取リ又ハ事ヲ爲ス可キ者其義務ヲ行フ可キノ求メテ受ケテ償之ヲ行ハサル時ノ外其過代ヲ出スニ及ハス

第一千二百三十一條 主タル義務ノ一部ヲ行フタル時ハ裁判役其過代ノ高ヲ減スルヲ得可シ

第一千二百三十二條 過代ノ約束ヲ以テ契約セシ主タル義務ヲ分ツ可カラサル時其義務ヲ行フ可キ者ノ遺物相續人中ノ一人其義務ヲ行ハサルニ因リ其過代ヲ出ス可シ但シ其義務ニ背キタル相續人其過代ノ全部拂フ可キノ訴ヲ受ケ又ハ與ニ相續ヲ爲ス數人各其過代ヲ拂フ可キノ訴ヲ受ケ若シ其過代拂方ノ保證トシテ不動産ヲ以テホテラ

ト爲シタル時ハ其不動産ヲ所得トシタル相續人過代ノ全部ヲ拂フ可キノ訴ヲ受ケ可シ○此場合ニ於テハ義務ニ背キタル遺物相續人之背キタル相續人爲「已」出シタル過代ノ償ヲ其相續人ヨリ得ント訴フルヲ得可シ

第一千二百三十三條 過代ノ約束ヲ以テ契約シタル主タル義務ヲ分ツ可キ時ハ其義務ヲ行フ可キ者ノ遺物相續人中ニテ其義務ヲ行ザル者「已」ノ擔當ス可キ過代ノ部分拂フ可キノ訴ヲ受ケ其他ノ相續人ハ別ニ訴ヲ受ケルヲナシ

然レ義務ノ一部ノミヲ行フ可カラサルノ意ヲ以テ預過代ノ約束ヲ附加シタル時其義務ヲ行フ可キ者ノ相續人中ノ一人其義務ノ全部ノ執行ヲ妨ケタルニ於テハ前ニ記テ所ノ規則異ナリトス○此場合ニ於テハ其義務ノ執行ヲ妨ケタル相續人過代ノ全部ヲ出ス可キノ訴ヲ受ケ又其相續人ト他ノ相續人ト各其擔當ス可キ過代ノ部分ヲ出ス可キノ訴ヲ受ケ他ノ相續人ハ義務ノ執行ヲ妨ケタル相續人ノ爲メ「已」ノ拂タル過代ノ償ヲ其相續人ヨリ得ント訴フルヲ得可シ

辻士華筆矣

傳録西 民法第九

文部少博士箕作麟祥口譯

○第五章 義務ノ消散スル事

第一千二百三十四條 義務ハ左ノ數件ニ因テ消散ス

義務ヲ盡クス事

義務ヲ更改スル事

義務ヲ得可キ者ノ意ヲ以テ義務ヲ釋放スル事

二箇ノ義務互ニ相殺スル事

權利ト義務ト渾同スル事

義務ノ目的タル物ノ滅盡スル事
契約ヲ廢棄スル事

義務ヲ解除ス可キ未必ノ條件ハ生スル事但シ此事ハ既ニ前章ニ於テ説明ス
定期ノ時間義務ヲ得ント要メサルニ因リ終ニ之ヲ行フニ及ハサルニ至ル事但シ此事ハ別卷ニ於テ説明ス第二百十
九條見合ヒ

○第一款 義務ヲ盡クス事
○第一節 總テ義務ヲ盡クス事

第二百三十五條 人ヨリ他ニ物件ヲ渡シタル時ハ必ス義務アリテ之ヲ爲シタルモノト思料ス可シ若シ義務ナク
シテ物件ヲ渡シタル時ハ之ヲ取戻ス可キヲ得可シ

自己ノ意ニ隨ヒ法律ニ管ヒサル義務ヲ盡クシテ物件ヲ人ニ渡シタル時ハ之ヲ取戻ス可キヲ得ス

第二百三十六條 義務ハ本人ニ非スト雖モ本人ト與ニ之ヲ行フ可キ者又ハ本人ノ保證人等ノ如ク總テ其義務ニ
管シタル各人ノ之ヲ盡ス可キヲ得可シ

又義務ニ管ヒサル者ト雖モ義務ヲ行フ可キ者ニ代リ之ヲ行フ時ハ其義務ヲ盡クシタルトス可シ然モ其義務ニ管
ヒサル者自己ノ名義ヲ以テ其義務ヲ行ヒ其義務ヲ得可キ者ノ權ニ代リタル時ハ格別ナリトス

第二百三十七條 或事ヲ爲ス可キ義務ヲ得可キ者其義務ヲ行フ可キ者ノ自ラ之ヲ行フ可キ時ハ其義務
ニ管ヒサル者義務ヲ得可キ者ノ意ニ背キ本人ニ代テ之ヲ行フ可キヲ得ス

第二百三十八條 法ニ適シテ義務ヲ盡クセントスルニハ其義務ヲ盡クス者他ニ渡ス可キ物ノ所有者ニシテ且ツ
其物ヲ渡ス可キ權アルコトヲ必要トス

然モ金高又ハ使用シテ次第ニ減損ス可キ物ヲ渡シタル時ハ縱令其所有者ニ非ラサル者又ハ其物ヲ他ニ渡ス可キ
ノ權ナキ者之ヲ渡シタルト雖モ義務ヲ得可キ者正意ヲ以テ其物ヲ使用シ之ヲ減損セシメタルニ於テハ其所有者
其物ヲ取戻ヤント要ムルコトヲ得ス

第二百三十九條 義務ヲ盡クス可キ爲メ物件ヲ渡スルハ其義務ヲ得可キ者又ハ其權ニ代リタル者又ハ裁判
所ノ言渡及ヒ法律ニ因リ義務ヲ得可キ者ニ代リ物件ヲ受取ル可キ權アリ有スル者ニ之ヲ爲ス可シ

義務ヲ得可キ者ニ代リ物件ヲ受取ル可キ權アリ有セサル者ニ其物件ヲ渡シタル時ト雖モ其義務ヲ得可キ者其事ヲ
承諾シ又ハ其者其事ニ因リ利益ヲ得タルコトアルニ於テハ其義務ヲ盡クシタルトス

第二百四十條 義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キノ權利ヲ現ニ有スル者ニ對シテ正シク其義務ヲ行フタル時ハ若シ
其權利ヲ有スル者後ニ其權利ヲ失フコトアリト雖モ義務ヲ行フ可キ者其義務ヲ盡クシタルモノトス

第二百四十一條 義務ヲ行フ可キ者義務ヲ得可キ者ニ其義務ノ目的タル物件ヲ渡シタルト雖モ其義務ヲ得可キ
者之ヲ受取ル可キノ權ナキ時其義務ヲ盡クシタルトセズ但シ義務ヲ行フ可キ者其渡シタル物件義務ヲ得可キ者
ノ利益トナリシ旨ヲ證スル時ハ格別ナリトス

第二百四十二條 甲者ノ債主乙者ヨリ甲者ニ物件ヲ渡スル時其差留ニ背キテ乙者ヨリ甲者ニ其物
件ヲ渡シタルニ於テハ乙者甲者ノ債主ニ對シテ已ニ義務ヲ盡クシタルトス可カラズ甲者ノ債主ハ乙者ヲシテ再
ヒ其物權ヲ已ニ渡サシムルコトヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ乙者甲者ニ對シ其物件取戻ノ訴ヲ爲スノ權アリ

第二百四十三條 義務ヲ行フ可キ者其渡ス可キ物件ニ代ヘテ他ノ物件ヲ渡サントスルト雖モ其義務ヲ得可キ者
必スシモ其代品ヲ受取ルニ及ハス但シ其代品ノ價本品ノ價ニ均シク又ハ更ニ多キ時ト雖モ又同一ナリトス

第二百四十四條 縱令義務ヲ分ツ可キ時ト雖モ之ヲ行フ可キ者ハ之ヲ得可キ者ヲシテ其渡ス可キ物ノ一部分ノ
ミヲ強テ受取ルシムルコトヲ得ス

然モ裁判役ハ義務ヲ行フ可キ者ノ様子ヲ考ヘ其義務ノ目的タル物件渡方ニ付キ相當ノ猶豫ノ期限ヲ許ルシ
テ其義務ヲ行フ可キ者ノ様子ヲ考ヘ其義務ノ目的タル物件渡方ニ付キ相當ノ猶豫ノ期限ヲ許ルシ

置ク可キコトヲ言渡スヲ得可シ但シ裁判役此權ヲ行フニ付キテハ極メテ注意ヲ爲スルコトヲ必要トス

第二百四十五條 預メ定メ置キタル物件ヲ渡ス可キ義務アル者ハ其物件ヲ渡ス可キ時ノ模樣ノ儘之ヲ渡シ其

義務ヲ盡クシタルトス可シ但シ其者自己ノ過失又ハ其物件ヲ附托シ他人ノ過失ニ因テ其物ノ毀損セシ時又ハ此等ノ者ノ過失ニ非スト雖モ義務ヲ得可キ者ヨリ之ヲ渡ス可キノ催促ヲ受ケ尚之ヲ渡サ、ル中ニ其物ノ毀損セシ時ハ格別ナリトス

第一千二百四十六條 種類ノミノ定リシ物ヲ渡ス可キ義務アル者其義務ヲ盡クサントスルニハ其種類中ノ最良ノ物ヲ渡スニ及ハス又最悪ノ物ヲ渡スヲ得ス

第一千二百四十七條 物件ノ引渡ハ契約ヲ以テ預定セシ地ニ於テ之ヲ爲ス可シ若シ其地ヲ預定セサル時其渡ス可キ物ノ預メ定マリタルニ於テハ其義務ヲ契約シタル時其物ノ在リシ地ニ於テ之ヲ爲ス可シ

第一千二百四十八條 物件ヲ引渡ス費用ハ義務ヲ行フ可キ者之ヲ擔當ス可シ

第一千二百四十九條 義務ヲ行フ可キ者ニ代リ義務ヲ得可キ者ニ其義務ヲ盡クシタル時ハ其義務ヲ盡クシタル者義務ヲ得可キ者ノ權ニ代ル事ヲ得可シ但シ此事ハ契約ヨリ之ヲ生シ或ハ法律上ニテ之ヲ生ス

第一千二百五十條 前條ニ記シタル事ハ左ノ二箇ノ場合ニ於テハ契約ヨリ之ヲ生ス可シ

第一 義務ヲ得可キ甲者丙者ヨリ義務ヲ得ルニ因リ義務ヲ行フ可キ乙者ヨリ之ヲ得可キ自己ノ權及ヒ乙者ニ對シテ訴訟ヲ爲スノ權乙者ニ對シ他ノ義務ヲ得可キ者ヨリ先キニ其義務ヲ得可キノ權乙者ニ對シ不動産ヲ引渡テトシテ得ルノ權丙者ニ移シタル時但シ此代權ノ事ハ丙者乙者ニ代テ義務ヲ盡クシタル時別段之ヲ契約書ニ附記シ置ク可シ

第二 義務ヲ行フ可キ乙者甲者ニ對シ其義務ヲ盡クス可キ爲メ丙者ヨリ金高ヲ借受ケ丙者ヲシテ其義務ヲ得可キ甲者ノ權ニ代ラシムル時○此代權ノ事ヲ法ニ適シタルモノト爲サントスルニハ乙者丙者ヨリ金高ヲ借受クル証書及ヒ甲者ニ其義務ヲ盡クシタル証書ヲ添テイルノ面前提シ其金高借受ノ証書ニ其金高ハ義務ヲ盡クス可キ爲メ借受ケタル旨ヲ附記シ且甲者ニ其義務ヲ盡クシタル證書ニ別段其借入レタル金高ヲ以テ其義務ヲ盡クシタル旨ヲ附記ス可シ但シ此代權ノ事ハ別段義務ヲ得可キ者承諾ナクシテ之ヲ爲スヲ得可シ

第一千二百五十一條 前ニ記シタル代權ノ事ハ左ノ四箇ノ場合ニ於テハ法律上ニテ生ス可シ

第一 乙者ヨリ義務ヲ得可キ甲者丙者ノ權又ハ丙者ヨリ之ヲ得ルノ權ヲ有スル地ノ債主ニ乙者ニ代リテ義務ヲ盡シタル時

第二 義務ヲ行フ可キ乙者ヨリ不動産ヲ買入レタル甲者乙者ヨリ其不動産ヲ引渡テトシテ得可キ債主ニ其買入代金ヲ以テ償還ヲ爲シタル時

第三 甲者乙者ト共ニ義務ヲ擔當シ又ハ乙者ノ爲メニ義務ヲ擔當シテ其義務ヲ盡シタル時

第四 遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權アル相續人其遺物財産ニ付テノ負債ヲ自己ノ財産中ヨリ償フタル時

第一千二百五十二條 前數條ニ依ヒ丙者乙者ニ代リテ甲者ニ對シ義務ヲ盡クシタルニ因リ甲者ノ權ニ代リタル時ハ丙者乙者ト其保證人トニ對シテ償還ヲ要ムルノ權ヲ得可シ但シ丙者乙者ニ代リ甲者ニ對シテ其義務ノ一分ノミヲ盡クシタル時ハ甲者其殘リタル義務ヲ全ク乙者ヨリ得タル後ニ非レハ丙者乙者又ハ其保證人ヨリ償還ヲ得ト要ムルヲ得ス

○第三節 數箇ノ義務中ノ一ヲ盡クスニ充テ用フル事

第一千二百五十三條 一人ニ對シ數箇ノ義務ヲ負フタル者ハ其義務ヲ盡クス時ニ當リ其數箇ノ義務中何レノ義務ヲ盡クス可キヤヲ述フルノ權アリ

第一千二百五十四條 息銀ヲ生スル債ヲ負フタル者其義務ノ一部ヲ盡クス時ハ先ツ息銀ヲ償フニ之ヲ充テ用ヒ然ル後主タル債ヲ償フニ充テ用フ可シ但シ之ニ及シタル債方ヲ爲サントスルニハ義務ヲ得可キ者ノ承諾ヲ得ルヲ必要トス○又義務ヲ行フ可キ者主タル債ト其息銀トヲ償還スル名義ニテ義務ヲ盡クシタルト雖モ其債アタル高主タル